

講義要綱

平成 28 年度

経営学部

経営心理学科

東京富士大学



SYLLABUS 2016

講 義 要 綱

SYLLABUS

平成28年度

経営学部経営心理学科

東京富士大学

－ シラバスの利用について －

このシラバスは、平成28年度の春学期・秋学期に経営学部経営心理学科で開講する全授業についてその概要を示してあります。学生の皆さんが1年間の学習計画を立てるための手助けとなるはずです。

シラバスには、授業内容とその達成目標、授業で使用するテキストや参考書、さらに成績評価法、履修条件、授業計画などを記してあります。

履修の際には必ず、「学生要覧」と「授業時間割表」とあわせて参照するようにしてください。また、授業期間中は、「授業計画」のどの部分を学習しているのかを常に確認して、復習および予習の参考にしてください。

※シラバス (syllabus) は、ギリシャ語の *sittuba* すなわち「羊皮紙製の書籍のラベル」または「標題紙」という意味の言葉が語源です。

目 次

履修対象：経営学部経営心理学科

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
基礎演習Ⅰ	1	2	半期		1
基礎演習Ⅰ（留学生対象）	1	2	半期		3
基礎演習Ⅰ	2～4	2	半期	黒田 秀雄	5
基礎演習Ⅱ	1	2	半期		7
基礎演習Ⅱ（留学生対象）					9
基礎演習Ⅱ	2～4	2	半期	黒田 秀雄	11
総合英語Ⅰ	2	2	半期	阿部 牧子 木村 直樹 高畑 一路 渡邊きみ代	13 15～20 21 23
総合英語Ⅰ	3～4	2	半期	渡邊きみ代	25
総合英語Ⅱ	2	2	半期	阿部 牧子 木村 直樹 高畑 一路 渡邊きみ代	27 29～34 35 37
総合英語Ⅱ	3～4	2	半期	渡邊きみ代	39
英会話Ⅰ	1	1	半期	阿部 牧子 木村 直樹 J. Johnson 渡邊きみ代	41 43 45 47
英会話Ⅰ	2～4	1	半期	阿部 牧子 木村 直樹	49 51
英会話Ⅰ（留学生対象）	2～4	1	半期	休講	—
英会話Ⅱ	1	1	半期	阿部 牧子 木村 直樹 J. Johnson 渡邊きみ代	53 55 57 59
英会話Ⅱ	2～4	1	半期	阿部 牧子 木村 直樹	61 63
英会話Ⅱ（留学生対象）	2～4	1	半期	休講	—
キャリアデザイン	1～4	2	半期	志塚 昌紀 高橋 哲也	65 67
日本語Ⅰ（留学生科目）	1～4	2	半期	糸川 優 奥山 貴之 塩谷由美子	69 71 73

履修対象：経営学部経営心理学科

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
日本語Ⅱ（留学生科目）	1～4	2	半期	糸川 優	75
				奥山 貴之	77
				塩谷由美子	79
日本語Ⅲ（留学生科目）	2～4	2	半期	糸川 優	81
				奥山 貴之	83
英語Ⅰ	1～4	1	半期	阿部 牧子	85
英語Ⅱ	1～4	1	半期	阿部 牧子	87
英語Ⅲ	2～4	1	半期	阿部 牧子	89
英語Ⅳ	2～4	1	半期	阿部 牧子	91
TOEICⅠ	1～4	2	半期	穴戸カール	93
TOEICⅡ	1～4	2	半期	穴戸カール	95
フランス語Ⅰ	1～4	1	半期	野口 恵子	97
				三富 祐子	99
フランス語Ⅱ	1～4	1	半期	野口 恵子	101
				三富 祐子	103
中国語Ⅰ	1～4	1	半期	井上 良雄	105
中国語Ⅱ	1～4	1	半期	井上 良雄	107
韓国語Ⅰ	1～4	1	半期	黄 美貞	109
韓国語Ⅱ	1～4	1	半期	黄 美貞	111
日本語Ⅳ（留学生科目）	2～4	2	半期	糸川 優	113
				奥山 貴之	115
社会学Ⅰ	1～4	2	半期	新嶋 良恵	117
社会学Ⅱ	1～4	2	半期	新嶋 良恵	119
法学Ⅰ（憲法含む）	1～4	2	半期	長岐 郁也	121
法学Ⅱ	1～4	2	半期	長岐 郁也	123
心理学（心理学検定2級）	2～4	2	半期	浮谷 秀一	125
心理学	1～4	2	半期	佐藤 恵美	127
				深澤 伸幸	129
				松田美登子	131
哲学	2～4	2	半期	隅田 浩司	133
現代思想	2～4	2	半期	休講	—
文化人類学	2～4	2	半期	新嶋 良恵	135
文学	1～4	2	半期	網本 尚子	137～146
文章表現法	1～4	2	半期	網本 尚子	147～154
芸術論	1～4	2	半期	鈴木 みか	155
生命科学	1～4	2	半期	古田 玲子	157
国際関係論	1～4	2	半期	八川 敏昭	159

履修対象：経営学部経営心理学科

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
異文化コミュニケーション	1～4	2	半期	清水 俊樹 藤本 学	161
経営数学	2～4	2	半期	松本 勇樹	163
マネジメント入門	1～4	2	半期	名取 修一	165
コンピュータリテラシー	1～4	2	半期	萩野 弘道	167
ビジネスコンピューティング	2～4	2	半期	鬼木 一直	169
就職特講Ⅰ	3～4	2	半期	廣瀬 誠人	171
就職特講Ⅱ	3～4	2	半期	廣瀬 誠人	173
健康と運動Ⅰ	1～4	1	半期	井上 航人	175
				田島外志美	177
				西村 卓二	179
健康と運動Ⅱ	1～4	1	半期	井上 航人	181
				田島外志美	183
				西村 卓二	185
健康と運動Ⅲ	2～4	1	半期	井上 航人	187
				田島外志美	189
健康と運動Ⅳ	2～4	1	半期	井上 航人	191
				田島外志美	193
日本事情（留学生科目）	1～4	2	半期	糸川 優	195
				奥山 貴之	197
インターンシップⅠ	1～4	1	認定	高橋 哲也	199
インターンシップⅡ	1～4	1	認定	高橋 哲也	201
インターンシップⅢ	2～4	1	認定	高橋 哲也	203
インターンシップⅣ	2～4	1	認定	高橋 哲也	205
自己開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	1～4	各1	認定		207

履修対象：経営学部経営心理学科

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
経営学概論	1～4	4	通年	山口 善昭	209
心理学概論	1～4	4	通年	浮谷 秀一	211
経営心理学概論	1～4	4	通年	深澤 伸幸	213
企業論Ⅰ	2～4	2	半期	円城寺敬浩	215
				渡辺 泰宏	217
企業論Ⅱ	2～4	2	半期	円城寺敬浩	219
				渡辺 泰宏	221
経営戦略論Ⅰ	2～4	2	半期	小川 達也	223
				黒田 秀雄	225
経営戦略論Ⅱ	2～4	2	半期	小川 達也	227
				黒田 秀雄	229
経営組織論Ⅰ	2～4	2	半期	山口 善昭	231
経営組織論Ⅱ	2～4	2	半期	山口 善昭	233
人的資源管理論Ⅰ	2～4	2	半期	高橋 哲也	235
人的資源管理論Ⅱ	2～4	2	半期	高橋 哲也	237
認知心理学	2～4	2	半期	深澤 伸幸	239
パーソナリティ心理学	2～4	2	半期	浮谷 秀一	241
キャリア発達心理学	1～4	2	半期	伊波 和恵	243
				松田美登子	245
職場の健康心理学	2～4	2	半期	伊波 和恵	247
産業カウンセリング	2～4	2	半期	伊波 和恵	249
産業臨床心理学	2～4	2	半期	伊波 和恵	251
心理検査法	2～4	2	半期	佐藤 恵美	253
経営心理学研究法	2～4	2	半期	深澤 伸幸	255
社会心理学Ⅰ	2～4	2	半期	佐藤 恵美	257
社会心理学Ⅱ	2～4	2	半期	佐藤 恵美	259
マーケティング概論Ⅰ	1～4	2	半期	花尾由香里	261
				日野 隆生	263
				広瀬 盛一	265
				山川 悟	267
マーケティング概論Ⅱ	1～4	2	半期	花尾由香里	269
				日野 隆生	271
				広瀬 盛一	273
				山川 悟	275
消費者行動論Ⅰ	2～4	2	半期	中嶋 励子	277
				花尾由香里	279

履修対象：経営学部経営心理学科

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
消費者行動論Ⅱ	2～4	2	半期	中嶋 励子	281
				花尾由香里	283
販売管理論Ⅰ	2～4	2	半期	深澤 琢也	285
販売管理論Ⅱ	2～4	2	半期	深澤 琢也	287
流通論Ⅰ	2～4	2	半期	深澤 琢也	289
流通論Ⅱ	2～4	2	半期	深澤 琢也	291
会計学概論Ⅰ	1～4	2	半期	光澤 美芽	293
会計学概論Ⅱ	1～4	2	半期	光澤 美芽	295
専門演習Ⅰ	2～4	4	通年	伊波 和恵	297
				浮谷 秀一	299
				佐藤 恵美	301
				高橋 哲也	303
				花尾由香里	305
				深澤 琢也	307
				山口 善昭	309
専門演習Ⅱ	3～4	4	通年	伊波 和恵	311
				浮谷 秀一	313
				佐藤 恵美	315
				高橋 哲也	317
				花尾由香里	319
				山口 善昭	321
専門演習Ⅲ	4	4	通年	伊波 和恵	323
				佐藤 恵美	325
				花尾由香里	327
				山口 善昭	329
専門特別演習Ⅰ	3～4	4	通年	休講	—
専門特別演習Ⅱ	4	4	通年	休講	—
卒業論文	4	2	通年		331
経済学概論Ⅰ	1～4	2	半期	清水 良樹	333
経済学概論Ⅱ	1～4	2	半期	清水 良樹	335
サービス産業論	1～4	2	半期	休講	—
中小企業論	2～4	2	半期	青山 和正	337
				村上 正剛	339
職場の対人心理学	2～4	2	半期	浮谷 秀一	341
ビジネスコミュニケーション	2～4	2	半期	林 治子	343
カウンセリング演習	2～4	2	半期	伊波 和恵	345
ヒューマンエラーの心理学	2～4	2	半期	深澤 伸幸	347

履修対象：経営学部経営心理学科

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
入門簿記Ⅰ	1～4	2	半期	北井不二男 土井 充 福山 倫基 光澤 美芽	349 351 353 355
入門簿記Ⅱ	1～4	2	半期	北井不二男 土井 充 福山 倫基 光澤 美芽	357 359 361 363
広告論Ⅰ	2～4	2	半期	中尾 孝年 広瀬 盛一	365 367
広告論Ⅱ	2～4	2	半期	広瀬 盛一	369
商品論	2～4	2	半期	田口 冬樹	371
ブランドマーケティング論	2～4	2	半期	山川 悟	373
アパレル経営	2～4	2	半期	中嶋 励子	375
ショップ経営	2～4	2	半期	中嶋 励子	377
経営情報学	2～4	2	半期	鬼木 一直	379
コンピュータ概論	1～4	2	半期	萩野 弘道	381
情報システム	1～4	2	半期	鬼木 一直 萩野 弘道	383 385
情報処理Ⅰ	2～4	2	半期	鬼木 一直	387
情報処理Ⅱ	2～4	2	半期	鬼木 一直	389
環境経営学	2～4	2	半期	藤森 大祐	391
経営倫理	2～4	2	半期	山口 善昭	393
消費者法	2～4	2	半期	隅田 浩司	395
労働法	2～4	2	半期	廣瀬 誠人	397
ビジネス英語Ⅰ	2～4	2	半期	穴戸カール	399
ビジネス英語Ⅱ	2～4	2	半期	穴戸カール	401
経営心理学特講Ⅰ	2～4	2	半期	三好 陽介	403
経営心理学特講Ⅱ	2～4	2	半期	神渡 良平	405
経営心理学特講Ⅲ	3～4	2	半期	休講	—
経営心理学特講Ⅳ	3～4	2	半期	休講	—
ビジネス実務法務	1～4	2	集中	平澤 明	407
簿記技能Ⅰ（日商３級）	1～4	2	集中	福山 倫基	409
簿記技能Ⅱ（日商２級）	1～4	2	集中	福山 倫基	411
販売技術	1～4	2	集中	日野 隆生	413

科目末尾の表記（Ⅰ・Ⅱ）について

Ⅰ：基本的にⅡの科目と連携しており、Ⅱの科目の基礎になります。

Ⅰ・Ⅱの科目を履修することが望ましい。

Ⅱ：基本的にⅠの科目と連携しており、Ⅰの科目の履修を前提とする（Ⅰの上級レベル）。

Ⅰの科目を履修した学生、もしくは同程度の知識を持つ学生が履修することが望ましい。

配当年次について

履修することのできる学年を表します。

1：1年生が履修できる科目です。

2：2年生が履修できる科目です。

3：3年生が履修できる科目です。

4：4年生が履修できる科目です。

1～4：1年生・2年生・3年生・4年生が履修できる科目です。

2～4：2年生・3年生・4年生が履修できる科目です。

3～4：3年生・4年生が履修できる科目です。

（注）「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」、「日本語Ⅳ」、「日本事情」は、留学生科目です。

教 養 科 目

平成28年度

経営学部経営心理学科

東京富士大学

基礎演習 I	
Basic Seminar I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎演習 I」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。基礎演習では、大学の授業をしっかりと理解し、そして、自分から新しいことを学んでいくために必要となる基礎的な能力を身につけることを目指しています。

この授業では、大学の講義を受けるうえで最も基礎的な能力、たとえば、授業ノートの取り方や、文章の書き方について、勉強します。そして、大学の授業では、一人で勉強することに加えて、同級生や先輩などと一緒に勉強するグループ学習も重要です。しかし、最初は、あまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、演習では、グループで何か一緒に作業するやりかたを教えます。

そして、大学生活は、高校生活とは違います。大学生として最低限必要となる生活態度、マナーについても基礎演習受講を通して、身につけていくことになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ノートの取り方	ノートを取る技術は、大学の講義に役立つだけでなく、今後、社会人となって、業務日誌や、交渉メモなどを作成するうえでも重要なスキルです。このノートの取り方の技術を習得できているかどうか、課題を通じて評価します。	30%
文章の書き方	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて演習の中で評価します。	30%
コミュニケーションの基礎能力	わからないことを講師に聞いたり、仲間と一緒に作業するための最低限のコミュニケーション力も、ゼミでの授業態度を通じて評価します。仲間と協働して問題を解決することができるかについて、ゼミでの授業態度を通じて評価します。	20%
実務 I Q 能力	e-learning による実務 I Q テストによる学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法 授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	フレッシュマン・オリエンテーションを実施します
2	大学での学び方に関する講義	1) 教科書『大学での学び方』を使用して次のようなことを勉強し、課題を提出します。 ・メモを取る方法・保管方法など ・要点をまとめる方法など ・ノートを作る方法 ・授業をノートする方法 ・テキスト・教科書からノートを作る方法 ・文章のまとめ方 など 講義の進め方は、担任の教員の指示に従ってください
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	春学期の振り返り	春学期の内容をまとめ、個人の学習成果を確認します。

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇1年生の必修科目です、1年生は必ず履修することになります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書『大学生・短大生のための大学での学び方』では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1) この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2) 基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3) e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

担当者	網 本 尚 子	井 上 航 人	浮 谷 秀 一
	大 山 利 栄	木 村 直 樹	黒 田 秀 雄
	塩 谷 由美子	志 塚 昌 紀	田 島 外志美
	長 岐 郁 也	深 澤 琢 也	福 山 倫 基

基礎演習 I（留学生科目）	
Basic Seminar I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎演習 I」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。基礎演習では、大学の授業をしっかりと理解し、そして、自分から新しいことを学んでいくために必要となる基礎的な能力を身につけることを目指しています。

この授業では、大学の講義を受ける上で最も基礎的な能力、たとえば、授業ノートの取り方や、文章の書き方について、勉強します。そして、大学の授業では、一人で勉強することに加えて、同級生や先輩などと一緒に勉強するグループ学習も重要です。しかし、最初は、あまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、演習では、グループで何か一緒に作業するやりかたを教えます。

そして、大学生活で最低限必要となる生活態度、マナーについても基礎演習受講を通して、身につけていくことになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ノートの取り方	ノートを取る技術は、大学の講義に役立つだけでなく、今後、社会人となって、業務日誌や、交渉メモなどを作成する上でも重要なスキルです。このノートの取り方の技術を習得できているかどうか、課題を通じて評価します。	30%
文章の書き方	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて演習の中で評価します。	30%
コミュニケーションの基礎能力	わからないことを講師に聞いたり、仲間と一緒に作業したりするための最低限のコミュニケーション力も、ゼミでの授業態度を通じて評価します。仲間と協働して問題を解決することができるかどうかについて、ゼミでの授業態度を通じて評価します。	20%
実務 I Q能力	e-learning による実務 I Qテストの学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法 授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	フレッシュマン・オリエンテーションを実施します
2	大学での学び方に関する講義	1) 授業では次のようなことを勉強し、課題を提出します。 ・メモを取る方法・保管方法など ・要点をまとめる方法など ・ノートを作る方法 ・授業をノートする方法 ・テキスト・教科書からノートを作る方法 ・文章のまとめ方 など 2) 講義の進め方は、担任の教員の指示に従ってください
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	春学期の振り返り	春学期の内容をまとめ、個人の学習成果を確認します。

【使用教材】

◇教科書：未定

【履修条件等】

◇1年生の外国人留学生の必修科目です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇この授業では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1) この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2) 基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3) e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

担当者	網 本 尚 子	井 上 航 人	浮 谷 秀 一
	大 山 利 栄	木 村 直 樹	黒 田 秀 雄
	塩 谷 由美子	志 塚 昌 紀	田 島 外志美
	長 岐 郁 也	深 澤 琢 也	福 山 倫 基

基礎演習 I	クロダ ヒデオ 黒田 秀雄
Basic Seminar I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎演習 I」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。基礎演習では、大学の授業をしっかりと理解し、そして、自分から新しいことを学んでいくために必要となる基礎的な能力を身につけることを目指しています。

この授業では、大学の講義を受けるうえで最も基礎的な能力、たとえば、授業ノートの取り方や、文章の書き方について、勉強します。そして、大学の授業では、一人で勉強することに加えて、同級生や先輩などと一緒に勉強するグループ学習も重要です。しかし、最初は、あまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、演習では、グループで何か一緒に作業するやりかたを教えます。

そして、大学生活は、高校生活とは違います。大学生として最低限必要となる生活態度、マナーについても基礎演習受講を通して、身につけていくことになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ノートの取り方	ノートを取る技術は、大学の講義に役立つだけでなく、今後、社会人となって、業務日誌や、交渉メモなどを作成するうえでも重要なスキルです。このノートの取り方の技術を習得できているかどうか、課題を通じて評価します。	30%
文章の書き方	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて演習の中で評価します。	30%
コミュニケーションの基礎能力	わからないことを講師に聞いたり、仲間と一緒に作業するための最低限のコミュニケーション力も、ゼミでの授業態度を通じて評価します。仲間と協働して問題を解決することができるかについて、ゼミでの授業態度を通じて評価します。	20%
実務 I Q 能力	e-learning による実務 I Q テストによる学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法 授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	フレッシュマン・オリエンテーションを実施します
2	大学での学び方に関する講義	1) 教科書『大学での学び方』を使用して次のようなことを勉強し、課題を提出します。 ・メモを取る方法・保管方法など ・要点をまとめる方法など ・ノートを作る方法 ・授業をノートする方法 ・テキスト・教科書からノートを作る方法 ・文章のまとめ方 など 講義の進め方は、担任の教員の指示に従ってください
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	春学期の振り返り	春学期の内容をまとめ、個人の学習成果を確認します。

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇1年生の必修科目です、1年生は必ず履修することになります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書『大学生・短大生のための大学での学び方』では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1) この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2) 基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3) e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

基礎演習Ⅱ	
Basic Seminar Ⅱ	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎演習Ⅱ」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。そして、「基礎演習Ⅱ」も、「基礎演習Ⅰ」に続けて、大学での勉強に必要なスキル（アカデミック・スキルと呼ぶこともあります）を学びます。「基礎演習Ⅱ」では、文章の書き方をしっかり学んだ後で、いよいよ、レポートの書き方について学びます。自分で見つけたテーマについて、調べて、どのようなレポートにするかを考える、そして、そのレポートを実際にかくという作業を行います。大学生は、高等学校とは異なり、自分が興味を持ったことを、自分で調べていくという勉強が中心になります。「基礎演習Ⅱ」では、レポートの書き方について、先生の指示に従いながら、丁寧に段階を追って勉強していきますので誰でもレポートが書けるようになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文章作成能力	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて課題を通じて評価します。	30%
レポート構成・作成能力	レポートの書き方の基本について、学びます。実際にレポートを書きながら、どの程度自分で課題を設定し、論理的にレポートを組み立てる能力を課題を通じて評価します。	30%
計画立案・遂行能力	レポートの書き方の演習の中で、レポートを書くための計画を立案し、それを着実に実施できるかどうか、について、演習の中で、評価します。	20%
実務IQ能力	e-learning による実務IQテストによる学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法 授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	秋学期の過ごし方、注意点などを説明します
2	教科書『大学での学び方』を使った演習と、専門演習のための準備	1)教科書『大学での学び方』を使い、次のようなことを学び、課題を提出します。 ・公的な文章の書き方 ・自分自身の文章について（適切な引用・要約の仕方） ・説得力のある文章、履歴書、手紙の書き方 ・レポートの構造を学ぶ ・文章の原理原則、主張と根拠の関係 ・レポートを書く前の問題提起 ・三部構成で実際にレポートを書く 2)12月に行われるゼミ発表大会は、全員出席し、発表を聴講して2年次以降の専門演習を選択してください。（出席をとります）
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	振り返り	1年間の学習を振り返り、個人の達成度を確認します。

【使用教材】

◇教科書：『大学生・短大生のための思考力テキスト』日本生涯学習総合研究所

【履修条件等】

◇1年生の必修科目です、1年生は必ず履修することになります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書「大学生・短大生のための大学での学び方」では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1) この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2) 基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3) e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

担当者	網 本 尚 子	井 上 航 人	浮 谷 秀 一
	大 山 利 栄	木 村 直 樹	黒 田 秀 雄
	塩 谷 由美子	志 塚 昌 紀	田 島 外志美
	長 岐 郁 也	深 澤 琢 也	福 山 倫 基

基礎演習Ⅱ（留学生科目）	
Basic Seminar Ⅱ	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎演習Ⅱ」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。そして、「基礎演習Ⅱ」も、「基礎演習Ⅰ」に続けて、大学での勉強に必要なスキル（アカデミック・スキルと呼ぶこともあります）を学びます。「基礎演習Ⅱ」では、文章の書き方をしっかり学んだ後で、いよいよ、レポートの書き方について学びます。自分で見つけたテーマについて、調べて、どのようなレポートにするかを考える、そして、そのレポートを実際にかくという作業を行います。大学では、自分が興味を持ったことを、自分で調べていくという勉強が中心になります。「基礎演習Ⅱ」では、レポートの書き方について、先生の指示に従いながら、丁寧に段階を追って勉強していきますので誰でもレポートが書けるようになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文章作成能力	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて課題を通じて評価します。	30%
レポート構成・作成能力	レポートの書き方の基本について、学びます。実際にレポートを書きながら、どの程度自分で課題を設定し、論理的にレポートを組み立てる能力を身につけたか、課題を通じて評価します。	30%
計画立案・遂行能力	レポートの書き方の演習の中で、レポートを書くための計画を立案し、それを着実に実施できるかどうか、について、演習の中で、評価します。	20%
実務IQ能力	e-learningによる実務IQテストによる学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法 授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	秋学期の過ごし方、注意点などを説明します
2	アカデミック・スキルのための演習と、専門演習のための準備	1) 授業では次のようなことを学び、課題を提出します。 ・ 公的な文章の書き方 ・ 自分自身の文章について（適切な引用・要約の仕方） ・ 説得力のある文章、履歴書、手紙の書き方 ・ レポートの構造を学ぶ ・ 文章の原理原則、主張と根拠の関係 ・ レポートを書く前の問題提起 ・ 三部構成で実際にレポートを書く 2) 12月に行われるゼミ発表大会は、全員出席し、発表を聴講して2年次以降の専門演習を選択してください。（出席をとります）
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	振り返り	1年間の学習を振り返り、個人の達成度を確認します。

【使用教材】

◇教科書：未定

【履修条件等】

◇1年生の外国人留学生の必修科目です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇この授業では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1) この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2) 基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3) e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

担当者	網 本 尚 子	井 上 航 人	浮 谷 秀 一
	大 山 利 栄	木 村 直 樹	黒 田 秀 雄
	塩 谷 由美子	志 塚 昌 紀	田 島 外志美
	長 岐 郁 也	深 澤 琢 也	福 山 倫 基

基礎演習Ⅱ	クロダ ヒデオ 黒田 秀雄
Basic Seminar Ⅱ	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎演習Ⅱ」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。そして、「基礎演習Ⅱ」も、「基礎演習Ⅰ」に続けて、大学での勉強に必要なスキル（アカデミック・スキルと呼ぶこともあります）を学びます。「基礎演習Ⅱ」では、文章の書き方をしっかり学んだ後で、いよいよ、レポートの書き方について学びます。自分で見つけたテーマについて、調べて、どのようなレポートにするかを考える、そして、そのレポートを実際にかくという作業を行います。大学生は、高等学校とは異なり、自分が興味を持ったことを、自分で調べていくという勉強が中心になります。「基礎演習Ⅱ」では、レポートの書き方について、先生の指示に従いながら、丁寧に段階を追って勉強していきますので誰でもレポートが書けるようになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文章作成能力	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて課題を通じて評価します。	30%
レポート構成・作成能力	レポートの書き方の基本について、学びます。実際にレポートを書きながら、どの程度自分で課題を設定し、論理的にレポートを組み立てる能力を課題を通じて評価します。	30%
計画立案・遂行能力	レポートの書き方の演習の中で、レポートを書くための計画を立案し、それを着実に実施できるかどうか、について、演習の中で、評価します。	20%
実務IQ能力	e-learning による実務IQテストによる学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法 授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	秋学期の過ごし方、注意点などを説明します
2	教科書『大学での学び方』を使った演習と、専門演習のための準備	1)教科書『大学での学び方』を使い、次のようなことを学び、課題を提出します。 ・公的な文章の書き方 ・自分自身の文章について（適切な引用・要約の仕方） ・説得力のある文章、履歴書、手紙の書き方 ・レポートの構造を学ぶ ・文章の原理原則、主張と根拠の関係 ・レポートを書く前の問題提起 ・三部構成で実際にレポートを書く 2)12月に行われるゼミ発表大会は、全員出席し、発表を聴講して2年次以降の専門演習を選択してください。（出席をとります）
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	振り返り	1年間の学習を振り返り、個人の達成度を確認します。

【使用教材】

◇教科書：『大学生・短大生のための思考力テキスト』日本生涯学習総合研究所

【履修条件等】

◇1年生の必修科目です、1年生は必ず履修することになります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書「大学生・短大生のための大学での学び方」では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1) この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2) 基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3) e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

総合英語 I	アベ マキコ 阿部 牧子
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。リーディングは日常生活の身近な事柄や、海外の諸事情が題材となっています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙は2,000語から3,000語水準の単語を約900語収録しています。語彙テストは単語を含む文章の理解度をテストします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。 なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている22の単語と派生語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト30%、授業での発言など20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明、自己紹介他
2	文型	文中の主語・動詞・目的語・補語を理解する
3	文型	英語の語順を理解する。語彙テスト
4	自動詞と他動詞	動詞の種類を理解する。発音チェック
5	自動詞と他動詞	動詞の過去・現在・未来の形を覚える。語彙テスト
6	現在形と頻度	頻度の副詞と動詞の現在形
7	中間試験	試験と解説
8	名詞と代名詞	名詞の複数形や代名詞の種類を覚える
9	名詞と代名詞	不可算名詞と可算名詞
10	前置詞	場所を表す表現、時を表す前置詞
11	助動詞	一般動詞だけで表せない意味（受け身・完了・可能など）
12	助動詞	助動詞の肯定文、否定文、疑問文
13	不定詞と動名詞	不定詞・動名詞の名詞用法。語彙テスト
14	不定詞と動名詞	不定詞の形容詞用法・副詞用法
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ ENGLISH LOCOMOTION

編著：JACET 教材開発研究会 出版社：成美堂

【履修条件等】

◇総合英語は必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇添付の音声CDを繰り返し聴いて、単語と英文を耳で慣れるようにする。

【その他の注意事項】

◇原則10回出席していなければ15週目の本試験は受験を許可しません。

総合英語 I BPE-A	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、オフィスを舞台としたストーリーをベースにして、簡単なビジネス英語やプレゼンテーションの基礎を学ぶとともに、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	This is my first visit.	予定の尋ね方・別れ際の挨拶
3	(same as above)	過去形と現在形
4	How do you like Bangkok?	海外出張1：予定を尋ねる
5	(same as above)	続・過去形と現在形
6	I'm going well so far.	海外出張2：礼を述べる、予定を確認する
7	(same as above)	進行形・未来形
8	Have they decided …?	出張報告：経験を述べる・指示を出す
9	(same as above)	現在完了形
10	Could you take a look?	プレゼンの準備：依頼や助言の表現
11	(same as above)	助動詞
12	My flight was canceled.	電話応対
13	(same as above)	受動態
14	What do you want me to do?	使用法説明：相手の意向を尋ねる
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Kadoyama, Teruhiko and Capper, Simon. (2016) Let's Read Aloud More!: 音読で極める基礎英語 成美堂

【履修条件等】

- ◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇ iPad を持参すること。必要となるアプリの詳細は初回授業で告知する。

総合英語 I BPE-B	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、文法事項や単語を「読んで書き、聞いて話す」という覚えやすいやり方で、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの基本的な4技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	From my heart to yours	贈り物についての英語表現を学ぶ
3	(same as above)	代名詞
4	To be or not to be	国籍とアイデンティティの違いに触れる
5	(same as above)	be 動詞
6	Too many calories?	食習慣の違いに触れる
7	(same as above)	名詞
8	Life with a roommate	西洋の寮生活について学ぶ
9	(same as above)	冠詞と限定詞
10	I'll take a vacation!	休暇についての英文を読む
11	(same as above)	一般動詞
12	How is the weather?	気候の違いについて英語で読んでみる
13	(same as above)	疑問文
14	Did you do the dishes?	家事に特有の表現を学ぶ
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Stafford, D., Mark., Tsunamori, Chizuko., and Matsui, Kozue. (2016)
English Insight – An Integrated Approach to Language Learning. Cengage Learning.

【履修条件等】

- ◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇ iPad を持参すること。必要なアプリなどについては初回の授業で指示する。

総合英語 I BPE-C	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。「どうしたら英語ができるようになるのか」と悩む人は多いですが、自信を持って英語を使えるようになるには「急がば回れ (Slow & Steady)」の感覚で、まずは基本的な語彙や文法、簡単な会話表現をおさらいします。また、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	1 : 5つの基本文型	5文型に関連する英作文・対話文
3	(同上)	5文型に関連する文章読解
4	2 : 動詞	動詞に関連する英作文・対話文
5	(同上)	動詞に関連する文章読解
6	3 : 進行形・未来形・助動詞	時制と助動詞に関連する英作文・対話文
7	(同上)	時制と助動詞に関連する文章読解
8	4 : 名詞・冠詞・代名詞	名詞に関連する英作文・対話文
9	(同上)	名詞に関連する文章読解
10	5 : 前置詞・関係詞(1)	関係詞に関連する英作文・対話文
11	(同上)	関係詞に関連する文章読解
12	6 : 形容詞・副詞・比較級	修飾句と比較に関連する英作文・対話文
13	(同上)	修飾句と比較に関連する文章読解
14	7 : 命令文・感嘆文	命令文・感嘆文に関連する英作文・対話文
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Sato, Tetsuzo., Kotegawa, Yoshiteru., Kido, Mayumi., Shimai, Yoshie.,
and Shimozone, Fumiko. (2016) Slow & Steady – 大学生の総合基礎英語 南雲堂

【履修条件等】

◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること。必要なアプリなどについては初回の授業で指示する。

総合英語 I	タカハタ カズミチ 高畑 一路
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という4つの観点から、英語をバランスよく総合的に身につけることを目標とする。同時に、英語圏の文化、思想、習慣等を理解するようにしたい。使用する教科書は、語彙、文法、読解、会話のあらゆる角度から工夫されたものであり、総合的な英語力を身につけるのに適している。基本的にはこの教科書に沿って授業を進めていくが、受講者のレベル、興味などにしたがって、プリント教材を追加する場合がある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語で簡単な会話をすることができるようになること	授業中に行うペアワークによって評価。教科書の課題を利用して、会話の基本パターンを覚えること。	10%
リスニング力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる英語を正しく聞き取れるようになること。	20%
基礎文法を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる文法問題を解けるようになること。	30%
読解力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題にある英文の内容を正しく理解できるようになること。	40%
評価の方法 授業数3分の2以上の出席を前提として、授業態度および授業貢献度20%、 中間試験40%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Introduction	授業についての概要説明
2	Unit 1	Welcome to Japan
3	Unit 1	Welcome to Japan
4	Unit 2	That Sounds Like Fun
5	Unit 2	That Sounds Like Fun
6	Unit 3	We Leave on Friday Morning
7	Unit 3	We Leave on Friday Morning
8	Midterm Exam	中間試験
9	Unit 4	You Know a Lot About Trains
10	Unit 4	You Know a Lot About Trains
11	Unit 5	I Didn't Want to Leave
12	Unit 5	I Didn't Want to Leave
13	Unit 6	You're Working Late
14	Unit 6	You're Working Late
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ English First Basic 著者：Robert Hickling, Misato Usukura 出版社：金星堂

【履修条件等】

◇ とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 教科書の該当箇所に目を通し、知らない英単語・熟語があったら覚えておくこと。

【その他の注意事項】

◇ 授業に必ず辞書を持参すること（電子辞書可）。

◇ 指定された教科書を初回の授業までに必ず購入すること。教科書を所有していない学生の受講は許可しない。

総合英語 I	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

英語を用いて、その表現の方法について学習します。この授業では、文法と語彙を扱い、実際の表現方法である「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力を身につけることを目的に、解説を行い、問題演習を行います。その際、「授業計画」にある内容を学習することとなるが、各回の「内容」にあることを目標に行うので、学習の指針として、適宜参照すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
筆記試験	筆記テストによって評価する。	60%
授業参加度	能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価する。	40%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Introduction	授業の進め方、自己紹介、英語の文章の成り立ちを理解する
2	時制の表現(1)	be の現在形に関して、主語となる名詞から適切な be 動詞を選択することができるようになる 主語となる名詞から適切な一般動詞を選択することができるようになる
3	時制の表現(2)	be の現在形に関して、主語となる名詞から適切な be 動詞を選択することができるようになる 主語となる名詞から適切な一般動詞を選択することができるようになる一般動詞を用いた文章を現在進行形に書き換えることができる
4	時制の表現(3)	一般動詞を用いた文章を現在進行形に書き換えることができる be 動詞、一般動詞を用いた現在形、現在進行形の疑問文を作ることができる be 動詞の過去形を用いた英作文ができるようになる
5	文型(1)	第1文型、第2文型、第3文型の形と働きを理解する 各文型における補語と目的語の位置を決め、文章を書くことができるようになる
6	文型(2)	第4文型、第5文型の形と働きを理解する 各文型における補語と目的語の位置を決め、文章を書くことができるようになる
7	筆記テスト・解説 【中間テスト】	ここまでの授業で学習したことを用いて、筆記形式によるテストを行います
8	助動詞の働き(1)	基本的な助動詞 (will, can, must, have, may) の種類と意味、働きを説明できるようになる 基本的な助動詞を用いた英作文ができるようになる
9	助動詞の働き(2)	基本的な助動詞の性質を理解し、肯定文、否定文、疑問文を表現することができるようになる
10	疑問文の表現(1) what, who, which	疑問代名詞 (what, who, which) の主格、所有格、目的格をそれぞれ説明できるようになる 疑問代名詞 who を用いた英作文ができるようになる
11	疑問文の表現(2)	疑問代名詞 what を用いた英作文ができるようになる 疑問代名詞 which を用いた英作文ができるようになる
12	疑問文の表現(3)	疑問副詞 (when, where, why) の意味と働きを説明できるようになる when を用いた英作文ができるようになる
13	疑問文の表現(4) when, where, why	where を用いた英作文ができるようになる why を用いた英作文ができるようになる
14	復習	授業で学習したことを復習する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：English Quest Basic Mastering The Essentials of English
著者：Hiroshi Ono ほか (Pearson Longman)

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に目を通し、理解度を確認しておく。
◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

総合英語Ⅰ（再履修）	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

英語を用いて、その表現の方法について学習します。この授業では、文法と語彙を扱い、実際の表現方法である「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力を身につけることを目的に、解説を行い、問題演習を行います。その際、「授業計画」にある内容を学習することとなるが、各回の「内容」にあることを目標に行うので、学習の指針として、適宜参照すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
筆記試験	筆記テストによって評価する。	60%
授業参加度	能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価する。	40%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Introduction	授業の進め方、自己紹介、英語の文章の成り立ちを理解する
2	時制の表現(1)	be の現在形に関して、主語となる名詞から適切な be 動詞を選択することができるようになる 主語となる名詞から適切な一般動詞を選択することができるようになる
3	時制の表現(2)	be の現在形に関して、主語となる名詞から適切な be 動詞を選択することができるようになる 主語となる名詞から適切な一般動詞を選択することができるようになる一般動詞を用いた文章を現在進行形に書き換えることができる
4	時制の表現(3)	一般動詞を用いた文章を現在進行形に書き換えることができる be 動詞、一般動詞を用いた現在形、現在進行形の疑問文を作ることができる be 動詞の過去形を用いた英作文ができるようになる
5	文型(1)	第1文型、第2文型、第3文型の形と働きを理解する 各文型における補語と目的語の位置を決め、文章を書くことができるようになる
6	文型(2)	第4文型、第5文型の形と働きを理解する 各文型における補語と目的語の位置を決め、文章を書くことができるようになる
7	筆記テスト・解説 【中間テスト】	ここまでの授業で学習したことを用いて、筆記形式によるテストを行います
8	助動詞の働き(1)	基本的な助動詞 (will, can, must, have, may) の種類と意味、働きを説明できるようになる 基本的な助動詞を用いた英作文ができるようになる
9	助動詞の働き(2)	基本的な助動詞の性質を理解し、肯定文、否定文、疑問文を表現することができるようになる
10	疑問文の表現(1) what, who, which	疑問代名詞 (what, who, which) の主格、所有格、目的格をそれぞれ説明できるようになる 疑問代名詞 who を用いた英作文ができるようになる
11	疑問文の表現(2)	疑問代名詞 what を用いた英作文ができるようになる 疑問代名詞 which を用いた英作文ができるようになる
12	疑問文の表現(3)	疑問副詞 (when, where, why) の意味と働きを説明できるようになる when を用いた英作文ができるようになる
13	疑問文の表現(4) when, where, why	where を用いた英作文ができるようになる why を用いた英作文ができるようになる
14	復習	授業で学習したことを復習する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：English Quest Basic Mastering The Essentials of English
著者：Hiroshi Ono ほか (Pearson Longman)

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に目を通し、理解度を確認しておく。
◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

総合英語Ⅱ	アベ マキコ 阿部 牧子
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。リーディングは日常生活の身近な事柄や、海外の諸事情が題材となっています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙は2,000語から3,000語水準の単語を約900語収録しています。語彙テストは単語を含む文章の理解度をテストします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きを理解する	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。 なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている22の単語と派生語の意味を覚え、書くことができる	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト30%、授業での発言など20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	現在分詞	(主語) が～しているところである
2	現在分詞	～している (名詞)
3	過去分詞	(主語) が～される
4	過去分詞	～された (名詞)
5	現在完了形	(have + 過去分詞) の表す意味
6	現在完了形	現在完了形の否定文と疑問文
7	中間試験	試験と解説
8	形容詞と比較	人やモノの性質・状態・質・量を表す
9	形容詞と比較	原級比較と比較級、最上級
10	関係代名詞	先行詞と関係代名詞
11	関係代名詞	主格・目的格・所有格
12	「それは」ではない It	天候・距離・時間などを表す仮の主語としての It
13	仮定法	現在の事実と反する仮定
14	仮定法	過去の事実と反する仮定・「まるで～のように」など
15	本試験	試験 (60分) と解説

【使用教材】

◇ ENGLISH LOCOMOTION

編著：JACET 教材開発研究会 出版社：成美堂

【履修条件等】

◇総合英語は必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇添付の音声CDを繰り返し聴いて、単語と英文を耳で慣れるようにする。

【その他の注意事項】

◇原則10回出席していなければ15週目の本試験は受験を許可しません。

総合英語Ⅱ BPE-K	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、オフィスを舞台としたストーリーをベースにして、簡単なビジネス英語やプレゼンテーションの基礎を学ぶとともに、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

※本講座は春学期「総合英語Ⅰ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	春学期の復習	春学期の復習&解説、復習問題の演習
2	What do you want me to do?	不定詞
3	She knows marketing …	オフィストーク：比較表現
4	(same as above)	関係詞・その1
5	Thank you for coming to …	ヘッドハンティング：意見を述べる
6	(same as above)	動名詞
7	The competition will be …	会議：意見を求める
8	(same as above)	形容詞、副詞
9	This is where we …	プレゼン準備2：提案する
10	(same as above)	関係詞・その2
11	I'd like to talk about …	プレゼン：順序を示す
12	(same as above)	分詞
13	You are much better …	オフィストーク：感想を述べる
14	(same as above)	比較
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Kadoyama, Teruhiko and Capper, Simon. (2016) Let's Read Aloud More!: 音読で極める基礎英語 成美堂

【履修条件等】

- ◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇ iPad を持参すること。

総合英語Ⅱ BPE-L	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、文法事項や単語を「読んで書き、聞いて話す」という覚えやすいやり方で、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの基本的な4技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

※この講座は春学期「総合英語Ⅰ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	春学期の振り返り	春学期内容の復習解説・チェック問題
2	Did you do the dishes?	過去時制
3	I'm going to college	西洋の学生生活について理解を深める
4	(same as above)	進行形
5	Have you ever had a job?	就職活動についての違いに触れる
6	(same as above)	現在完了
7	She had been great!	表彰・評価の表現を学ぶ
8	(same as above)	過去完了
9	How is … celebrated?	クリスマスなどのお祝いの仕方について学ぶ
10	(same as above)	受動態
11	… to take some time off?	休暇の過ごし方についての英文を読む
12	(same as above)	不定詞
13	I can drive!	運転免許や交通ルールについて理解を深める
14	(same as above)	助動詞 can / will
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Stafford, D., Mark., Tsunamori, Chizuko., and Matsui, Kozue. (2016)
English Insight – An Integrated Approach to Language Learning. Cengage Learning.

【履修条件等】

- ◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

- ◇ iPad を持参すること。

総合英語Ⅱ BPE-M	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。「どうしたら英語ができるようになるのか」と悩む人は多いですが、自信を持って英語を使えるようになるには「急がば回れ (Slow & Steady)」の感覚で、まずは基本的な語彙や文法、簡単な会話表現をおさらいします。また、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

※この講座は春学期「総合英語Ⅰ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	復習 & Warm Up	春学期の復習 & 解説、小チェックテスト
2	7 : 命令文・感嘆文	命令文・感嘆文に関連する文章読解
3	8 : 不定詞	不定詞に関連する英作文、対話文読解
4	(同上)	不定詞に関連する文章読解
5	9 : 動名詞と分詞	動名詞・分詞に関連する英作文、対話文読解
6	(同上)	動名詞・分詞に関連する文章読解
7	10 : 疑問文、It の特殊用法	疑問文に関連する英作文、対話文読解
8	(同上)	疑問文に関連する文章読解
9	11 : 受動態	受動態に関連する英作文、対話文読解
10	(同上)	受動態に関連する文章読解
11	12 : 完了形	完了形に関連する英作文、対話文読解
12	(同上)	完了形に関連する文章読解
13	13 : 接続詞(2)・時制の一致	接続詞に関連する英作文、対話文読解
14	(同上)	接続詞に関連する文章読解
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Sato, Tetsuzo., Kotegawa, Yoshiteru., Kido, Mayumi., Shimai, Yoshie.,
and Shimozone, Fumiko. (2016) Slow & Steady – 大学生の総合基礎英語 南雲堂

【履修条件等】

◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること。

総合英語Ⅱ	タカハタ カズミチ 高畑 一路
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「総合英語Ⅰ」に引き続き、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という4つの観点から、英語をバランスよく総合的に身につけることを目標とする。同時に、英語圏の文化、思想、習慣等を理解するようにしたい。基本的には教科書に沿って授業を進めていくが、受講者のレベル、興味などにしたがって、プリント教材を追加する。なお、前学期の進度具合によって開始時の内容が前後することもあるので、受講者は「総合英語Ⅰ」のシラバスにも目を通しておくこと。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語で簡単な会話をすることができるようになること	授業中に行うペアワークによって評価。教科書の課題を利用して、会話の基本パターンを覚えること。	10%
リスニング力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる英語を正しく聞き取れるようになること。	20%
基礎文法を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる文法問題を解けるようになること。	30%
読解力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題にある英文の内容を正しく理解できるようになること。	40%
評価の方法 授業数3分の2以上の出席を前提として、授業態度および授業貢献度20%、 中間試験40%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Unit 7	I'm Sure He'll Understand
2	Unit 7	I'm Sure He'll Understand
3	Unit 8	I'll Remember That
4	Unit 8	I'll Remember That
5	Unit 9	Hiro Forgot
6	Unit 9	Hiro Forgot
7	Midterm Exam	中間試験
8	Unit10	How Have You Been ?
9	Unit10	How Have You Been ?
10	Unit11	While They're Here
11	Unit11	While They're Here
12	Unit12	How Was Tennis ?
13	Unit12	How Was Tennis ?
14	Unit13	What Do You Mean ?
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ English First Basic 著者：Robert Hickling, Misato Usukura 出版社：金星堂

【履修条件等】

◇ とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 教科書の該当箇所に目を通し、知らない英単語・熟語があったら覚えておくこと。

【その他の注意事項】

◇ 授業に必ず辞書を持参すること（電子辞書可）。

◇ 指定された教科書を初回の授業までに必ず購入すること。教科書を所有していない学生の受講は許可しない。

総合英語Ⅱ	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
Integrated English Ⅱ	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、「総合英語Ⅰ」で学習した内容を、さらに深めることを目的としている。引き続き、英語を用いて、その表現の方法について学習します。この授業では、文法と語彙を扱い、実際の表現方法である「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力を身につけることを目的に、解説を行い、問題演習を行います。その際、「授業計画」にある内容を学習することとなるが、各回の「内容」にあることを目標に行うので、学習の指針として、適宜参照すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
筆記試験	筆記テストによって評価する。	60%
授業参加度	能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価する。	40%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	不定詞	名詞の働き、形容詞、副詞の働きが説明できるようになる 不定詞の名詞的用法、形容詞的用法に関して、その仕組みを理解し、英作文ができるようになる 不定詞の副詞的用法に関して、その仕組みを理解し、英作文ができるようになる
2	動名詞	動名詞の基本的な働きを5つのタイプに分類できるようになる 動詞と結びつけた用法に関して、英作文ができるようになる
3	名詞と動名詞の働き	不定詞と動名詞の使い方の違いを理解する
4	分詞	現在分詞形容詞用法、過去分詞形容詞用法を用いた英作文ができるようになる
5	分詞	いろいろな問題で分詞についての理解を深める
6	復習	ここまでの授業のまとめを問題演習により行います
7	中間テスト	ここまでの授業で学習したことを用いて、筆記形式によるテストを行います
8	受動態	受動態、能動態の形と働きを理解し、書き換え、英作文などができるようになる
9	助動詞	忠告、必要、推量、依頼を表す助動詞を理解し、それらを用いた英作文ができるようになる
10	原級比較の表現	原級比較（as 原級 as …および not as 原級 as …）を用いた英作文ができるようになる
11	比較級比較の表現	比較級を用いた比較（比較級 than）を用いた英作文ができるようになる
12	最上級比較の表現	最上級比較を用いた英作文ができるようになる
13	接続詞	対等な関係、主従の関係でつなぐ2種類の接続詞の働きを理解し、接続詞を用いた英作文ができるようになる
14	復習	ここまでの授業のまとめを問題演習により行います
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：English Quest Basic Mastering The Essentials of English
著者：Hiroshi Ono ほか（Pearson Longman）

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に目を通し、理解度を確認しておく（とくに「総合英語 I」で扱った内容を復習しておくこと）。
◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずる。

総合英語Ⅱ（再履修）	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、「総合英語Ⅰ」で学習した内容を、さらに深めることを目的としている。引き続き、英語を用いて、その表現の方法について学習します。この授業では、文法と語彙を扱い、実際の表現方法である「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力を身につけることを目的に、解説を行い、問題演習を行います。その際、「授業計画」にある内容を学習することとなるが、各回の「内容」にあることを目標に行うので、学習の指針として、適宜参照すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
筆記試験	筆記テストによって評価する。	60%
授業参加度	能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価する。	40%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	不定詞	名詞の働き、形容詞、副詞の働きが説明できるようになる 不定詞の名詞的用法、形容詞的用法に関して、その仕組みを理解し、英作文ができるようになる 不定詞の副詞的用法に関して、その仕組みを理解し、英作文ができるようになる
2	動名詞	動名詞の基本的な働きを5つのタイプに分類できるようになる 動詞と結びつけた用法に関して、英作文ができるようになる
3	名詞と動名詞の働き	不定詞と動名詞の使い方の違いを理解する
4	分詞	現在分詞形容詞用法、過去分詞形容詞用法を用いた英作文ができるようになる
5	分詞	いろいろな問題で分詞についての理解を深める
6	復習	ここまでの授業のまとめを問題演習により行います
7	中間テスト	ここまでの授業で学習したことを用いて、筆記形式によるテストを行います
8	受動態	受動態、能動態の形と働きを理解し、書き換え、英作文などができるようになる
9	助動詞	忠告、必要、推量、依頼を表す助動詞を理解し、それらを用いた英作文ができるようになる
10	原級比較の表現	原級比較（as 原級 as …および not as 原級 as …）を用いた英作文ができるようになる
11	比較級比較の表現	比較級を用いた比較（比較級 than）を用いた英作文ができるようになる
12	最上級比較の表現	最上級比較を用いた英作文ができるようになる
13	接続詞	対等な関係、主従の関係でつなぐ2種類の接続詞の働きを理解し、接続詞を用いた英作文ができるようになる
14	復習	ここまでの授業のまとめを問題演習により行います
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：English Quest Basic Mastering The Essentials of English
著者：Hiroshi Ono ほか（Pearson Longman）

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に目を通し、理解度を確認しておく（とくに「総合英語 I」で扱った内容を復習しておくこと）。
◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずる。

英会話 I	アベ マキコ 阿部 牧子
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

身近なトピックについての日常会話や、海外旅行でのサバイバル英語を習得できるよう、リスニングとスピーキングに焦点をあてて指導します。スピーキングに関しては、ペア・ワークやロール・プレイなどを積極的に導入し、学生が英語を話す機会を増やしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
海外旅行を楽しむために不可欠な英会話を場面に応じて実践することができる	会話テスト、および授業中の学生同士の対話練習によって評価する。相手の話す内容を理解し、適切な受け答えができること。相手が理解できる英語を話すことができること。	40%
上記目標に到達するためにボキャブラリー（語彙）を増やす	単語テストおよび期末の筆記試験によって評価する。正確な綴りで書けること。	20%
クラスメートがゆっくり、はっきりと話せば、内容を理解し、簡単なやりとりができる	試験、および授業中のペアワークによって評価する。コミュニケーションがとれているかどうか。	20%
日本についての基本的な質問（食生活、言葉など）に答えたり、知っている情報を伝えたりすることができる	授業課題およびホームワークによって評価する。日本についての基本的な情報を伝えることができること。自分自身のことを例にして、わかりやすく説明することができること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として発話30%、提出物20%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業概要説明・自己紹介など
2	飛行機で乗務員に意思表示する	Mike is on a plane to the U. K.
3	疑問文：Could/May/Wh-	
4	入国審査	Hideo and Naoki answer questions at Immigration.
5	入国審査	疑問文：Wh-and How
6	家族について話す	Eri and Lauren talk about their families.
7	中間試験	スピーキングテスト
8	中間試験	筆記試験と解説
9	許可を得る・提供する	Miki asks Helen about what she can use in her flat.
10	レストランで食べる	Hideo and Naoki eat out.
11	レストランで食べる	疑問文: Would you like …? Could/may …
12	道を尋ねる	Miki is lost in London and asks for directions.
13	道を尋ねる	命令形・場所を示す前置詞
14	口頭試験	スピーキングテスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ PASSPORT 1 (SECOND EDITION)

著者：Angelica Buckingham & Lewis Lansford, OXFORD

【履修条件等】

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を音読し、添付CDの当該部分を聞く。単語の意味を調べておく。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

英会話 I	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、簡単な英語での会話に必要なフレーズや文法知識を、さまざまなタスク（活動）を通して身につけることを目標とします。もちろん、高校までに勉強したことを使ってすぐに英会話ができるようになればそれに越したことはないのですが、実際には英語を忘れてしまっていたり、苦手意識を持っていたりする人が多いと思います。したがって、まずは比較的優しいレベルの単語や構文を使って、高校までの単元をしっかりと定着させる、「基礎を補うこと」「次のステップへの土台を作ること」がこの授業の目標です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 1 : Welcome to Japan!	動詞の現在形を学ぶ
3	(same as above)	一般動詞と be 動詞の使い方を区別する
4	Unit 2 : That sounds fun.	代名詞の種類を復習する
5	(same as above)	代名詞の位置と語形変化を学ぶ
6	Unit 3 : We leave on Friday.	曜日、月、時間の表し方を復習する
7	(same as above)	時を表す前置詞を学ぶ
8	Unit 4 : You know a lot.	5つの文型をタイプごとに区別できるようになる
9	(same as above)	自動詞と他動詞を区別する
10	Unit 5 : I didn't want to ...	動詞の過去形を復習する
11	(same as above)	不規則活用を（少し）学び、現在形と区別する
12	Unit 6 : You're working late.	進行形を復習する
13	(same as above)	一時的動作と近い将来について表せるようになる
14	Unit 7 : I'm sure he will ...	未来形の使い方を復習する
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Hickling, Robert. (2014) English First: Basics. 金星堂

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ 授業では iPad を使うアクティビティーがあるので、配布後は毎回必ず持参すること。
ダウンロードするアプリについての詳細は、後日授業内で指示します。

英会話 I	ジャネット ジョンソン Janet Johnson
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、英会話の基礎を学びます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話したり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む）、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題）。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む）、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題）。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法 筆記およびリスニングテスト30%×2、 授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Orientation	Explanation of class content and procedures. Warm ups.
2	Unit 1 Greetings	Personal info. Present tense statements. Pair work.
3	Greetings cont. Self Introductions	Speaking exercises. Giving and asking for information.
4	Unit 2 Occupations	Occupations. Describing types of work. Conversation and grammar exercises.
5	Unit 2 cont.	Jobs. Speaking practice. Self-study exercises.
6	Unit 3 Shopping	Asking prices. Describing items by proximity, color, type. Stating preferences.
7	Money	Learning and identifying USA currency.
8	Review Units 1 – 3	Review exercises and preparation for first Short test.
9	Short Test	Test on Units 1 – 3
10	Unit 4 Entertainment	Describing entertainment likes and dislikes.
11	Unit 4 cont.	Invitations: Extending and declining
12	Unit 5 Families	Identifying family relationships.
13	Unit 6 cont.	Talking about families.
14	Review Units 4 & 5	Review points, vocabulary and grammar.
15	Final Test	Final test

【使用教材】

- ◇ Interchange : English for international communication Book 1
 Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
 Cambridge University Press

【履修条件等】

- ◇授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習）。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニング力アップのため、教科書付属のCDを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

英会話 I	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

本講義では、身近な話題を取り上げ、実際に役立つ表現を用いて、自分の意見を伝えられるようになることを目的とする。さらに、毎回の授業において、ボキャブラリー（語彙）を増やし、英語に親しむ態度を育成する。話すことによって自分を理解してもらうこと、聞き取ることによって相手を理解することからはじめ、日常生活、海外旅行で用いる慣用的な表現など、さまざまな状況を設定しペア・ワークやロール・プレイなどを行う。積極的に参加すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活あるいは海外旅行に必要な英語表現を身につける	会話テスト、授業中のペア・ワークやロール・プレイによって評価を行なう。 発音、イントネーションに気をつけ、間違いなく、よどみのない、わかりやすい英語を話すことができるようになる。	40%
応用力を身につける	授業で学んだ表現を応用できる。 自分で文章を構成し、正しいスペルで書くことができる。	30%
語彙力の強化	筆記テストによって評価する。 授業で学んだ表現、ボキャブラリーを正しく理解、記憶し、用いることができる。	30%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Introduction	授業の進め方、評価についての説明
2	あいさつ	be 動詞と一般動詞
3		いろいろなパターンのあいさつ
4	自己紹介	疑問文と否定文
5		自分を知ってもらう
6	感想を言う	現在形と過去形
7		人、物事についての意見を述べる
8	会話テスト	
9	注文する	可算名詞と不可算名詞
10		レストランでの会話
11	お願いをする	代名詞
12		いろいろなパターンの依頼
13	復習	
14	会話テスト	二人一組の対話形式あるいは教員の質問に答える形式
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：Hello New York 著者：Takehisa Tsuchiya, Yoshihiko Honda, Braven Smillie

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当ユニットに目を通す。

◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

英会話 I（再履修）	アベ マキコ 阿部 牧子
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

身近なトピックについての日常会話や、海外旅行でのサバイバル英語を習得できるよう、リスニングとスピーキングに焦点をあてて指導します。スピーキングに関しては、ペア・ワークやロール・プレイなどを積極的に導入し、学生が英語を話す機会を増やしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
海外旅行を楽しむために不可欠な英会話を場面に応じて実践することができる	会話テスト、および授業中の学生同士の対話練習によって評価する。相手の話す内容を理解し、適切な受け答えができること。相手が理解できる英語を話すことができること。	40%
上記目標に到達するためにボキャブラリー（語彙）を増やす	単語テストおよび期末の筆記試験によって評価する。正確な綴りで書けること。	20%
クラスメートがゆっくり、はっきりと話せば、内容を理解し、簡単なやりとりができる	試験、および授業中のペアワークによって評価する。コミュニケーションがとれているかどうか。	20%
日本についての基本的な質問（食生活、言葉など）に答えたり、知っている情報を伝えたりすることができる	授業課題およびホームワークによって評価する。日本についての基本的な情報を伝えることができること。自分自身のことを例にして、わかりやすく説明することができること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として発話30%、提出物20%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業概要説明・自己紹介など
2	飛行機で乗務員に意思表示する	Mike is on a plane to the U. K.
3	疑問文：Could/May/Wh-	
4	入国審査	Hideo and Naoki answer questions at Immigration.
5	入国審査	疑問文：Wh-and How
6	家族について話す	Eri and Lauren talk about their families.
7	中間試験	スピーキングテスト
8	中間試験	筆記試験と解説
9	許可を得る・提供する	Miki asks Helen about what she can use in her flat.
10	レストランで食べる	Hideo and Naoki eat out.
11	レストランで食べる	疑問文：Would you like …? Could/may …
12	道を尋ねる	Miki is lost in London and asks for directions.
13	道を尋ねる	命令形・場所を示す前置詞
14	口頭試験	スピーキングテスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ PASSPORT 1 (SECOND EDITION)

著者：Angelica Buckingham & Lewis Lansford, OXFORD

【履修条件等】

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を音読し、添付CDの当該部分を聞く。単語の意味を調べておく。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

英会話 I（再履修）	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

皆さんの中には、街中で外国人に英語で道を尋ねられて、右往左往した経験がある人もいると思います。今後、日本を訪れる外国人の数は、留学や観光などの目的でますます増加し、オリンピックの開催とともにピークを迎えることでしょう。この講座では、そのような状況を考慮して、日常生活で外国人と英語で接するさまざまな場面を想定した英会話のパターンを勉強します。たとえば道を尋ねられた際に、「主体」をどこに置くかによって、異なる会話パターンが生じることを知らない人もいるかもしれません。この講座では、そのような状況下での会話の「バリエーション」に焦点を当てます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする（『学生要覧』参照）。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 1 : “For here, or to go?”	飲食店での注文対応を学ぶ
3	(same as above)	文化：「おにぎり」について英語で説明してみる
4	Unit 2 : “How many are …?”	レストランでの来客対応の仕方を学ぶ
5	(same as above)	文化：「ラーメン」について英語で説明してみる
6	Unit 3 : “I’ll be right back. ”	レストランでの接客の仕方を学ぶ
7	(same as above)	文化：「お箸」について英語で説明してみる
8	Unit 4 : “Would you like …?”	コンビニやスーパーでの接客サービス
9	(same as above)	文化：「おでん」について英語で説明してみる
10	Unit 5 : “Your total is …”	お会計の伝え方を学ぶ
11	(same as above)	文化：「サイン（署名）」に対する意識の違い
12	Unit 6 : “I’m sorry for …”	苦情対応の仕方を学ぶ
13	(same as above)	日本と英語圏での謝罪に対する意識の違いを学ぶ
14	Unit 7 : Reservation	ホテルや旅館での受付対応
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Kudo, Tae. (2016) You Are Welcome! Cengage Learning.

【履修条件等】

◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可）。詳細は初回の授業で指示します。

英会話Ⅱ	アベ マキコ 阿部 牧子
English Conversation II	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

身近なトピックについての日常会話や、海外旅行でのサバイバル英語を習得できるよう、リスニングとスピーキングに焦点をあてて指導します。スピーキングに関しては、ペア・ワークやロール・プレイなどを積極的に導入し、学生が英語を話す機会を増やしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
海外旅行を楽しむために不可欠な英会話を場面に応じて実践することができる	会話テスト、および授業中の学生同士の対話練習によって評価する。相手の話す内容を理解し、適切な受け答えができること。相手が理解できる英語を話すことができること。	40%
上記目標に到達するためにボキャブラリー（語彙）を増やす	単語テストおよび期末の筆記試験によって評価する。正確な綴りで書けること。	20%
クラスメートがゆっくり、はっきりと話せば、内容を理解し、簡単なやりとりができる	試験、および授業中のペアワークによって評価する。コミュニケーションがとれているかどうか。	20%
日本についての基本的な質問（食生活、言葉など）に答えたり、知っている情報を伝えたりすることができる	授業課題およびホームワークによって評価する。日本についての基本的な情報を伝えることができること。自分自身のことを例にして、わかりやすく説明することができること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として発話30%、提出物20%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	銀行でお金を引き出す	“Can I ~?” (～できますか)
2		hundred, thousand を含む数字の表現
3	ホテルの部屋を予約する	電話で部屋をリクエストする.
4		電話で相手とコミュニケーションする
5	薬を買う	薬局で薬を買うために症状を伝える
6		症状を伝える表現
7	中間試験	スピーキングテスト
8	中間試験	筆記試験と解説
9	相手の出身を聞く、自分の出身について話す	自分の出身地を説明する
10		街や場所の特徴を伝える表現
11	興味について話す	スポーツ、音楽、食べ物などの好き嫌いについて話す
12	お土産を買う	ストリートマーケットで買い物をする時の表現
13		サイズや色の語い・値段交渉の表現
14	口頭試験	スピーキングテスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ PASSPORT 1 ((SECOND EDITION))

著者：Angelica Buckingham & Lewis Lansford, (OXFORD)

【履修条件等】

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を音読し、添付CDの当該部分を聞く。単語の意味を調べておく。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

英会話Ⅱ	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation Ⅱ	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座（「英会話Ⅰ」の続き）では、引き続き簡単な英語での会話に必要なフレーズや文法知識を、さまざまなタスク（活動）を通して身につけます。春学期同様、比較的優しいレベルの単語や構文を使って、高校までの単元をしっかりと定着させる、「基礎を補うこと」「次のステップへの土台を作ること」がこの授業の目標です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	春学期の総復習／演習&解説による達成度チェック
2	Unit 7 : I'm sure he will ...	will 以外を使った未来の出来事の表し方を学ぶ
3	Unit 8 : I'll remember that.	助動詞をおさらいする
4	(same as above)	助動詞の完了と現在を区別する
5	Unit 9 : Hiro forgot.	to 不定詞を復習する
6	(same as above)	動名詞-ing 形を復習する
7	Unit10 : How have you been?	現在完了を復習する
8	(same as above)	「完了」と「継続」を区別する
9	Unit11 : While they are ...	接続詞の種類を確認する
10	(same as above)	「等位」と「従位」のつなぎかたを区別する
11	Unit12 : How was tennis?	比較級を復習する
12	(same as above)	最上級・比較のイディオムを復習する
13	Unit13 : What do you mean?	受動態を作れるようになる
14	(same as above)	現在完了や過去完了から受動態を作る
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Hickling, Robert. (2014) English First: Basics. 金星堂

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇春学期同様、授業内で iPad を使うアクティビティーがあるので、配布後は毎回必ず持参すること。ダウンロードするアプリについての詳細は、後日授業内で指示します。

英会話Ⅱ	ジャネット ジョンソン Janet Johnson
English Conversation Ⅱ	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

「英会話Ⅱ」では、引き続き英会話の基礎を学んでいきます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話したり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む）、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題）。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む）、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題）。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法 筆記およびリスニングテスト30%×2、 授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Summer Report	Greetings and report of summer activities.
2	Review Unit 5	Review of last material covered in English I.
3	Unit 6 Leisure	Asking about locations and places. Listening. Repeating.
4	Unit 6	Survey on leisure activities.
5	Cross-cultural topic	Halloween. Customs, history, essential warning vocabulary
6	Unit 7 Weekend	Practice Past tense. Wh-questions.
7	Unit 7	Additional conversation and grammar practice.
8	Review Units 6 & 7	Review exercises and preparation for test.
9	Short Test	Test on Units 6 & 7
10	Unit 8 Cities-Places	Locations, neighborhoods. There is/ There are practice.
11	Unit 8 cont.	Finding out about new areas.
12	Unit 9 Appearance	Describing appearances. Listening practice.
13	Unit 9 cont.	Present continuous practice. Describing pictures.
14	Review 8 & 9	Review of materials and preparation for Final test.
15	Final Test	Final test

【使用教材】

- ◇ Interchange : English for international communication Book 1
 Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
 Cambridge University Press

【履修条件等】

- ◇授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習）。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニング力アップのため、教科書付属のCDを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

英会話Ⅱ	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
English Conversation Ⅱ	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

本講義では、「英会話Ⅰ」に続き、身近な話題を取り上げ、実際に役立つ表現を用いて、自分の意見を伝えられるようになることを目的とする。さらに、毎回の授業において、ボキャブラリー（語彙）を増やし、英語に親しむ態度を育成する。話すことによって自分を理解してもらうこと、聞き取ることによって相手を理解することから始め、日常生活、海外旅行で用いる慣用的な表現など、さまざまな状況を設定しペア・ワークやロール・プレイなどを行う。積極的に参加すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活あるいは海外旅行に必要な英語表現を身につける	会話テスト、授業中のペア・ワークやロール・プレイによって評価を行なう。 発音、イントネーションに気をつけ、間違いなく、よどみのない、わかりやすい英語を話すことができるようになる。	40%
応用力を身につける	授業で学んだ表現を応用できる。 自分で文章を構成し、正しいスペルで書くことができる。	30%
語彙力の強化	筆記テストによって評価する。 授業で学んだ表現、ボキャブラリーを正しく理解、記憶し、用いることができる。	30%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ウォーミングアップ	夏休みのできごとについて話す
2	場所を説明する	前置詞
3		場所と時間を説明する
4	人を描写する	形容詞と副詞
5		人の性格や特徴を表現する
6	体調を述べる	助動詞
7		健康、病気の表現
8	会話テスト	
9	誘う	進行形
10		誘ったり、薦めたりする
11	誘いを断る	接続詞
12		配慮ある断り方
13	復習	
14	会話テスト	二人一組の対話形式あるいは教員の質問に答える形式
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：Hello New York 著者：Takehisa Tsuchiya, Yoshihiko Honda, Braven Smillie

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当ユニットに目を通す。

◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

英会話Ⅱ（再履修）	アベ マキコ 阿部 牧子
English Conversation Ⅱ	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

身近なトピックについての日常会話や、海外旅行でのサバイバル英語を習得できるよう、リスニングとスピーキングに焦点をあてて指導します。スピーキングに関しては、ペア・ワークやロール・プレイなどを積極的に導入し、学生が英語を話す機会を増やしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
海外旅行を楽しむために不可欠な英会話を場面に応じて実践することができる	会話テスト、および授業中の学生同士の対話練習によって評価する。相手の話す内容を理解し、適切な受け答えができること。相手が理解できる英語を話すことができること。	40%
上記目標に到達するためにボキャブラリー（語彙）を増やす	単語テストおよび期末の筆記試験によって評価する。正確な綴りで書けること。	20%
クラスメートがゆっくり、はっきりと話せば、内容を理解し、簡単なやりとりができる	試験、および授業中のペアワークによって評価する。コミュニケーションがとれているかどうか。	20%
日本についての基本的な質問（食生活、言葉など）に答えたり、知っている情報を伝えたりすることができる	授業課題およびホームワークによって評価する。日本についての基本的な情報を伝えることができること。自分自身のことを例にして、わかりやすく説明することができること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として発話30%、提出物20%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	銀行でお金を引き出す	“Can I ~?” (～できますか)
2		hundred, thousand を含む数字の表現
3	ホテルの部屋を予約する	電話で部屋をリクエストする.
4		電話で相手とコミュニケーションする
5	薬を買う	薬局で薬を買うために症状を伝える
6		症状を伝える表現
7	中間試験	スピーキングテスト
8	中間試験	筆記試験と解説
9	相手の出身を聞く、自分の出身について話す	自分の出身地を説明する
10		街や場所の特徴を伝える表現
11	興味について話す	スポーツ、音楽、食べ物などの好き嫌いについて話す
12	お土産を買う	ストリートマーケットで買い物をする時の表現
13		サイズや色の語い・値段交渉の表現
14	口頭試験	スピーキングテスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ PASSPORT 1 (SECOND EDITION)

著者：Angela Buckingham & Lewis Lansford (OXFORD)

【履修条件等】

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を音読し、添付CDの当該部分を聞く。単語の意味を調べておく。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

◇教科書は年度始めに購入しておくようにしてください。

英会話Ⅱ（再履修）	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation II	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

春学期に引き続き、この講座では、日本国内の日常生活やアルバイト先の飲食店などで、外国人と英語で接するさまざまな場面を想定した英会話のパターンを勉強します。秋学期は主に観光客をターゲットとした商業施設での対応の仕方や、公共交通機関の利用法の説明など、ややスキルを要求されるような会話パターンを勉強します。授業では、こうした一見難しそうに見える英会話でも、簡単な単語の組み合わせで組み立てることができるということを解説します。※この講座は「英会話Ⅰ（再履修）」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%
評価の方法 上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする（『学生要覧』参照）。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	春学期の復習	「英会話Ⅰ」でカバーした内容の確認、チェック問題
2	Unit 7 : Reservation	文化：「旅館」について英語で説明してみる
3	Unit 8 : “Wi-Fi is available.”	商業施設でのサービス提供について説明する
4	(same as above)	文化：「おみやげ」について英語で案内する
5	Unit 9 : “I recommend …”	観光案内や自分のお勧めスポットを説明する
6	(same as above)	日本と海外の文化の違いを理解する
7	Unit10 : “Turn right at …”	道案内をする
8	(same as above)	地図の見方を説明する
9	Unit11 : “Take the subway.”	公共交通機関の案内を英語でしてみる
10	(same as above)	さまざまな移動手段を英語で説明する
11	Unit12 : “First, put the …”	券売機や電化製品の使用法を説明する
12	(same as above)	文化：「リモコン」を英語で説明する
13	秋学期の復習	秋学期の学習内容の確認
14	秋学期の復習	秋学期の学習内容の確認および総復習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Kudo, Tae. (2016) You Are Welcome! Cengage Learning.

【履修条件等】

◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可）。詳細は初回の授業で指示します。

キャリアデザイン	シヅカ マサノリ 志塚 昌紀
Career Design	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義では、「キャリア」の基本的な考え方の理解を目的として授業を行っていきます。まず「キャリアとは何か」について考えてきます。さらには、「職業とは何か」「企業とは何か」について考えていきます。最終的には自身のキャリアをデザインすることが可能になることを目標としていきます。講義は配布レジュメに沿って進めていきます。また、映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリアデザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う 自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法 授業時の課題75点（受講態度含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と進路などについて
2	ライフプラン	ライフプランの検討
3	働くとは何か	職業とキャリアの基礎
4	インターンシップ①	インターンシップとは何か
5	インターンシップ②	インターンシップ実例・報告
6	働く人の権利	労働法初歩
7	企業分析・業界分析①	面白そうな仕事を探そう
8	企業分析・業界分析②	興味深い会社を探そう
9	資格について	現代社会で活用されている資格について
10	自己分析①	あなたの価値観を知って雇用のミスマッチを防止
11	自己分析②	あなたの職業興味を知って選択肢を広げよう
12	就職試験①	S P I 試験について
13	就職試験②	グループディスカッション①
14	就職試験③	グループディスカッション②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書指定なし。

※レジュメを配付して進めていきます。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇雇用に関する時事問題について新聞・雑誌などで理解をしておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

キャリアデザイン	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Career Design	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義では、「キャリア」の基本的な考え方の理解を目的として授業を行っていきます。まず「キャリアとは何か」について考えてきます。さらには、「職業とは何か」「企業とは何か」について考えていきます。最終的には自身のキャリアをデザインすることが可能になることを目標としていきます。講義は配布レジュメに沿って進めていきます。また、映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリアデザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う 自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法 授業時の課題75点（受講態度含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と進路などについて
2	ライフプラン	ライフプランの検討
3	働くとは何か	職業とキャリアの基礎
4	インターンシップ①	インターンシップとは何か
5	インターンシップ②	インターンシップ実例・報告
6	働く人の権利	労働法初歩
7	企業分析・業界分析①	面白そうな仕事を探そう
8	企業分析・業界分析②	興味深い会社を探そう
9	資格について	現代社会で活用されている資格について
10	自己分析①	あなたの価値観を知って雇用のミスマッチを防止
11	自己分析②	あなたの職業興味を知って選択肢を広げよう
12	就職試験①	S P I 試験について
13	就職試験②	グループディスカッション①
14	就職試験③	グループディスカッション②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書指定なし。

※レジュメを配付して進めていきます。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇雇用に関する時事問題について新聞・雑誌などで理解をしておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

日本語Ⅰ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、文章の論理的構成や、データの検索方法と表記の仕方、アウトラインの作成など、レポート作成に必要な基礎知識も身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論文などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
レポートの書き方を身につける	論理的構成、データの提示の仕方、アウトライン、引用や参考文献の書き方など、基本的なレポートの書き方ができるかどうかを評価する。	40%
評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	意見文	意見文と事実文の区別
6	意見文	意見文の構成と練習
7	説明文	説明文の構成
8	説明文	説明文の練習
9	レポートの書き方	レポートの種類とテーマ
10	レポートの書き方	レポートの手順と作業
11	レポートの書き方	テーマの絞り方
12	レポートの書き方	アウトラインと論理性
13	レポートの書き方	データ検索と引用
14	レポートの書き方	参考文献の書き方
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅰ（留学生科目）	オクヤマ タカユキ 奥山 貴之
Japanese Language I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、文章の論理的構成や、データの検索方法と表記の仕方、アウトラインの作成など、レポート作成に必要な基礎知識も身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評分などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
レポートの書き方を身につける	論理的構成、データの提示の仕方、アウトライン、引用や参考文献の書き方など、基本的なレポートの書き方ができるかどうかを評価する。	40%
評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	意見文	意見文と事実文の区別
6	意見文	意見文の構成と練習
7	説明文	説明文の構成
8	説明文	説明文の練習
9	レポートの書き方	レポートの種類とテーマ
10	レポートの書き方	レポートの手順と作業
11	レポートの書き方	テーマの絞り方
12	レポートの書き方	アウトラインと論理性
13	レポートの書き方	データ検索と引用
14	レポートの書き方	参考文献の書き方
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅰ（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、文章の論理的構成や、データの検索方法と表記の仕方、アウトラインの作成など、レポート作成に必要な基礎知識も身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論文などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
レポートの書き方を身につける	論理的構成、データの提示の仕方、アウトライン、引用や参考文献の書き方など、基本的なレポートの書き方ができるかどうかを評価する。	40%
評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	意見文	意見文と事実文の区別
6	意見文	意見文の構成と練習
7	説明文	説明文の構成
8	説明文	説明文の練習
9	レポートの書き方	レポートの種類とテーマ
10	レポートの書き方	レポートの手順と作業
11	レポートの書き方	テーマの絞り方
12	レポートの書き方	アウトラインと論理性
13	レポートの書き方	データ検索と引用
14	レポートの書き方	参考文献の書き方
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅱ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language Ⅱ	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び 1
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び 2、お知らせ文書 1
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書 2
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業 1
12	ビジネス日本語の基礎	営業 2、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上 2
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパンタイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇必要に応じて授業外に補習授業を課すので、積極的に出席すること。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅱ（留学生科目）	オクヤマ タカユキ 奥山 貴之
Japanese Language Ⅱ	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び 1
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び 2、お知らせ文書 1
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書 2
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業 1
12	ビジネス日本語の基礎	営業 2、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上 2
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパントイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇必要に応じて授業外に補習授業を課すので、積極的に出席すること。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅱ（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language Ⅱ	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び 1
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び 2、お知らせ文書 1
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書 2
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業 1
12	ビジネス日本語の基礎	営業 2、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上 2
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集－聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇必要に応じて授業外に補習授業を課すので、積極的に出席すること。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅲ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language III	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、BJT ビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報 1
4	ビジネス日本語の基礎	個人情報 2
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 1
6	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 2、出張 1
7	ビジネス日本語の基礎	出張 2
8	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 1
10	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 2
11	ビジネス日本語の基礎	日程調整
12	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
13	ビジネス日本語の基礎	展示会
14	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパントイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇必要に応じて授業外に補習授業を課すので、積極的に出席すること。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅲ（留学生科目）	オクヤマ タカユキ 奥山 貴之
Japanese Language III	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、BJT ビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報 1
4	ビジネス日本語の基礎	個人情報 2
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 1
6	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 2、出張 1
7	ビジネス日本語の基礎	出張 2
8	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 1
10	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 2
11	ビジネス日本語の基礎	日程調整
12	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
13	ビジネス日本語の基礎	展示会
14	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパントイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇必要に応じて授業外に補習授業を課すので、積極的に出席すること。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

英語Ⅰ	アベ マキコ 阿部 牧子
Presentation BasicsⅠ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

グローバル化が進む現代社会において、人前で情報を伝えたり自分の考えを説明したりする能力は、ますます重要になってきています。

この授業では、英語によるプレゼンテーションの典型的な表現を学び、聴き手が理解できるよう単語を正確に発音できるように指導します。

繰り返し練習することによって、過度に緊張せず、できるだけ原稿を見ないで発表できることを目標とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テーマに関して情報を集めることができる	課題、原稿によって評価。図書館やインターネット等を使ってさまざまな情報を収集し、効果的にプレゼンテーション原稿に利用できる。	20%
200から300語程度のプレゼンテーション原稿を作成する	提出物、原稿によって評価。集めた情報を元に自分の意見を構築し、それをわかりやすい英文で書くことができる。	20%
クラスメートの発表の「よき聴き手」になる	学生同士の評価態度によって評価。英語の発音が多少聞き取りづらくても、ノン・ネイティブであるクラスメートのしゃべる英語を理解し、感想を述べることができる。	20%
人前で発表できる	発表によって評価。顔を上げて、原稿を見るのは最小限にとどめ、聴き手の方を見て発表ができる。	40%
評価の方法 発表60%、本試験20%、課題他20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業概要説明、英作文力確認テスト
2	自己紹介	自分について、定められたフォーマットに従って英語で書く
3	自己紹介	発表
4	自分の好きな国・行ってみたい場所	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
5	同上	前回に引き続き原稿を作成する
6	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
7	4つの食品群とは	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
8	同上	前回に引き続き原稿を作成する
9	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
10	ソーシャルネットワーキングサービスの功罪	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
11	同上	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
12	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
13	プレゼンテーション	クラス全体の前で発表を行い、相互に評価し合う
14	プレゼンテーション	クラス全体の前で発表を行い、相互に評価し合う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Writing Presentation in English

著者：Richard R. Caraker 他 出版社：南雲堂

【履修条件等】

◇人前で英語でスピーチすることに挑戦したいと考えている人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックに関して調べる。図書館やパソコンを使つての情報収集は、原稿作成に不可欠です。

【その他の注意事項】

◇初回の授業で英作文力をみるため簡単なテストを行います。

◇円滑なグループ学習・ペア読みのため、座席を指定することがあります。

英語Ⅱ	アベ マキコ 阿部 牧子
Presentation Basics Ⅱ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

グローバル化が進む現代社会において、人前で情報を伝えたり自分の考えを説明したりする能力は、ますます重要になってきています。

この授業では、英語によるプレゼンテーションの典型的な表現を学び、聴き手が理解するよう単語を正確に発音できるように指導します。

繰り返し練習することによって、過度に緊張せず、原稿を見ないで発表できることを目標とします。

本講義は「英語Ⅰ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テーマに関して情報を集めることができる	課題、原稿によって評価。図書館やインターネット等を使ってさまざまな情報を収集し、効果的にプレゼンテーション原稿に利用できる。	20%
200から300語程度のプレゼンテーション原稿を作成する	提出物、原稿によって評価。集めた情報を元に自分の意見を構築し、それをわかりやすい英文で書くことができる。	20%
クラスメートの発表の「よき聴き手」になる	学生同士の評価態度によって評価。英語の発音が多少聞き取りづらくても、ノン・ネイティブであるクラスメートのしゃべる英語を理解し、感想を述べることができる。	20%
人前で発表できる	発表によって評価。顔を上げて、原稿を見るのは最小限にとどめ、聴き手の方を見て発表ができる。	40%
評価の方法 発表60%、本試験20%、課題他20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業概要説明等・英作文確認テスト
2	トピック 1 運動と健康の維持	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
3	同上	前回に引き続き原稿を作成する
4	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
5	トピック 2（未定）	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
6	同上	前回に引き続き原稿を作成する
7	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
8	トピック 3	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
9	同上	前回に引き続き原稿を作成する
10	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
11	トピック 4	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
12	同上	前回に引き続き原稿を作成する
13	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
14	プレゼンテーション	クラス全体の前で発表を行い、相互に評価し合う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Writing Presentation in English

著者：Richard R. Caraker 他 出版社：南雲堂

【履修条件等】

◇人前で英語でスピーチすることに挑戦したいと考えている人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックに関して調べること。図書館やパソコンを使つての情報収集は、原稿作成に不可欠です。

【その他の注意事項】

◇初回の授業で英作文力をみるため簡単なテストを行う予定です。

◇円滑なグループ学習やペア読みの便宜上、座席を指定することがあります。

◇教科書は年度の始めに購入しておくようにしてください。

英語Ⅲ	アベ マキコ 阿部 牧子
Reading and Writing III	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、400～500字程度の英文を読んで、内容についての感想や意見を述べることを目標にします。テキストのエクササイズに答えながら読解力を養い、自分の考えを英語にする練習を繰り返します。わかり易く平易な英語で英文を書けるようになることを目指しましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する	小テスト、提出物によって評価。	30%
400字程度の英文の内容を、所見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する。 中間試験と本試験で評価する。	30%
トピックに関する自分の考えを、英語でわかりやすく表現できる	提出物、本試験によって評価。学習した単語・熟語などを文脈に沿って適切に使い、基本的な英文を作ることができる。	20%
単純な内容であれば、論理的な短い英文が書ける	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明など
2	英語は世界共通語	教科書の問題を解きながら内容を理解する
3	英語は世界共通語	英作文・ディスカッション
4	ハンバーガーの生い立ち	教科書の問題を解きながら内容を理解する
5	ハンバーガーの生い立ち	英作文・ディスカッション
6	インターネットの発達	教科書の問題を解きながら内容を理解する
7	インターネットの発達	英作文・ディスカッション
8	中間試験	学習達成度の確認
9	甘い飲み物	教科書の問題を解きながら内容を理解する
10	甘い飲み物	英作文・ディスカッション
11	国内旅行	教科書の問題を解きながら内容を理解する
12	国内旅行	英作文・ディスカッション
13	世界で最も幸せな国	教科書の問題を解きながら内容を理解する
14	世界で最も幸せな国	英作文・ディスカッション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Life Topics

著者：Takashi Shimaoka, Jonathan Berman 出版社：南雲堂

【履修条件等】

◇英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先することができる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックについての知識がテキストだけでは不足な場合、各自で調べることが必要になります。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけてください。

英語Ⅳ	アベ マキコ 阿部 牧子
Reading and Writing Ⅳ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、400～500字程度の英文を読んで、内容についての感想や意見を述べることを目標にします。テキストのエクササイズに答えながら読解力を養い、自分の考えを英語にする練習を繰り返します。わかり易く平易な英語で英文を書けるようになることを目指しましょう。本講義は「英語Ⅲ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する	小テスト、提出物によって評価。	30%
400字程度の英文の内容を、所見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する 中間試験と本試験で評価する。	30%
トピックに関する自分の考えを、英語でわかりやすく表現できる	提出物、本試験によって評価。学習した単語・熟語などを文脈に沿って適切に使い、基本的な英文を作ることができる。	20%
単純な内容であれば、論理的な短い英文が書ける	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業概要説明
2	Fast Food and Health	教科書の問題を解きながら内容を理解する
3	Fast Food and Health	英作文・ディスカッション
4	Shopping on the Internet	教科書の問題を解きながら内容を理解する
5	Shopping on the Internet	英作文・ディスカッション
6	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
7	未定	英作文・ディスカッション
8	中間試験	学習達成度の確認
9	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
10	未定	英作文・ディスカッション
11	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
12	未定	英作文・ディスカッション
13	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
14	未定	英作文・ディスカッション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Life Topics

著者：Takashi Shimaoka, Jonathan Berman 出版社：南雲堂

【履修条件等】

◇英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先することができる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックについての知識がテキストだけでは不足な場合、各自で調べる必要があります。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけてください。

◇6回目以降のテーマは、受講生の興味関心も踏まえて決定します。

◇教科書は年度の始めに購入しておくようにしてください。

TOEIC I	シシド カール 宍戸 カール
TOEIC I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに出題される頻度の高い単語を習得する	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要なとされる英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な「聴き取り」ができる	本試験その他によって評価。パート1からパート3の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアアップ	学期始めと学期末の本試験を比較して（難易度考慮）、評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、平常点（単語テストを含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Introduction	模擬テストと解説
3	Activity 1	Shopping (grammar, auxiliaries)
4	Activity 2	Shopping (grammar, auxiliaries)
5	Activity 3	Transportation (grammar, progressives)
6	Activity 4	Transportation (grammar, progressives)
7	Activity 5	Travel (grammar, verb)
8	Activity 6	Travel (grammar, verb)
9	Activity 7	Restaurant (grammar, perfect tenses)
10	Activity 8	Restaurant (grammar, perfect tenses)
11	Activity 9	Health (grammar, tense agreement)
12	Activity10	Health (grammar, tense agreement)
13	Activity11	In the Office (grammar, tag & negative questions)
14	Activity12	In the Office (grammar, tag & negative questions)
15	Examination	本試験および解説

【使用教材】

◇ Barron's Toeic Bridge Test

【履修条件等】

◇将来的には TOEIC テストを受験したいと考えている人。

◇英語を聞いて理解できるようになるため、努力を惜しまない人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のCDが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

TOEIC II	シシド カール 宍戸 カール
TOEIC II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに関する基礎的な単語力を身につける	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要なとされる英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な「聴き取り」ができること	本試験その他によって評価。パート1からパート3の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアが上がる	学期始めと学期末の本試験を比較して（難易度考慮）、評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、平常点（単語テストを含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Lesson 1	Business and Sales (grammar, negations)
3	Lesson 2	Business and Sales (grammar, negations)
4	Lesson 3	Media/News (grammar, infinitives & gerunds)
5	Lesson 4	Media/News (grammar, infinitives & gerunds)
6	Lesson 5	Economy (grammar, participles)
7	Lesson 6	Economy (grammar, participles)
8	Lesson 7	Advertisements (grammar, passive voice)
9	Lesson 8	Advertisements (grammar, passive voice)
10	Lesson 9	Politics (grammar, pronouns & adverbs)
11	Lesson10	Politics (grammar, pronouns & adverbs)
12	Lesson11;	Environment (grammar, subjective mood)
13	Lesson13	Environment (grammar, subjective mood)
14	Examination	本試験
15	Examination	本試験 (試験問題の解説)

【使用教材】

◇ Barron's Toeic Bridge Test

【履修条件等】

◇将来的には TOEIC テストを受験したいと考えている人。

◇原則として、「TOEIC I」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のCDが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

フランス語Ⅰ	ノグチ ケイコ 野口 恵子
French I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

フランス語に慣れ親しむ。基礎的な語彙、表現、文法、発音を学んで、口頭および文章による自己紹介や、簡単な会話ができるようになることを目指す。入門期の外国語学習は、耳、口、目、手、そして頭も使う、いわば全身運動である。まずはフランス語を繰り返し聞き、声に出して言ってみよう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	数字、単語、表現の聞き取りテストを行う。 CD等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
自己紹介をはじめ、身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
簡単なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	挨拶、自己紹介、日常会話を文字化したものを読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
書き取り、短文作成から始め、身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。 習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法 定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文等）50%、平常点（授業への参加度、宿題提出、音読テスト、ディクテーション）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	アルファベ、文字の読み方、挨拶
2	名前を聞く、答える	つづり字記号、簡単な自己紹介
3	「私は学生です」	主語人称代名詞、動詞 être、リエゾンとアンシェヌマン
4	「彼女はフランス人です」	性と数の一致、国籍の言い方、発音しないつづり字
5	「持っています」	動詞 avoir、無音の h
6	「兄が一人います」	不定冠詞、数字 1～10
7	「これは本です」	Qu'est-ce que c'est? C'est ～／ Ce sont ～
8	「家の前に車があります」	il y a ～、形容詞
9	「映画が好きです」	第 1 群規則動詞 (-er)、定冠詞
10	「彼らは勇敢です」	部分冠詞、否定文
11	「彼は学生ですか」	疑問文
12	「カフェに行きます」	動詞 aller、前置詞と定冠詞の縮約
13	「私の家に来ますか」	動詞 venir、人称代名詞強勢形
14	復習 + α	春学期の復習、数字 11～、曜日・月・季節の言い方
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇高橋信良他著『フランス語ブルー 1 トリコロール文法編』朝日出版社、2014年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業を休まないこと。

フランス語Ⅰ	ミトミ ユウコ 三富 祐子
French I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

全く初めてフランス語を学ぶ者を対象にゼロから始め、初対面を想定しての自己紹介や好みなどを尋ね合うことができることを目指します。教室では、VTR（インターネットでアクセス可能）で自然な会話に触れ、文法理解と練習問題等を行った後、ペア・グループで実践的な会話の練習をします。各課終了後、ポイントをまとめたプリントを使用し充分復習します。「フランス語Ⅱ」とあわせて履修することで、仏検5級受験に必要な知識を得ることができるようにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス語特有の発音や、綴り字の読み方、イントネーションのつけかた等、フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。数字（値段・年齢等）の聞き取り、学習した基本的なフランス語を耳で聞いて理解し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検5級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%
評価の方法 8割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。詳細については初回授業で説明します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	＜フランスについて＞	・アルファベ、綴り字の読み方
2	＜フランス語の発音＞	・フランス語 10 単語を覚える
3	Leçon 1 ＜自己紹介 1＞ ・挨拶 ・名前、国籍を言う	・主語人称代名詞と動詞 être ・「はじめまして、私の名は～です」 ・「私は／彼（女）は～人です」 ・数 1～10
4	Leçon 2 ＜自己紹介 2＞	・規則動詞 habiter 住む
5	・職業を言う ・住んでいる所を言う	・「私は学生です」「彼は俳優です」 ・「私は～に住んでいます」 ・11～20
6	Leçon 3 ＜カフェで＞	・飲み物、食べ物の名と冠詞
7	・カフェで注文し、支払いをする	・否定形「私は～人ではない」
8	・何語を話すか言う	・規則動詞 parler 「話す」の活用 ・数30～60 ・～ユーロ
9	Leçon 7 ＜好みを言う＞	・動詞 aimer
10	・好みを尋ねる ・何が好きか尋ねる ・Il y a ～ 「～がある」	「音楽・スポーツ・～料理が好きです」 程度を言う「大好きです」 「あまり好きではありません」 ・aimer の後の名詞につく定冠詞 ・「高田馬場には～がある」
11	Leçon 4 ＜兄弟姉妹について＞	・動詞 avoir 「ペンを持っている？」 「兄がひとりいます」
12	・～を持っているか、尋ねる ・兄弟がいるかを言う ・年齢を言う	・avoir の否定形「持っていない」 ・疑問文 Est-ce que ～ 「～ですか？」 ・「私は～歳です」
13	口頭試験および解説	・授業中練習した自己紹介（名前、国籍、職業・言語）をペアで行う ・音楽、スポーツの好みを尋ね合う
14	Leçon 1～4, Leçon 7 の総復習	復習プリントを使用
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Café Français カフェ・フランセ

著者：Nicolas Gaillard 他 出版社：朝日出版社

ホームページ <http://cafefrançais.cocolog-nifty.com/hp/>

【履修条件等】

◇フランスまたはフランス語に興味があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業での学習事項を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇ 全出席を心がけること。

フランス語Ⅱ	ノグチ ケイコ 野口 恵子
French II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「フランス語Ⅰ」に続き、基礎的な語彙や文法の知識を身につけるとともに、コミュニケーション能力をのばすことを目的とする。聞こえてきたフランス語を繰り返して言う練習、聞いて書き取る練習、テキストを声に出して読む練習を行う。身近な話題、興味のある話題について、口頭および文章で的確に表現できるようにする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	語句の聞き取りテストを行う。CD等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
基本的なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	テキストの会話文を読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法 定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文）50% 平常点（授業への参加度、宿題提出、音読・ディクテーション・会話・和訳・仏訳小テスト）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	「今から勉強します」	動詞 aller と venir の復習、近接未来、近接過去
2	「ケーキを作ります」	動詞 faire、所有形容詞、疑問形容詞 quel
3	「今何時ですか」	時刻の言い方、天候の言い方
4	「パリに向けて出発します」	第2群規則動詞 (-ir)、動詞 partir
5	「私は早く起きます」	代名動詞、受動態
6	「宿題をやりました」	直説法複合過去①（助動詞 avoir を使う動詞）
7	「カフェに行きました」	直説法複合過去②（助動詞 être を使う動詞）、補語人称代名詞
8	「紅茶よりコーヒーのほうが好きです」	動詞 préférer、指示形容詞
9	「この中で好きな絵はどれですか」	疑問代名詞 lequel、指示代名詞
10	「お酒を飲んだので今夜は運転できません」	動詞 vouloir と pouvoir
11	「誰が歌っているの」	疑問代名詞 que と qui、疑問副詞
12	「ソフィーはピエールより背が高い」	比較級
13	「レオンはクラスで一番背が高い」	最上級
14	「日曜日は毎週教会に行っていたのですか」	直説法半過去
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇高橋信良他著『フランス語ブルー1 トリコロール文法編』朝日出版社、2014年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業を休まないこと。

フランス語Ⅱ	ミトミ ユウコ 三富 祐子
French II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「フランス語Ⅰ」を修了、または相当のフランス語の知識のある者を対象とし、「フランス語Ⅰ」で学んだことを土台に、フランス人とのコミュニケーションに必要な基本的な会話の場を広げ、基本的な表現を増やしながら文法事項を学んでいく。授業形態は「フランス語Ⅰ」同様、VTR教材を使用し、スキットの理解、文法解説、発音練習、会話練習を行う。本講座終了後、フランス人との最も基本的なコミュニケーションがとれること、いくつかの場面での実践的な会話ができることを到達目標とする。生きたフランス語に触れるという目的で、教材以外にVTRまたは映画を使用し既習の表現を聞き取る機会を設ける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。春学期に続き、数字の聞き取り、フランス語での質問に対し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検5級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%
評価の方法 8割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	＜春学期の復習＞ ＜天候の表現＞ Leçon 8 II ・天候を言う	・配布プリント使用 ・天候の非人称構文「良い天気です」 「寒く・暑くないです」
2 3	Leçon 9 ・どんなスポーツをするか言う ・朝食について述べる ・否定疑問文に対する「はい」 「いいえ」の答え方	・「スポーツはしますか？」 スポーツの名称と部分冠詞 ・「朝食をとりますか？」「～をとります」 食品の名と部分冠詞 ・中性代名詞 <i>en</i> を使って答える
4 5	Leçon10 ＜誘う＞ ・相手を昼食に誘う ・承諾する・理由を述べ誘いを断る ・場所へ行く手段を言う	・主語 <i>on</i> 「～行こう」 ・場所の名「カフェへ・美術館へ」と前置詞 ＋冠詞について ・「OK、行こう」「ごめん、授業があるんだ」 ・「何で行こうか？」「歩いて行こう」
6 7 8 9	Leçon11 ＜一日の過ごし方＞ ・起床から就寝までの一日の主な 行動を言う	・時間の表し方 ・「起床する」「就寝する」（代名動詞） 「普段は、～時に起き、～時に家を出、～時 に帰宅します」
10 11	Leçon13 ＜レストランで(1)＞ ・食事の流れについて知る ・メニューを読む ・注文する	・主な食品の名と注文の仕方 ・前菜、主菜、デザート、飲み物を注文する ・複合過去(1)助動詞 <i>avoir</i> 「選びましたか？」
12	口頭試験および解説	授業中練習した会話（朝食、スポーツについて 尋ね合う、誘う）をペアで行う
13	Leçon 13 ＜レストランで(2)＞ ・料理の感想を言う Leçon 14 ・過去について語る	・料理の感想を言う（半過去） 「美味しかったです」 ・複合過去（1）助動詞 <i>avoir</i> 「昨日何をしましたか？」
14	Leçon 14 ・過去について語る ・総復習	・複合過去(2) 助動詞 <i>être</i> 「昨日～へ行きました」 ・復習プリントを使用して総復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度 の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Café Français カフェ・フランス

著者：Nicolas Gaillard 他 出版社：朝日出版社

ホームページ <http://cafeFrancais.cocolog-nifty.com/hp/>

【履修条件等】

◇「フランス語Ⅰ」を修了または相当のフランス語の知識のある者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業での学習事項を復習すること。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけること。

中国語 I	イノウエ ヨシオ 井上 良雄
Chinese I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

日常会話の練習をします。初心者が対象ですから基礎知識はいりません。あまり文法的なことにはふれないで、授業中はどんどん声を出して体で覚えてもらいます。

中国語の学習を通して、中国文化や中国人の生活習慣に親しみ、国際的な視野を広げてほしいと思います。「聞く」授業ではなく、「参加する」授業です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中国語の基本構造と発音の概要を理解し、発音の基本練習をする	授業中に指名し、回答から理解度を評価する。発音の巧拙は関係ない。発音練習への参加意欲や、集中度を評価する。	20%
自分の名前の中国語発音を発表し、互いに呼び合えるようにする	中国語の辞書で発音記号・意味・用例を調べ、レポートを提出させ評価する。 クラスメートの名前を中国語で呼び合う積極性を評価する。	20%
学生生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習をする	家族、学生生活、誕生日、年齢、住所、スポーツ、趣味などについて、一人ひとり発言させ評価する。 また、対話練習の積極性も評価する。 発音の巧拙は関係ない。	30%
試験として、1分間程度の自己紹介スピーチを皆の前で披露する	スピーチの標準形を示すが、オリジナリティーをプラス評価する。発音練習、矯正指導への取り組み姿勢、スピーチマナー、クラスメートの発表を聞く態度も評価する。	30%
評価の方法 上記のように、平常点およびレポート課題評価70%、試験（中国語による自己紹介）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	中国語について	共通語、文字、文の組み立て等
2	発音について(1)	発音の概説（音節、母音、子音、声調、ピンイン）
3	発音について(2)	発音練習（数字、あいさつ、身体、漢詩、自分の名前）
4	あいさつ	あいさつ言葉、人称代名詞、敬称
5	名前(1)	名前の聞き方の注意点、他の常用あいさつ言葉
6	名前(2)	自分の名前のピンイン発表、発音練習
7	家族	“有”の文、数量を尋ねる、人や物を数える単位
8	学生生活	“的”の用法、“是”の文
9	誕生日、年齢	月、日、曜日、西暦の言い方、年齢の聞き方、答え方
10	～に住んでいる	指示代名詞、場所や方向、r化
11	～ができる	“会”の用法、「肯定＋否定」の疑問文
12	自己紹介(1)	趣味、～生まれの～育ち、学校名の言い方
13	自己紹介(2)	質問、個人指導、練習
14	自己紹介(3)	質問、個人指導、練習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

中国語Ⅱ	イノウエ ヨシオ 井上 良雄
Chinese II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「中国語Ⅰ」に引き続き、日常会話の練習をします。さまざまな場面を想定して、基本的な単語や簡単な文で受け答えの会話を楽しみましょう。

「中国語Ⅰ」と同様に、聴講型ではなく参加型の授業です。異文化への興味と関心を深め、国際センスを磨いてほしいと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
短い自己紹介を、とっさにでも流暢にできるよう練習する	「中国語Ⅰ」の復習として、一人ひとりが皆の前で披露する。話しぶりや表情、パフォーマンスも評価する。	10%
日本のアニメソングの中国語版を題材に、日中の歌詞を比較・分析する	各人が比較・分析の結果や感想を発表する。鑑賞の緻密さ、積極的な参加意欲を評価する。合唱もするが、歌の巧拙は関係ない。協調性を評価する。	10%
日常生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習する	再会、勧誘、時刻、経験、電話、決まり文句等について、対話形式でロールプレイングを行い、その積極性、正確性を評価する。発音の巧拙はそれほど重要ではない。	50%
試験として、各人10問の日常会話の口頭試問を行う	これまでに学んだ、30問の設問に対する解答を練習し、一人10問の口頭試問を行う。聴解の正確性、回答の妥当性、反応速度、面接態度等を評価する。	30%
評価の方法 上記のように、平常点評価70%、試験（中国語による口頭試問）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	「中国語Ⅰ」の復習	中国語での簡単な自己紹介
2	中国語で歌う	中国語の歌詞を題材に学習
3	再会	“了”の用法、動作の方向
4	～が好き	“得”の用法、“不太好”と“太不好”
5	どうですか？	同意、意向や様子を尋ねる、“上”“下”の特殊な用法
6	時刻・時間	時刻、時間、期間の言い方
7	～から～まで	～したことがある（経験）、出身地と住所地
8	電話をかける(1)	一般的な電話会話
9	電話をかける(2)	電話番号の聞き方、言い方
10	決まり文句(1)	対話での決まり文句
11	決まり文句(2)	ひと言決まり文句、外来語
12	口頭試問(1)	問題の解説、回答例練習
13	口頭試問(2)	問題の解説、回答例練習
14	口頭試問(3)	質問、個人指導
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

◇原則として「中国語Ⅰ」を修得した学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

韓国語 I	ファン ミジョン 黄 美貞
Korean I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

韓国語は、日本語と多くの共通性を持った言語であることから、日本人にとって最も親しみやすく、学びやすい外国語であるといわれています。この授業では、韓国語の文字であるハングルや基礎文法、会話文について体系的に学習していきます。

授業のスタイルは、一方的に教えるのではなく、学生同士で韓国語による自己紹介や挨拶文を交わすロールプレイを行ったり、作文・発言を促したりすることで文法を理解し、日常で使う表現を中心に楽しく学んでもらうことを心がけます。韓国語のみならず、授業を通じて、韓国の社会や文化についても理解を深めることを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
韓国語の特徴を理解し、文字を覚え、発音ができる	ハングル（文字）の「読み」、「書き」ができるか、自分の名前や日本の地名をハングルで表記できるかを評価する。	30%
自己紹介や挨拶文、疑問文、否定文などの簡単な文章が言える	自己紹介・挨拶などを韓国語で話すことができるかを評価する。	30%
基礎文法を身につけ、簡単な作文や読解、聞き取りができる	基礎文法を理解し、日常で良く使う語彙を覚え、応用でき、韓国語で発言し、聞き取りや作文ができるかを評価する。	20%
韓国の社会や文化を理解し、韓国語でコミュニケーションできる	韓国語を通じて韓国の社会や文化について理解し、韓国語でコミュニケーションができるかを評価する。	20%
評価の方法 授業参加度30%、課題10%、筆記試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	韓国語の特徴	文の構成、文字について
2	日本語との共通点	基本母音・基本子音、
3	ハングルの構成、発音	終声子音、複合母音、書き順、
4		発音、漢字の読み方、文字のまとめ
5	自己紹介、挨拶文、	自己紹介や挨拶文、基本文「～は ～です」、
6	基本文、疑問文	疑問文「～は ～ですか」、主語、述語
7	否定文、助詞、代名詞、	否定文、日本語のこそあど言葉、助詞、代名詞、
8	～する動詞	～する、します動詞
9		
10	一般動詞や形容詞の	～する動詞以外の一般動詞、基本動詞の語尾変換のルール、
11	語尾変換	形容詞、用言の丁寧文、語幹と語尾
12	ヨ体の用法、漢数字	ヨ体のルールや変化、体言のヨ体、漢数字
13		
14	時間と時刻表現 春学期のまとめ	時間や時刻に関する表現、固有数字、これまでに習った文法や語彙のまとめ、試験について
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇木内明著『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』国書刊行会、2013年

【履修条件等】

◇韓国語や韓流ジャンル（K-POP、料理、ドラマなど）に興味を持っている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも習った文法や語彙を使い、作文に取り組むといった姿勢を評価します。

【その他の注意事項】

◇学ぶ心を持つこと。

◇授業のマナーを守ること。

◇遅刻、欠席をしないこと。

韓国語Ⅱ	ファン ミジョン 黄 美貞
Korean Ⅱ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「韓国語Ⅰ」で学んだ文法や語彙を復習・確認しながらステップ・アップし、日常表現を中心に基礎会話や基本文法・文型・語彙を身につけることができます。「韓国語Ⅰ」の表現を応用し、やや長めの文章や会話文を駆使することができ、韓国語検定試験の5級に合格できるレベルまで進むことができます。

「韓国語Ⅱ」を通してより深く韓国語や韓国文化に触れることができるよう、韓流音楽や食文化の紹介もしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
各回で学習した内容を理解し、スムーズに「読み」、「書き」、「話す」ことができる	授業中の質疑応答や、授業への参加態度・発言・作文・課題で評価する。	30%
基本文法を身につけ、日常で使う表現を学び、初級レベルの韓国語ができる	授業中の質疑応答や、授業への参加態度・発言・作文・課題で評価する。	30%
語彙の習得や応用力をつけるためにテキストの練習問題を学習できる	テキストのほか、毎回の授業で紹介する語彙や表現を覚え、練習問題を自ら解くことができるかを評価する。	20%
授業を通じて韓国の社会や文化についてより深く理解し、韓国語で積極的にコミュニケーションできる	韓国語を通じて、韓国の社会や文化について理解し、韓国語でコミュニケーションができるかを評価する。	20%
評価の方法 授業参加度30%、課題10%、筆記試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	春学期の復習	「韓国語Ⅰ」の復習、試験の解説
2	敬語表現	尊敬形、敬語の過去形、敬語の特殊な例
3	用言の否定形	動詞や形容詞の否定文、仮定表現
4	まとめと復習	敬語表現、否定形のまとめ、応用編、復習
5	過去形(1)	用言の過去形とそのパターン
6	過去形(2)	過去形の応用パターン、過去形のまとめ
7	勧誘表現	動詞の勧誘形、位置関係の表現
8	現在進行形	用言の現在進行形、丁寧な命令表現、過去形、勧誘表現、現在進行形のまとめ、復習、韓国語のバースデーの歌紹介
9	まとめと復習	
10	可能・不可能形	「～できる、できない」といった可能・不可能を示す表現やパターン
11	意志表示の表現	願望の意志を示す表現
12	禁止を示す表現	禁止（～しないでください）表現、許諾を尋ねる際の表現
13	義務を示す表現	「～しなければならない」といった義務を示す表現
14	意志・推量を示す表現 秋学期のまとめ	用言の意志や推量に関する表現 これまでの学習を振り返って、まとめ、試験について
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇木内明著『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』国書刊行会、2013年

【履修条件等】

◇「韓国語Ⅰ」を履修した学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも習った文法や語彙を使い、作文に取り組むといった姿勢を評価します。

【その他の注意事項】

◇授業に対して熱意を持つこと。

◇遅刻、欠席をしないこと。

日本語Ⅳ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language IV	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

就職活動を意識して、日本の言語文化を学び、自己表現を訓練する。

他人に与える印象も含め、自分を客観的にみること、さらにそれをどのように表現するかを考える。また、その中で、分析、統合、総括、表現へと、基本的な考え方を学んでいく。

語彙表現が与えるイメージを中心に、人物評価の語彙表現、日本人の考え方・感じ方を学ぶ。また、時間内に簡潔に述べるができるようになることを目指す。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
相手との関係で表現を考える。効果的な表現方法を学ぶ	書いたものを自分で客観的にチェックし、相手に与える効果を意識できているか、書いたものから評価する。	25%
性格等を表すための語彙・表現を学ぶ	語彙の意味・用法を知り、場に応じて使えるかどうか、小テストを実施予定。また、書いたものから評価する。	15%
分析したことをまとめ、表現する	自分の来し方を振り返り、自分を再評価、相手に伝わる表現となっているか、書いたものから評価する。	25%
就活に使える長所短所の述べ方を学ぶ	作文を暗記するのではなく、自然な話し言葉で、限られた時間の中で、必要十分な表現で口頭発表ができたかどうかを評価する。	25%
評価の方法 授業態度、参加度も評価の対象となる。 授業態度・参加度10%、客観的な表現25%、語彙表現の定着15%、的確な表現25%、口頭表現25% 出席が3分の2に満たない場合には単位は与えられない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	自己紹介	なぜ自己紹介なのか、表現するとは
2	いい自己紹介	自己紹介の目的、就活とは
3	長所短所	短所についての表現
4	自己分析	自分を客観視する
5	語彙 1	性格についての表現
6	語彙 2	語の価値
7	語彙 3	自分を表現できる語彙
8	エピソード	自分の性格を裏付けるエピソード
9	ブレインマップづくり	長所短所とエピソード
10	アウトライン作成	内容の適否を検討、アウトライン作成
11	作文	400字程度の長所短所についての作文
12	フィードバック	書き直し
13	口頭発表の準備	アウトラインに基づいて口頭発表の準備をする
14	口頭発表	時間内での発表を目指す
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇適宜プリントを配布する。

【履修条件等】

◇出席するだけでなく、意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇あらかじめ配布されたものについては、予習をすること。

【その他の注意事項】

◇適宜小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

◇課題は必ず提出し、期限を厳守すること。

日本語Ⅳ（留学生科目）	オクヤマ タカユキ 奥山 貴之
Japanese Language IV	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において、日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけること、トラブルの解決策を探っていく力を身につけること、就職活動についての知識やそこでのアピール力を身につけることを目標とする。この授業では、「日本語Ⅱ」・「日本語Ⅲ」で身につけた基礎的なビジネス場面での日本語を使って、日本語の運用能力の向上を図るとともに、基礎の定着と発展を図る。また、文書、映像などの教材を使いながら、さまざまなビジネス場面で適切な表現を探り、課題を解決する能力を養う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス場面における日本語表現の習得	ビジネス場面における適切な表現を選択できるか否か、またビジネス場面における語彙を理解し使用できるかを評価する。	本試験の20%
ビジネス場面における問題解決へのアプローチ	ビジネス場面でのトラブルについてさまざまな立場から考察し、解決策を探っていく能力を身に着ける。(グループディスカッション等で、さまざまな人の考えに触れることも目的とする)	本試験の30%
文書や音声情報の処理能力の向上	文書や音声など、外部からの情報を正確に理解し、対処できること。簡単な企画立案、プレゼンテーションなどができること。	本試験の30%
自分をアピールする能力の習得	就職活動などを念頭に、自分をアピールする能力を身に着ける。また日本での就職活動について、知識を得る。	本試験の20%
評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	授業の説明	授業と評価の説明、授業計画、日本語能力評価テスト
2	ビジネス日本語演習	演習 1－①
3	ビジネス日本語演習	演習 1－②
4	ビジネス日本語演習	演習 1－③
5	ビジネス日本語演習	演習 2－①
6	ビジネス日本語演習	演習 2－②
7	ビジネス日本語演習	演習 2－③
8	ビジネス日本語演習	演習 3－①
9	ビジネス日本語演習	演習 3－②
10	ビジネス日本語演習	演習 3－③
11	ビジネス日本語演習	演習 4－①
12	ビジネス日本語演習	演習 4－②
13	ビジネス日本語演習	演習 4－③
14	ビジネス日本語演習	予備日
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇適宜指示をする。

【その他の注意事項】

◇課題は指定された期限を越えて提出しても加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

社会学Ⅰ	ニイジマ ヨシエ 新嶋 良恵
Sociology I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

みなさんは日常生活を送る中でたくさんの不思議や困難に出会うと思います。そうした思いは、多くの場合「私」の在り方を規定しようとする力との出会いから生まれています。この授業ではそうした、「私」の在り方を決めつけてくる「他者」や「常識」など、「当たり前」を押し付けてくる力について考えていきます。同時に、「私」という個人から出発して「社会」について考える研究アプローチについて学び、他者との関わり合いの中で立ち現れる社会について、多層的な視点から捉える素養を養うことを目標とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う。 (予定では2回)。	20%
評価の方法 授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「常識」とは？
2	個人と社会	「私」の形成
3	準拠集団	どこに属するかという問題
4	相互作用(1)	パフォーマンスする「私」
5	相互作用(2)	役割を期待されること
6	相互作用(3)	他者から学ぶ
7	階級(1)	スクールカーストから考えてみよう
8	階級(2)	ここまでのまとめ
9	境界線(1)	私／他を分断する力
10	境界線(2)	人種・エスニシティ
11	境界線(3)	定義づけることの力
12	アイデンティティ	「私」と「社会」の関係
13	マス・コミュニケーション	マス・コミュニケーションの力
14	社会学的方法(1)	社会学の方法論について
15	社会学的方法(2)	まとめ

【使用教材】

- ◇藤田弘夫、西原和久（著）『権力から読み解く現代人の社会学入門』有斐閣アルマ
教科書として指定はしませんが、参考にとすると理解に役立つでしょう。
- ◇その他必要な資料については教員が適宜準備して配布する。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

- ◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

社会学Ⅱ	ニイジマ ヨシエ 新嶋 良恵
Sociology Ⅱ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、社会のありようが個人にどのようにかかわっているのかという問いを軸に、社会の自由と拘束性について考察していく。とくに、資本主義社会についての先行する研究について学ぶ。半期の授業を通して、社会学の基礎的な概念に触れ、それらが身近な問題とどう結びついているかについて考えてみよう。こうした試みを通して、現代社会の問題についてさまざまな視点から捉えようとする社会学的思考の育成を目指す。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う。 (予定では2回)。	20%
評価の方法 授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「社会」が「私」を決定する？
2	個人とシステム	個人的アイデンティティと集団的アイデンティティ
3	共同体(1)	家族
4	共同体(2)	コミュニティ
5	共同体(3)	大衆社会
6	共同体(4)	国家
7	経済(1)	資本主義と疎外 マルクス
8	経済(2)	資本主義と合理化 ヴェーバー
9	経済(3)	経済構造と人
10	グローバル化(1)	合理化と全体主義
11	グローバル化(2)	グローバル資本主義 流動化する社会
12	現代社会の問題(1)	格差社会と自己責任
13	現代社会の問題(2)	ヘイトスピーチ
14	現代社会の問題(3)	テロリズムと西欧社会
15	社会学の方法	まとめ

【使用教材】

◇藤田弘夫、西原和久（著）『権力から読み解く現代人の社会学入門』有斐閣アルマ
教科書として指定はしませんので必ず購入する必要はありません。

社会学にとくに興味のある方は持っているといいかと思います。

◇その他必要な資料については教員が適宜準備して配布する。

【履修条件等】

◇「社会学Ⅰ」を受講した上で受けることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

法学Ⅰ（憲法含む）	ナガキ 長岐 イクヤ 郁也
Law I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

初めて法律学を学ぶ学生諸君に法律学に対する興味や関心を持ってもらい、基本的な法原則・法概念、そして法の適用（解釈）などを習得してもらうことが本講義の目的である。

法律学は、初めて勉強する人にとっては取っ付きにくい学問であり、勉強の最初の段階で違和感や苦手意識を感じてしまう人も多い。

そこで本講義では、いくつかの身近で具体的な事例を出発点として法の基礎知識を学ぶとともに、法の解釈とはどのようなものかを学生諸君と考えていくこととしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法律学に対する興味・関心を持つこと	身近な事例を用いることで、まずは自身の感覚や勘を頼りに考えてもらいながら、徐々に法的思考に基づいた見方ができるかを講義中の発言に基づいて評価する。	20%
憲法を中心とした法体系を理解すること	定期試験において法の成立、公布、施行の一連の流れを踏まえて上で、法の役割を問うことで評価する。	20%
法に与えられている役割を理解すること	定期試験においてそれぞれの法律の分野に関する問題を設け、理解の程度を評価する	20%
日常において発生する法律に関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律の視点からどのように捉えることができるか、また通常の視点とはどのような差異が生じるのかを認識することができているかを評価する。	40%
評価の方法 講義内でのディスカッション等の発言と定期試験の結果をもって総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	
2	法と道徳	近代社会における法の意義
3	法と国家	国家による法の規制
4	憲法	憲法の役割と意義、帝国憲法と憲法
5	憲法	基本的人権および統治機構論
6	憲法	憲法改正のうごき
7	民法	日常生活の中の法の役割、権利と義務の関係
8	民法	取引におけるルール
9	民法	家族間におけるルール
10	商法	民事と商事のルールのちがい
11	会社法	企業をとりまく法制度について
12	刑法	罪刑法定主義
13	刑法	刑罰について
14	訴訟法	裁判所の種類と役割および裁判の手続き
15	まとめ	

【使用教材】

◇教科書は使用せずに授業は進めます。適宜、資料としてプリントを配布します。

なお、参考文献は以下のとおりです。

碧海純一著『法と社会（中公新書）』中央公論新社、1967年

五十嵐清著『法学入門（第3版）』悠々社、2006年

星野英一著『法学入門』有斐閣、2010年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

法学Ⅱ	ナガキ 長岐 イクヤ 郁也
Law Ⅱ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

日常生活を営む上では法律を意識する機会は多くないものの、多くの法律が関わるものである。とくにその中心には民法が置かれており、それに付随するさまざまな法律が存在している。本講義では、民法に定められる基本的なルールを学習するとともに、日常生活のトラブルにどのようにあてはめられ、解決が試みられるのかを学習する。時としてそのルールが修正されることもあるので、この点についても適宜触れていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活における法の関わりを理解すること	ディスカッションを通じて民法を中心とした私法が日常生活にどのように関わるのかをイメージすることができること。	20%
法律の制度の趣旨を理解すること	ルールを理解するためには法律に定められる制度の立法趣旨を理解することが必要であるため、これについて試験において評価する。	30%
法律に定められるルールを事実にあてはめることができること	実際の出来事にどのような法律の制度を当てはめることができ、その結果としてどのように処理することが可能であるのかを試験において確認する。	40%
日常において発生する法律が関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律の視点からどのように捉えることができるか、また通常の視点とはどのような差異が生じるのかを認識することができるかを評価する。	10%
評価の方法 講義内でのディスカッション等の発言と定期試験の結果をもって総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業内容および授業方針の説明
2	民法の概要	民法典についての説明
3	契約(1)	売買契約の成立、契約自由の原則
4	契約(2)	契約の分類、契約の有効性
5	契約(3)	公序良俗違反、一般条項、強行規定・任意規定
6	契約(4)	債務不履行、強制履行、解除
7	契約(5)	債務不履行、損害賠償
8	不法行為(1)	過失責任主義・無過失責任主義
9	不法行為(2)	損害賠償、立証責任
10	所有権(1)	物権・債権の峻別、物権法定主義
11	所有権(2)	所有権の取得・制限
12	所有権(3)	対抗問題、非典型担保
13	人(1)	権利能力、意思能力、行為能力
14	人(2)	法人、擬制の意義
15	まとめ	近代市民法の原則とその修正、民法改正

【使用教材】

◇教科書は使用せず授業は進める。適宜、資料としてプリントを配布する。

◇参考文献等については、講義中に適宜案内する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

心理学（心理学検定2級講座）	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一
Psychology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

毎年8月に実施される心理学検定の合格を目指す授業です。心理学検定は、心理学の知識がどれくらいあるかを示す資格であり、心理学分野の10科目（A領域5科目、B領域5科目）について試験が行われ、A領域の2科目を含む合計3科目に合格すると「心理学検定2級」を取得できます。「心理学検定2級」の合格を目指して、広い内容を学ぶ授業を展開します。さらにA領域の4科目を含む合計6科目合格すると「心理学検定1級」を取得することができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心理学の歴史と登場人物の理解	心理学の歴史と登場人物をどの程度理解しているかで評価する。	20%
発達心理と教育心理の理解	発達心理と教育心理をどの程度理解しているかで評価する。	20%
認知・知覚心理の理解	認知・知覚心理と生理心理をどの程度理解しているかで評価する。	20%
感情心理、性格心理と社会心理の理解	発達心理と教育心理学をどの程度理解しているかで評価する	20%
評価の方法 出席は3分の2以上が単位認定の条件 平常点（授業参加度）20%、数回の小テスト50%、最終試験30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	心理学の歴史	(1) 歴史の流れ
2	心理学の歴史	(2) 歴史上の人物
3	学習心理	(1) 学習とは
4	学習心理	(2) 学習過程のメカニズム
5	認知（知覚）心理	(1) 認知とは
6	認知（知覚）心理	(2) 認知のメカニズム
7	発達心理	(1) 発達とは
8	発達心理	(2) 発達のメカニズム
9	教育心理	(1) 教育心理とは
10	社会心理	(1) 社会心理とは
11	社会心理	(2) 社会過程のメカニズム
12	感情心理	(1) 感情とは
13	性格心理	(1) 性格とは
14	性格心理	(2) 性格の理論と測定
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇日本心理学諸学会連合心理学検定局編『心理学検定—基本キーワード—』
実務教育出版
- ◇日本心理学諸学会連合心理学検定局編『心理学検定—公式問題集—』
実務教育出版

【履修条件等】

- ◇「心理学概論」履修後が望ましい。
- ◇「心理学検定」受験は必修、そのために受検料（3科目6,000円）が必要。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇心理学検定合格のために、指示した課題を事前に学習すること。

【その他の注意事項】

- ◇受験準備のための受験直前補講を考慮中。

心理学	サトウ エミ 佐藤 恵美
Psychology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、科学としての心理学の基本的な理論と方法論を学びます。人の心理と行動の特徴について正しい知識を得、心理学を学問として正しく理解することが目標です。

「心理学」では、発達心理学・生理心理学・知覚心理学・認知心理学・学習心理学の5領域をおもに学習します。いずれも心理学の基礎的な領域であり、心のメカニズムの理解には欠かせないテーマです。

授業は講義形式を中心とし、適切な時期に、必要に応じて学習内容を深めるための課題などを組み合わせていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
発達心理学	生涯発達心理学の概念と理論について正しく理解し、人が心理的社会的に変化する発達プロセスについて理解する。	20%
生理心理学 (心と脳)	神経系の機能性ならびに脳の構造の概略を把握し、説明することができる。さらに、それらの知識を結びつけて、心身二元論ならびに心身相関について理解している。	15%
知覚心理学	知覚のメカニズムについて理解したうえで、社会的知覚、錯視や立体視、運動視等の原理をある程度説明できる。	20%
認知心理学 (認知と社会適応)	欲求ならびに葛藤、欲求不満の定義・理論について適切に説明でき、適応機制について正しく理解している。また、身近な現象にあてはめて説明できる。	25%
学習心理学 (学習と記憶)	行動主義に基づく学習理論について、実験的手法を踏まえて理解できる。記憶と忘却のメカニズムについて簡単な説明ができる。	20%
評価の方法 本試験：50% *テキスト・資料・辞書等、一切持込不可。 レポート：30% *章ごとに課題指示。 平常点：20% *課題提出状況・授業態度を含む。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	心理学とは何か？	科学としての心理学
2	発達	(1) 人の発達の特質 (2) 社会性の発達
3	発達	(3) 心理的社会的発達段階説
4	生理	(1) 神経系の機能性 (2) 脳の構造
5	生理	(3) 心身相関論
6	知覚	(1) 知覚のメカニズム・社会的知覚
7	知覚	(2) 錯視・知覚の全体性
8	知覚	(3) 運動知覚
9	認知	(1) 欲求 5 階層説 (2) 葛藤
10	認知	(3) 欲求不満（フラストレーション）
11	認知	(4) 適応（防衛）機制と社会的不適応状態
12	学習	(1) 学習過程のメカニズムと理論
13	学習	(2) 学習理論（行動主義） (3) さまざまな学習理論
14	学習	(4) 記憶と忘却のメカニズム
15	総括、達成度の確認	総括および学習達成度の確認のためのテスト

【使用教材】

◇教科書：岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社

◇参考書：授業中に指示する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇レポートなどの提出物は必ず提出すること。

◇各章終了時に、講義の中でレポート課題（P Cで作成）を指示する。

心理学	フカザワ ノブユキ 深澤 伸幸
Psychology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

心理学を初めて学ぶ学生諸子に人間行動を理解するための初歩的な考え方を概説し、人間行動の発生の仕組みを理解できることを到達目標とする。本講義では心理学全体を体系的に学ぶのではなく、とくに人間の心理を理解する上で必要となる5つの基礎的な領域を取り上げて学ぶことにする。内容としては、①身の周りの環境を人はどのように知覚するのか、②人間の発達の仕組みと変化、③青年期のキャリア形成、④学習行動と記憶のメカニズム、⑤性格と人格等である。本講義は講義形式を主体とするが、討議法も随時用いる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
我々が身の周りの環境を把握する際に関わる知覚・認知特性を把握する	感覚器を通じて外部環境から取り入れた知覚情報を基に、予測・判断する認知過程を認知心理学の観点から学び、我々が環境を意味づける仕組みへの理解力を評価基準とする。	25%
我々が生まれてから死に至るまでの発達と変化の過程を把握する	生命の誕生に始まり、母と子の愛情、青年期のアイデンティティ、および高齢者問題と家族のライフサイクルの理解を評価基準とする。	25%
我々が行うさまざまな学習とそれを支える記憶システムの特性を把握する	記憶と脳の関係、学習理論、記憶の種類、および記憶の仕組みと変容への理解力を評価基準とする。	25%
性格、パーソナリティ、および自己の概念化について理解する	我々はさまざまな社会的な場面において、さまざまな振る舞いをするが、それらの基になる性格やパーソナリティの特性や理論への理解力を評価基準とする。	25%
評価の方法 試験70%、レポート30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義概要と授業のすすめ方、心理学史
2	知覚特性①	知覚することの意味、図と地、群化の法則
3	知覚特性②	錯視、知覚の主観性
4	発達①	発達することの意味、発達段階と発達課題、
5	発達②	加齢と知的発達、加齢と性格の変容、人生の転機
6	青年の心理①	友情と恋愛、自己像の探求、アイデンティティ探究
7	青年の心理②	青年期の時間的展望、青年期のキャリア形成
8	学習①	学習の意味、学習の仕組み、
9	学習②	やる気と無気力の仕組み
10	記憶①	記憶の構造、記憶と忘却の仕組み
11	記憶②	知っている記憶と覚えている記憶、記憶の変容
12	性格・パーソナリティ①	性格とは何か、性格類型学、性格検査
13	性格・パーソナリティ②	性格に関する理論、性格の形成要因
14	性格・パーソナリティ③	見る自己と見られる自己、理想と現実の自己像の関係
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：随時資料を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回授業終了時に次の講義内容を紹介するので、次回までにHPで調べる。

【その他の注意事項】

◇毎回、学習内容の到達レベルを把握するため、授業終了時に振り返りシートへの記述を求め、これをレポートとみなして評価する。

◇出席率を重視し、いかなる場合も欠席率が3分の1を超えた場合は履修放棄とみなす。

心理学	マツダ ミトコ 松田 美登子
Psychology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

科学として発展してきた心理学の「人間の心理と行動」の法則や原理について詳しく解説し、身近な学問として理解することを目標とする。とくに、人間の(1)心理を理解する上で必要となる以下のような基礎的な領域を中心に授業を進める。人間の発達の仕組みと発達的变化、(2)人間の欲求と環境の不思議、(3)学習行動と記憶のメカニズム、(4)性格の見方・とらえ方はどのように形成されるか、などである。これらの基礎的知識が応用され発展する領域について説明し、専門科目へのモチベーションを高める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人間の発達の仕組みと発達的变化について理解する。特に、青年期の心の発達を中心に理解を深める	レポートと試験によって評価。人間の誕生から死を迎えるまでの一連の発達プロセスや発達段階のトピックスについての理解に関する設問に回答できること。青年期の心理的特徴や問題について学習し、考察した内容をレポートにより回答する。	30%
人間の欲求と環境の不思議、学習と記憶についての基礎的な知識を理解すること	試験により評価。心理学は特別な学問ではなく日常生活と密接に関係した学問である。これらのことを理解するためには授業の中で紹介された内容や知識の習得が求められる。基本的な設問に回答できることで理解の程度を評価する。	50%
心理テスト・性格テストの実施を通じて、人間の性格や性格の形成について理解する	レポートにより評価。心理テスト・性格テストの結果をまとめ考察することができる。自分の性格の理解につなげながら、人間の性格形成や性格の多面性についての理解の程度をレポートにより回答する。	20%
評価の方法 ①平常点（授業後のリアクションペーパーの提出）10% ②レポートおよび宿題提出30% ③定期試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の目的と進め方、成績評価基準等の説明 (1) 心理学とは？ (2) 心って何？心はどこに在るの？
2	発達心理	(1) 発達とは？ (2) 発達のしくみ
3	発達心理	(3) 発達段階の特徴[1] 乳児期～思春期
4	発達心理	(3) 発達段階の特徴[2] 青年期～老年期
5	認知心理	(1) 知覚の成立 モノの見え方の不思議
6	認知心理	(2) 知覚の全体性 知覚に及ぼす欲求や価値
7	適応心理	(1) 欲求とは？ (2) 欲求5階層説 (3) 葛藤と欲求不満
8	適応心理	(4) 適応機制 (5) 不適応行動
9	学習心理	(1) 学習とは？ (2) 学習過程のメカニズム[1]
10	学習心理	(2) 学習過程のメカニズム[2] 無気力は学習される？
11	学習心理	(3) 記憶と忘却
12	性格心理	(1) 性格とは？ 性格の見方
13	性格心理	(2) 性格の理解 性格の形成
14	性格心理	(3) 心理アセスメント（心理テスト・性格テスト）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社

【履修条件等】

◇心理学に興味を持ち、意欲がある学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示した重要事項の内容を調べておくこと。

◇課題が与えられた際は、提出できるように仕上げておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

哲学	スミダ コウジ 隅田 浩司
Philosophy	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、哲学を学ぶうえで最も大切な論理思考について、徹底的に学習することを目的としています。哲学とは、じっくり考える習慣がなければその本質を理解することはできません。たとえば、たくさんの哲学者の名前や業績の概要を試験前に暗記するだけで終わってしまう哲学の授業は時間の無駄です。そこでこの授業では、皆さんが、本格的な哲学的思考を身につけるための前提となる論理思考を鍛えることを最優先しています。したがって、講義は、すべてディスカッション形式の対話型の授業となります。対話型という以上は、学生は、授業で常に意見を求められます。座っているだけで単位が取れると思っている人はこの授業には向いていません。しかし、この授業を履修し、しっかり議論に参加するならば、必ず、今までとは違う世界が開けるはずです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
論理の構造をつかむ	文章のつながりから、論理を見だし、正確に文章の意味を読み取ることができるかどうかを、対話型授業の中で評価します。	20%
論証の基礎を学ぶ	自分の意見を適格に論証することができるか、あるいは、他人の論証を構造的に理解し、その上で、その論証の問題点を指摘できるかについて、対話型授業の中で評価します。	30%
演繹法	演繹法について、その正確な運用を身につけるとともに、演繹法に基づく論理の分析の基本パターンを身につけることができるかどうかについて、対話型授業の中で評価します。	30%
文章構成力	論理的に一貫した論文、レポートなどを書くことができるかどうかについて、対話型授業、授業内レポートの中で評価します。	20%
評価の方法 授業中の授業態度や対話型授業への参加姿勢を70%、定期試験の成績評価30%の比率で成績評価を行います。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	導入講義を行います
2	論理の基礎	言葉のつながり方による論理の基礎を学びます
3	論理の構造	言葉の指示関係から論理構造を分析することを学びます
4	主張の作り方	自分の意見・主張を組み立てるやり方を学びます
5	論証とは？	論証とは何か、について説明します
6	演繹と推測	延期と推測の違いについて説明します
7	価値評価	価値評価の論理とは何か、について説明します
8	否定について	否定の種類を正確に理解する大切さを学びます
9	条件について	逆・裏・待遇を使いこなすことを学びます
10	条件連鎖	条件が連鎖する仕組みについて学びます
11	推論の技術	推論における存在文について学びます
12	消去法	消去法について学びます
13	背理法	背理法について学びます
14	議論を作る	議論や批判の仕方について学びます
15	期末試験	学期末試験と解説講義

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の終わりに予習事項を指示します。またインターネットを通じて、予習や課題のヒントを連絡することもあります。具体的な進め方は、講義の際に説明します。

【その他の注意事項】

◇この授業は、日本語で文章の論理を分析することになります。そのため、かなり大量の日本語の文章を読むことになります。履修する際は、この点について、注意してください。

◇対話型の授業となりますので、講義中に、居眠りをしたり、参加意欲が乏しいと判断した学生は、その場で履修停止とします。

◇私語は厳禁です。私語については、とくに厳格に取り扱います。

文化人類学	ニイジマ ヨシエ 新嶋 良恵
Cultural Anthropology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本授業では先行する文化人類学の研究成果を通して、世界の諸地域に暮らす人々について学ぶとともに、自文化の多様性に目を向けていく。具体的には、グローバル化の流れの中で、「文化を押しつけずに認めていくこと」や文化が交わり新たな形態へと変化していくことなど、異文化との関わりにおいて文化人類学が提起してきた問題について考察する。そうした取り組みの中で、現代的な課題に向き合う力を育んでいくことを授業の目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う。 (予定では2回)。	20%
評価の方法 授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	文化人類学の意義。異なる視点から見つめてみよう。
2	フィールドワーク	どういう研究手法があるの？
3	文化的他者	生き方を学ぶ
4	文化人類学の試練	自／他という境界と制度
5	抵抗	国という境界と歴史性
6	文化相対主義	進化主義と文化相対主義
7	個別文化	個別文化としての自文化
8	文化とは何か(1)	文化とパーソナリティ
9	文化とは何か(2)	異種混淆。ハイブリッドな文化のあり方
10	関わり合いを考える(1)	隣り合う異文化
11	関わり合いを考える(2)	理解しないまま共存していくこと
12	現代的な課題(1)	個人の足場となる文化とは？
13	現代的な課題(2)	自分の中の多元性を見つける
14	多文化主義(1)	多文化主義は上から目線の政策？
15	多文化主義(2)	まとめ

【使用教材】

◇必要な資料については教員が適宜準備して配布する。

◇小田亮著『構造人類学のフィールド』世界思想ゼミナール

教科書として指定はしませんので必ず購入する必要はありません。

文化人類学に興味のある方は持っているといいかと思います。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

文学（現代文学）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、日本の現代文学における何人かの重要な作家の作品を取り上げ、そこからどのような作者の思いが読み取れるかについて考える。それぞれの作者の文章の特徴や、表現の傾向を分析したり、作者の生活した土地や、交友関係、生い立ちなどが作風にどのように影響を与えているかについて考えたりしてみたい。また、お互いに、自分の好きな作家の作品を紹介し合い、各自の読書の世界を広げるような試みも行いたい。

この授業をきっかけに、読書の楽しみ方を学び、読書習慣を身につけてもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本文学の歴史	明治時代以降の日本文学の歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
芥川龍之介の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	芥川龍之介の作品の内容や、表現の特徴、芥川の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
太宰治の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	太宰治の作品の内容や、表現の特徴、太宰の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
村上春樹の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	村上春樹の作品の内容や、表現の特徴、村上の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
評価の方法 3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文や発表の内容、受講態度等20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	日本文学の歴史	明治以降の日本文学の歴史について。
3	さまざまな作家の作品	重要な作家とその作品の内容・特徴について。
4	芥川龍之介の文学	芥川龍之介の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、芥川我的生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
5	芥川龍之介の文学	
6	芥川龍之介の文学	
7	太宰治の文学	太宰治の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、太宰治の生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
8	太宰治の文学	
9	太宰治の文学	
10	村上春樹の文学	村上春樹の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深める。また、海外で起こった村上春樹ブームや、村上の政治や社会問題に関する発言などについても考える。
11	村上春樹の文学	
12	村上春樹の文学	
13	私の薦める作家・作品	他の人に薦めたい作家や作品について、お互い紹介し合い、意見を交換する。
14	私の薦める作家・作品	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇読書が好きな人、今は苦手でも読書してみたいと思っている人など、積極的に授業に参加できる学生に履修してもらいたい。

◇日本語で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作家や作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇わからない言葉が出てきたら、積極的に辞書を使って調べること。

文学（源氏物語）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

『源氏物語』に描かれている女君たちのなかでもとくに印象深い、紫の上、葵の上、六条御息所、藤壺女御、そして光源氏の母である桐壺更衣らを取り上げ、それらの女性がどのように描かれているのかに着目しながら『源氏物語』の本文を読み進めていく。

古語や文語文法の知識を深めるというよりも、私たちと同じ日本人が、1000年前にはどのように生活し、どのような物の考え方をしていたのかを知り、現代日本の根底に横たわる、日本人としての共通認識や常識について理解を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
『源氏物語』の作者や物語執筆の背景などについて理解する	歴史的な人物について答えられるだけでなく、漢字で正しく書けるようにすること。設問に対する回答、試験によって評価。	20%
授業で読むテキスト本文が、現代語訳のどの箇所にあたるかを理解し、正しく読む	テキストの音読を指名された時に、正しく読めるかどうか。	20%
本文に描かれている平安時代の風俗や習慣、考え方などについて理解を深める	授業で説明を受けた語句の意味等を正しく理解できているかどうか。また、漢字で正しく書けるかどうか。設問に対する回答、試験によって評価。	40%
『源氏物語』の登場人物について	本文に登場する人物について、お互いの関係を理解し、正しく系図にまとめられるかどうか。設問に対する回答、小テスト、試験によって評価。	20%
評価の方法 3分の2以上の出席で、受講態度・小テスト等20%、試験80%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	桐壺更衣	「桐壺」の巻を中心に講読し、平安時代の後宮や平安貴族の考え方、当時の結婚観等について解説する。
3	桐壺更衣	
4	桐壺更衣	
5	藤壺女御	藤壺女御に関する記述をピックアップして読み、光源氏の生涯に藤壺が与えた影響について考察する。
6	藤壺女御	
7	葵の上	「葵」の巻を中心に講読する。とくに「車争い」前後の葵と六条の心理を読み取り、この悲劇の原因をさぐる。
8	葵の上	
9	六条御息所	車争いの後に六条御息所の身に起こった現象を考察し、平安時代の人々の思想について理解を深める。 光源氏と六条のその後を、テキストで読み味わう。
10	六条御息所	
11	六条御息所	
12	紫の上	紫の上に関する記述をピックアップして読み、紫の上を造形した作者の紫式部の意図を考察する。平安時代の結婚形態について解説し、女三の宮の悲劇が生じた原因を考察する。
13	紫の上	
14	紫の上と女三の宮	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇秋山虔他編『源氏物語読本』筑摩書房

【履修条件等】

- ◇日本語のテキストを音読する能力があること。
- ◇日本の伝統や歴史に興味があること。
- ◇日本の古い言葉で作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前回までに登場した人物について整理し、理解しておくこと。
- ◇前回までの授業で説明を受けた古語の意味を理解しておくこと。また習った漢字を読むようにしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇テキストを持参しない場合は欠席と見なすので、必ずテキストを購入し、毎時間持参すること。

文学（歌舞伎）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

江戸時代から演じられ続けている日本の伝統芸能、歌舞伎を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、歌舞伎の成立や歴史、特徴、他の古典芸能との関連、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
歌舞伎の歴史について正しい知識を身につける	歌舞伎成立以前の芸能の歴史に始まり、江戸時代から近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の特徴について正しい知識を身につける	歌舞伎が演じられる舞台の構造、歌舞伎の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフなど、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の演目について自分の意見や感想を述べる	ビデオで鑑賞した歌舞伎の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
歌舞伎が現代とどのようにつながっているかについて考える	歌舞伎が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べることができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
評価の方法 3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	歌舞伎の歴史	江戸時代から現代に至る歌舞伎の歴史について。
3	歌舞伎の特徴	歌舞伎と他の演劇との違い、歌舞伎らしさとは何か、等という点から、歌舞伎の特徴を学ぶ。
4	歌舞伎の特徴	
5	歌舞伎の登場人物	歌舞伎の登場人物の種類や特徴について。
6	歌舞伎の舞台	歌舞伎の演じられる舞台の構造と特徴について。
7	時代物と荒事	歌舞伎の時代物や荒事に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
8	時代物と荒事	
9	時代物と荒事	
10	世話物	歌舞伎の世話物に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
11	世話物	
12	歌舞伎の音楽	歌舞伎で演奏される音楽の特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

文学（古典文学）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、現代に生きるわれわれにも少なからず影響を与えている代表的な古典文学作品や、古典文学の影響を受けて書かれた近現代の小説を取り上げ、あらすじを知るとともに、その一部については原文で読み味わう。さらに、そこに描かれる昔の風俗や考え方についての講義を通して、日本人としての常識を身につけ、教養を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
和歌の歴史や用語について正しく理解する。和歌の現代語訳	和歌文学の歴史や用語を理解し、和歌を自分の言葉で現代語訳できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『今昔物語集』の特徴や説話の内容について正しく理解する	説話のあらすじや語句の意味、漢字の読み、説話のおもしろさのポイントなどについて正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『平家物語』のあらすじを正しく理解する。『平家物語』をもとにした芸能の特徴について考察する	『平家物語』の主な登場人物や事件について正しく答えられるかどうか。『平家物語』と関連深い芸能である平曲や狂言などの特徴を説明できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
江戸時代の文学作品のあらすじ、特徴を正しく理解する	江戸時代の文学の特徴や、あらすじ、登場人物について正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
評価の方法 3分の2以上出席し、レポートを提出すること。 レポート30%、試験50%、感想文などの内容・受講態度20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	言葉遊び	日本に伝わるさまざまな言葉遊びについて。
3	百人一首の恋歌	百人一首の恋歌を読み味わい、昔の人々と現代人との共通点や相違点について考察する。和歌を題材に作られた漫画や歌など、現代に与える影響について考える。
4	百人一首の恋歌	
5	百人一首の恋歌	
6	今昔物語集	『今昔物語集』の説話を読み、現代人との共通点や相違点について考察する。
7	今昔物語集	
8	今昔と芥川龍之介	『今昔物語集』所収話と、それをモチーフに書かれた芥川龍之介の小説『藪の中』を比較する。
9	今昔と芥川龍之介	
10	平家物語	『平家物語』のあらすじや人物関係を理解する。那須与一などの有名な場面をいくつか読み、さらに平家琵琶や『平家』の一場面を基にした狂言などの芸能を鑑賞する。
11	平家物語	
12	平家物語	
13	曽根崎心中	『曽根崎心中』のあらすじや人物関係を理解する。文楽の「曽根崎心中」をビデオで鑑賞する。
14	曽根崎心中	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇高校時代に古典を選択していなかった人も十分受講可能だが、少なくとも文学に興味関心のある人に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇レポートを一回課すが、何でもインターネットで調べて済ませようとせず、本で調べて勉強するようにしてほしい。

文学（能・狂言）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

600年以上前から演じられ続けている日本の伝統芸能、能・狂言を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、能・狂言の成立や歴史、他の文学作品への影響、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
能・狂言の歴史について正しい知識を身につける	能・狂言以前の芸能の歴史に始まり、形成期、大成期、近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の特徴について正しい知識を身につける	能・狂言が演じられる能舞台の構造、能・狂言の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフ、謡、舞など、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の演目について感想や意見を述べる	ビデオで鑑賞した能・狂言の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
能・狂言が現代とどのようにつながっているかについて考える	能・狂言が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べることができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
評価の方法 3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	能・狂言の歴史	能・狂言誕生以前の芸能から近現代にいたるまでの能・狂言の歴史と特徴を学ぶ。
3	能・狂言の特徴	
4	狂言の登場人物	狂言の登場人物の種類や特徴について。
5	狂言の笑いの特徴	狂言の笑いの特徴と分類について。
6	狂言面や小道具	狂言面や小道具の種類や使い方について。
7	狂言の分類	狂言の曲柄による分類について。
8	能の登場人物	能の登場人物の種類や特徴について。
9	能の謡と舞	能の謡と舞の特徴と種類について。
10	能面や小道具	能面や小道具の種類や使い方について。
11	能の分類	能の曲柄による分類について。
12	能の楽器	能の楽器の種類と特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考図書：網本尚子訳『角川ビギナーズクラシックス 謡曲・狂言』角川文庫
『狂言ハンドブック』（三省堂）
野村萬斎著・網本尚子監修『What is 狂言？』檜書店
『能って何？』新書館

【履修条件等】

- ◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。
- ◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

- ◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

文章表現法（基礎）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習したり、新聞に出てくるレベルの漢字を練習したり、敬語の使い方を実践練習したりといった、基礎的な内容の学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。小テスト・宿題・試験で評価。	25%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方・小テスト・試験で評価。	25%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。小テストと試験で評価。	25%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙で評価。	25%
評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、課題提出や小テストの点数25%、受講態度25%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	書き言葉と話し言葉の違い、正しい文体の選び方、助詞の使い方、語句の対応のさせ方、明確な修飾語の書き方、正しい読点の打ち方など、文章を書く上での基本事項を、練習問題に取り組むことで学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	正しい文章の書き方	
6	日本語の知識	難読漢字、四字熟語、慣用句、ことわざなどの基本的な日本語の知識を、練習問題に取り組むことで学ぶ。
7	日本語の知識	
8	日本語の知識	
9	敬語の使い方	敬語の種類や使い方の基本的な知識を、練習問題に取り組むことで学ぶ。さらに、具体的な日常の場面における敬語の使い方の実践的練習を行う。
10	敬語の使い方	
11	敬語の使い方	
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際を書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（実践）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、主に「書く」ことに重点を置き、さまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習問題を通して身につけ、その知識、技術を踏まえて、描写文、エッセイ、小論文、レポートなどを書いていく。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
読みやすい文章の書き方を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力しているかどうか。また、小テストや宿題の問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せるかどうか。小テスト、提出課題の内容、試験で評価する。	25%
明確な文章が書けるようになる	何を述べたいのかが、読者に明確に伝わるように文章が書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	30%
それぞれの文章の特徴を踏まえた、適切な文章が書けるようになる	レポート、小論文、エッセイなどが、それぞれどのような目的で書かれる文章なのかが正しく理解できているかどうか。形式に適った文章が書けたかどうか。提出された課題の内容、試験で評価する。	30%
誤字脱字のない、正確で読みやすい文章が書けるようになる	下書き、推敲の手順を踏まえて課題を書いているかどうか。誤字脱字に気をつけて書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	15%
評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験25%、レポート・手紙などの課題の評価50%、受講態度25%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	文章の書き方	
4	自己紹介文	読者に強くアピールできるような自己紹介文を書く。
5	メールの書き方	失礼のないメールの書き方を学ぶ。
6	さまざまな文章	エッセイや描写文など、さまざまな文章課題に取り組んで、文章力を磨く。
7	さまざまな文章	
8	小論文	小論文の基本的な構成や、書き方について学び、課題文型小論文とテーマ型小論文を書く。
9	小論文	
10	小論文	
11	レポート	レポートとは何かを正しく認識し、その基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた課題について、自分で資料をさがし、実際にレポートを書く。
12	レポート	
13	レポート	
14	レポート	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、とくに留学生は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。日本語の応用力が不足している留学生には、「文章表現法（基礎）」の履修をすすめる。また、提出課題の多い授業なので、日本人学生の場合も、国語力に自信のない人は、よく考えてから受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。
指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。
◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（総合）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、ひとりひとりが「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、練習問題を解いて添削指導を受けたり、与えられた課題について実際に自分で調査し、考えをまとめて短いレポートを作成したり、現実の場面に即した敬語の使い方を実践練習したり、といった学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。	10%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方と試験で評価。	10%
レポート・小論文の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式のレポートが書けること。レポートと試験で評価。	30%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。試験で評価。	30%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙と試験で評価。	20%
評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、レポート・手紙などの課題の評価25%、受講態度25%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	日本語の基礎知識	難読漢字、四字熟語、慣用句、ことわざなどの練習問題に取り組む。
6	日本語の基礎知識	
7	レポートの書き方	レポートとは何かを正しく認識し、基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた資料に基づいて、実際にレポートを書く。
8	レポートの書き方	
9	レポートの書き方	
10	レポートの書き方	
11	敬語の使い方	敬語の種類や使い方について、練習問題を用いて学び、身につける。
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際に書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、留学生の受講希望者は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。日本語の応用力が不足している留学生には、「文章表現法（基礎）」の履修をすすめる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。
- ◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。
- ◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（漢検）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。そのためには、日常的に使う漢字に関する知識は絶対に必要なものと考えられる。本講義では、漢字検定準2級、2級、1級の問題に取り組むことにより、大学生にとって必要な漢字の知識を身につけ、それを使いこなせるようになることを目標とする。

レベルに応じて準2級と2級の問題を練習し、さらなるレベルアップを目指す人には、1級合格の指導も行う。また、基本から勉強をしたい学生には、3級レベルの問題も準備する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
準2級、2級に配当された漢字の読みを覚える	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
出題予想漢字分野別に学び、正しい知識を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
特殊な読みや当て字など、難読漢字について学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	20%
模擬試験に取り組む、出題形式に慣れる	間違えた問題は何度も繰り返し復習し、知識が定着するよう努力すること。試験で評価。	20%
評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、課題提出や小テストの点数25%、受講態度25%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	漢字の読み	漢字の音読みを中心に練習問題に取り組む。
3	漢字の読み	漢字の訓読みを中心に練習問題に取り組む。
4	漢字の部首	練習問題を解くことで、主な漢字の部首を覚える。
5	熟語の構成	熟語の構成のしかたを理解する。
6	熟語の構成	与えられた漢字を用いて、熟語を作れるようになる。
7	対義語・類義語	対義語、類義語の関係を理解する。
8	四字熟語	四字熟語の組み立てを理解する。
9	四字熟語	練習問題を解くことで、主な四字熟語を覚える。
10	送り仮名	送り仮名のルールを理解する。
11	同音同訓異字	練習問題を解くことで、同音同訓異字を覚える。
12	書き取り	正確に漢字が書けるようになる。
13	書き取り	誤字訂正ができるようになる。
14	模擬試験	本番の形式で模擬問題を解き、自分の弱点を理解する。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に漢字を覚えることが勉強である。練習問題や宿題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

芸術論	スズキ ミカ 鈴木 みか
Theory and Art of Music	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

今、我々が生きる現代社会における芸術とは、もはや芸術のための芸術ではあり得ないもので、それは人々のため、多くの大衆のためになる芸術でなくてはなりません。

癒やしのための芸術、すなわち、音楽療法 (Music Therapy)、絵画療法 (Picture Therapy) を主体とする芸術療法 (Art Therapy)、そして、人々が日常生活の中で感じるストレスの解消、改善にも芸術は役立つべきでしょう。そんなスタンスをとりながら、学生諸君の持つ芸術へのあこがれや才能を発見し、それを伸ばしていく協力ができたらと思います。

【学習の到達目標と評価基準】【授業計画】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
健康生活に必要な呼吸法、発声法を身につけること	①名曲「赤とんぼ」を一度のブレスで歌い得るかどうか。 ②p (ピアノ) から f (フォルテ) への声量の変化を注意深く観察して評価する。	20%
優れた芸術と平凡な芸術とを見分けるセンスを身につけること	多種の芸術に接触させて、その反応を注意深く観察して評価する。	20%
自分の情感を詩と曲に表現できる音楽力を養う訓練をする	短い時間の中で、楽曲のフレーズをまとめる能力をテストする。	20%
「歌うようにしゃべり、しゃべるように歌う」このことを理解できること	同じ詩、同じ曲をしゃべるように歌った後、次はよりカンタービレに歌ってみて、その能力を評価する。	20%
評価の方法 授業参加度20%、期末試験の点数80%、その他、授業中のクラスメイトや教師に対するアピール、パフォーマンス度も評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容	
1	ガイダンス		
2	詩を作ろう	金子みすゞ、中原中也、星野哲朗を研究する作詞教室	指導曲（大漁）
3	芸術療法について	浮世絵について触れてみよう	指導曲（草原情歌）
4	カルチャーオブカラオケ	カラオケ文化とは？	指導曲（浜辺の歌）
5	天才ピアニスト辻伸行とトルコマーチ		指導曲（花）
6	ウイーンフィルニューイヤークンサート	アンコール曲「ラデッキ-行進曲」のタイミング	指導曲（ゆりかごの唄）
7	Ludvig van Beethoven そしてカラヤン	第九シンフォニーの日本初演はいつでしょう？	指導曲（喜びの歌）
8	日本の芸術論1	世阿弥元清の花伝書	指導曲（椰子の実）
9	日本の芸術論2	千利休の茶道論	指導曲（百万本のバラ）
10	ビートルズの時代	ビートルズを発掘した3人の男	指導曲（イエスタデー）
11	A. Mozart と美空ひばり	二人の天才の比較	指導曲（お祭りマンボ）
12	芸術と模倣	すべての芸術は模倣から始まる	指導曲（上を向いて歩こう）
13	落語芸術論	古典落語を聞こう	指導曲（竹馬の友）
14	期末試験の説明と参考資料配布		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する	

【使用教材】

◇特定ものは使用せず、そのテーマに最適なものをコピーして配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

生命科学	フルタ レイコ 古田 玲子
Life Science	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

ヒトと他の生物の共通点と相違点、がん、若者に蔓延している Sexually Transmitted Infection（STI：性感染症）、人畜共通感染症、有害物質、有害生物、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について学び、生命現象を理解し、また健康を維持するために必要な知識を養うことを目的としています。最先端の研究成果や最近の話題を取り入れながら判りやすく解説していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生物学および医学的な基礎知識を学ぶ	本試験で評価する。人間と他の生物の共通点と相違点、人体の臓器と機能、細胞についての設問に答えられること。	30%
病気の原因、予防について基礎的な知識を学ぶ	本試験で評価する。がん、STI、人畜共通感染症、有害物質、有害生物について理解していること。実現可能な予防策についての知識が習得できていること。	40%
生命科学全般について理解を深め生命倫理、生物多様性についての意義を考える	本試で評価する。生命科学に関する資料を読み、正確に理解し、意見が述べられるか。生命科学についての基礎的な知識を習得した上で、臓器移植と生殖医療、生物の多様性について、考えることができるか。	10%
生命科学に関する資料を正確に理解し、自分の意見を述べることができる	レポートで評価する。各自で生命科学に関する興味のあるテーマを選び、レポートにまとめる。正確に理解し、まとめることができるか。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提とし、本試験80%とレポート20%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業内容の説明およびレポートの作成方法
2	人体の構造と機能	臓器、組織、細胞、遺伝子について
3	ヒトと他生物の共通点と相違点	ヒト、イヌ、マウスなどの哺乳類間と鳥類、爬虫類、魚類、両生類などの他生物との比較、
4	腫瘍についての基礎的知識	腫瘍の発生と遺伝子異常、良性腫瘍と悪性腫瘍（がん）のちがい、原因と予防、検査法
5	早期がんと進行がん	がんの進行度と治療法、予後
6	各臓器のがんⅠ	肺がん
7	各臓器のがんⅡ	胃がん、大腸がん
8	各臓器のがんⅢ	乳がん、子宮がん（子宮頸がん、子宮体がん）
9	各臓器のがんⅣ	肝臓がん、その他のがん
10	ＳＴＩについてⅠ	エイズについて
11	ＳＴＩについてⅡ	ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症、梅毒、クラミジア感染症など10疾患についての予防と治療
12	ＳＴＩについてⅢ	
13	有害物質と生物毒	タバコ、麻薬、アスベスト、毒のある生物
14	人畜共通感染症・動物が媒介する感染症	BSE、狂犬病、インフルエンザ、デング熱、エキノコックスなど
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考資料や用語集を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇生命科学に関することで話題になっていることの情報収集。

【その他の注意事項】

◇授業に集中し、疑問点は積極的に質問してください。

国際関係論	ヤガワ トシアキ 八川 敏昭
International Relations	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

国際関係論は国際社会において生起するさまざまな事象についての分析をおこなう研究領域である。政治、経済、文化などさまざまな分野でグローバル化が進行し、これらの国際問題に対するわが国の基本姿勢が問われる局面が増大している。こうした現状をふまえ、この講義では、日本をとりまくさまざまな国際関係について、その経緯、現状、課題などを明らかにし、国際社会におけるわが国のありかたを考察するために必要な基礎知識を習得することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
国際関係全般に関心を持ち、理解できるようになる	設問に対する回答によって評価。 国際関係全般について、授業で教えたことに回答できること。	25%
経済の国際関係に関心を持ち、理解できるようになる	設問に対する回答によって評価。 経済の国際関係について、授業で教えたことに回答できること。	25%
政治・文化などの国際関係に関心を持ち、理解できるようになる	設問に対する回答によって評価。 政治・文化などの国際関係について、授業で教えたことに回答できること。	25%
国際関係の課題について考えるようになる	設問に対する回答によって評価。 国際関係の課題について、客観的な視点で回答できること。	25%
評価の方法 全授業時間の3分の2以上の出席を前提とするが、出席状況・受講態度を勘案し、筆記試験にもとづいて「総合的に」評価するので、成績評価における出席状況・受講態度・筆記試験に対する配分を明示しがたいが、とくに、私語や途中退席の有無などの受講態度を重視するので、受講態度が悪い場合には、それを評価基準に100%反映させ、不合格とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	国際関係論の予備知識Ⅰ	第二次世界大戦後の国際関係の変化
2	国際関係論の予備知識Ⅱ	現在の国際関係の概要
3	グローバル化の進展	グローバル化の概要と進展状況
4	貿易	貿易をめぐる国際関係
5	投資	投資をめぐる国際関係
6	通貨	通貨をめぐる国際関係
7	人口	世界の人口問題とそのゆくえ
8	食料	食料をめぐる国際関係
9	エネルギー・資源	エネルギー・資源をめぐる国際関係
10	公害・環境	世界の公害・環境問題とそのゆくえ
11	南北問題	世界の経済格差とそのゆくえ
12	軍事	軍事をめぐる国際関係
13	日本の選択	複雑な国際関係における日本のゆくえ
14	まとめ	国際関係をめぐる世界の課題
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：西川潤『新・世界経済入門』岩波新書

【履修条件等】

◇私語をしないこと。教科書を持参すること（このふたつの条件は絶対に守ること）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所に目をとおしておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

異文化コミュニケーション	シミズ 清水 フジモト 藤本 トシキ 俊樹 マナブ 学
Cross-Cultural Communication	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、ハラール／イスラム市場に関する理解の促進と異文化を含めた市場における事業開発ノウハウの習得による事業機会の考察を深めることを目的とします。

事業開発とは、Business Development と訳される概念です。技術、サービスアイデアなどを元に、それを事業化するために必要な全て（市場調査、資金調達、戦略、提携、広告宣伝など）を行うことによって事業は開発され、それ自体を事業開発行為と呼びます。本講義では、現在18億人／200兆円の市場規模というイスラム圏での事業開発に関して包括的に取り上げます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) ハラール／イスラム市場に関する理解	本講義を通して得られるハラール／イスラム市場に関する多岐に渡る動向を十分に理解ができているか？ 評価方法はレポート提出を前提とする。	35%
2) 同市場における事業アイデアの創造・独自性とその論理的な整理	ハラール／イスラム市場における事業アイデアとその実現性や事業性を十分に整理、説明できているか？ 評価方法はレポート提出を前提とする。	35%
3) グループワークによる事業アイデアの提案	本講義を通して得られるハラール／イスラム市場に関する情報を元に、独自の事業アイデアの提案ができるか？ 評価方法はグループワークでのパフォーマンスを中心に行います。	30%
評価の方法	この授業では、学期末に提出義務のある期末レポート、およびグループワークでのパフォーマンスによる採点で評価します（定性的・定量的な理解に関するレポートが35%、独自のアイデアとその論理的な構成・説明力に関するレポートが35%、グループワークによる事業アイデア提案のパフォーマンスが30%を目安とします）。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	導入講義	本講義の全体構成と目的等の説明
2	事業開発のステップ	事業開発の概論に関する講義
3	世界の市場環境の把握	世界市場の現状および今後の見通しに関する講義
4	ムスリム市場の把握	ハラール／ムスリム市場の現状と今後の見通しの説明
5	イスラム教の理解(1)	イスラム教の概念的な整理
6	イスラム教の理解(2)	実際のイスラム教徒の生活の紹介
7	事例の紹介(1)	アウトバウンドに関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
8	事例の紹介(2)	インバウンドに関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
9	戦略の仮説	ハラール／ムスリム市場参入の戦略仮説の検討
10	イスラム金融	イスラム金融の仕組みと日本における現状の説明
11	リスクの考察	イスラムビジネスに関連するリスクの整理
12	ASEAN 市場の考察	多くのムスリムを抱える ASEAN 市場の現状と今後の整理
13	グループワーク(1)	インバウンドに関する事業アイディアの検討
14	グループワーク(2)	アウトバウンドに関する事業アイディアの検討
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくにありません。毎講義、必要な資料は準備されています。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本講義では、多角的な視点が求められ、講義を通して紹介される参考文献などは時間を見つけて事前に学習してください。また、インターネットなどでもさまざまな事例が紹介されていますので、各講義の中で触れられた内容などに関しては各自で興味を持って調べるなりすることをお勧めします。

【その他の注意事項】

◇本講義では、答えがない分野における考察、検討を重要視します。そのために必要な情報などは講義を通して得られますが、講義で得られた情報を元にしたアイディア、その妥当性などの検討は自分の頭で考えることが求められます。講義で得られた情報を記憶することしか行いたくない学生は、この講義には向かないと考えられます。一方で、さまざまな文化、宗教、歴史、価値観などに興味を持ち、自らの経験などを踏まえたアイディアを考えることが好きな学生にとっては、ハラール／イスラム市場における最先端の情報が得られると考えられ、履修をお勧めします。

経営数学	マツモト ユウキ 松本 勇樹
Industrial Mathematics	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

皆さんはビジネスの世界に数学は必要ない、もしくは自分には数学は必要ないと考えていませんか。今まで皆さんが中学・高校で習ってきた数学は計算して答えを出すことを目的としていたため、数学はつまらないと考えている人も多いと思います。ところが、社会に出るとビジネスの世界では合理的な考え方や合理的なコミュニケーション能力が問われるようになります。そこで数学的な思考方法や表現方法が有効です。この科目ではビジネスの世界での社会現象を数学的手法で解決する方法を学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
与えられた数式から解答を導く	設問に対する回答によって評価。高校までに習った計算の復習を行い、与えられた数式から正しい答えを導くこと。	50%
ビジネス上で起こることを数式で表し、解を求める	設問に対する回答によって評価。与えられた事象から自分で数式を作成し、その式に対する解を求めること。	50%
評価の方法 50%以上の出席を前提として課題提出15%、小テスト15%、試験70%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	この授業で何を学習するかの説明と計算練習
2	1 次方程式	1 次方程式の解説・演習とビジネス上の問題を式で表現する
3	連立方程式	連立方程式の解説・演習を行う
4	1 次関数	2 つの変数の間にある関係を式で表すことを学ぶ
5	展開・因数分解	複雑な式を整理する方法を学ぶ
6	2 次方程式	2 次方程式の解き方の解説・演習を行う
7	2 次関数	2 次関数の解説・演習を行う
8	微分・積分入門 小テスト①	微分・積分とは何か解説し、ビジネスでなぜ必要かを考える これまでの計算手法が習得できているか確認する
9	極限と微分の計算	微分の基礎である極限の知識の習得を行う
10	微分の計算・接線の方 程式	微分の基本的な計算を学び、複雑な関係を単純化するために 必要な接線の方程式の知識の習得をする
11	関数の増減とグラフ	複雑な関数をグラフ化する方法について学ぶ
12	積分の基本	積分とは何かについて確認し、計算をできるようにする
13	小テスト②	微分・積分が習得できているか確認する
14	総復習	いままで学習してきた内容について復習する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および計算問題を中心とした試験を行う

【使用教材】

◇配布資料を使用する。

【履修条件等】

◇継続して受講しないと理解できないので、休まず出席すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の授業の配布資料に掲載されている課題を解いておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業を聞いていれば理解できるように繰り返し説明する。できない問題については繰り返し演習していくので、過度な数学に対する恐怖心を持たなくてよい。

マネジメント入門	ナトリ シュウイチ 名取 修一
Introduction to Management	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

企業は、私たちの生活の中で切り離せない存在になっています。私たちが毎日生活を送っていくなかで、企業活動によって生み出された商品（モノ）を使い、豊かさを享受しています。また、商品を生産したり販売したりする過程では、「人」が「働く」ことで人や社会のつながりを形成し、自己の存在意義が発揮されたり確信したりもします。そうした、人々が生きていく上での「生活の糧」として存在している現代の企業は、激しい市場競争を乗り越えていかなければ存続することができません。

企業が存続していくためには、利潤生産を達成し、商品を生産し続けなければなりません。その目的達成のために、人・モノ・カネという資源を組織化し統合していく必要があります。本講義では、こうした諸資源を統合化するための経営管理技術を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業概念を学ぶ	- 企業とは何か、企業経営活動とは何かを理解する - 企業の存在意義としての生産活動の内容を理解する - 商品および商品生産過程の意味や内容を理解する	20%
企業の社会的役割を学ぶ	- 企業に関わる4つの市場と、そのグローバル化による変化を理解する - ステークホルダーと、そのグローバル化による変化を理解する - 企業経営の社会的責任の遂行を理解する	20%
経営管理活動の二面性と組織効率性基準の設定を学ぶ	- 利潤生産と商品生産の二つの生産活動の性質の違いを理解する - 経営管理の行動基準は変化することを理解する	20%
経営管理技術の変遷を学ぶ	- 経営管理技術の歴史的変化を理解する - 近現代の経営管理の特徴を理解する - コンティンジェンシー理論を理解する - 組織行動と環境とのシステムを理解する	20%
社会技術システム論を学ぶ	- 企業行動の柔軟性創造を理解する - 組織成員に求められる柔軟性を理解する - 機械的管理システムと有機的管理システムの違いと現状を理解する	20%
評価の方法 70%以上の出席率が必要です。 授業参加度20%、期末試験80%を基準とし評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業概要、評価方法の説明
2	企業経営を概観する①	企業経営が関わる市場と競争原理を学ぶ
3	企業経営を概観する②	基本的な事業内容と利潤生産・商品生産の重層構造を考える
4	生産活動の社会的意義	ステークホルダーと社会的意義を理解する
5	マネジメントとは何か	経営管理活動の効率性基準とその二重性を考える
6	分業論を学ぶ	管理職能と作業職能の内容と構造を理解する
7	個人行動の組織化過程	個人行動の内容を理解し、組織化過程のメカニズムを学ぶ
8	動機づけ理論を学ぶ	個人の動機の内容や動機づけ理論を学ぶ
9	管理過程論を学ぶ	マネジメント・サイクルを理解し、自己管理について考える
10	マネジメントの変遷①	マネジメントの成立過程と今日までの展開の特質を学ぶ
11	マネジメントの変遷②	人間関係論の展開と意思決定論、自律的人間像を考える
12	企業の管理組織構造	トップ・ミドル・ロー・マネジメントの構造と役割を学ぶ
13	企業組織の構造を学ぶ	小規模企業と大規模企業の組織機構の違いを考える
14	企業環境と組織柔軟性	機械的管理システムと有機的管理システムの重層性を考える
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：講義の中で指示します。

◇参考書：百田義治編著『経営学 基礎』中央経済社

◇その他：講義の中で資料を配布します。

【履修条件等】

◇授業を受ける際には、静粛に受講してください。

◇新聞、雑誌等メディアを通じて時事情報を捉えておいてください。

◇授業ノートを作成では、板書のみならず積極的にメモを取るようにしてください。
自身独自のノート作成に心掛けてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇自身で作成したノートは、講義前に前回の内容を確認し復習し積極的に活用してください。

【その他の注意事項】

◇配布した資料は各自で管理してください。

◇各自出席管理を行ってください。

コンピュータリテラシー	ハギノ ヒロミチ 萩野 弘道
Computer Literacy	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

高度情報化社会に対応し、また、本学においてさまざまな科目を学習していくための基礎としてコンピュータを理解し、操作する基礎的なスキルの習得を目指します。そのために、パソコン（Windows）の基本的な操作とその運用に関して必要な知識を学習した後、ワープロソフト（Microsoft Word）を利用した日本語文書の作成、表計算ソフト（Microsoft Excel）を利用した基本的な表計算処理やグラフの作成、プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）を利用した発表用資料の作成などについて実践的な実習をおこないます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータを活用するために必要な基礎知識を理解していること	実習中の習熟度によって評価。OSの扱い方やファイルやフォルダの管理等が適切におこなえること。 ブラウザや検索エンジンを使って、効率良く適切な情報を呼び出すことができること。	10%
ワープロソフトでビジネス文書やチラシを作成するためのスキルを身につけていること	実技試験によって評価。文字入力はもちろんのこととして、Microsoft Wordの操作や設定作業を自分の思うままに操れること。表や画像を利用して効果的な文書をレイアウトすることができること。	30%
表計算ソフトの基本を理解し、関数を活用したデータ処理やグラフの作成ができること	実技試験によって評価。Microsoft Excelを操作してワークシートの編集をおこない、関数の利用や罫線を用いた作表ができること。データを効果的に表現するグラフを作成できること。	30%
プレゼンテーションソフトを使って効果的なプレゼン資料が作成できること	実習中の習熟度によって評価。プレゼンテーション用の発表資料をMicrosoft PowerPointを操作して、画像やアニメーションを効果的に導入して作成することができること。	10%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、試験80%、授業参加度20% （授業参加度は授業中におこなう提出課題の評価も含む）。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、学内 P C の利用方法、タイピング実習
2	コンピュータの基本操作	Windows の基礎、インターネットの使い方と活用方法
3	Word の操作実習 (1)	文字の入力方法、ファイル操作、ページ設定
4	Word の操作実習 (2)	書式設定、編集、文字の装飾
5	Word の操作実習 (3)	表（罫線）を活用した文書の作成
6	Word の操作実習 (4)	画像等を活用した文書のアレンジ
7	Word の総合実習	ビジネス文書を使った Word の総合練習
8	Excel の操作実習 (1)	データ入力、基本的なワークシート編集、関数の基本
9	Excel の操作実習 (2)	罫線、グラフの作成
10	Excel の操作実習 (3)	関数 1（IF、RANK 等）、ソート
11	Excel の操作実習 (4)	関数 2（VLOOKUP、COUNTIF 等）、フィルタ
12	PowerPoint の操作実習 (1)	プレゼンテーションの意味、文字や画像の入力方法
13	PowerPoint の操作実習 (2)	図形やアニメーションを利用した視覚効果
14	総合練習	練習問題を使った習熟度の確認
15	本試験および解説	コンピュータを実際に操作して実施

【使用教材】

◇『30時間でマスター Windows 7 対応 Office2010』実教出版

【履修条件等】

◇コンピュータの初心者を対象としているので、履修条件はとくにない。

ただし、この授業ではキーボード入力を速くするタイピング練習は行わないので、ローマ字入力だけはある程度できることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をするので、教科書の該当ページに目を通しておいていただきたい。

【その他の注意事項】

◇実習授業であるので、授業に出席しないとコンピュータを操作できないので全出席が基本である。そのため、出席および遅刻に対しては厳格に扱う。遅刻は 2 回で欠席 1 回とし、全授業の 3 分の 1（5 回）欠席した場合は、本試験を受験停止にする。

ビジネスコンピューティング	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Business Computing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

企業で業務を遂行するにあたり、Microsoft 社の『Excel』、『Word』、『PowerPoint』は必須アイテムともいえるソフトとなっています。これらのソフトを使いこなすためにパソコン一般知識、アプリケーション操作、情報モラル&セキュリティを学ぶことが必要です。本授業ではタイピングの練習、表計算、グラフ作成などを通じ、日常の企業活動で発生するさまざまなコンピュータ知識、スキルを習得します。また、授業の中で実際に準2級・3級等のP検（ICTプロフィシエンシー検定試験）を行い、資格の取得も可能です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
タイピング速度60文字／分以上を目標とする	毎授業の最初に5分間のタイピングテストを行いその点数および上達度を評価する。 また、授業時間の中でP検タイピング本試験を行いその結果を評価する。	20%
Microsoft Word を活用し、簡単な文書の作成、編集ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Word の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な非定型文書の編集をすることができること。	25%
Microsoft Office を活用し、計算式や表などを含む定型フォーマットの作成ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Excel の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な表やグラフを含む文書の編集をすることができること。	25%
コンピュータ用語、ネットワークシステム、情報モラルを理解する	確認問題に対する解答によって評価。 コンピュータに関する知識、通信ネットワーク技術、ウィルス対策を含むセキュリティや法規に関する基本的な設問に解答できること。	30%
評価の方法 毎回行うタイピングテスト10%、授業時間内の演習30%、試験60% 試験はP検タイピング試験・P検本試験（準2級または3級）の結果を勘案する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義内容、本試験の内容等についての説明
2	ワープロ (1)	タイピングの基本を学び、文書の編集などの演習を行う
3	ワープロ (2)	図の挿入や図形の作成、表の作成や編集などの演習を行う
4	表計算 (1)	表計算ソフトの操作を学び、関数を利用した計算などの演習を行う
5	表計算 (2)	グラフの編集、表データの並べ替えなどの演習を行う
6	表計算 (3)	データの集計、シートの編集などの演習を行う
7	コンピュータ知識	コンピュータに関する一般的な技術用語を学ぶ
8	情報通信ネットワーク	情報通信システムに関する一般的な技術用語を学ぶ
9	情報モラルと情報セキュリティ	インターネットのセキュリティ対策、個人情報やプライバシーの保護について学ぶ
10	I C Tを活用した問題解決	フローチャート、データベースの活用法について学び、演習を行う
11	P 検タイピング本試験	本試験のタイピング試験免除対象となる P 検タイピング試験の合格を目指す
12	実技試験の対策	C B T 方式（コンピュータ対話式）の実技試験を体験し慣れる
13	模擬試験	実際の検定試験と同じ C B T 方式での模擬試験を体験し、解答方法に慣れるとともに、弱点の克服を行う
14	P 検本試験	P 検本試験（準 2 級または 3 級）を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教材は教室に備え付けのものを使用するので購入は不要。
- ◇他に、検定試験の受験料が必要（昨年実績4,100円）

【履修条件等】

- ◇ Microsoft Windows/Word/Excel の基本的な操作ができること。
- ◇『コンピュータ・リテラシ』を履修済み程度のパソコンスキルを習得していること。
- ◇授業時間内に P 検（準 2 級または 3 級）を受験すること。
- ◇すでに P 検 3 級以上を取得しているものは履修できない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇タイピングの練習をしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇授業時間内に P 検タイピング試験、P 検（準 2 級または 3 級）の本試験を実施する。
- ◇P 検（I C T プロフィシエンシー検定試験）に関しては以下の WEB サイトを参照のこと。<http://www.pken.com/>（I C T プロフィシエンシー検定協会）
- ◇P 検に合格した場合は本授業単位の 2 単位に加え、さらに 1 単位を取得できる（ただし、別途手続きが必要）。

就職特講Ⅰ	ヒロセ マコト 廣瀬 誠人
Special Seminar for Job SeekingⅠ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

長期厳選採用、働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。

本講義では、学生が就職活動を円滑にかつ積極的に展開できるよう、就職活動や雇用慣行の基本、自己分析や自己PRの方法、業種研究、社会人マナー、グループワークの方法など、就職活動に臨むにあたっての基礎を学んでいきます。随時、東京新卒応援ハローワークや企業の採用担当者も招聘し、臨場感ある就職準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くの選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対するテクニカルなノウハウを身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
評価の方法 職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、70%以上の出席を条件に、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	労働市場・日本の雇用慣行	労働法の基本、働くということ
2	基本的ワークルール	職場のルール、不文律、新入社員の仕事
3	就職活動とは（キャリア開発センターの利用方法案内含む）	就職活動のステップ、キャリア開発センターや新卒応援ハローワーク等の機能と使い方
4	自己分析・自己理解	興味関心の振り返り、客観的な自己像の確立
5	G A T B / V I P 検査	一般職業適性検査、職業興味検査により、職業適性を把握
6	社会人基礎力①	前に踏み出す・考え抜く・チームで働く力とは
7	社会人基礎力②（ワークシート）	自らの社会人基礎力の把握と課題の発見
8	企業情報の収集方法	就職関連メディアや web 活用、OB 訪問など
9	業界研究①（金融・保険業界）	ゲストスピーカー（人事部等）による説明
10	業界研究②（IT・卸・小売業界）	ゲストスピーカー（人事部等）による説明
11	マナー講座	社会人マナー、服装・メイク・髪型等の注意
12	自己 PR（強み発見）	自己分析を通じた強みの発見とその表現
13	グループワーク演習	グループワークにより他者の考え方に触れる
14	社会人場面別マナー講座	さまざまな場面でのマナーの実践
15	春学期まとめ	夏休みに向けての留意点等

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇3年生で民間企業への就職を考えている学生、留学生のうち日本企業への就職を目指す学生は、基本的に受講することが望ましい。また、「就職特講Ⅱ」の連続受講を推奨する。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。
- ◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

- ◇昨年度まで開講されていた「就職ガイダンス」（自由聴講）は廃止され、3年生の就活トレーニングは、本講義に収束される。
- ◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、1度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

就職特講Ⅱ	ヒロセ マコト 廣瀬 誠人
Special Seminar for Job Seeking Ⅱ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

長期厳選採用、働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。

本講義では、「就職特講Ⅰ」で実施した内容をベースに、履歴書やエントリーシートの書き方、業界・企業・職種研究、筆記試験・面接・グループワーク対策など、就職活動に直接役立つ知識の取得と演習を進めていきます。随時、東京新卒応援ハローワークや企業の採用担当者も招聘し、臨場感ある就職準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くの選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対するテクニカルなノウハウを身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
評価の方法 職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、70%以上の出席を条件に、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ブラック企業と就職活動への留意点	秋学期オリエンと各種留意点の説明
2	グループワーク演習	グループワークにより他者の考え方に触れる
3	業界研究③（ホテル・美容業界）	ゲストスピーカー（人事部等）による説明
4	職種研究（営業とは何か）	さまざまなタイプの営業スタイルとその仕事の本質について知る
5	履歴書の書き方	志望動機、学生時代に力を入れたこと、自己 PR 等の書き方
6	エントリーシート対策①	さまざまな E S の事例と対応法
7	エントリーシート対策②	実際の E S へのチャレンジ、添削
8	一般常識・筆記試験対策	例題を解きながら対策を考える
9	S P I 対策	S P I 試験の概要理解と例題の実践
10	面接対策①（グループ面接）	集団面接への取り組み方
11	面接対策②（グループディスカッション）	グループディスカッションのコツ、リーダーシップのとり方
12	面接対策③（個別面接）	面接ノウハウ、質問への対処法
13	就職活動計画策定①	自分の就職活動をスケジューリングする
14	就職活動計画策定②	グループで議論して情報交換
15	まとめ	3月以降の就職活動の進め方への留意点

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇「就職特講Ⅰ」を受講していること。3年生で民間企業への就職を考えている学生、留学生のうち日本企業への就職を目指す学生は、基本的に受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。
- ◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

- ◇昨年度まで開講されていた「就職ガイダンス」（自由聴講）は廃止され、3年生の就活トレーニングは、本講義に収束される。
- ◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、1度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

健康と運動 I	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的に行うことができること	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボールやダブルダッチ等を題材
4	に学ぶ
5	（履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
6	
7	
8	講義：①運動と健康の関係について
9	②生活習慣病について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：バドミントンや卓球等を題材に学ぶ
12	（履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動 I	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年若者に増加している性感染症などの疾病の理解と、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康三原則（運動・栄養・休養）の理解し、健康を維持するための知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 若者で問題となっている性感染症（STD）に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内 容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	実技：集団型スポーツ①② 〽 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット・フットサル等を題材に学 7 ぶ
8	講義①：健康と運動の関係について（健康の三原則と運動） 〽 講義②：疾病から身体を守る（性感染症の現状把握、予防法について） 9
10	実技：ネット型スポーツ①～③ 〽 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ 14
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動 I	ニシムラ タクジ 西村 卓二
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

実技の卓球では、マシンと多球練習を導入し「正しいフォームづくり」をめざしてさらに、競技力を高めるために、総当たりリーグ戦（試合）を実施し、卓球競技の楽しさ、難しさを体得してもらう。他にバスケット、バドミントン競技も実施する。講義は健康維持や生涯にわたって健康な生活が実現できる知識を教授する（レポート提出）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
卓球競技における特性の理解度	卓球の各技術を紹介し、練習を通じて成長度をチェックし、とくにラリーが続けられることを評価ポイントとする。	30%
各技術を段階的にマスターしているか	マシン、多球練習等により、より正確に強く打球できるか（スピード・コントロール・コース・スピン）を計る。	30%
ゲーム（試合）	①試合における戦術、技術対応力を評価する。 ②試合における精神的強さ、闘争心の評価。	20%
①他の種目の取り組み ②レポート提出	バスケット、バドミントンなどからの身体能力をチェックする。 健康維持に関する知識の学習。	20%
評価の方法 マナー30%、試合成績30%、レポート提出40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス：授業方針の説明	卓球部選手による各技術の紹介演技
2	卓球競技の歴史、特性説明	「回転」、「スピード」、「コース」の特性を理解する。
3	ラケット、ラバー、グリップ、	腰のひねり、軸足、肘の角度を注意して何本続けられるか記録をとる。前後・左右の動き、足の運び方の注意点。動く側、動かす側の注意点とコースの打ち分け（ストレート、クロス、ミドル）。スピードと正確さを追求する。
4	スタンス、フリーハンドの効	
5	用、フォアハンドストローク、	
6	スマッシュ、フットワーク（左右・前後）	
7	ショート（ブロック）	肘の屈伸を使う。角度、打球点を注意して、スピードをあげる。手首を使い、ボールの真下をこする。ナナメ回転、下回転、横回転をマスターする。
8	ショートカット（ツッツキ）	
9		
10	サーブ、レシーブ	回転の種類による返球方法、角度調整を工夫する。多様な回転サーブを学習する（コース、速さ、種類）。
11		
12	ゲーム（試合）	試合ルールの説明、審判法の説明。シングル3ゲームのリーグ戦を実施。試合の組み立て、戦術の駆け引き、間の取り方を教授する。
13		
14		
15	バドミントン・バスケット	卓球以外の競技種目を実施し、身体能力をチェックする。

【使用教材】

- ◇西村卓二著『確実に上達する卓球（改訂版）』実業之日本社
- ◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

- ◇マナーを守れる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日常の体調管理を徹底して故障なく受講すること。

【その他の注意事項】

- ◇室内履き（シューズ）、運動のできる準備をして出席のこと。

健康と運動Ⅱ	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports Ⅱ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的に行うことができること	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメットやフットサル等を題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合があります)
4	
5	
6	
7	
8	講義：①基礎代謝について ②性感染症について
9	
10	実技：ネット型スポーツ①、② 小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレー、バドミントン等を題材に学ぶ (履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合があります)
11	
12	
13	
14	
15	

【使用教材】

◇許可書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅱ	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports Ⅱ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年増加している生活習慣病の理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 基礎代謝を高め、太り難い身体を維持する知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内 容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	実技：集団型スポーツ①② 〽 集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボール・ダブルダッチ等を題材 7 に学ぶ
8	講義①：健康と運動の関係について（基礎代謝と運動） 〽 講義②：疾病から身体を守る（生活習慣病と運動） 9
10	実技：ネット型スポーツ①～③ 〽 小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーボール、インディアカ等を題材に学 14 ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅱ	ニシムラ タクジ 西村 卓二
Health and Sports Ⅱ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

実技の卓球では、マシンと多球練習による「正しいフォームづくり」をめざしてさらに、競技力を高めるために、総当たりリーグ戦（試合）を実施し、卓球競技の楽しさ、難しさを体得してもらう。またダブルスのゲームを行い、パートナーとの協調性を高める。

他にバスケット、バドミントン競技も実施し身体能力をチェックする。講義は健康維持や生涯にわたって健康な生活が実現できる知識を教授する（レポート提出）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
卓球競技の特性を理解すること	卓球競技の各技術を紹介し、授業を通じて成長度をチェックし、特にラリーが続けられるかを評価のポイントとする。	30%
各技術を段階的にマスターしているか	スピード、回転、コースを正確にして相手コートに打球できるかを計る。	30%
ゲーム（試合）	①試合における戦術の理解度、対応力を評価する。 ②対戦相手に対する闘争心の評価。	20%
①他の種目の取り組み ②レポート提出	バスケット、バドミントンなどからの身体能力のチェックする。 健康維持に関する知識の習得。	20%
評価の方法 マナー30%、試合成績30%、レポート提出40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス：授業方針の説明	卓球部選手による各技術の紹介演技
2	卓球競技の歴史、特性説明	「回転」、「スピード」、「コース」の特性を理解する。
3	ラケット、ラバー、グリップ、	腰のひねり、軸足、肘の角度を注意して何本続けられるか記録をとる。動く側と動かす側の注意点。コースを打ち分けられるか、スピードを追求する。
4	スタンス、フリーハンドの効	
5	用、フォアハンドストローク、	
6	スマッシュ、フットワーク（左右・前後）	
7	ショート（ブロック）	肘の屈伸を使い、角度と打球点を注意する。
8	ショートカット（ツッツキ）	手首を使い、ボールの真下をこする（切る）。
9		ナナ目、横、下回転をマスターする。
10	サーブ、レシーブ	多種多様な点を工夫する（速さ、コース変化に注意）。 回転の種類による返球方法の注意点。
11		
12	ゲーム（試合）	試合ルールの説明、審判法の説明。シングル3ゲームを実施する。試合の組み立て、戦術、駆け引き、間の取り方を教授する。
13		
14		
15	バドミントン・バスケット	卓球以外の競技種目を実施し、身体能力をチェックする。

【使用教材】

◇西村卓二著『卓球上達テクニック』実業之日本社

◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

◇マナーを守れる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常の体調管理を徹底して故障なく受講することが望ましい。

【その他の注意事項】

◇室内履き、運動着の準備をして出席のこと。

健康と運動Ⅲ	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports Ⅲ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的に行うことができること	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボールやダブルダッチ等を題材
4	に学ぶ
5	（履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
6	
7	
8	講義：①運動と健康の関係について
9	②生活習慣病について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：バドミントンや卓球等を題材に学ぶ
12	（履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅲ	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports Ⅲ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、スポーツによる傷害（外傷・障害）の現状を理解し、傷害の起こしにくい「からだ作り」、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が関係する傷害の発生メカニズムと対処法を学び、適切な行動ができる力を身につけること	講義後、提出されたレポートによって評価。 スポーツ傷害（外傷・障害）の理解、外傷が発生した際の対処方法の知識を有すること。	20%
傷害を起こしにくい「からだ作り」について学び、実践可能なトレーニングの知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 加齢とともに低下していく筋力・体力の維持に必要なトレーニングの必要性と、トレーニングに関する正しい知識を有すること	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内 容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	実技：集団型スポーツ①② 〽 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット・フットサル等を題材に学 7 ぶ
8	講義①：スポーツ傷害の予防法について 〽 講義②：年齢に合わせた体力トレーニングの必要性について 9
10	実技：ネット型スポーツ①～③ 〽 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ 14
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅳ	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports Ⅳ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的に行うことができること	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメットやフットサル等を題材に学
4	ぶ
5	（履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
6	
7	
8	講義：①基礎代謝について
9	②性感染症について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレー、バドミントン等を題材に学ぶ
12	（履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅳ	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports Ⅳ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年話題になっているロコモティブシンドロームの理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動不足が身体におよぼす影響を学び、その予防方法を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動器の障害により移動機能が低下するロコモティブシンドロームとその予防法の正しい知識を有すること。	20%
自己に適した運動の強度や種類についての知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動処方のひとつの尺度である「心拍数」を使って、自己に適した運動強度を算出できること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内 容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	実技：集団型スポーツ①② 〽 集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボール・ダブルダッチ等を題材 7 に学ぶ
8	講義①：ロコモティブシンドロームについて 〽 講義②：運動と心拍数の関係性について 9
10	実技：ネット型スポーツ①～③ 〽 小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーボール、インディアカ等を題材に学 14 ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

日本事情（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Studies	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業ではディベートという手段を使って、大学での学習に必要な論理的口頭表現力を習得すると同時に、自ら情報を得て深く考え日本語で表現することを、特にグループ活動を通して完成することを目指す。他の学生と協力しながらディベートを体験し、他の人の意見を理解した上で自分の意見を論理的に筋道立てて述べる練習をする。また他の学生の陳述を論理性に照らし合わせて評価する能力も養う。このようなグループ活動を通して、日本の文化や日本人の考え方を学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業に積極的に参加し効果的にグループ活動を推し進める	授業内で個人作業およびグループ活動に積極的に参加し、授業外での作業も含め、円滑なグループ活動に貢献すること。	40%
日本文化を理解し、論理的発表のために資料検索、論理的構成の組み立てなどができる	準備段階でのグループ活動への参加の様子、ディベート発表の時に利用する資料などにより評価する。ディベートの準備に積極的に参加し、必要な資料を検索・選択し、論理を適切に組み立てることができるか否かにより評価する。	20%
適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる	適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる。	40%
評価の方法 授業とグループへの貢献度40%、課題20%、表現・発表40% ただし、単位取得には最低3分の2以上の出席を必要とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ディベートについて	ディベートの概要とグループ形成
2	ディベート体験	ディベート体験
3	ディベート体験	ディベート体験、よりよいディベートのための対策
4	ディベートA	グループ準備
5	ディベートA	ディベートA
6	ディベートA	ディベートA
7	ディベートA	振り返り
8	ディベートA	グループ準備
9	ディベートA	ディベートB
10	ディベートB	ディベートB
11	ディベートB	振り返り
12	ディベートB	グループ準備
13	ディベートB	ディベートC
14	ディベートB	ディベートC
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

◇教科書は使用しない。必要に応じて資料を授業で配布する。

【履修条件等】

◇授業は学期を通じてグループの協働学習なので、遅刻欠席をしないこと。メンバーと協力し合って意欲的に準備や発表に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ディベートの準備として、必要に応じて、グループ内の相談・資料検索を授業外でもすることがある。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が5回を越えた場合は、ディベート等に参加しても単位は認めない。

◇上記の授業計画は、グループ編成の都合などから、受講人数などを勘案して変更することがある。

日本事情（留学生科目）	オクヤマ タカユキ 奥山 貴之
Japanese Studies	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業ではディベートという手段を使って、大学での学習に必要な論理的口頭表現力を習得すると同時に、自ら情報を得て深く考え日本語で表現することを、とくにグループ活動を通して完成することを目指す。他の学生と協力しながらディベートを体験し、他の人の意見を理解した上で自分の意見を論理的に筋道立てて述べる練習をする。また他の学生の陳述を論理性に照らし合わせて評価する能力も養う。このようなグループ活動を通して、日本の文化や日本人の考え方を学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業に積極的に参加し効果的にグループ活動を推し進める	授業内で個人作業およびグループ活動に積極的に参加し、授業外での作業も含め、円滑なグループ活動に貢献すること。	40%
日本文化を理解し、論理的発表のために資料検索、論理的構成の組み立てなどができる	準備段階でのグループ活動への参加の様子、ディベート発表の時に利用する資料などにより評価する。ディベートの準備に積極的に参加し、必要な資料を検索・選択し、論理を適切に組み立てることができるか否かにより評価する。	20%
適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる	適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる。	40%
評価の方法 授業とグループへの貢献度40%、課題20%、表現・発表40% ただし、単位取得には最低3分の2以上の出席を必要とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ディベートについて	ディベートの概要とグループ形成
2	ディベート体験	ディベート体験
3	ディベート体験	ディベート体験、よりよいディベートのための対策
4	ディベートA	グループ準備
5	ディベートA	ディベートA
6	ディベートA	ディベートA
7	ディベートA	振り返り
8	ディベートA	グループ準備
9	ディベートA	ディベートB
10	ディベートB	ディベートB
11	ディベートB	振り返り
12	ディベートB	グループ準備
13	ディベートB	ディベートC
14	ディベートB	ディベートC
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

◇教科書は使用しない。必要に応じて資料を授業で配布する。

【履修条件等】

◇授業は学期を通じてグループの協働学習なので、遅刻欠席をしないこと。メンバーと協力し合って意欲的に準備や発表に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ディベートの準備として、必要に応じて、グループ内の相談・資料検索を授業外でもすることがある。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が5回を越えた場合は、ディベート等に参加しても単位は認めない。

◇上記の授業計画は、グループ編成の都合などから、受講人数などを勘案して変更することがある。

インターンシップⅠ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Internship Ⅰ	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究
3	エントリーシート作成
4	インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験
	インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」、「就職特講Ⅱ」を履修すること。

◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での基礎知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。

万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

インターンシップⅡ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Internship Ⅱ	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究
3	エントリーシート作成
4	インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験
	インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」、「就職特講Ⅱ」を履修すること。

◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での基礎知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。

万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

インターンシップⅢ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Internship III	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究
3	エントリーシート作成
4	インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験
	インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」、「就職特講Ⅱ」を履修すること。

◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での基礎知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。

万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

インターンシップⅣ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Internship IV	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究
3	エントリーシート作成
4	インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験
	インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」、「就職特講Ⅱ」を履修すること。

◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での基礎知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。

万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

自己開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
Self-improvement Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	選択科目／認定／各1単位

【本科目の目的】

本学学生の自立心養成、キャリア形成を支援するための一環として、この科目を設置する。すなわち、学生が、本学での教育に立脚し、資格取得、ボランティアなど、学外で修得してきた一定の学習成果に対して単位を認定する。

【単位を認定する資格】

在学中に取得した資格。具体的には「技能審査の対象資格・検定表」に記載する資格を対象とする。ただし、取得後3か月以内に単位認定の申請をすることが必要（1月末までに届けたものについては当該年度の「自己開発」科目の単位として、それ以降の申請については、次年度の単位として認定する）。

例：公認会計士、税理士、中小企業診断士、情報システムITパスポート試験、実用英語技能検定、秘書技能検定、簿記検定、販売士、経営学検定試験、TOEIC等

【ボランティア】

担当教員宛に「参加申請書類」（受入先または仲介先の概要紹介書、活動計画書などを添付）を提出し、担当教員の承認を得たボランティア活動を「単位を認定するボランティア」とする。活動期間は、通算5日40時間以上とする。

承認を得たら、すみやかに「賠償責任保険」（340円。学生支援担当窓口扱）に加入し、活動終了後は、2週間以内に、「単位認定申請書」に受入先または仲介先の発行するボランティア活動修了証あるいは証明書（写しでも可）を添え、担当教員に届け出ることを要する。

◇本科目における「単位認定のプロセス」や「修得可能な単位数」「技能審査の対象資格・検定表」などについては『学生要覧』を参照してください。

専 門 科 目

平成28年度

経営学部経営心理学科

東京富士大学

経営学概論	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Introduction to Management	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

経営学といってもその内容はさまざまです。この授業は科目名が示すように、経営学が扱うさまざまな領域の中の主なものを概略的に見ていきます。扱う領域は、それぞれ2年次以降に、半期あるいは通年の授業として設定されています。したがって、この授業では細かい部分は扱わず中心的な部分だけを見ていくことになります。

授業は、講義と質問を交互に行います。経営学のさまざまな理論や学説を中心に講義をしますので、聞いているだけでは理解しにくいところがあるかもしれません。積極的に質問に応え、授業理解の助けにしてください。また、授業中わからないことがあったら、その場で積極的に質問してください。

大学に入って最初の専門科目の授業となりますので、大学における論述試験に慣れてもらうために春学期中間に「中間試験」を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学の基礎的な内容を理解していること	設問に対する回答によって評価。基礎的な用語を理解していること。	20%
経営学の基本的なものの見方を理解していること	設問に対する回答によって評価。授業中の質問に対する回答によって評価。	20%
経営学の代表的な理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。代表的な理論を説明できること。	20%
経営学の理論を応用する力を備えていること	設問に対する回答によって評価。授業中の質問に対する回答によって評価。理論をもとに具体的な方法を提案できること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として、試験95%、授業参加度5% 試験は、2回の定期試験と中間試験の結果とする。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	経営学とは：経営学はいつ始まった	16	企業倫理
2	テイラーの科学的管理法	17	組織形態(1)
3	ヴェーバーの官僚制	18	組織形態(2)
4	人間関係論	19	経営管理各論(1)
5	バーナードの組織論	20	経営管理各論(2)
6	サイモンの意思決定論	21	経営管理各論(3)
7	コンティンジェンシー理論	22	経営管理各論(4)
8	中間試験とその解説	23	日本的経営
9	企業論(1)	24	組織的意思決定
10	企業論(2)	25	経営戦略論(1)
11	所有と経営の分離	26	経営戦略論(2)
12	企業結合	27	経営戦略論(3)
13	国際経営論	28	経営戦略論(4)
14	企業目的	29	組織文化
15	総括・達成度の確認	30	今までの授業についての総括および学習 達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：大月、高橋、山口著『経営学－理論と体系－』同文館

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できる人。

◇経営学を学ぼうという意志の強い人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の対象範囲を前もって読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇出席日数が不足すると試験を受けられなくなるので注意してください。

心理学概論	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一
Introduction to Psychology	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

2 学年以降に展開される経営心理の勉学を容易にするために基本的な知識を学ぶことをめざす。学ぶテーマをあげると、発達心理、生理心理、認知（知覚）心理、適応心理、感情心理、学習心理、性格心理、臨床心理、社会心理、心理学の歴史となる。これらを1年間で詳しく学んでいくことになる。

教科書を読んでおくこと

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
発達心理の理解	発達心理をどの程度理解しているかで評価する。	10%
生理心理と感情心理の理解	生理心理と感情心理をどの程度理解しているかで評価する。	10%
認知心理の理解	認知心理をどの程度理解しているかで評価する。	10%
学習心理の理解	学習心理をどの程度理解しているかで評価する。	10%
性格心理の理解	性格心理をどの程度理解しているかで評価する。	10%
社会心理の理解	社会心理をどの程度理解しているかで評価する。	10%
職場心理の理解	職場におけるさまざまな心理をどの程度理解しているかで評価する。	10%
心理学の歴史の理解	心理学の歴史をどの程度理解しているかで評価する。	10%
評価の方法 出席は3分の2以上が単位認定の条件 平常点（受講態度など）20%、中間試験20%、春学期試験20%、 レポート20%、終了試験20%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	授業のガイダンス	16	学習心理
2	発達心理	17	学習心理
3	発達心理	18	性格心理
4	発達心理	19	性格心理
5	発達心理	20	性格心理
6	発達心理	21	性格心理
7	生理心理	22	性格心理
8	感情心理	23	社会心理
9	認知心理	24	社会心理
10	認知心理	25	社会心理
11	認知心理	26	職場の心理
12	中間試験	27	職場の心理
13	学習心理	28	心理学の歴史
14	学習心理	29	心理学の歴史
15	達成度の確認	30	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇岡村一成（編）『心理学―行動の科学―』東京教学社

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業前には教科書を読むこと。

【その他の注意事項】

◇出席し前向きに自ら学ぶこと。

経営心理学概論	フカザワ ノブユキ 深澤 伸幸
Introduction to Management Psychology	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

組織が目指す経営目標を達成するためには、組織のなかで働く人々の心の働きや行動の仕組みを考えることが重要である。春学期では主に学生諸子が就職するまでに必要となる基礎的な知識（組織の仕組み、キャリアの発達、人事面接のねらい、およびワーク・モチベーション）を学ぶ。一方秋学期では、主に職場内の人間関係に焦点を当て、精神的ストレスやコミュニケーションとは何か、リーダーシップ理論、およびリスク判断と職場の安全風土といった経営に直結する知識を学ぶ。講義形式を取るが、適宜課題に対する討議も行う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
産業組織心理学において使用される専門用語を正しく理解し、説明できる	産業組織心理学の歴史を正しく理解することに加え、組織の構造、キャリア、ワーク・モチベーションといった専門用語を理解し、説明できることを評価基準とし、評価は試験により行う。	30%
心理学的ストレスモデルを正しく理解し、説明することができる	ラザラスらによって提唱された心理学的ストレスモデルを正しく理解し、ストレスから受けるストレスを低減するための方法を説明できることを評価の基準とし、評価は試験により行う。	30%
より経営学と密接な関係を有する生産性の向上と事故防止に関わる専門用語を正しく理解できる	生産性の向上と密接な関係を有するリーダーシップのあり方やコミュニケーションの取り方などを正しく理解できるとともに、利潤を棄損する事故防止に関する考え方も理解していることを評価基準とし、評価は試験により行う。	20%
授業内容を基に各人がテーマを選び、各人の考えを述べるができる	授業で取り上げた専門用語のなかから各人がひとつのテーマ・用語を選び、これらについて各人が調べ、自分の考えを述べるができることを評価基準とし、評価はレポートにより行う。	20%
評価の方法 中間試験30%、本試験50%、レポート20%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	春学期試験結果の解説と復習
2	産業組織心理学史①：ミュンスターバーグ	17	精神的ストレス①：定義
3	産業組織心理学史②：テイラー	18	精神的ストレス②：セリエの定義
4	産業組織心理学史③：ホーソン実験	19	精神的ストレス③：ライフイベント
5	組織の構造①：組織の目的	20	精神的ストレス④：心理的ストレスモデル
6	組織の構造②：組織規範	21	精神的ストレス⑤：ソーシャルサポート
7	キャリアとは何か：定義	22	コミュニケーション①：仕組み
8	キャリアの発達：ライフキャリア	23	コミュニケーション②：誤解の発生
9	就職試験の仕組み①：試験のねらい	24	リーダーシップ①：定義
10	就職試験の仕組み②：人事面接	25	リーダーシップ②：理論
11	就職試験の仕組み③：人事面接	26	リーダーシップ③：事例分析
12	ワーク・モチベーション①	27	リスク・パーセプション①：事故率推移
13	ワーク・モチベーション②	28	リスク・パーセプション②：判断錯誤
14	ワーク・モチベーション③	29	ヒューマンエラー
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：岡使用せず、必要に応じて随時配布資料を準備する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に講義内容を伝えるので、書籍やインターネットで調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇配布した資料の復習をすること。

◇出席率を重視し、理由の如何を問わず欠席率が3分の1を超える場合は、履修放棄とみなす。

企業論Ⅰ	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Modern CorporationⅠ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では「企業論Ⅱ」で扱う諸問題を考えるための基礎的知識等の修得を目的とする。現代企業の諸形態やその役割を、またとくに株式会社におけるその基本的な仕組みや特徴等を理解することに重点をおく。必要に応じて、VTR等を利用することもある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業の意義および企業形態に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で企業の果たす役割やさまざまな企業形態の基本的な仕組みを理解しているか。	10%
株式会社の意義とその基本的な仕組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で株式会社の果たす役割や株式会社の基本的な仕組みを理解しているか（例えば会社機関など）。	30%
大企業の意義と日本企業の支配構造に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で大企業が果たす役割や、日本企業の支配構造に関して理解できているか。	30%
大企業のコーポレート・ガバナンスに関する基本枠組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。大企業のコーポレート・ガバナンスに関する仕組み等を理解しているか。	30%
評価の方法 本試験70%、受講態度等30%、レポート等（+α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「企業論Ⅰ」の意義と内容等に関する紹介
2	企業の役割	現代社会における企業の意義に関する理解
3	企業の諸形態①	企業形態に関する理解
4	企業の諸形態②	3回目のつづき
5	株式会社の誕生	株式会社の意義に関する理解
6	株式会社の仕組み①	株式会社に関する基本的な仕組みの理解
7	株式会社の仕組み②	株式に関する理解
8	株式会社の仕組み③	会社機関に関する理解
9	株式会社の仕組み④	8回目のつづき
10	大企業とは何か①	現代社会における大企業の意義に関する理解
11	大企業とは何か②	大企業の支配構造に関する理解
12	大企業とは何か③	日本企業の支配構造に関する理解
13	大企業とは何か④	大企業のコーポレート・ガバナンスに関する理解①
14	大企業とは何か⑤	大企業のコーポレート・ガバナンスに関する理解②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸男編著『企業論』有斐閣アルマ、2006年

◇参考書：高橋俊夫編著『コーポレート・ガバナンスの国際比較―米、英、独、仏、日の企業と経営―』中央経済社、2006年
高橋俊夫著『企業論の史的展開』中央経済社、2007年

【履修条件等】

◇他の受講生に迷惑を掛ける行為（私語等）をした場合、受験停止にする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書や参考書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

企業論 I	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Modern Corporation I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

わたしたちの生活は、企業なしには成り立たないほど、企業に依存している。多くの人が会社組織に所属し、所得を得るための手段としてだけではなく、働きがいや生きがいを得る場となっている。

本講義では、現代の企業社会への関心を深め、企業やそこで働く人に関わる諸問題に対する、個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。「企業とは何か」をテーマに、企業社会の中心的存在である「株式会社」に注目し、特に大企業の機能と構造について学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。企業社会や株式会社の実態について専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。企業社会や株式会社制度を読み解く諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。企業とそれを取り巻く株式会社制度や企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。企業や株式会社制度の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法 本試験およびレポート等を80%、受講態度を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法等について
2	経済発展と生活の変化、 大企業の実態	戦後日本経済の発展と企業社会の成立
3	企業の戦略	企業の戦略とは何か
4	企業と消費者	企業と消費者との関係を考える
5	企業の国際化	多国籍化・グローバル化する企業
6	株式会社の歴史	株式会社制度成立の歴史を学ぶ
7	株式会社の機能と構造	会社の種類と仕組みを学ぶ
8	株式会社の現実	株式会社制度の実態を学ぶ
9	大企業とは何か	社会における大企業の役割を学ぶ
10	大企業の支配構造(1)	大企業を支配するものは誰か
11	大企業の支配構造(2)	大企業を支配するものは誰か
12	大企業の性格と機能	大企業の管理はいかになされているか
13	大企業の経営者	経営者支配の実態と責任
14	大企業のコーポレート ・ガバナンス	企業の統治機構の仕組みについて学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸夫著『企業論（第3版）』有斐閣アルマ、2011年

【履修条件等】

◇「経営学概論」などの基礎科目を修得済みであること。「企業論Ⅱ」と合わせて履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書や関連書籍の内容を予習、復習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

企業論Ⅱ	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Modern Corporation Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、主として日本の大企業に焦点を当て、それに関わる諸問題を取り上げていく。大企業に関わる諸問題の考察を通して、現代企業の実像に迫りたい。

必要に応じてVTR等を利用する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本型とは何か。 またその議論の意義について理解できていること	設問に関する回答によって評価する。日本型を議論する意義について理解できているか。	10%
日本型の企業間関係について基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。日本型の企業間関係と近年のその動向に関して理解できているか。	30%
日本型の雇用システムについて基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。日本型の雇用システムと近年のその動向に関して理解できているか。	30%
企業と社会との関係および企業の社会的責任について基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。企業と社会との関係および企業の社会的責任の内容および意義について理解できているか。	30%
評価の方法 本試験70%、受講態度等30%、レポート等（+α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「企業論Ⅱ」の講義内容等の紹介
2	日本型企业システムの動向	「日本型」に関する考察
3	企業間関係①	企業集団に関する考察
4	企業間関係②	3回のつづき
5	企業間関係③	企業系列に関する考察
6	企業間関係④	5回のつづき
7	日本的雇用慣行①	終身雇用制や年功制等に関する考察
8	日本的雇用慣行②	7回のつづき
9	日本の文化と行動様式①	「日本型」を醸成する基盤に関する考察
10	日本の文化と行動様式②	9回のつづき
11	企業と社会	「企業と社会」に関する考察
12	企業の社会的責任①	企業の社会的責任の基礎概念の理解
13	企業の社会的責任②	企業の社会的責任の動向に関する考察
14	「企業論Ⅱ」の総括	「企業論Ⅱ」の総括と本試験に関して
15	本試験	「企業論Ⅱ」の内容の理解度を確認するために、ペーパー試験を実施

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸男編著『企業論』有斐閣アルマ、2006年

◇参考書：高橋俊夫編著『コーポレート・ガバナンスの国際比較―米、英、独、仏、日の企業と経営―』中央経済社、2006年
高橋俊夫著『企業論の史的展開』中央経済社、2007年

【履修条件等】

◇他の受講生に迷惑を掛ける行為（私語等）をした場合、受験停止にする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書や参考書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

企業論Ⅱ	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Modern Corporation Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

わたしたちの生活は、企業なしには成り立たないほど、企業に依存している。多くの人が会社組織に所属し、所得を得るための手段としてだけではなく、働きがいや生きがいを得る場となっている。

本講義では、現代の企業社会への関心を深め、企業やそこで働く人に関わる諸問題に対する、個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。「日本企業の特殊性は何か」をテーマに、日米の国際比較や日本的経営論を学ぶことによって、日本の大企業の機能と構造について学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。日本企業の特殊性や大企業の実態について専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。日本企業の特殊性や大企業の実態を読み解く諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。日本企業の特殊性とそれを取り巻く諸制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。日本企業に関する知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法 本試験およびレポート等を80%、受講態度を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法等について
2	企業と官僚制	官僚制組織の仕組みを学ぶ
3	企業組織の諸形態	組織の諸類型を学ぶ
4	企業組織と管理論の展開(1)	科学的管理と大企業の成立
5	企業組織と管理論の展開(2)	組織の管理とは何か
6	日本企業と従業員	日本企業における企業と従業員の関係を学ぶ
7	日本型株式会社制度の構造と実態	日本型株式会社制度の特徴とは何か
8	日本型企业結合様式の独自性	企業系列と企業集団
9	「家」としての日本企業	家の論理とは何か
10	日本的経営	日本的経営の理論と実態
11	企業の社会的貢献	企業の社会的貢献と社会的責任について学ぶ
12	企業と地域社会	企業と地域社会との関係について学ぶ
13	企業統治と企業倫理	企業倫理とは何か
14	社会的企業	社会的企業とは何か
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸夫著『企業論（第3版）』有斐閣アルマ、2011年

【履修条件等】

◇「経営学概論」などの基礎科目を修得済みであること。「企業論Ⅰ」と合わせて履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書や関連書籍の内容を予習、復習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営戦略論 I	オガワ タツヤ 小川 達也
Strategic Management I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。経営戦略の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること。	20%
評価の方法 授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。 成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。 授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方について
2	経営戦略の意義	なぜ経営戦略が必要なのか
3	経営戦略の体系①	経営戦略と戦術の役割
4	〃 ②	経営理念とビジョンの役割
5	〃 ③	経営戦略の3つのタイプ
6	〃 ④	経営戦略の構成要素
7	製品・市場戦略①	アンゾフの成長ベクトル
8	〃 ②	多角化戦略と相乗効果（シナジー）
9	〃 ③	市場細分化戦略
10	〃 ④	新製品開発と新市場開拓
11	競争戦略の要点①	ポーターの競争戦略と5つの競争要因
12	〃 ②	競争戦略の基本モデル(1) コストリーダーシップ
13	〃 ③	競争戦略の基本モデル(2) 差別化と集中化
14	〃 ④	価値連鎖（バリューチェーン）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施します

【使用教材】

◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文館出版、2006年

◇参考書：大滝精一、金井一頼、ほか著『新版・経営戦略—論理性・創造性・社会性の追求』有斐閣アルマ、2006年

【履修条件等】

◇この科目は、秋学期開講の「経営戦略論Ⅱ」の基礎となる科目です。「経営戦略論Ⅱ」の履修を希望する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

経営戦略論 I	クロダ ヒデオ 黒田 秀雄
Strategic Management I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

世界の経済環境は先進国の厳しい現状に比較して、振興国での目覚ましい発展は目を見張る状況です。このような経済環境の変化に対して、今まで先進国が主要な客先であった日本企業の変容は、なかなか見ることができません。加えて韓国企業の強さや世界の工場から消費市場への転換を図る中国・東南アジアに対して日本企業はどのような経営戦略を考える必要があるのでしょうか。これからの日本の企業の将来を踏まえた経営戦略をどのように考えるべきかを一緒に学んで行きたいと考えています。さらに新興国市場や世界のプレイヤーがターゲットとする「BOPビジネス」を考える上で、企業の社会的責任も十分に考慮する必要があります（BOPビジネスについては学外講師を予定しています）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営戦略論の専門用語を正しく理解して、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価する。経営戦略の定義、歴史、その背景などを、具体例の中から、自ら理解し、回答・説明ができること。	20%
経営戦略の各種理論を学び、その理論について、説明できるようにする	各種の設問に対する回答によって評価する。経営戦略論の各種理論や考え方を学び、企業戦略の中でどのように活用されているかの理解を深める。	20%
経営戦略論が、現実社会の中で、実際どのように活用されているかを理解し、説明できるようにする	レポートに対する回答によって評価する。具体的な企業の戦略を見ながら、なぜそのような経営戦略を取ったのかの背景を理解するとともに、社会・経済環境の変化をどのように取り入れているかを考える。	25%
経営戦略論の基本について理解し自分の言葉で説明できるようにする	期末試験によって評価する。春学期に学んだ経営戦略論の全体像について、具体的な企業戦略と照らし合わせながら理解し、経営戦略論の全体像を掴む。	25%
評価の方法 授業参加度20%、レポート40%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	この講座の狙いと目的
2	経営戦略論・理論Ⅰ	チャンドラーの理論と経営戦略の考え方
3	経営戦略論・理論Ⅱ	アンゾフ意思決定論・BCGの分析的な経営戦略論
4	経営戦略論・理論Ⅲ	ポーターの競争戦略について（SWOT分析）
5	経営戦略論・理論編Ⅳ	経営資源論とリソース・バースト・ビュー
6	経営戦略とCSR	経営戦略と日本のCSRの関係性
7	ステイクホルダー論	経営戦略の視点としてのステイクホルダー論
8	社会性の課題・Ⅰ	経営戦略と消費者問題
9	経営戦略・具体例・Ⅰ	新市場としてのBOPビジネス（学外講師予定）
10	経営戦略・具体例・Ⅱ	世界と日本のBOPビジネス戦略（学外講師予定）
11	経営戦略・具体例・Ⅲ	日本の企業とBOPビジネス市場（学外講師予定）
12	社会性の課題・Ⅱ	経営戦略の中での女性の活用とその課題
13	社会性の課題・Ⅲ	経営戦略上の労働問題とCSR
14	全体のまとめ	春学期を振り返る
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：谷本寛治編著『CSR経営』中央経済社

◇参考書：井上善海・佐久間信夫編著『よくわかる経営戦略論』ミネルヴァ書房

【履修条件等】

◇授業中に他の学生に迷惑をかけないこと（私語、携帯電話・スマートフォンの操作・音楽プレイヤーの使用などを禁じます）。「経営戦略論Ⅰ」、「経営戦略論Ⅱ」を通年で履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学・経営戦略は、世界・日本の経済と連動していますので、新聞やニュースをよく注視してください。翌週の講義内容について、事前にテキストに目を通すように努力しましょう。

【その他の注意事項】

◇学外講師の方も、授業に参加していただくこともありますので、遅刻しないようにしてください。

経営戦略論Ⅱ	オガワ タツヤ 小川 達也
Strategic Management Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。経営戦略の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題方針をしっかりと論述できること。	20%
評価の方法 授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。 成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。 授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方、本試験の結果について
2	競争優位の構築①	競争優位の源泉とコア・コンピタンス経営
3	〃 ②	特許を活用した戦略展開
4	〃 ③	知的財産権の役割と戦略的重要性
5	経営資源の展開①	経営戦略と経営資源の関係
6	〃 ②	経営資源の蓄積と経験効果の戦略的活用
7	〃 ③	P P M（プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント）の意義
8	〃 ④	P P Mの基本戦略とG Eのビジネススクリーン
9	〃 ⑤	P P Mの応用展開：M&A（企業の合併と買収）の意思決定
10	ドメインの意義①	ドメインの役割
11	〃 ②	ドメインの物理的定義と機能的定義
12	〃 ③	ドメイン・コンセンサス
13	〃 ④	ドメインの再定義
14	〃 ⑤	ドメインの選択と集中の重要性
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施します

【使用教材】

◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文舘出版、2006年

◇参考書：大滝精一、金井一頼、ほか著『新版・経営戦略—論理性・創造性・社会性の追求』有斐閣アルマ、2006年

【履修条件等】

◇この科目は、春学期開講の「経営戦略論Ⅰ」の単位修得者を対象に進めます。「経営戦略論Ⅱ」を履修する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項の説明に加えて、春学期に実施した「経営戦略論Ⅰ」の本試験の結果を解説します。今後、学習する上で参考になる内容を取り上げますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

経営戦略論Ⅱ	クロダ ヒデオ 黒田 秀雄
Strategic Management Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

景気の状態は大変不透明感があり、経営戦略には有効性がないといわれることもあります。そのような状況の時にこそ、経営戦略やビジネスモデルへの振り返りが必要です。そこで、秋学期は、さらに企業の環境戦略や経営上の各種問題点に焦点を当てた経営戦略を分析し論じていきたい。さらに、日本の新興国開拓上でライバルとなる韓国企業の優れた点も、サムソン・LG・現代自動車の比較をしながら検証して行きます。また新しい経営戦略の視点である「BOPビジネス戦略」に対しても、本学の「BOPビジネス研究会」を通じた内容について披露していきたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営戦略論の基本をさらに掘り下げ、基本的な理論を理解する	設問に対する回答によって評価する。秋学期に学ぶべき理論の基礎を理解する。また事例の中から、その理論の内容をさらに理解する。	20%
基本的な理論につき、その理論について説明できるようにする	各種の設問の回答によって評価する。学んだ事業戦略や経営戦略が、具体的な企業活動の中で、実際にどのように活用されているかの理解を深める。	20%
基本的な理論を活用するために、各種の手法を学び、内容を理解する	レポートに対する回答によって評価する。企業の置かれている市場を理解し、分析手法を学び、実際に企業として、どのように経営戦略として活用しているかについてさらに理解する。	25%
経営戦略論の全体像を顧みながら、自分の言葉で説明できるようにする	期末試験によって評価する。授業内で紹介した数々の事例を理解し、事業戦略から展開する経営戦略論の重要性を理解し、自分の言葉で表現できるようにする。	25%
評価の方法 授業参加度20%、レポート40%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	秋学期の全体像のガイダンス
2	企業経営と環境Ⅰ	企業経営に及ぼす環境問題
3	企業経営と環境Ⅱ	企業の経営戦略と環境問題
4	企業と地域社会	企業市民（企業）としての地域社会との付き合い方は？
5	企業と非営利組織	企業とNPO・NGO・ソーシャルアントレプレナーと関係性
6	企業のデザイン戦略	企業のデザイン戦略を考える！
7	金融機関の経営戦略	規制業種の金融機関の経営戦略とは？
8	企業と取引先	企業の戦略と下請け企業の関係性とは？
9	企業とガバナンス	企業にとってのコーポレートガバナンスのあり方とは？
10	韓国企業の経営戦略	韓国企業はなぜ強い。サムソン・LG・現代自動車の比較分析
11	グローバル企業戦略	グローバル企業の経営戦略とグローバル人材について
12	学外講師の講演	世界で活躍する企業の方をお招きします。
13	経営戦略とマネジメント	経営戦略が優れていても実行されなければ「絵に描いた餅」である。経営戦略とマネジメントの関係性を考える。
14	秋学期のまとめ	秋学期の全体像を振り返る
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：谷本寛治編著『CSR経営』中央経済社

◇参考書：井上善海・佐久間信夫編著『よくわかる経営戦略論』ミネルヴァ書房

【履修条件等】

◇授業中に他の学生に迷惑をかけないこと（私語、携帯電話・スマートフォンの操作・音楽プレイヤーの使用などを禁じます）。「経営戦略論Ⅰ」、「経営戦略論Ⅱ」を通年で履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学・経営戦略は、世界・日本の経済と連動していますので、新聞やニュースをよく注視してください。翌週の講義内容について、事前にテキストに目を通すように努力しましょう。

【その他の注意事項】

◇学外講師の方も、授業に参加していただくこともありますので、遅刻しないようにしてください。

経営組織論Ⅰ	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Organization TheoryⅠ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、さまざまな角度からこの組織について考えていきます。

「経営組織論Ⅰ」では、社会学から見た組織論の位置づけ、組織論の歴史、組織とは何か、システムとしての組織、組織の具体的な形態について学びます。

授業は一方的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
組織の概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
組織に関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
さまざまな組織モデルの違いを理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
組織理論を応用して、具体的な方法を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具体的な方法を提案できること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度5%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	経営組織論とは	マクロ、ミクロの違い、社会学における位置づけ
2	学説(1)	科学的管理法
3	学説(2)	官僚制
4	学説(1)、(2)の問題点	ビデオによる解説
5	学説(3)	人間関係論
6	学説(4)	バーナードの組織論
7	学説(5)	サイモンの意思決定論
8	学説(6)	コンティンジェンシー理論とネオコンティンジェンシー理論
9	学説(7)	情報処理モデルと資源依存モデル
10	メタファー	メタファーとしての組織モデル
11	学説(8)	J．D．トンプソンの組織理論
12	組織構造	ライン、ファンクショナル、ライン・アンド・スタッフ
13	組織形態	職能別組織、事業部制組織、その他
14	まとめ	非合理的組織論
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する説

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

経営組織論Ⅱ	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Organization Theory Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、人間を中心に組織をとらえていきます。

「経営組織論Ⅱ」では、個人行動、モチベーション（動機づけ）、リーダーシップ、非合理的意思決定、暗黙知などについて学びます。

授業は一方的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が、理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
個人行動の傾向を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
動機づけに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
リーダーシップに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
各理論を応用した、具体的な施策を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具体的な方法を提案できること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度5%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	経営組織論とは	ミクロの組織論とは
2	個人行動(1)	個人行動とは、知覚
3	個人行動(2)	態度、パーソナリティー、
4	個人行動(3)	学習
5	モチベーション(1)	マレーの欲求リスト
6	モチベーション(2)	マクレランドらの達成欲求他
7	モチベーション(3)	マズローの欲求5段解説
8	モチベーション(4)	アージェリスの不適合理論
9	モチベーション(5)	ハーズバーグの二要因理論
10	モチベーション(6)	ハルの動因理論と期待理論
11	モチベーション(7)	ポーター＝ローラーの期待理論とアダムスの公平理論
12	リーダーシップ(1)	特性理論と行動理論
13	リーダーシップ(2)	状況理論
14	認知的不協和	センスメイキング他
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

人的資源管理論 I	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Human Resource Management I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

働く人間というのは生産のための手段であると同時に感情を持つ存在でもあります。人間を「資源」として捉えると、モノ扱いしてしまうように聞こえてしまいます。やはり感情を持つ存在という点を無視してはいけません。感情を持つ資源という認識のもとでいかに管理するのか、この点について講義していきます。講義はレジュメに沿って進めていきます。また、DVDなどの映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人的資源管理の「目的・歴史・制度」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「人的資源管理の目的・歴史・制度」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「終身雇用・年功序列・企業別労使」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「終身雇用・年功序列・企業別労使」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「多様な働き方・ワークライフバランス」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「多様な働き方・ワークライフバランス」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「バブル経済後の人的資源管理の状況」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「バブル経済後の人的資源管理の状況」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
評価の方法 期末試験55点、レポート・小テストなど30点、受講態度15点 ※レポート試験を1回行う予定。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法など
2	人的資源管理の目的	人的資源管理の役割と目的とは何か
3	人的資源管理の歴史①	人的資源管理はどのように生まれてきたか
4	人的資源管理の歴史②	人的資源管理はどのように発達してきたか
5	人的資源管理の制度	人的資源管理の制度
6	日本の人的資源管理①	日本の人的資源管理はどのように発展してきたか
7	日本の人的資源管理②	終身雇用慣行とは何か
8	日本の人的資源管理③	年功序列慣行とは何か
9	日本の人的資源管理④	企業別労使関係とは何か
10	多様な働き方	パート・アルバイト・契約社員
11	多様な職業人生	ワークライフバランス
12	現代日本の人的資源管理	【レポート課題】
13	現代の人的資源管理①	バブル経済後の人的資源管理
14	現代の人的資源管理②	経営戦略と人的資源管理
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岩出博著『新・これからの人事労務（改訂版）』泉文堂

※レジュメを配布します。

レジュメには教科書にない情報も追加していきます。

【履修条件等】

◇必ず「人的資源管理論Ⅱ」と併せて履修するように。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所を事前に目を通してくること。

◇配付資料の人事管理に関するキーワードを調べること。

【その他の注意事項】

◇基本的にレジュメの再配布はしませんので注意してください。

◇レポートの提出を求めます。詳細は初回授業時に連絡します。

人的資源管理論Ⅱ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Human Resource Management Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

働く人間というのは生産のための手段であると同時に感情を持つ存在でもあります。人間を「資源」として捉えようと、モノ扱いしてしまうように聞こえてしまいます。やはり感情を持つ存在という点を見逃してはいけません。感情を持つ資源という認識のもとでいかに管理するのか、この点について講義していきます。講義はレジュメに沿って進めていきます。また、DVDなどの映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「従業員の採用・雇用調整」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「従業員の採用・雇用調整」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員の配置と育成」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「従業員の配置と育成」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員能力の発揮と活用」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「従業員能力の発揮と活用」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員の評価と処遇」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対する回答により評価。 「従業員の評価と処遇」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
評価の方法 期末試験55点、レポート・小テストなど30点、受講態度15点 ※レポート試験を1回行う予定。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法など
2	人的資源管理の機能	経営における人的資源管理の機能
3	従業員の採用①	新卒採用の手続き
4	従業員の採用②	新卒者の早期離職と雇用のミスマッチ
5	雇用調整	従業員の離職・退職と雇用調整
6	従業員の配置と育成①	人事異動制度の内容
7	従業員の配置と育成②	教育訓練・能力開発
8	従業員能力の発揮と活用①	従業員業績の向上の公式とメカニズム
9	従業員能力の発揮と活用②	職場管理者のリーダーシップ
10	従業員能力の発揮と活用③	労働環境の快適化と新たな勤務形態
11	現代日本の人的資源管理	【レポート課題】
12	従業員の働きぶりの評価と処遇①	人事評価制度の手続き
13	従業員の働きぶりの評価と処遇②	処遇評価の成果主義化
14	従業員の働きぶりの評価と処遇③	今日の福利厚生
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岩出博著『新・これからの人事労務（改訂版）』泉文堂

※レジュメを配布します。

レジュメでは教科書にない情報も追加していきます。

【履修条件等】

◇必ず「人的資源管理論Ⅰ」と併せて履修するように。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所を事前に目を通してくること。

◇配付資料の人事管理に関するキーワードを調べること。

【その他の注意事項】

◇基本的にはレジュメの再配布はしませんので注意してください。

◇レポートの提出を求めます。詳細は初回授業時に連絡します。

認知心理学	フカザワ ノブユキ 深澤 伸幸
Cognitive Psychology	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

科学として発展してきた心理学が今日までに解明し得た、「人間の心理と行動」の法則や原理について認知の視点から解説し、行動の発生機序を正しく理解できることを到達目標とする。とくに人間の心理の働きに基づいて生じる行動の仕組みを、知覚特性や知覚体制に始まり、認知における記憶の仕組みまでを学び、我々が日常無意識で行っている行動の発生メカニズムを考える。本講義は講義形式を主体とするが、学生諸君の学習意欲の向上と理解の深化をねらいとして、可能な限り小実験や集団討議法も随時用いる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
脳における機能の働きを理解する	心の働きや行動の基になる脳における働き、神経節とシナプスとの関係を学び、身体における生理学の基礎への理解力を評価基準とする。	25%
我々が身の周りの環境を把握する際に関わる知覚の特性を理解する	感覚器を通じて外部環境から取り入れた知覚情報を基に、我々は身の周りの環境を意味づけているが、その際知覚情報が外部の環境内容と異なることがある。知覚に関する恒常性、錯視現象やプレグナンツ（群化）の法則への理解力を評価基準とする。	25%
我々が行うさまざまな学習とそれを支える記憶システムの特性を把握する	記憶の仕組み、記憶の種類、および記憶の変容への理解力を評価基準とする。	25%
安全な行動と不安安全で危険な行動の発生メカニズムを理解する	我々が行動を起こす際に、無意識の内に安全－危険という判断を行い、この主観的な判断をリスク・パーセプションと呼んでいる。この判断過程への理解力を評価基準とする。	25%
評価の方法 試験50%、記憶に関するレポート30%、レポート20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義概要と授業のすすめ方、心理学史
2	大脳・神経節の仕組み	大脳の構造、神経節（シナプス）の働き
3	感覚特性	感覚器の特性、知覚可能範囲、ファントムリム現象
4	知覚特性①	知覚特性、知覚の恒常性、仮現運動
5	知覚特性②	環境と知覚内容との関係、錯視図形
6	知覚特性③	感覚遮断実験、感情の歪み、幻視
7	内部情報処理過程	トップダウン処理とボトムアップ処理、
8	知覚の働きと日常行動	道路環境と視覚的な探索行動、事故発生と視覚的な方略
9	記憶の働き①	無意味綴り、記憶の系列位置効果、
10	記憶の働き②	記憶の仕組み、記憶忘れ、記憶の変容、
11	記憶の働き③	記憶の種類、覚えている記憶、知っている記憶
12	記憶の働き④	記憶内容、カラー（色）イメージ、測定技法
13	記憶の働き⑤	記憶化された色に対する特性
14	リスク・パーセプション	リスク・パーセプションと行動
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇深澤伸幸著『ヒューマンエラーの心理学入門』国際文献社

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回授業終了時に次の講義内容を紹介するので、次回までにHPで調べること。

【その他の注意事項】

◇毎回、学習内容の到達レベルを把握するため、授業終了時に振り返りシートへの記述を求め、これをレポートとみなし、学習意欲・態度点として評価する。

◇出席率を重視し、いかなる場合も欠席率が3分の1を超えた場合は履修放棄とみなす。

パーソナリティ心理学	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一
Psychology of Personality	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

今日まで心理学界で解明されてきた人間について知識のうち、パーソナリティ（性格）に関する事柄をわかりやすく解説し、身近な学問として正しく理解してもらうことをねらいとしています。そのねらいの実現のために、人間のパーソナリティ（性格）に焦点を合わせ、そして関連した事項を解説します。主に講義形式で授業を進め、必要に応じて各種心理検査などの実習などを組み込んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
パーソナリティを理解すること	パーソナリティの基本的知識を理解できているか評価する。	10%
パーソナリティの形成を理解すること	パーソナリティがどのように形成されるかを理解できているかで評価する。	30%
パーソナリティの理論を理解すること	パーソナリティの基本的理論を理解できているかで評価する。	10%
パーソナリティの測定を理解すること	パーソナリティを測定するにはどのような方法があるかを理解できているかで評価する。	20%
パーソナリティに関連する事項の理解すること	多重人格などパーソナリティに関連する知識を理解できているかで評価する。	10%
評価の方法 出席は3分の2以上が単位認定の条件。 平常点(授業参加度、小レポートなど)20%、レポート30%、最終試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	(1) パーソナリティとは
2	パーソナリティの基本	(1) パーソナリティとは
3	パーソナリティの形成	(1) 生得説 (2) 経験説
4	パーソナリティの形成	(3) 両極説
5	パーソナリティの形成	(4) 環境閾値説
6	パーソナリティの理論	(1) 類型説
7	パーソナリティの理論	(2) 特性説
8	パーソナリティの測定	(1) 基本的な考え方
9	パーソナリティの測定	(2) 質問紙法
10	パーソナリティの測定	(3) 質問紙法の実習
11	パーソナリティの測定	(4) 作業検査法
12	パーソナリティの測定	(5) 投影（映）法
13	パーソナリティの測定	(6) 投影（映）法の実習
14	パーソナリティの応用	(1) 多重人格
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇小塩真司著『パーソナリティ心理学』サイエンス社

【履修条件等】

◇「心理学概論」履修後が望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇出席し前向きに自ら学ぶこと。

キャリア発達心理学	イナミ カズエ 伊波 和恵
Career Development	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

一生涯を通じて、私たち人間はつねに発達し続ける存在です。この講義では、生涯発達心理学の観点から、胎生期から死に至るまでを範囲とし、とくに成人期に焦点をあて、人の心理社会的な変化のプロセスに関する知識と考え方を学びます。学習を通じて、人間理解の幅を世代的におし広げ、考察を深められるようにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生涯発達心理学の理論	試験の設問に対する解答によって評価。生涯にわたる心理社会的発達に関する概念の定義や用語について適切に答えることができ、また説明できる。	10%
各年代の固有の特徴	設問に対する解答によって評価。胎生期～成人期～老年期、死にいたる人生の各段階における心理的危機と社会的適応について理解が十分であること。	25%
成人期の課題と社会性の発達	レポート課題・設問に対する解答によって評価。働き盛りである成人期中期の心理社会的特徴を理解し、社会性に注目して考察を適切に行えること。	35%
キャリア発達	レポート課題ならびに設問に対する解答によって評価。とくに成人期の能力(キャリア)発達に関する基本的な枠組みや、それらの意義について理論や実践を通じて理解し、的確に答えられること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、平常点(ミニレポート・授業参加度等)20%・試験(持込一切不可)60%・レポート(中間試験に代わる課題)20%を勘案して、総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	生涯発達とは？	生涯発達心理学の考え方、発達段階説
2	胎生期	胎生期の発達
3	乳幼児期(1)	心身の発達、愛着関係、社会性／相互作用性の発達
4	乳幼児期(2)	認知的発達
5	乳幼児期(3)	情緒的発達
6	児童期(1)	認知的発達
7	児童期(2)	社会性の発達
8	青年期(1)	思春期と青年期、マージナルマンとしての青年
9	青年期(2)	アイデンティティと職業選択、モラトリアム、社会的ひきこもり
10	成人期(1)	職業的キャリア
11	成人期(2)	ワークライフバランス／ワークライフコンフリクト
12	成人期(3)	働き盛りとメンタルヘルス
13	老年期(1)	老年期の特徴、健康な老い、QOLとADL
14	老年期(2)	認知症、エンディング
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：藤村宣之 編著『発達心理学一周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本）』ミネルヴァ書房
- ◇参考書：菅野幸恵・他『エピソードで学ぶ赤ちゃんの発達と子育て—いのちのリレーの心理学』新曜社
岡本依子・他『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学—関係のなかでそだつ子どもたち』新曜社
岡村一成 監修『ゼロから学ぶ経営心理学』学文社、その他、講義中に紹介。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇テキストの関連箇所を熟読しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇授業中のスマートフォン、携帯電話等の電子機器類の使用は原則として認めない。
- ◇課題は期日どおりに提出すること。

キャリア発達心理学	マツダ ミトコ 松田 美登子
Career Development	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

「人生とキャリア」をメインテーマに、一生涯の長いスパンからキャリアを考える。「仕事探しは自分探し」として、自己理解を図るための心理テストやワークシートを施行する。さらに、コミュニケーション・スキルを高めるための体験（ワーク）を行う。最後には、それらをまとめて「セルフ・ポートフォリオ」を作成する。「セルフ・ポートフォリオ」は自己PRにも活用して欲しい。自己とキャリアについての理解や関心を深めることでキャリア設計に対して前向きに対処できるようになることを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人間の一生（生涯発達）とキャリアとの関連性について理解する	試験による評価。人間の発達段階について学習する。発達段階とキャリア観の発達との関連性について理解する。自己とキャリアについての関心を深めることで、キャリア設計に対して前向きに対処できるようになる。	50%
自分を内省し自己理解を図るための課題を実施する	心理テストやワークシート等の課題の提出により評価する。複数の心理テストとワークシートを実施するため、欠席するとかかなりの負担となる。心理テストやワークシートの施行を通じて自分と向き合い自己理解を図ることができる。	20%
「セルフ・ポートフォリオ」を作成する	「セルフ・ポートフォリオ」を作成し提出することで評価する。心理テストやワークシートを通じてさまざまな視点で自分を見つめ自己理解を図ることができる。さらに、これらをまとめて「ポートフォリオ」として仕上げる。言わば、「自分の統合」である。これにより、自分を客観的に理解することができる。	20%
コミュニケーション・スキルを高める	小グループによる体験（ワーク）に意欲的に参加することで評価する。アサーション（さわやかな自己表現）について学ぶ。さらに、実際に体験することで、コミュニケーション・スキルを高める。	10%
評価の方法 ①平常点（授業後のリアクションペーパーの提出）10% ②レポートおよび宿題提出、ワーク（体験学習）40% ③定期試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義の進め方および評価方法についての説明
2	キャリアとは	キャリアについての定義・分類
3	人生とキャリア	生涯発達の視点からキャリアを考える
4	青年期の発達と危機	アイデンティティ拡散と職業未決定
5	成人期の発達と危機	職業的アイデンティティと職場環境への不適応
6	中年期以降の発達危機	人生後半を生きる キャリア観の問い直し
7	ライフサイクル・プランニング	誕生から死までのライフラインを描いてみよう
8	自己とキャリアの探求①	キャリアの3条件 パーソナリティを知る(性格)
9	自己とキャリアの探求②	好きなことを知る(職業興味) 得意なことを知る(強み)
10	ストレス・マネジメント①	自分のストレスを測ってみよう！
11	ストレス・マネジメント②	ストレス・コーピング(ストレス対処法)を知る
12	コミュニケーション力を高める①	自分のコミュニケーション・タイプを探る
13	コミュニケーション力を高める②	アサーション(自己表現)のワーク
14	自己PRに活かす	「セルフ・ポートフォリオ」作成
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用しない（適宜、プリントを用意します）。

【履修条件等】

◇自分自身の人生設計、キャリア・マネジメントに興味がある方。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示した重要事項の内容を調べておくこと。

◇宿題が与えられた際は、提出できるように仕上げておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

職場の健康心理学	イナミ カズエ 伊波 和恵
Workplace Health Psychology	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

こころの健康（メンタルヘルス）に関する心理学の理論と実践について、講義形式で学習します。私たちの日常生活における心理的ストレス、適応に関する基礎知識を、講義を通じて習得します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
健康心理学関連の専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	試験の設問に対する解答によって評価。概念の定義や種類に関する用語を適切に答えることができ、また、適切に説明できること。	20%
メンタルヘルスと職業生活・社会生活がどのように関連するかを理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。メンタルヘルス、ストレスが個人の身体や健康や職業生活、社会生活とどのように関わっているかについて説明できること。	20%
自己理解と性格分析を、ツールを用いて客観的に測定したうえで、適切に内省を行える	日々のミニレポート課題、ならびにレポート課題によって評価。心理検査類を用いた客観的測定と自己洞察を適切に行えること。	40%
メンタルヘルスの重要性について理解し、その知識や方法を知り、予防やケアに役立てられるようにする	設問に対する解答によって評価。メンタルヘルスケアの基本的な枠組みや方法、それらの意義について理解し、ケアや予防の方策について答えられること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、平常点(ミニレポート・授業参加度等)20%・試験(持込一切不可)60%・レポート(中間試験に代わる課題)20%を勘案して、総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	メンタルヘルスとは？	メンタルヘルス・ストレスとは
2	ストレスの基礎理論①	心と身体の関係：セリエの汎適応症候群など
3	ストレスの基礎理論②	ストレスの捉え方：ラザラスのストレス理論など
4	ストレスの基礎理論③	ストレスと性格：防衛機制・ストレスコーピングなど
5	社会生活とストレス①	社会・対人関係：成人期の心理社会的発達とキャリア発達
6	社会生活とストレス②	社会的適応－不適応①：さまざまな生活の場での適応
7	社会生活とストレス③	社会的適応－不適応②：事例検討
8	職場のメンタルヘルス①	職場のメンタルヘルス：予防とケアの基本的な考え方
9	職場のメンタルヘルス②	セクシュアル・ハラスメント
10	職場のメンタルヘルス③	心身症、気分障害（うつ病）
11	ストレス・マネジメント①	ストレスのアセスメント、ストレス緩和とリラクゼーションなど
12	ストレス・マネジメント②	ストレス緩和とソーシャルサポートなど
13	職場環境と心理的ケア①	カウンセリングの理論と技法：受容と傾聴
14	職場環境と心理的ケア②	カウンセリング：対処－予防、セルフケア、専門家によるケア
15	まとめ	メンタルヘルスと心理カウンセリング

【使用教材】

◇教科書：とくに指定なし。

◇参考書：岡村一成 監修『ゼロから学ぶ経営心理学』学文社。

その他、講義中に紹介。

【履修条件等】

◇「心理学」（教養科目）の単位を取得（見込）していること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書の関連箇所を熟読しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業中のスマートフォン、携帯電話等の電子機器類の使用は原則として認めない。

◇課題は期日通りに提出すること。

◇授業の中で個人またはグループワーク課題を行うことがある。遅刻をしないこと。

◇民間資格である「メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種（大阪商工会議所）」の取得を念頭に置いて学習を進めるとよい。

産業カウンセリング	イナミ カズエ 伊波 和恵
Industrial Counseling	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

長い人生の中で、公私にわたってつねに心のバランスを保ち、状況に適応し続けることは、誰にとっても難しい課題です。時として心理的なサポートを必要とする病理的な出来事もしばしば起こるものです。この講義では、ビジネスパーソンの心身の健康（メンタルヘルス）、メンタルケア、能力（キャリア）開発に関する心理カウンセリングの基礎的知識と方法論について学びます。オフィスで行われている産業カウンセリングの基本的な手法と代表的理論ならびに考え方の習得を目標としています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
産業カウンセリングの理念と理論	試験の設問に対する解答によって評価。産業カウンセリングに関する概念の定義や用語について適切に答えることができ、また説明できること。	20%
対象者の理解とリソースの活用	設問に対する解答によって評価。対象者の状態を把握し（アセスメント）、心理社会的要因としてのストレスが個人のメンタルヘルスや職業・社会生活とどのように影響を及ぼすかについて説明できること。また、治療に際し、さまざまなリソースを活用することへの理解が十分であること。	20%
代表的な心理カウンセリング理論	レポート課題ならびに設問に対する解答によって評価。それぞれの理論の特徴と展開、適用を理解し、相互に比較しながら、考察を適切に行えること。	35%
産業場面における心理カウンセリングの方法論	設問に対する解答によって評価。心理カウンセリングならびに方法論に関する基本的な枠組みや方法（技法含む）、それらの意義について理解し、カウンセリングの方法についての的確に答えられること。 心理社会的ケアと能力（キャリア）開発の2側面について論じられること。	25%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、平常点（ミニレポート・授業参加度等）20%・試験（持込一切不可）60%・レポート（中間試験に代わる課題）20%を勘案して、総合的に評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	産業カウンセラーとは？
2	産業カウンセリング①	歴史、役割、職能、日本での現状、EAP、CDP
3	対象者の理解①	アセスメント論
4	対象者の理解②	アセスメント法
5	カウンセリング理論①	心身二元論、ストレス理論、メンタルケア
6	カウンセリング理論②	クライエント中心療法
7	カウンセリング理論③	精神分析理論
8	カウンセリング理論④	論理療法、認知行動療法、システム論的アプローチ
9	精神病理	精神病理と精神医学的治療カウンセラーの役割、リエゾン
10	カウンセリングの技法	カウンセラーの態度、傾聴、質問
11	能力開発①	自己覚知、スキルの開発
12	能力開発②	さまざまなセルフマネジメント
13	キャリア開発①	生涯のライフプランとキャリア発達
14	産業カウンセリング②	事例
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくに指定なし。

◇参考書：岡村一成 監修『ゼロから学ぶ経営心理学』学文社
その他、講義中に紹介。

【履修条件等】

◇「心理学」、「職場の健康心理学」の単位を取得（見込）していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇紹介した参考書の関連箇所を熟読しておくこと。

◇メンタルヘルスに関するニュース記事を日頃からチェックしておくこと。

◇“傾聴”などの技法については、知識にとどめず、日常生活の実践を心がけること。

【その他の注意事項】

◇授業中のスマートフォン、携帯電話等の電子機器類の使用は原則として認めない。

◇課題は期日どおりに提出すること。

◇授業の中で個人またはグループワーク課題を行うことがある。遅刻をしないこと。

◇民間資格である「メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種（大阪商工会議所）」の取得を念頭に置いて学習を進めるとよい。

産業臨床心理学	イナミ カズエ 伊波 和恵
Industrial Clinical Psychology	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義では、ビジネスパーソンの心身の健康（メンタルヘルス）、心理的ケア、能力（キャリア）開発に関する心理カウンセリングの基礎的知識と方法論を応用的に用い、事例検討していきます。オフィスで行われている産業カウンセリングの基本的な手法と代表的アプローチの知識を踏まえて、実践的に考察します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
産業カウンセリングの理念と代表的な理論	試験の設問に対する解答によって評価。産業カウンセリングに関する概念の定義や用語、理論について適切に答えることができ、また説明できること。	20%
対象者、病態の理解と治療計画、リソースの活用	設問に対する解答によって評価。対象者の状態や病態を把握し（アセスメント）、心理社会的要因としてのストレスが個人のメンタルヘルスや職業・社会生活とどのように影響を及ぼすかについて説明できること。また、治療に際し、さまざまなリソースを活用することへの理解が十分であること。	30%
産業場面におけるメンタルヘルスケアの実際	レポート課題、小レポートならびに設問に対する解答によって評価。メンタルヘルスケアを産業場面で行う意義について、事例を踏まえて十分に考察しうること。	30%
産業場面における心理的ケア	設問に対する解答によって評価。産業場面におけるセルフケア、ラインケアの重要性に関する理解が十分であること。産業カウンセリングについての、心理社会的ケアと能力（キャリア）開発の2側面について十分に論じられること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、平常点（ミニレポート・授業参加度等）20%・試験（持込一切不可）60%・レポート（中間試験に代わる課題）20%を勘案して、総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	産業臨床心理学とは？
2	産業カウンセリング	歴史と日本での現状、EAP・CDP、役割
3	対象者の理解①	アセスメント論
4	対象者の理解②	アセスメント法
5	基礎理論	心身二元論、ストレス理論、メンタルケアとその事例
6	事例①	うつ
7	事例②	統合失調症・アルコール依存症
8	事例③	不適応障害
9	事例④	発達障害
10	事例⑤	キャリア開発
11	事例⑥	予防の取り組み
12	事例⑦	復職支援の取り組み
13	事例⑧	若年性認知症
14	まとめ	セルフケア・ラインケア
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくに指定なし（配付資料を用意する）。

◇参考書：『マネジメントの心理学』ミネルヴァ書房、その他、講義中に紹介。

【履修条件等】

◇①「心理学」、②「職場の健康心理学」、③「産業カウンセリング」の単位を取得（見込）していることが望ましい（とくに、②③の科目で得た知識を応用するため、それらを既習である前提で進める）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配布資料については、各自熟読し、その内容の理解に努めること。

◇メンタルヘルスに関するニュース記事を、課題として、日頃からチェックしておくこと。

◇“傾聴”などの技法については、知識にとどめず、日常生活の実践を心がけること。

【その他の注意事項】

◇授業中のスマートフォン、携帯電話等の電子機器類の使用は原則として認めない。

◇課題は期日どおりに提出すること。

◇授業の中で個人またはグループワーク課題を行うことがある。遅刻をしないこと。

◇民間資格である「メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種（大阪商工会議所）」の取得を念頭に置いて学習を進めるとよい。

心理検査法	サトウ エミ 佐藤 恵美
Psychological Testing	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

「こころ」は目に見えず、中に何が入っているか分からないブラックボックスである。この中には、その人間の行動の基礎となるパーソナリティ、知能、態度、適性、モチベーションなどさまざまな要素が入っているが、ものさしを当てたり、重さを量ることはできない。これを測るには、見えないものを数値化し、ある規則性を持つものとして心理測定の技法が必要である。心理測定は、他者との比較や、ある時点からの個人内での変化を把握することができるので、入学試験、就職活動、企業での業績評価、購買行動など社会では多岐に渡って使用されている。本講義では、心理測定の基本的な考え方を理解することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心理検査の目的と基本理念	心理検査は、数量的に人間を把握する方法である。こころの測定とは何か、測定の目的、測定の種類（質問紙法、観察法、行動観察法、面接法）を概観し、社会の中でのこころの測定を考える。	30%
心理測定の尺度化と統計的背景	こころを数量化するための方法として、尺度化と数値化を理解する。初期の心理学の測定法である精神物理学的測定法を理解するために実験を通して、感覚の測定と数値化、統計的手法の理解を目指す。	30%
パーソナリティと知能の測定	パーソナリティの定義とその理解の方法について、概観する。また、パーソナリティの一側面である知能と適性の考え方とその測定法を理解する。ここから、企業で使用されている能力とパーソナリティの測定と人格の把握とその評価法について理解する。	20%
動機づけの測定	企業における職務と職場に対する個人の適応とその測定を理解する。さらに、無意識レベルの欲求と動機に関する測定として、購買動機の調査と測定に関して理解する。	20%
評価の方法 本試験50%、レポート30%、平常点（授業態度など）20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	心理検査とは	こころの測定と検査法
3	心理測定の種類	質問紙法・観察法・面接法・実験法
4	数量化と尺度化	心理現象の数量化と尺度化
5	感覚の測定	精神物理学的測定法とミュラーリヤーの実験
6	変動と確率(1)	偶然の規則性と正規分布
7	変動と確率(2)	平均値と標準偏差、パーセンタイル
8	変動の意味と偶然性	変動の意味と偶然性
9	仮説の検定	仮説の検定と平均値の比較
10	パーソナリティの測定	パーソナリティの理解と測定法、人事部門での測定法
11	知能の測定	知能の測定と企業での能力検査
12	適性と職務満足の測定	職務と職場に対する個人の適応とその測定
13	購買動機の調査と測定	無意識レベルの欲求と動機に関する測定
14	信頼性と妥当性	信頼性と妥当性の考え方
15	総括、達成度の確認	総括および学習達成度の確認のためのテスト

【使用教材】

◇教科書：塩見邦雄・金光義弘・足立明久編『心理検査・測定ガイドブック』
ナカニシヤ出版、2004年

【履修条件等】

◇教科書に沿って進行し、図や表を見ながら進めるので、教科書は必ず持参すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇レポートなどの提出物は必ず提出すること。

◇電卓が必要な時もあるので、その際は持参すること。

経営心理学研究法	フカザワ ノブユキ 深澤 伸幸
Business Psychology Study Methods	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

心理学は心の働きを解明する学問であり、見ること、触ることのできない（実在しない不可視の）現象を取り扱うものである。たとえば性格とか知能と呼ばれるものも実在せず、仮説構成概念である。その一方で、心理学は「不可視の現象」を「可視化」するための手法を開発している。本授業では可視化するための方法として実験法や質問紙法を取り上げ、心の働きを数値化する基本的な手続き・方法を学び、各自が実際に使用できるまでを到達目標とする。授業は講義が中心ではあるが、各人の実習・レポートの作成に重点を置く。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心理学研究方法における基礎知識を正しく理解できる	心理学研究方法のひとつである心理検査の種類と特性、および心理検査が具備すべき妥当性、信頼性といった基礎的な専門用語を正しく理解できること。	30%
心理学研究法を用いる際に必要となる基本的な統計技法を正しく理解できる	表計算シートであるエクセルを用い、平均値、分散、標準偏差などの基本的な統計知識を正しく理解できること。加えてt-検定、分散分析などの基本的な統計技法を正しく使うことができること。	20%
実験法を用いて正しく測定を行え、レポートが作成できること	実験法において、測定時に実施される上昇系列法、下降系列法、恒常法といった基礎的知識を正しく理解でき、レポートを完成できること。加えて表計算シートであるエクセルを活用できること。	30%
質問紙を作成し、その結果を分析でき、レポートが作成できること	各人で実際に調べてみたいテーマを探し、そのテーマを調べるための質問用紙を作成でき、得られたデータの分析、結果および考察までの一連の手続きを通じ、レポートが作成できること。加えてエクセルを用いて統計検定を行うことができること。	30%
評価の方法 試験40%、レポート60% ※レポートは①実験結果のレポート30%、②質問紙を用いた結果のレポート30%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義概要と授業のすすめ方、心理学研究法とは何か
2	心理学研究法の基礎知識①	心理検査の種類と特性、性格検査、投影技法
3	心理学研究法の基礎知識②	妥当性、信頼性
4	統計に関する基礎的知識①	数値の意味、平均値、分散、標準偏差
5	統計に関する基礎的知識②	平均値や分散に関する計算実習（エクセル使用）
6	統計に関する基礎的知識③	統計検定法、t-検定法、F 検定法
7	統計に関する基礎的知識④	t-検定法やF 検定法を用いた計算実習（エクセル使用）
8	実験法①	測定方法、上昇系列法、下降系列法、恒常法
9	実験法②	測定実習
10	実験法③	レポート作成・提出
11	質問紙法①	質問紙の作成、データ収集
12	質問紙法②	P Cを用いてデータの入力・分析実習（エクセル使用）
13	質問紙法③	統計検定法を用いたデータ分析実習（エクセル使用）
14	質問紙法④	レポート作成・提出
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、随時資料を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回授業終了時に次回の講義内容を紹介するので、次回までにH Pで調べること。

【その他の注意事項】

◇実習・レポートを重視するため、全出席することが条件である。

◇出席率を重視し、いかなる場合も欠席率が3分の1を超えた場合は履修放棄とみなす。

社会心理学Ⅰ	サトウ エミ 佐藤 恵美
Social Psychology I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

社会心理学は人間がその場の状況や他の人々社会とのかかわりの中で、どのような影響を受けて行動するのかという視点から、実証的な研究を通して人間を研究する学問である。

本講義では、社会的な人間の行動を“社会の中の個人”と“個人と集団・組織との関わり”の観点から理解することを目的とする。「社会心理学Ⅰ」では社会の中での個人と対人関係に焦点を当て、社会の中で生活する個人のパーソナリティの認知、他者理解のための対人認知、他者のパーソナリティの認知の観点を解説し、自己や他者のパーソナリティ理解を深めることを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己とパーソナリティ	自己概念、自己評価、自尊心など自己に関するさまざまな側面から「自分とは何か？」を考える。そこから、社会の中で生活するパーソナリティの側面に目を向け、他者と関わる自己について理解する。	30%
対人認知と社会的認知	他者を認知し、性格を推測する対人認知の分野を概観する。個人の認知スタイルはその人の原因帰属によって環境の捉え方が異なることを理解する。	30%
態度と態度変容	社会行動を予測・説明するための態度の感情的成分、認知的成分、行動的成分を概観する。さらに、態度が変化するための説得的コミュニケーションの情報処理過程について理解する。	20%
対人関係とコミュニケーション	言語的・非言語的コミュニケーションを概観し、情報伝達の影響とその認知過程を理解する。さらにコミュニケーションとしての対人行動から生じる対人葛藤の認知、感情、動機的な側面を理解する。	20%
評価の方法 本試験50%、中間試験20%、レポート20%、平常点（授業態度など）10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	社会心理学とは	社会心理学とは
3	自己	自己の概念と形成、自己評価と自尊心
4	パーソナリティ	状況による人間行動と社会におけるパーソナリティ
5	対人認知	対人認知の特徴と暗黙の人格理論
6	帰属理論	帰属理論、対人認知と感情
7	社会的認知	ステレオタイプ、偏見と差別の認知的メカニズム
8	態度	態度とその諸属性、認知的均衡と態度変化
9	態度変化と説得	説得の受容と拒否、説得的コミュニケーション
10	攻撃と社会勢力	人間の攻撃性と社会的勢力
11	援助行動	援助行動とその規定要因
12	魅力と対人関係	対人魅力の規定因、対人関係の問題と認知の歪み
13	非言語情報	コミュニケーション手段としての非言語
14	対人葛藤と交渉	対人葛藤と認知、感情、動機
15	総括、達成度の確認	総括および学習達成度の確認のためのテスト

【使用教材】

◇教科書：潮村公弘・福島治編著『社会心理学概説』北大路書房
 （「社会心理学Ⅱ」と同様）。

【履修条件等】

◇「社会心理学Ⅱ」も合わせて履修するのが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇レポート等、提出物は必ず提出すること。

社会心理学Ⅱ	サトウ エミ 佐藤 恵美
Social Psychology Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

社会心理学は、人間がその場の状況や他の人々社会とのかかわりの中で影響を受けてどのように行動するのかという視点から、実証的な研究を通して人間を研究する学問である。

「社会心理学Ⅱ」では、“個人と集団・組織との関わり”の観点から集団行動の理解と組織での人間行動の理解を目的とする。集団の中にいる時の個人の行動として援助行動、集団意思決定と生産性、社会的勢力などを理解し、さらに組織で生じる集団構造やリーダーシップの観点から人間の行動の理解を深めることを解説する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
集団と集団過程	集団の構造、成員性、集団間の関係を通して集団が認知と行動に及ぼす影響力について概観する。 さらに、同調、集団とパフォーマンス、集団意思決定など集団内での相互作用とその影響を理解する。	30%
組織と個人	組織に所属する個人の心理や行動傾向に焦点を当て、さらに組織の構造や環境への適応に関する焦点を概観する。そこから、組織と個人の相互作用のプロセスに着目した経営組織について理解する。	30%
情報と社会	社会的ネットワークとメディアコミュニケーションについて概観する。身近な社会的ネットワークからマスメディアが構成する情報環境、さらにソーシャルネットワークとの関連性について理解する。	20%
健康と幸福	社会での適応と不適応状態の心理・行動について概観する。不適応状態におけるストレスと行動、さらに犯罪行動と集団非行を概観し、社会的な適応とストレス対処から幸福とは何かを理解する。	20%
評価の方法 本試験50%、中間試験20%、レポート20%、平常点（授業態度など）10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	集団とは	集団とアイデンティティ
3	集団間関係	集団成員性と集団同一視
4	集団過程	同調と服従、集団とパフォーマンス
5	集団意志決定	集団意志決定と集団の生産性
6	組織と個人(1)	仕事への動機づけ
7	組織と個人(2)	人事アセスメントと組織コミットメント
8	リーダーシップ	リーダーシップの歴史的変遷と現在の潮流
9	社会的公正	価値の相対性と手続き的公正、衡平理論
10	社会的ジレンマ	社会的ジレンマと協力行動
11	群集心理	群集心理、緊急時の集合行動、流言
12	情報と社会	情報と社会的ネットワーク、マスメディアと世論
13	非行と更正	犯罪原因論の発想、集団非行の発生過程と更正
14	健康と幸福	適応、ストレスとコーピング、ソーシャルサポート
15	総括、達成度の確認	総括および学習達成度の確認のためのテスト

【使用教材】

◇教科書：潮村公弘・福島治編著『社会心理学概説』北大路書房
 （「社会心理学Ⅰ」と同様）。

【履修条件等】

◇「社会心理学Ⅰ」も合わせて履修するのが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇レポート等、提出物は必ず提出すること。

マーケティング概論Ⅰ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Principles of Marketing I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングの基本的な理論と戦略について学習する。企業の経営活動の中で、マーケティングがどのような役割を担っているのかを学んだ後、戦略を立案する際に必要な分析方法や理論を中心に解説する。実在の企業や商品の例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくことも目的としている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティングの基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、マーケティングに関する用語を答えられること。	25%
マーケティング戦略立案のための環境分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な環境分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための市場分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な市場分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための競争分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な競争分析の手法について理解し、答えられること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	マーケティングとは	授業の内容とマーケティングの考え方
2	マーケティング・コンセプト	コンセプトの変遷、ニーズとウォンツ
3	マーケティングの範囲	事業領域の設定、マーケティング・マイオピア
4	マーケティングのプロセス	4 P 概念、マーケティングの実行プロセス
5	環境分析(1)	企業を取り囲む環境、機会と脅威
6	環境分析(2)	企業の強みと弱み、SWOT分析
7	市場細分化	市場細分化と細分化の切り口、ターゲットの選定
8	ポジショニング	ポジショニングマップによる分析、製品差別化
9	製品ライフサイクル	製品の寿命とライフサイクル、ライフサイクル別戦略
10	ポートフォリオ分析	ポートフォリオ・マトリックス、戦略的事業単位
11	製品・市場マトリックス	アンゾフの製品・市場マトリックスと成長ベクトル
12	競争分析	競争のファイブ・フォース、集中度の分析
13	競争優位戦略 1	競争の激しさを決める要因、参入障壁と参入阻止戦略
14	競争優位戦略 2	業界の競争戦略分析、競争の基本戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

マーケティング概論 I	ヒノ タカオ 日野 隆生
Principles of Marketing I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能のひとつであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、マーケティング論の歴史から現代社会におけるマーケティングとは何か、そしてどのように活用するか、具体的事例とともに学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	授業内小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容の製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法 授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティング・コンセプト	マーケティング・コンセプトの変遷
3	基本的戦略	マーケティングの基本的戦略
4	製品戦略①	マーケティング論における製品の概念
5	製品戦略②	製品ミックス戦略、新製品開発
6	価格戦略①	価格決定方法
7	価格戦略②	価格戦略
8	プロモーション戦略①	プロモーションの概念
9	プロモーション戦略②	プロモーションの手段
10	流通チャネル戦略①	流通チャネルの概念と類型
11	流通チャネル戦略②	流通チャネル戦略
12	関係性マーケティング	リレーションシップ・マーケティングとは何か
13	グリーン・マーケティング	グリーン・マーケティングとは何か
14	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチの意義と方法
15	総括・達成度の確認	マーケティング論の基本的な考え方について確認する

【使用教材】

◇教科書：西田安慶、城田吉孝編著『マーケティング戦略論』学文社

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

マーケティング概論 I	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principles of Marketing I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングの基礎知識から、マーケティングにおけるマネジメントの考え方、マーケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、さまざまな視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的な用語について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティングの定義、コンセプトの変遷、マーケティング・ミックス、マーケティングの範囲について答えられること。	25%
市場環境の分析について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。企業を取り巻く環境、環境を分析するための考え方などについて答えられること。	25%
消費者行動とマーケティング戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。消費者を購買に導く、動機づけやそのフレームワーク、個人的な要因について答えられること。	25%
製品戦略とブランドについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。製品のとらえ方、製品開発に関わる考え方、ブランドについて答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティングのコンセプトと基本用語	コンセプトの変遷について
3	マーケティング・ミックス	4 P の概念について
4	マーケティングの範囲	マーケティングの対象について
5	市場環境の分析 (1)	企業のミクロ環境、SWOT 分析について
6	市場環境の分析 (2)	企業のマクロ環境、人口動態環境などについて
7	消費者行動 (1)	消費者の意思決定プロセスについて
8	消費者行動 (2)	意思決定に影響する要因について
9	マーケティング戦略の基礎	市場細分化、ターゲティング、ポジショニングについて
10	製品戦略 (1)	製品のとらえ方について
11	製品戦略 (2)	サービスや組織のマーケティングについて
12	事例研究	製品戦略の事例について
13	製品開発	製品開発と製品ライフサイクルについて
14	ブランドマネジメント	ブランド・エクイティとブランド・アイデンティティについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：『現代マーケティング論』実教出版

【履修条件等】

◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある。

マーケティング概論Ⅰ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Principles of MarketingⅠ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングとは、企業と顧客との関係を良好なものとし、商品やサービスが売れ続けていくための基盤をつくる活動です。商品開発や販売促進、広告、広報、マーケティングリサーチ、流行分析など、幅広い範囲がここに含まれます。

この講義ではその考え方に慣れ親しみ、最新の具体的な事例を示しながら、マーケティングの仕事を楽しいと感じてもらえるような講義を志向します。受動的な知識取得ではなく、自分自身で情報を収集し、自分の言葉で考える訓練を取り入れます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングに関する仕事や言葉を理解し、興味・関心を持つようになる	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト等により評価。 「企業側の視点から、商品やブランド、消費行動を捉えているか、捉えようとしているか」を評価ポイントとする。	25%
マーケティングで使われる考え方の方法論に触れ、自ら実践する	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「仮説立案、ターゲティング、コンセプトを、一定のフォーマットに沿って表記できるか」を評価ポイントとする。	25%
商品開発や販売促進、広告等の計画立案の仕組みを理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「一定のマーケティング目的を達成するためのプロモーションミックス計画の概要を表記できるか」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法 評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ヒット商品の秘密を探る	身近な商品に込められた戦略とは？
2	マーケティング思想の変遷	産業・経済の変化とマーケティングの変化
3	製造業のマーケティング	商品開発、ブランド政策、4 P
4	流通業のマーケティング	顧客関係、店頭対策、物流、P B
5	マーケティングの仕事とは？	マーケティング関連の職種、業種、仕事内容
6	リサーチと仮説立案	調査手法、調査設計～分析、グラフ表現
7	ターゲティング	顧客・市場のセグメンテーション方法
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	消費者心理を考える	最近の消費者行動、消費者の本音とは？
10	コンセプトワーク	コンセプトの意義、事例研究
11	広告戦略	広告表現、媒体戦略、事例研究
12	販売促進戦略	セールスプロモーションの手法と事例研究
13	広報戦略	広報、P R 手法と事例研究
14	マーケティング計画	マーケティング計画のシミュレーション
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

◇参考書：テーマに応じて、参考資料を紹介。

【履修条件等】

◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があること。

◇講義中に議論やアイデア抽出を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに留学生は、日本の企業名や商品名についての知識を深めておくこと。

新聞を読むことや、テレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

マーケティング概論Ⅱ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Principles of Marketing Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングを実践するための基本的な戦略と理論について学習する。製品戦略、価格戦略、流通戦略、プロモーション戦略というパートに分け、それぞれの戦略を立案するための基本的な知識を習得するのが狙いである。実在の企業例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくとともに、新しいマーケティングの流れについても解説する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティング戦略に関わる専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略のアプローチ方法を理解し、マーケティング戦略に関する用語を答えられること。	20%
マーケティングにおける製品戦略と価格戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略における製品戦略の手法やブランド理論、価格戦略等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングにおけるプロモーション戦略と流通戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略におけるプロモーションの種類やアプローチ方法、流通の仕組み、流通戦略の手法等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングの最新の動向や理論について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略の最新の動向やソーシャルマーケティング、関係性マーケティングの理論について理解し、答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	マーケティング戦略とは	授業の内容とマーケティング戦略について
2	製品の基礎知識	製品の中核便益と付随機能、新製品の種類
3	新製品開発戦略	新製品の開発プロセスと事例
4	製品ミックス戦略	製品のアイテムとライン、製品ライン戦略
5	ブランド・マネジメント 1	ブランドの役割、ブランドロイヤルティ
6	ブランド・マネジメント 2	ブランド名戦略、ブランド拡張戦略
7	価格戦略 1	価格の決定方法、新製品の価格戦略
8	価格戦略 2	製品ミックス、心理面を考慮した価格戦略
9	流通の仕組み	流通の仕組みと役割、日本の流通システムの特徴
10	流通チャネル管理	チャネルの選択と管理、パワーコンフリクト
11	プロモーション戦略の基礎	プロモーションの種類、プロモーション・ミックス
12	広告戦略	目的設定と媒体の選択、メディア・ミックス戦略
13	販売促進と P R 活動	販売促進の目的設定と手段、P R 戦略
14	ソーシャルマーケティング 関係性マーケティング	非営利組織のマーケティングと社会志向のマーケティング、顧客との関係作りの戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけること。

◇「マーケティング概論Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

マーケティング概論Ⅱ	ヒノ タカオ 日野 隆生
Principles of Marketing Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能のひとつであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、伝統的なマーケティング論をもとに、サービス業を中心としたマーケティングの理論と具体的なケースを取りあげる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	授業内の小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
サービス・マーケティングの特質を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容のケースから、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法 授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	サービスの特性	サービスの概念
2	サービスに対する満足	顧客の期待と評価
3	サービスの生産管理	サービス独自の生産管理
4	サービス・エンカウンター	エンカウンターとは何か
5	サービス・ブランディング	サービス・ブランディングとは何か
6	利益の発生原理	サービス・プロフィット・チェーン
7	サービスの国際化	サービスの類型とマーケティング戦略
8	テーマパーク	テーマパークのマーケティング
9	宿泊施設	ホテル、ペンション、民宿のマーケティング
10	医療サービス	医療におけるサービスとマーケティング
11	介護サービス	介護サービスとマーケティング
12	スポーツ	スポーツ・マーケティング
13	観光	観光マーケティング
14	まちづくり	まちづくりのマーケティング
15	総括・達成度の確認	マーケティング論の基本的な考え方について確認する

【使用教材】

◇松井温文編著『サービス・マーケティングの理論と実践』五紘舎

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

マーケティング概論Ⅱ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principles of Marketing Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングの基礎知識から、マーケティングにおけるマネジメントの考え方、マーケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、さまざまな視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
価格戦略と流通戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。価格戦略、流通チャネルの構造、流通に関連する組織、チャネルの設計について答えられること。	25%
広告戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。広告の種類、広告目標、媒体戦略、表現戦略について答えられること。	25%
販売促進、PR、人的販売、リレーションシップ・マーケティングについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。販売促進の種類、PRの仕組み、人的販売の役割、リレーションシップ・マーケティングに関連するコンセプトについて答えられること。	25%
グローバルマーケティングとインターネット・マーケティングについて、理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。グローバルマーケティングの課題、インターネット・マーケティングの可能性と問題点について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、価格、流通、販売促進戦略について
2	価格戦略	価格の設定方法について
3	流通チャネル (1)	流通チャネルの構造と関連する組織について
4	流通チャネル (2)	チャネルの設計、小売業と卸売業について
5	事例研究 (1)	流通の事例について
6	広告戦略 (1)	目標や媒体の選択について
7	広告戦略 (2)	広告の表現について
8	販売促進と P R	プロモーションの種類と P R 活動について
9	事例研究 (1)	広告の事例について
10	人的販売とリレーショマーケティングンシップ	人的販売、リレーションシップ、顧客満足について
11	グローバルマーケティング	グローバル環境とマーケティングミックスについて
12	事例研究 (3)	リレーションシップマーケティングについて
13	インターネット・マーケティング (1)	インターネットを用いたマーケティングについて
14	インターネット・マーケティング (2)	インターネットを用いたマーケティングについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：『現代マーケティング論』実教出版

【履修条件等】

◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある。

マーケティング概論Ⅱ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Principles of Marketing Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

「マーケティング概論Ⅰ」の延長として、業種別・商品別マーケティングを掘り下げる応用編の講義を行います。消費財、生産財、サービス財のみならず、スポーツや技術、観光など、かつてはマーケティングの対象でなかったジャンルや、「顧客参加」、「キャラクター」、「経験価値」、「ソーシャル」、「インターネット」といった最新のトレンドも含め、具体的なケースから学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
最新のマーケティングの事例を理解し、興味・関心を持つようになる	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたケースの背景・狙い・戦略を理解したうえで、記述できるか」を評価ポイントとする。	50%
最新のマーケティングで使われる方法論に触れ、自らケースを分析する	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたマーケティングの方法論に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法 評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	近年のマーケティングトレンド	授業の進め方、近年の動向説明
2	消費財のマーケティング	飲料、食品等の商品開発と販売促進戦略
3	サービス財のマーケティング	サービス財の特性と4つの対応戦略
4	生産財のマーケティング	法人向け商品のマーケティング・営業支援策
5	スポーツマーケティング	スポーツ産業、スポーツコンテンツ活用戦略
6	キャラクターマーケティング	キャラクターを活用した事例研究
7	技術のマーケティング	技術を商品として捉えたときの戦略発想
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	顧客参加型マーケティング	顧客を企業プロセスに組み入れる戦略
10	インターパーソナルマーケティング	顧客間関係に注目した商品開発や販売促進
11	観光マーケティング	観光目的地・旅行業界のマーケティング
12	経験価値マーケティング	身体的・精神的・美的な感動のもたらし方
13	ソーシャルマーケティング	社会貢献活動とマーケティング
14	Web 活用のマーケティング	web 利用の商品開発・販売・ブランディング
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

◇参考書：テーマに応じて、参考資料を紹介。

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」を受講していること。あるいはそれと同等の知識ベースを持っていること。

◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があること。

◇講義中に議論やアイデア抽出を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに留学生は、日本の企業名や商品名についての知識を深めておくこと。

◇新聞を読むことや、テレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

消費者行動論 I	ナカジマ レイコ 中嶋 励子
Consumer Behavior I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

消費者は、どのようなことを考え、どのように購買行動を行っているのでしょうか。消費者行動は、経営学をはじめとして、心理学、社会学、行動経済学等、広い分野と関わっています。この授業では、消費者行動の基本的な理論を学びながら、事例をもとに理解を深めていきます。

また、企業が国内外でマーケティング活動を行うためには、その国・地域の文化や消費者行動を理解する必要があります。最近の事例を通して、マーケティングについても学んでいきます。

事例や課題への取り組み等の参加型の授業を通して、自分達で考えながら理解する力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と、主な研究方法について、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者行動に対する基本的な考え方、消費者行動研究の主要なアプローチ方法を理解し、答えられること。	30%
消費者行動に影響を与える内的・外的要因について理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の知覚、記憶、態度形成等について理解し、答えられること。 消費者行動が周囲の人々や社会から受ける影響要因について理解し、答えられること。	30%
企業の経営企画・マーケティング活動と消費者行動の関連を理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の行動を理解することが、企業のマーケティング活動にどのように関わるのか、具体例を通じて理解し、答えられること。	40%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、平常点20%（授業時に提出を求めるペーパーの内容で評価）、課題20%、試験60%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、内容について、消費者行動とは何か
2	研究の主要アプローチ方法	消費者行動研究の主な理論とモデル
3	消費者の知覚	消費者の知覚のプロセス等
4	消費者の記憶	消費者の記憶のプロセス
5	消費者の知識と記憶	消費者の知識・記憶
6	消費者の個人特性	消費者の個人特性
7	意思決定プロセス	消費者の意思決定プロセス
8	問題認識・情報探索	問題認識段階と情報探索段階
9	選択評価	選択・代替品の評価
10	購買意思決定	購買意思決定と状況要因
11	購買後の評価	購買後の評価とその影響
12	消費者行動と文化(1)	文化による影響
13	消費者行動と文化(2)	文化に適合させた製品開発事例について
14	消費者調査	マーケティング・リサーチの主な手法と事例
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず（授業時に配布する授業資料を使用）。

◇参考図書：青木幸弘著『消費者行動の知識』日経新書
 平久保仲人著『消費者行動論』ダイヤモンド社
 他（授業内で順次紹介）。

【履修条件等】

◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「アパレル経営」、「ショップ経営」など）を受講していることが望ましい。

◇授業内で行う課題、提出を求める課題は、必ず提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業内容に関して指定する資料（配布資料、新聞記事など）に目を通しておくこと。

◇自らも消費者であることを認識し、自分の購買行動に関心を持ち、考察すること。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

消費者行動論 I	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Consumer Behavior I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、消費者行動の基本的な考え方について学んだあと、購買行動に影響を及ぼす心理的要因について解説を行う。具体的には、商品を購入する際の意味決定プロセスや欲求との関わり、商品への関与度や態度形成が購買行動に与える影響などについて説明をする。自身の購買行動について理論的に理解できるようになるとともに、消費者行動と企業のマーケティング戦略との関わりについても理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、消費者行動に関する用語を答えられること。	20%
消費者の認知を理解し、購買行動に与える影響について説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者の知覚が商品選択や情報理解に与える影響、商品知識の構造と購買行動へ与える影響などについての理論を理解し、答えられること。	25%
消費者の心理的要因について理解し、購買行動との関わりについて説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者の欲求と動機づけが購買行動に与える影響、商品に対する関与や態度の概念を正確に理解し、情報探索行動や購買行動に与える影響について答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	消費者行動の定義と基本的な考え方について
2	問題解決としての購買行動	購買行動の考え方と消費者行動のアプローチ方法
3	購買意思決定プロセス	消費者の購買意思決定プロセスについての解説
4	消費者の欲求と動機づけ	欲求が購買行動に与える影響と動機づけの形成
5	知覚のプロセスと特徴	知覚のメカニズムと知覚が消費者行動に与える影響
6	記憶の種類と役割	消費者の記憶の種類と記憶が消費者行動に与える影響
7	知識の種類と役割	消費者の知識の種類と知識が消費者行動に与える影響
8	知識の高低による違い	消費者の商品知識の高低が購買行動に与える影響
9	製品関与と購買への影響	製品関与が商品購入に与える影響
10	購買関与と広告関与	購買関与と広告関与が消費者に与える影響
11	消費者の態度形成	態度概念と購買行動との関わり
12	態度変容と説得	多属性態度モデル、態度変容とコミュニケーション
13	価格の心理	心理的財布、価格判断の状況依存性
14	購買後の心理	購買後の心理と次購買へ与える影響
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて、資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

消費者行動論Ⅱ	ナカジマ レイコ 中嶋 励子
Consumer Behavior Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、消費者行動の基本的な理論の理解を踏まえ、消費者行動に関する社会的、文化的、個人内要因の理解を深めていきます。

また、データ分析をもとにした消費者行動分析について学び、データ分析や観察を通して、理解を深めていきます。さらに、消費者行動の分析が企業のマーケティングに活用されている事例から、マーケティング活動との関連についての理解も深めていきます。

最近の動向や事例を通して、考えながら、消費者行動を理解する力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動のプロセスを説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者行動のプロセスについて、研究事例および自分自身の行動と関連させて理解し、説明できること。	30%
消費者行動の影響要因を理解し、自分の行動に関連して説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者を取り巻く外的および個人内要因が消費行動に与える影響について、自分の行動と関連させて理解し、説明できること。	30%
企業のマーケティング活動との関連を説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の行動と企業のマーケティング活動の関連を、具体例を通じて理解し、答えられること。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、平常点20%（授業時に提出を求めるペーパーの内容で評価）、課題20%、試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、授業内容について
2	消費者行動の影響要因	意思決定の主要モデルとさまざまな要因について
3	外的要因	消費者を取り巻く外的要因と影響
4	内的要因	消費者の個人属性、ライフスタイルと消費行動
5	消費者行動とリサーチ(1)	質的調査の主な手法について
6	購買前行動・状況要因	計画購買と非計画購買
7	非計画購買	非計画購買の行動観察
8	購買後評価とその影響	購買後の評価、購買後の評価の影響
9	無店舗販売と消費者行動	無店舗販売における影響要因と購買後評価
10	消費者行動とリサーチ(2)	量的調査の主な手法について
11	マーケティング活動の影響	マーケティング活動が消費者行動に与える影響
12	マーケティング事例 (1)	広告の役割・効果、ブランド・イメージ等
13	マーケティング事例 (2)	消費者行動を考慮したマーケティング戦略の事例
14	データサイエンス	ビッグデータを用いた分析など
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず（授業時に配布する授業資料を使用）。

◇参考図書：青木幸弘著『消費者行動の知識』日経新書
 平久保仲人著『消費者行動論』ダイヤモンド社
 他（授業内で順次紹介）。

【履修条件等】

◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「アパレル経営」、「ショップ経営」など）を受講していることが望ましい。

◇授業内で行う課題、提出を求める課題は、必ず提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業内容に関して指定する資料（配布資料、新聞記事など）に目を通しておくこと。

◇自らも消費者であることを認識し、自分の購買行動に関心を持ち、考察すること。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

消費者行動論Ⅱ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Consumer Behavior Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、購買行動に影響を及ぼす心理的な要因を学ぶとともに、消費者を取り囲む環境要因や状況要因など、消費者行動に影響を与える要因について多面的な視点から解説を行う。また、消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて考察できるようになるとともに、自身の購買行動について理論的に理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、消費者行動に関する用語を答えられること。	20%
消費者行動に影響を与える環境要因について理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者を取り囲む環境要因である他者や社会が購買行動に与える影響、店舗内環境要因などの影響について理解し、答えられること	25%
消費者行動にみられる近年の変化や消費者問題について説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。インターネットの普及による消費者行動の変化、消費者問題の現状等を消費者心理とともに理解し、答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方と授業内容について
2	消費者の個人特性	個人特性による類型論と購買行動への影響
3	消費者のライフスタイル	新製品の普及過程理論とライフスタイルの変化
4	環境要因の影響	環境要因の考え方と環境が消費者行動に与える影響
5	店舗内消費者行動	計画購買と非計画購買、店舗内要因の影響
6	対人的影響(1)	口コミによる購買行動への影響
7	対人的影響(2)	オピニオンリーダー、口コミを利用した企業戦略
8	集団と社会の影響	社会的規範と準拠集団の影響
9	ネット上の購買行動(1)	インターネットの普及による購買行動の変化
10	ネット上の購買行動(2)	インターネットを利用したアプローチと広告戦略
11	カラーの心理と影響(1)	色やデザインが消費者行動に与える影響
12	カラーの心理と影響(2)	色やデザインの戦略的応用について
13	消費者問題(1)	近年の傾向と消費者が巻き込まれやすいトラブル
14	消費者問題(2)	近年の消費者問題対策とトラブル対応
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「消費者行動論Ⅰ」および「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

販売管理論 I	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Sales Management I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、企業経営におけるマーケティング管理の役割と内容について取り上げる。具体的には、市場調査、製品計画、価格設定、広告、販売員活動、販売促進、販売経路設定、物的流通などがマーケティング管理の対象となる。「販売管理論 I」では、マーケティング管理の全体的枠組みおよび組織デザインについて最近の企業事例を交えながら学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの役割とマーケティングに関する基本用語を正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティングの内容、マーケティングの役割、マーケティング・マネジメントの機能とプロセスに関する設問に答えられること。	25%
企業が価値を創造し実現するためにはどうアクションを起こすべきか説明できること	設問に対する回答によって評価。新製品・新サービスの開発プロセス、価格の役割、流通チャネル、の機能と類型、プロモーション方法の選択という4P戦略に関する設問に答えられること。	25%
企業の組織体制および資源配分について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。分業、部門化、リーダーの役割といった組織行動、そして職能志向組織と市場志向組織の特徴に関する設問に答えられること。	25%
企業による事業定義および事業目的の多様性について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。事業の定義が多様なことを理解し、マーケティングの近視眼およびマーケティングの遠視眼という事業目的の射程に関する問題についての設問に答えられること。	25%
評価の方法 全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	市場をつくり出す企業活動(1)	マーケティングの役割と基本枠組み
3	市場をつくり出す企業活動(2)	マーケティング・マネジメントの機能とプロセス
4	価値形成のマネジメント(1)	製品・サービスの開発プロセス
5	価値形成のマネジメント(2)	価格の役割と戦略的価格デザイン
6	価値実現のマネジメント(1)	流通チャネルの機能と類型
7	価値実現のマネジメント(2)	メッセージとメディアの選択
8	マーケティング組織(1)	分業、部門化、リーダーの役割
9	マーケティング組織(2)	職能志向組織と市場志向組織
10	マーケティング資源の配分(1)	市場シェア、規模の経済性、経験効果
11	マーケティング資源の配分(2)	製品ポートフォリオ管理
12	事業の定義(1)	事業の定義による戦略の違い
13	事業の定義(2)	マーケティングの近視眼と遠視眼
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎『ゼミナールマーケティング入門』
日本経済新聞社、2004年

【履修条件等】

◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」など）のいずれかを並行して履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、企業のマーケティング活動について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

販売管理論Ⅱ	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Sales Management Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

「販売管理論Ⅱ」では、「販売管理論Ⅰ」で習得したことをベースに、消費者行動や競争構造といった市場の論理、産業別の競争要因、そして市場資源構築のマネジメントについて最近の企業事例を交えながら講義をすすめる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティング活動における消費者行動分析の意義について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティング活動における消費者行動分析の意義、消費者行動を分析するフレームワークについて理解し、さらにはマーケティング・リサーチの分類や手順に関する設問に答えられること。	25%
企業間の競争を規定している要因、およびその動態性について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。産業や戦略グループという枠組みについてバリューチェーン・バリューネットワークの観点から動態的に理解し、それが企業の収益性にどのように結びついているのかについての設問に答えられること。	25%
企業外部に蓄積される資源として、チャネル資産について正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。企業のマーケティング活動におけるチャネル資産の構築の役割と意義について理解し、製販連携や系列店システムのメリットとデメリットについての設問に答えられること。	25%
企業外部に蓄積される資源として、顧客との関係性、ブランドについて正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。企業のマーケティング活動における顧客との信頼関係の構築やブランド構築の役割と意義について理解し、それらに関する設問に答えられること。	25%
評価の方法 全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	消費者行動の理解(1)	企業と消費者との関係、購買意思決定メカニズム
3	消費者行動の理解(2)	市場細分化とマーケティング・リサーチ
4	競争構造の理解(1)	産業の枠組みと収益性の決定要因
5	競争構造の理解(2)	戦略グループの枠組み
6	取引関係の理解(1)	バリューチェーンとバリューネットワーク
7	取引関係の理解(2)	取引コスト
8	プロセスとしての競争	競争環境の変移性と企業戦略
9	産業のライフサイクル(1)	ライフサイクル初期の競争行動
10	産業のライフサイクル(2)	ライフサイクル後期の競争行動
11	チャネル資産のマネジメント	系列店システムおよび製版連携
12	顧客関係のマネジメント	顧客関係のマネジメントと組織体制
13	ブランドのマネジメント	ブランドの効果とマネジメント
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎『ゼミナールマーケティング入門』
日本経済新聞社、2004年

【履修条件等】

◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」など）のいずれかを並行して履修していることが望ましい。

あわせて、「販売管理論Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、企業のマーケティング活動について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

流通論 I	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Channel Management I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、流通に関する基礎的な知識の習得を目指すとともに、上記環境下における小売・流通企業の戦略について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会における流通と商業に関する基本用語を正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通と商業の社会における役割に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態について説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態の特徴に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態が起こしたイノベーションについて説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態がこれまで起こしてきたイノベーションに関する設問に答えられること。	25%
流通理論に関して正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。流通や商業者の行動原理としての流通理論（売買集中の原理、延期と投機の理論など）に関する設問に答えられること。	25%
評価の方法 全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	流通とは	現代社会における流通の様相
3	各種小売業態の特徴(1)	食品スーパーとC V Sについて
4	各種小売業態の特徴(2)	ディスカウント・ストアとS P Aについて
5	各種小売業態の特徴(3)	商店街とショッピングセンターについて
6	変化する流通構造	流通構造の分析
7	小売業態とは何か	業態理論について
8	日本型取引慣行	日本型取引の特徴（流通系列化、建値、リベート）
9	ロジスティクス	現代流通を支える3 P L
10	売買集中の原理と品揃え形成	商業の存在意義について
11	商業の外部性と商業集積	商業集積における競争と協調メカニズム
12	投機的流通から延期的流通へ	延期投機理論について
13	生産と流通の分業関係の変化	流通系列化から製販連携へ
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：石原武政・竹村正明編『1からの流通論』碩学舎、2008年

【履修条件等】

◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。

◇遅刻および講義中の私語は厳禁。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、小売流通企業の動向について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

流通論Ⅱ	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Channel Management Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、「流通論Ⅰ」で学習した内容をベースに、より専門度の高い流通理論のみならず、制度・実態・政策について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
流通と商業の社会的役割および流通機能の分類と機能について正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通機能の分類と機能に関する設問に答えられること。	25%
現代流通業の実態について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。オペレーションコスト、取引コスト、パワー関係、延期と投機SCMなどの理論に関する設問に答えられること。	25%
ICT化、国際化などの流通業を取り巻く今日的課題について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。流通におけるICT機能の役割、インターネット販売、流通業が国境を越える際に生じる課題に関する設問に答えられること。	25%
流通と公共政策との関連性について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。今日までになされてきた具体的な公共政策内容、およびそれが流通にいかなる影響を及ぼしてきたのかについての設問に答えられること。	25%
評価の方法 全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	流通を読み解く視点(1)	流通と商業
3	流通を読み解く視点(2)	流通機能の分類と機能
4	流通における機能分担(1)	垂直的分化と統合
5	流通における機能分担(2)	オペレーションコスト、取引コスト
6	流通における組織間関係(1)	チャネルの組織化とパワー関係
7	流通における組織間関係(2)	製販提携と延期型流通、S C Mの進展
8	小売業の行動とダイナミクス(1)	小売業態の開発と競争
9	小売業の行動とダイナミクス(2)	小売業の製品開発とブランド・マネジメント
10	卸売業の現状と課題	卸売業界の再編成と“機能強化”競争
11	流通におけるI C T活用の展開	I C Tの導入、流通I C T化の進展と意義
12	インターネット販売の可能性	インターネット販売の特徴
13	流通と公共政策	まちづくり・公正競争
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：渡辺達朗・原頼利・遠藤明子・田村晃二著『流通論をつかむ』有斐閣、2008年

【履修条件等】

◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。
 ◇遅刻および講義中の私語は厳禁。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、小売流通企業の動向について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

会計学概論 I	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Introduction to Accounting I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

日頃意識することは少ないが、私たちはさまざまな企業と関わりながら生活をしている。企業は種々の商品や製品およびサービスを私たちに提供してくれる。そして企業は、自身が営む経済活動を「会計」の手続きを通して記録・測定・報告する必要がある。

では、「会計」とはいったいどんなものだろうか。

本講義は、会計学の全般的な知識を習得するため、財務会計、管理会計、財務分析、財務諸表監査等の各分野に関する基礎概念について取り扱う。具体的には、まず会計学の基礎となる複式簿記の基本ルールを学習し、会計の意義や種類、機能、役割をはじめ、会計手続きのルール、財務情報の読み方などについて学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
簿記・会計に関する専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計の意義、会計の種類、会計に関する基礎的な用語や概念を理解し、会計の役割や機能を説明できること。	40%
複式簿記の基本ルールを正しく理解し、簿記一巡の手続きと財務諸表の関係を理解する	設問に対する回答によって評価。仕訳のルール、損益計算書や貸借対照表の意義および中身を理解し、説明ができること。	20%
会計上のルールである会計基準や、会計手続を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計公準や発生主義などの基礎概念、および棚卸資産の期末評価や、固定資産の減価償却、原価計算の方法など、それぞれの具体的な手続きについて、その意義および必要性を理解し説明できること。	40%
評価の方法 確認テスト（小テスト）20%、本試験80%。「出席点」は設定しない。 ただし、全講義回数数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法など
2	会計の意義と役割(1)	会計とは何か、会計の種類
3	会計の意義と役割(2)	会計の役割
4	複式簿記の基礎原理(1)	仕訳のルール
5	複式簿記の基礎原理(2)	簿記一巡の手続き、財務諸表の作成
6	貸借対照表と損益計算書	貸借対照表および損益計算書の構造
7	その他の財務諸表	キャッシュ・フロー計算書、株主資本等変動計算書など
8	確認テスト（小テスト）	学習達成度の確認テストおよび解説
9	日本の会計制度(1)	金融商品取引法、会社法、税法、会計基準の形成
10	日本の会計制度(2)	企業会計原則および一般原則
11	期間損益計算の基本原則(1)	損益計算書原則、現金主義会計および発生主義会計、
12	期間損益計算の基本原則(2)	発生原則・実現原則・費用収益対応の原則
13	資産評価の基本原則(1)	貸借対照表原則、資産の区分表示、流動性配列法
14	資産評価の基本原則(2)	資産の評価基準、低価基準など
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇本講義は「会計学概論Ⅰ」と「会計学概論Ⅱ」を連続して履修することを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

会計学概論Ⅱ	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Introduction to Accounting Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

日頃意識することは少ないが、私たちはさまざまな企業と関わりながら生活をしている。企業は種々の商品や製品およびサービスを私たちに提供してくれる。そして企業は、自身が営む経済活動を「会計」の手続きを通して記録・測定・報告する必要がある。

では、「会計」とはいったいどんなものだろうか。

本講義は、会計学の全般的な知識を習得するため、財務会計、管理会計、財務分析、財務諸表監査等の各分野に関する基礎概念について取り扱う。具体的には、まず会計学の基礎となる複式簿記の基本ルールを学習し、会計の意義や種類、機能、役割をはじめ、会計手続きのルール、財務情報の読み方などについて学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
簿記・会計に関する専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計の意義、会計の種類、会計に関する基礎的な用語や概念を理解し、会計の役割や機能を説明できること。	20%
会計上のルールである会計基準や、会計手続を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計公準や発生主義などの基礎概念、および棚卸資産の期末評価や、固定資産の減価償却、原価計算の方法など、それぞれの具体的な手続きについて、その意義および必要性を理解し説明できること。	40%
財務情報の読み方を理解し、利用できるようにする。また管理会計や監査の意義を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。財務情報を用いた分析ができるようにする。また、会計の諸分野（財務会計・管理会計・監査）について基本的な考え方を理解し、説明できること。	40%
評価の方法 確認テスト（小テスト）20%、本試験80%。「出席点」は設定しない。 ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法、「会計学概論Ⅰ」の復習
2	国際会計基準とは	グローバル化と IAS/IFRS、導入と問題点
3	金融資産の会計	金融資産の意義、金融資産の期末評価
4	棚卸資産の会計	棚卸資産の種類、先入先出法および平均法、低価基準
5	有形固定資産の会計	有形固定資産の取得と売却、減価償却の意義
6	研究開発費および無形資産	研究開発費とは、無形資産の意義、
7	繰延資産と引当金	繰延資産の意義、引当金の意義と要件
8	確認テスト（小テスト）	学習達成度の確認テストおよび解説
9	企業結合とのれんの会計	企業結合の意義、企業買収、パーチェス法とのれん
10	税効果会計	税効果会計の意義
11	製造業における会計	製造原価と原価管理
12	原価計算	費目別／部門別原価計算、個別／総合原価計算など
13	公認会計士と財務諸表監査	公認会計士制度の概要、監査の意義
14	監査報告書	監査報告書の意義と作成
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇本講義は「会計学概論Ⅰ」と「会計学概論Ⅱ」を連続して履修することを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

専門演習 I	イナミ カズエ 伊波 和恵
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：心理学、ストレスと心理社会的適応、コミュニケーション

本演習では、心理学、とくに心理社会的適応を基本テーマに知識習得を進めます。成人期～壮年期のビジネスパーソンが置かれている職場・家族を含む社会的対人的環境についての知識と理解を深め、ストレス・マネジメント、心理カウンセリングやコミュニケーションスキルについて学びます。

春学期は論文執筆の基礎知識ならびに論理的な思考力の習得を図ります。

秋学期は、グループワークやプレゼンテーションを通じて、各種調査法や企画立案を覚えるとともに、質疑応答やディスカッションのマナーと方法を身につけられるようにします。年間を通じて、多様なプレゼンテーションやディスカッション、資料作成が展開できるように基礎固めをします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ゼミ論文① (企画と作成)	テーマ設定から文献研究、調査、論文執筆といったプロセスならびに最終的なレポート報告まで、一定の水準で自律的に達成できていること。ゼミ合宿時の中間報告・中間提出（推敲含む）を評価する。	20%
ゼミ論文② (執筆)	体裁、テーマ、構成、論考等の複数の観点から、期日までに提出されたレポートの完成度をみる。	20%
グループワーク (ディスカッション、プレゼンテーション)	チームプロジェクトにおいて何らかの役割をどのように果たしているか、そのプロセスと成果を評価する（たとえば、資料の収集、レジュメやプレゼンテーション資料の作成、自己表現や意見交換の方法など）。 日頃のプロジェクトへの参加態度、完成したプレゼンテーションについて評価する。	40%
チームワークとゼミ運営・参加 (コミュニケーション)	日頃の演習授業ならびに運営への参加態度から、コミュニケーションスキルやボランティア・スピリットという観点で、ゼミへの貢献度を評価する。	20%
評価の方法 ・ゼミ論文40% ・課題・グループワークへの取り組みとプレゼンテーション40% ・授業参加度・平常点（行事参加等含む）20%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ顔合わせ	16	グループワーク②－1
2	プレゼンテーション	17	グループワーク②－2
3	ゼミ論文①－1	18	グループワーク②－3
4	ゼミ論文①－2	19	グループワーク②－4
5	ゼミ論文①－3	20	グループワーク②－5
6	ゼミ論文①－4	21	ゼミ論文 中間提出
7	ゼミ論文①－5	22	グループワーク②－6
8	ゼミ論文①総括・グループワーク準備	23	グループワーク②－7
9	グループワーク①－1	24	グループワーク②－8
10	グループワーク①－2	25	グループワーク②－9 *ゼミ発表大会
11	グループワーク①－3	26	グループワーク②－10
12	グループワーク①－4	27	グループワーク②総括
13	グループワーク①－5	28	ゼミ論文②－1
14	グループワーク①総括	29	ゼミ論文②－2
15	ゼミ合宿準備 *夏期休暇中ゼミ合宿	30	ゼミ論文②提出

【使用教材】

◇参考書：吉田健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』
ナカニシヤ出版

【履修条件等】

- ◇演習科目ですので、受講に際しては、グループメンバーでの協調性や社会性も重要です。その前提として、遅刻・無断欠席は厳禁です。
- ◇学年合同で行う自主ゼミ（縦ゼミ）にも参加するように予定してください。
- ◇心理検査等の教材、ゼミ合宿（夏期休暇中に実施予定、全員参加行事）その他のゼミ関連行事にそれぞれ相応の費用がかかりますので、各自で備えてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇週の課題は必ず準備してから演習に臨むこと。
- ◇課題は遅延なく確実に提出すること。

【その他の注意事項】

- ◇一人ひとりの自由意思と全体的なチームワーク、どちらも尊重すること。折り合いがつかない場合は、各自、最善解を求めるよう努力すること。
- ◇お互いにコミュニケーションを大事にすること。
- ◇ゼミ行事には積極的に参加し、他学年ゼミ生とも積極的に交流するよう努めること。
- ◇メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種程度の基礎知識を身につけること。
- ◇ボランティア活動など、課外での主体的かつ積極的な社会参加にチャレンジすること。

専門演習 I	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：組織行動の心理学的研究

組織のなかでなされる各種の行動を心理学の観点から研究していきます。これまで心理学は、人間について研究することでいろいろな人間についての知見を積み上げてきました。その知見を生かすことで職場における組織行動を解明することを目指します。発達心理学、認知心理学（知覚心理学）適応心理学、学習心理学、パーソナリティ心理学（性格心理学）、社会心理学の知見をどのように生かすかをみんなで考えていきます。

組織行動に関連した研究テーマを各自が決め、自主的に研究していくことになります。そのために必要な指導をきめ細かくしていきます。また、ゼミ合宿を実施することによって、集中的に研究を進めたり、ゼミ生間の親睦を深めたりします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
研究テーマの模索	関連本を参考に、ゼミ生間での議論しながら研究テーマを絞っていくこと。	10%
研究テーマの決定と方法の決定	適切な研究テーマを決定すること。	15%
研究テーマについての方法の実施	決定した研究テーマを明らかにしていくための方法を明確にし、それを実施していくこと。	20%
研究テーマに基づいたゼミ論文の作成	これまでに進めてきた内容をまとめて、ゼミ論としてまとめる。	55%
評価の方法 ゼミ論を完成させるためになされる一連の研究活動を総合的に評価する。 また、各種行事（ゼミ合宿、ゼミ発表大会、東京富士祭など）への参加も考慮する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	研究テーマの模索	16	研究テーマの方法実施
2	研究テーマの模索	17	ゼミ論の作成
3	研究テーマの模索	18	ゼミ論の作成
4	研究テーマの模索	19	ゼミ論の作成
5	研究テーマの模索	20	ゼミ論の作成
6	研究テーマの模索	21	ゼミ論の作成
7	研究テーマの決定	22	ゼミ論の作成
8	研究テーマの決定	23	ゼミ論の作成
9	研究テーマの方法決定	24	ゼミ論の作成
10	研究テーマの方法決定	25	ゼミ論の作成
11	研究テーマの方法実施	26	ゼミ論の作成
12	研究テーマの方法実施	27	ゼミ論の作成
13	研究テーマの方法実施	28	ゼミ論の作成
14	研究テーマの方法実施	29	ゼミ論の作成
15	研究テーマの方法実施	30	ゼミ論の作成

【使用教材】

◇教科書：必要に応じて指示する。

【履修条件等】

◇自主的に学ぼうとする姿勢を持っていること。

◇ゼミ生間の「和」を尊び、協力し合うこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ゼミ授業は報告を含めた指導時間となります。

【その他の注意事項】

◇ゼミ合宿、ゼミコンパなどゼミ活動には経費が必要。

専門演習 I	サトウ エミ 佐藤 恵美
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：人事アセスメントからみた企業に必要な人材とその能力

企業が経営目標を達成するためには、働く人が重要になります。さまざまな能力やパーソナリティ、興味、動機づけを持つ多様な人々の存在する組織の中で、働く人をどのように活かしていくのかという観点から、人の持つ心の特徴と組織での行動について演習の中で考えていきます。前半はテキストの輪読を中心に、専門的な基礎知識や論理的な思考能力の習得を目指します。後半は文献や資料を講読し、各種調査を行い、データ処理の基礎的な方法とプレゼンテーション能力を身につけ、企業でのデータ処理能力を高めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人事アセスメントとは	産業・組織心理学、社会心理学、パーソナリティ心理学等の専門的な基礎知識をテーマに沿って、論理的に理論や概念を説明できるように、テキストの輪読を通してレジュメを作成できるようにする。	10%
業種別に求められる能力とは	職業環境を業種別に分け、業種別によって求められる能力や人材を調査する。さらに、この能力はどのように評価されるのか、昇進昇格や給与体系などの企業側の報酬制度について考察する。	30%
業種研究と調査	自分たちが考えた共同研究のテーマに沿って調査を行う。文献や資料を講読し、各種調査を行い、概念説明、データ収集、データ処理の基礎的な方法とプレゼンテーション能力を身につけ、主体的に共同研究テーマの課題について取り組む。	30%
個人論文の作成	個人の興味ある経営心理学の研究テーマに沿って、文献や資料を講読し、資料収集や調査を行ってもらい。データ結果のまとめ方と、客観的データに基づいたデータの考察を行えるようにすることで、企業でのデータ処理能力を高めることを目的とする。	30%
評価の方法 発表と発言量50%、授業での課題と共同研究・個人論文50%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	共同調査研究
2	人事アセスメントとは	17	
3		18	
4		19	調査データ収集と分析
5	業種別に求められる能力とは	20	
6		21	
7		22	調査論文の作成
8	企業側が求める人材像とは	23	
9		24	
10	個人論文	25	調査論文の発表
11		26	
12		27	
13		28	まとめ、来年度に向けたテーマ設定
14		29	
15		30	

【使用教材】

◇教科書：初回演習時にテーマを決め、それに沿った教科書を指定する。

【履修条件等】

◇欠席や遅刻は認めない。やむを得ず欠席する場合には、必ず連絡をすること。

◇各自の分担に責任を持って、積極的に参加することを望みます。同学年のみならず、学年をこえてコミュニケーションをとり、グループでの共同作業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

◇指定された日に、自分で選んだ分担のレジュメやPPT資料を作成してくること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習Ⅰ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
SeminarⅠ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：ヒューマンマネジメント ～「楽しく仕事する」を考える～

この専門演習では「働くこと」についてさまざまな角度から考えていきます。まず企業において働くことの現状を知ることから始めたいと思います。この分野は「人的資源管理論」と呼ばれ、雇用について考える上で重要な領域となっています。その中でも「楽しく仕事をする」ためにはどのような方法があるのかについて考え、将来に向けて楽しく頑張れる理論について学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テキストを読みこなし、要約する	テキストの担当箇所についてのレジュメを作成してもらいます。評価基準は、テキストの要約が適切に行われているか、筆者の意見に対して的を射たコメントが行われているか、になります。	20%
テキスト要約内容を他者に伝達する	テキストの要約内容を口頭にて発表してもらいます。評価基準は、言葉の使い方は適切か、オーディエンスの理解を促進するような発表を行っているか、になります。	20%
グループワークへの参加	グループディスカッションやゼミ発表大会への報告資料や発表を行ってもらいます。評価基準は、全員がそれぞれの役割を果たし、高いパフォーマンスを発揮してもらう点になります。	40%
協働の実践	ゼミ運営への積極的な関わりを求めます。日々のゼミ活動およびゼミ行事などでの貢献度合いについて評価します。評価基準は、積極性と真摯さになります。	20%
評価の方法 個人作業の内容：40% 集団作業の貢献度：40% 受講態度およびゼミ運営：20%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ顔合わせ	16	秋学期テーマ設定会議
2	春学期テーマ設定会議	17	ゼミ発表大会準備 ・テーマに沿った資料の輪読 ・テーマについてのディスカッション ・パワーポイント作成 ・パワーポイント発表練習 ・振り返り
3	テキスト講読① ・テーマ設定会議で決定した内容に関連するテキストの輪読 ・レジュメ作成・発表	18	
4		19	
5		20	
6		21	
7		22	
8		23	
9	グループワーク設定会議	24	テキスト講読② ・レジュメ作成・発表 ・学期末レポート作成
10	グループワーク ・テキスト講読を通じて発見した課題の解決 ・グループディスカッション	25	
11		26	
12		27	
13		28	
14		29	
15	春学期のフィードバック	30	秋学期のフィードバック

【使用教材】

◇教科書：授業時に指示します。

◇参考書：稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝『キャリアで語る経営組織』有斐閣
岩出博『新・これからの人事労務』泉文堂

【履修条件等】

◇遅刻・無断欠席を絶対にしないこと。ゼミは協働作業の場ということを意識してください。与えられた課題を放置しないこと。ゼミは成長の場であり、成長のプロセスこそ重要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇レジュメの担当箇所には責任を持って対応してもらいます。

◇日頃より社会問題（とくに労働問題）に対してアンテナを張っておくようにしましょう。

【その他の注意事項】

◇ゼミ行事（合同ゼミ、ゼミ合宿）への積極的な参加を求めます。

専門演習 I	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：消費者の心理と行動の分析

消費者行動のさまざまな理論について学び、消費者の心理や行動について分析・考察を行ったうえで、効果的な企業のマーケティング戦略についての立案を行う。春学期は、現実の企業や商品に関するケーススタディを中心に行い、消費者の心理と行動を分析する。秋学期は、企業側の視点に立ち、消費者行動分析をもとにしたマーケティング戦略を立案することを中心的課題とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者の心理や行動について理解し説明することができる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。担当箇所の資料を作成し、商品を購入する際の消費者の心理と行動を具体的に理解し、説明することができる。	20%
消費者の心理や行動を分析し、マーケティング戦略を立案することができる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。他者の発表内容を聞いたうえで、消費者の心理や行動を分析し、マーケティング戦略の立案や改善案などを提案できる。	25%
消費者行動やマーケティングに関する意見交換や議論に積極的に参加できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。自分の意見をわかりやすく伝え、他者との意見交換や議論を通し、より効果的なマーケティング戦略を提案できる。	25%
研究発表のためのリサーチや資料作成、議論等に積極的に参加し貢献できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。研究テーマにもとづいたリサーチ、資料作成、調査活動、ディスカッション等に積極的に参加できる。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、個人発表の内容50%、授業や班別研究への参加度と貢献度50%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	授業ガイダンス	16	班別研究の進行経過報告
2	消費者行動の基本的な理論の習得および資料作成	17	ゼミ発表大会に向けての準備 ・発表内容についてのリサーチ ・資料作成 ・調査準備 ・戦略立案 etc.
3		18	
4		19	
5		20	
6		21	
7	班別研究テーマの選定	22	消費者行動分析に基づくマーケティング戦略の立案およびディスカッション
8		23	
9	企業や商品のケーススタディにもとづく消費者行動の分析	24	
10		25	
11		26	
12		27	
13		28	
14	班別研究の進行経過報告	29	研究成果報告会
15	班別研究の進行経過報告	30	

【使用教材】

◇教科書：授業時に指定する。

【履修条件等】

◇消費者の購買行動や心理に興味を持ち、発表や班別研究に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常の自身の購買行動に興味を持ち、ニュース等で企業や商品情報をチェックしておくこと。

【その他の注意事項】

◇演習には、極力休まず出席すること。

専門演習 I	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：国境を越えたビジネスを学ぶ

近年、日米欧をはじめとした先進諸国の小売・流通企業は自国の市場の成熟化を受け、新興諸国市場への国際展開を積極的に行っている。本演習では、コンビニエンス・ストアやスーパーマーケットなどの小売・流通企業を中心に、グローバルな視点でこれら企業のマーケティング戦略に関する諸処の問題についての基礎的知識の習得を目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
研究発表に必要な基本的スキルを身につけていること	演習におけるプレゼンテーション姿勢やレジメの充実度で評価。具体的には学術書や研究論文の検索方法を理解し、文献を自力で収集できること、ワード、エクセル、パワーポイントの使用方法を理解しレジメを作成できることが要請される。	20%
マーケティング、流通、グローバルビジネスに関する学術書を読み、文献レビューを行えること	演習におけるプレゼンテーションによって評価。学術書および論文の内容を理解し、それを他のメンバーに分かりやすく説明することができることが要請される。レジメ内容の充実度に加え、発表内容、発表姿勢が評価基準となる。	20%
グローバルな視野で企業が直面している諸問題について発見し説明できること	演習におけるプレゼンテーションによって評価。グローバルビジネスに関する学術書、論文、ニュースから問題点を探り出し、他のメンバーと共有できることが要請される。レジメ内容の充実度に加え、発表内容、発表姿勢が評価基準となる。	20%
ディスカッションにおいて相手の意見を理解したうえで自分の意見を発言できること	演習におけるディスカッションによって評価。マーケティング、流通、グローバルビジネスに関して研究報告者が提示した問題について理解し、それに対する自分の意見を整理し発言しているかが評価基準となる。	40%
評価の方法	全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、レジメ発表などの分担貢献度50点、演習中の質疑応答およびコメントの発言の積極性50点を基準に評価する。 とくに発表内容、発表姿勢、ゼミ活動への参画度を重視する。	

【授業計画】

＜春学期＞

- ・ 研究発表レジュメの作成およびそのプレゼンテーションの練習
- ・ 国際流通論、国際マーケティング論に関する基本的文献の輪読
- ・ 各種データおよび資料の調査方法の習得
- ・ 小売・流通企業の国際展開に関する現状と課題の把握

＜秋学期＞

- ・ 春学期の基本的文献の輪読からの学習、レジュメ作成およびプレゼンテーションから培った能力をベースに、研究レポートを学内および学外に向けて発信することを目的とする。

【使用教材】

◇教科書：授業中に指示する。

◇参考書：矢作敏行著『現代流通—理論とケースで学ぶ』有斐閣アルマ、1996年

諸上茂登・藤澤武史著『グローバル・マーケティング』中央経済社、1997年

【履修条件等】

◇グローバルビジネスに興味や関心があり、なおかつ積極的にゼミ活動に参加できることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇研究発表の際には、惜しみなく時間をかけて事前学習し準備する。

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどのビジネス誌に日頃から目を通し問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇演習中は積極的な質疑応答およびコメントの発言が強く求められる。

専門演習 I	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：社会構築主義から見た企業倫理

今年度は、現実を社会的に構築されたもの（絶対的存在ではなく、みんなが主観的に作り上げていくもの）として見る、社会構築主義を考える。そして、現実を社会的に構築されたものとして考えた場合に、企業の倫理はどう作られていくかを考える。

それぞれの企業で、現実はどうとらえられ、それに基づいてどのような倫理水準が設定されるのかを考える。できれば実験をしてその過程を明らかにしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会構築主義が説明できる	演習内での積極的な発言。	25%
社会構築主義と客観的な現実との違いを説明できる	演習内での積極的な発言。 客観的な現実の例を挙げられる。 社会構築された現実の例を挙げられる。	25%
シンボリックな見方を理解できる	演習内での積極的な発言。 シンボルの例を挙げられる。	25%
シンボルを応用できる	演習内での積極的な発言。 実際にシンボルをどのように利用できるかの例を挙げて説明できる。	25%
評価の方法 自分で考え、積極的に発言でき、他人の意見もよく聞け、自分の意見を修正できるか。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	はじめに	16	実験準備
2	客観的現実とは	17	
3		18	
4		19	実験
5	社会的に構築された現実とは	20	
6		21	
7		22	シンボルを探す
8	社会的に構築された現実を探してみる	23	
9		24	
10		25	シンボルの影響を探る
11		26	
12		27	
13	シンボリックな世界	28	まとめ
14		29	
15		30	

【使用教材】

◇教科書：1回目の授業で指示します。

【履修条件等】

◇まじめに出席し、他のゼミの仲間と仲よくでき、山口ゼミに楽しくかつアカデミックな現実を構築できる人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇コマーシャル、新聞、ニュースに常に関心を持ち疑問を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習Ⅱ	イナミ カズエ 伊波 和恵
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：心理学、ストレス・マネジメント、コミュニケーション

本演習では、心理学、とくに心理社会的適応を基本テーマに知識習得を進めます。成人期～壮年期のビジネスパーソンが置かれている職場・家族を含む社会的対人的環境についての知識と理解を深め、ストレス・マネジメント、心理カウンセリングやコミュニケーションスキルについて学びます。

春学期はよりよい論文執筆ならびにチーム・プロジェクトのマネジメント方法についての学びを深めます。

秋学期は、グループワークやプレゼンテーションを通じて、各種調査法や企画立案を覚えるとともに、質疑応答やディスカッションのマナーと方法を身につけられるようにします。年間を通じて、多様なプレゼンテーションやディスカッション、資料作成が展開できるように学習を進めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ゼミ論文① (推敲・企画と作成)	①昨年度執筆のゼミ論文の相互見直し(推敲)作業のスキルについて評価する。②テーマ設定から文献研究、調査、論文執筆といったプロセスならびに最終的なレポート報告まで、一定の水準で自律的に達成できていること。ゼミ合宿時の中間報告・中間提出(推敲含む)を評価する。	20%
ゼミ論文② (執筆)	体裁、テーマ、構成、論考等の複数の観点から、期日までに提出されたレポートの完成度をみる。	20%
グループワーク (ディスカッション、プレゼンテーション)	①チーム・プロジェクトにおいて何らかの役割をどのように果たしているか、そのプロセスと成果を評価する。(たとえば、資料の収集、レジュメやプレゼンテーション資料の作成、自己表現や意見交換の方法など) ②チーム・マネジメントを評価する。 ②日頃のプロジェクトへの参加態度、完成したプレゼンテーションについて評価する。	40%
チームワークとゼミ運営・参加 (コミュニケーション)	日頃の演習授業ならびに運営への参加態度から、コミュニケーションスキルやボランティア・スピリッツという観点で、ゼミへの貢献度を評価する。	20%
評価の方法 ・ゼミ論文40% ・課題・グループワークへの取り組みとプレゼンテーション40% ・授業参加度・平常点(行事参加等含む) 20%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ顔合わせ	16	グループワーク②－1
2	プレゼンテーション	17	グループワーク②－2
3	ゼミ論文①－1	18	グループワーク②－3
4	ゼミ論文①－2	19	グループワーク②－4
5	ゼミ論文①－3	20	グループワーク②－5
6	ゼミ論文①－4	21	ゼミ論文 中間提出
7	ゼミ論文①－5	22	グループワーク②－6
8	ゼミ論文①総括・グループワーク準備	23	グループワーク②－7
9	グループワーク①－1	24	グループワーク②－8
10	グループワーク①－2	25	グループワーク②－9 ＊ゼミ発表大会
11	グループワーク①－3	26	グループワーク②－10
12	グループワーク①－4	27	グループワーク②総括
13	グループワーク①－5	28	ゼミ論文②－1
14	グループワーク①総括	29	ゼミ論文②－2
15	ゼミ合宿準備 ＊夏期休暇中ゼミ合宿	30	ゼミ論文②提出

【使用教材】

◇参考書：吉田健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』
ナカニシヤ出版

【履修条件等】

- ◇演習科目ですので、受講に際しては、グループメンバーでの協調性や社会性も重要です。その前提として、遅刻・無断欠席は厳禁です。
- ◇学年合同で行う自主ゼミ（縦ゼミ）にも参加するように予定してください。
- ◇心理検査等の教材、ゼミ合宿（夏期休暇中に実施予定、全員参加行事）その他のゼミ関連行事にそれぞれ相応の費用がかかりますので、各自で備えてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇週の課題は必ず準備してから演習に臨むこと。
- ◇課題は遅延なく確実に提出すること。

【その他の注意事項】

- ◇一人ひとりの自由意思と全体的なチームワーク、どちらも尊重すること。折り合いがつかない場合は、各自、最善解を求めるよう努力すること。
- ◇ゼミの要としての自覚を持ち、お互いにコミュニケーションを大事にすること。
- ◇ゼミ行事には積極的に参加し、他学年ゼミ生とも積極的に交流するよう努めること。
- ◇メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種程度の基礎知識を身につけること。
- ◇ボランティア活動など、課外での主体的かつ積極的な社会参加にチャレンジすること。

専門演習Ⅱ	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：組織行動の心理学的研究

組織のなかでなされる各種の行動を心理学の観点から研究していきます。これまで心理学は、人間について研究することでいろいろな人間についての知見を積み上げてきました。その知見を生かすことで職場における組織行動を解明することを目指します。発達心理学、認知心理学（知覚心理学）適応心理学、学習心理学、パーソナリティ心理学（性格心理学）、社会心理学の知見をどのように生かすかをみんなで考えていきます。

組織行動に関連した研究テーマを各自が決め、自主的に研究していくことになります。そのために必要な指導をきめ細かくしていきます。また、ゼミ合宿を実施することによって、集中的に研究を進めたり、ゼミ生間の親睦を深めたりします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
研究テーマの模索	関連本を参考に、ゼミ生間での議論しながら研究テーマを絞っていくこと。	10%
研究テーマの決定と方法の決定	適切な研究テーマを決定すること。	15%
研究テーマについての方法の実施	決定した研究テーマを明らかにしていくための方法を明確にし、それを実施していくこと。	20%
研究テーマに基づいたゼミ論文の作成	これまでに進めてきた内容をまとめて、ゼミ論としてまとめる。	55%
評価の方法 ゼミ論を完成させるためになされる一連の研究活動を総合的に評価する。 また、各種行事（ゼミ合宿、ゼミ発表大会、東京富士祭など）への参加も考慮する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	研究テーマの模索	16	研究テーマの方法実施
2	研究テーマの模索	17	ゼミ論の作成
3	研究テーマの模索	18	ゼミ論の作成
4	研究テーマの模索	19	ゼミ論の作成
5	研究テーマの模索	20	ゼミ論の作成
6	研究テーマの模索	21	ゼミ論の作成
7	研究テーマの決定	22	ゼミ論の作成
8	研究テーマの決定	23	ゼミ論の作成
9	研究テーマの方法決定	24	ゼミ論の作成
10	研究テーマの方法決定	25	ゼミ論の作成
11	研究テーマの方法実施	26	ゼミ論の作成
12	研究テーマの方法実施	27	ゼミ論の作成
13	研究テーマの方法実施	28	ゼミ論の作成
14	研究テーマの方法実施	29	ゼミ論の作成
15	研究テーマの方法実施	30	ゼミ論の作成

【使用教材】

◇教科書：必要に応じて指示する。

【履修条件等】

◇自主的に学ぼうとする姿勢を持っていること。

◇ゼミ生間の「和」を尊び、協力し合うこと

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ゼミ授業は報告を含めた指導時間となります。

【その他の注意事項】

◇ゼミ合宿、ゼミコンパなどゼミ活動には経費が必要。

専門演習Ⅱ	サトウ エミ 佐藤 恵美
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：人事アセスメントからみた企業に必要な人材とその能力

企業で働く人間の能力やパーソナリティ、興味、動機づけを企業別に明らかにし、組織の中で働く人をどのように活かしていくのかを考える。ここから、組織の中での対人関係や組織での行動について演習の中で考えていく。前半はテキストの輪読を中心に、専門的な基礎知識や論理的な思考能力の習得を目指します。後半は文献や資料を講読し、各種調査を行い、データ処理の基礎的な方法とプレゼンテーション能力を身につけ、企業でのデータ処理能力を高めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テキストの輪読	産業・組織心理学、社会心理学、パーソナリティ心理学等の専門的な基礎知識の習得と同時に、レジュメの作成を通して、論理的な思考能力の習得を目指しく。各人が章を担当し、レジュメによる発表を行い、これに基づいた質疑応答と討論を行っていく。	20%
個人論文の作成	個人の興味ある経営心理学の研究テーマに沿って、文献や資料を講読し、資料収集を行う。データ結果のまとめ方と考察を行うことで、企業におけるデータを読み取る力を高めることを目的とする。	30%
共同研究	自分たちが考えた共同研究のテーマに沿って調査を行う。文献や資料を講読し、各種調査を行い、概念説明、データ収集、データ処理の基礎的方法とプレゼンテーション能力を身につけ、主体的に共同研究テーマの課題について取り組む。	20%
個人論文の作成	個人の興味ある経営心理学の研究テーマに沿って、文献や資料を講読し、資料収集や調査を行ってもら。データ結果のまとめ方と、客観的データに基づいたデータの考察を行えるようにすることで、企業でのデータ処理能力を高めることを目的とする。	30%
評価の方法 発表と発言量50%、授業での課題と共同研究・個人論文50%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	共同調査研究
2	テキストの輪読（社会心理学、パーソナリティ心理学）	17	
3		18	
4		19	調査データ収集と分析
5	テキストの輪読（産業心理学）	20	
6		21	
7		22	調査論文の作成
8	個人論文の作成	23	
9		24	
10		25	調査論文の発表
11		26	
12		27	
13	個人論文の発表と討論	28	まとめ、来年度に向けたテーマ設定
14		29	
15		30	

【使用教材】

◇教科書：初回演習時にテーマを決め、それに沿った教科書を指定する。

【履修条件等】

◇欠席や遅刻は認めない。やむを得ず欠席する場合には、必ず連絡をすること。

◇各自の分担に責任を持って、積極的に参加することを望みます。同学年のみならず、学年をこえてコミュニケーションをとり、グループでの共同作業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

◇指定された日に、自分で選んだ分担のレジュメやPPT資料を作成してくること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習Ⅱ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：ヒューマンマネジメント ～「楽しく仕事する」を考える～

この専門演習では「働くこと」についてさまざまな角度から考えていきます。まず企業において働くことの現状を知ることから始めたいと思います。この分野は「人的資源管理論」と呼ばれ、雇用について考える上で重要な領域となっています。その中でも「楽しく仕事をする」ためにはどのような方法があるのかについて考え、将来に向けて楽しく頑張れる理論について学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テキストを読みこなし、要約する	テキストの担当箇所についてのレジュメを作成してもらいます。評価基準は、テキストの要約が適切に行われているか、筆者の意見に対して的を射たコメントが行われているか、になります。	20%
テキスト要約内容を他者に伝達する	テキストの要約内容を口頭にて発表してもらいます。評価基準は、言葉の使い方は適切か、オーディエンスの理解を促進するような発表を行っているか、になります。	20%
グループワークへの参加	グループディスカッションやゼミ発表大会への報告資料や発表を行ってもらいます。評価基準は、全員がそれぞれの役割を果たし、高いパフォーマンスを発揮してもらう点になります。	40%
協働の実践	ゼミ運営への積極的な関わりを求めます。日々のゼミ活動およびゼミ行事などでの貢献度合いについて評価します。評価基準は、積極性と真摯さになります。	20%
評価の方法 個人作業の内容：40% 集団作業の貢献度：40% 受講態度およびゼミ運営：20%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ顔合わせ	16	秋学期テーマ設定会議
2	春学期テーマ設定会議	17	ゼミ発表大会準備 ・テーマに沿った資料の輪読 ・テーマについてのディスカッション ・パワーポイント作成 ・パワーポイント発表練習 ・振り返り
3	テキスト講読① ・テーマ設定会議で決定した内容に関連するテキストの輪読 ・レジュメ作成・発表	18	
4		19	
5		20	
6		21	
7		22	
8		23	
9	グループワーク設定会議	24	テキスト講読② ・レジュメ作成・発表 ・学期末レポート作成
10	グループワーク ・テキスト講読を通じて発見した課題の解決 ・グループディスカッション	25	
11		26	
12		27	
13		28	
14		29	
15	春学期のフィードバック	30	秋学期のフィードバック

【使用教材】

◇教科書：授業時に指示します。

◇参考書：稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝『キャリアで語る経営組織』有斐閣
岩出博『新・これからの人事労務』泉文堂

【履修条件等】

◇遅刻・無断欠席を絶対にしないこと。ゼミは協働作業の場ということを意識してください。与えられた課題を放置しないこと。ゼミは成長の場であり、成長のプロセスこそ重要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇レジュメの担当箇所には責任を持って対応してもらいます。

◇日頃より社会問題（とくに労働問題）に対してアンテナを張っておくようにしましょう。

【その他の注意事項】

◇ゼミ行事（合同ゼミ、ゼミ合宿）への積極的な参加を求めます。

専門演習Ⅱ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：消費者の心理と行動の分析

消費者行動のさまざまな理論について学び、消費者の心理や行動について分析・考察を行ったうえで、効果的な企業のマーケティング戦略についての立案を行う。春学期は、現実の企業や商品に関するケーススタディを中心に行い、消費者の心理と行動を分析する。秋学期は、企業側の視点に立ち、消費者行動分析をもとにしたマーケティング戦略を立案することを中心的課題とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者の心理や行動について理解し説明することができる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。担当箇所の資料を作成し、商品を購入する際の消費者の心理と行動を具体的に理解し、説明することができる。	20%
消費者の心理や行動を分析し、マーケティング戦略を立案することができる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。他者の発表内容を聞いたうえで、消費者の心理や行動を分析し、マーケティング戦略の立案や改善案などを提案できる。	25%
消費者行動やマーケティングに関する意見交換や議論に積極的に参加できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。自分の意見をわかりやすく伝え、他者との意見交換や議論を通し、より効果的なマーケティング戦略を提案できる。	25%
研究発表のためのリサーチや資料作成、議論等に積極的に参加し貢献できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。研究テーマにもとづいたリサーチ、資料作成、調査活動、ディスカッション等に積極的に参加できる。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、個人発表の内容50%、授業や班別研究への参加度と貢献度50%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	授業ガイダンス	16	班別研究のテーマの経過報告
2	個人研究テーマの選定	17	ゼミ発表大会に向けての準備 ・発表内容についてのリサーチ ・資料作成 ・調査準備 ・戦略立案 etc.
3		18	
4		19	
5		20	
6	個人研究に関する調査と分析	21	
7		22	個人研究に関する分析と発表準備
8		23	
9		24	
10		25	
11		26	
12		27	
13	個人研究の経過報告	28	研究成果報告会
14		29	
15	班別研究テーマ選定	30	

【使用教材】

◇教科書：授業時に指定する。

【履修条件等】

◇消費者の購買行動や心理に興味を持ち、発表や班別研究に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常の自身の購買行動に興味を持ち、ニュース等で企業や商品情報をチェックしておくこと。

【その他の注意事項】

◇演習には、極力休まず出席すること。

◇各自で創意工夫し、調査分析を自ら進めること。

専門演習Ⅱ	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：社会構築主義から見た企業倫理

今年度は、現実を社会的に構築されたもの（絶対的存在ではなく、みんなが主観的に作り上げていくもの）として見る、社会構築主義を考える。そして、現実を社会的に構築されたものとして考えた場合に、企業の倫理はどう作られていくかを考える。

それぞれの企業で、現実はどうとらえられ、それに基づいてどのような倫理水準が設定されるのかを考える。できれば実験をしてその過程を明らかにしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会構築主義が説明できる	演習内での積極的な発言。	25%
社会構築主義と客観的な現実との違いを説明できる	演習内での積極的な発言。 客観的な現実の例を挙げられる。 社会構築された現実の例を挙げられる。	25%
シンボリックな見方を理解できる	演習内での積極的な発言。 シンボルの例を挙げられる。	25%
シンボルを応用できる	演習内での積極的な発言。 実際にシンボルをどのように利用できるかの例を挙げて説明できる。	25%
評価の方法 自分で考え、積極的に発言でき、他人の意見もよく聞け、自分の意見を修正できるか。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	はじめに	16	実験準備
2	客観的現実とは	17	
3		18	
4		19	実験
5	社会的に構築された現実とは	20	
6		21	
7		22	シンボルを探す
8	社会的に構築された現実を探してみる	23	
9		24	
10		25	シンボルの影響を探る
11		26	
12		27	
13	シンボリックな世界	28	まとめ
14		29	
15		30	

【使用教材】

◇教科書：1回目の授業で指示します。

【履修条件等】

◇まじめに出席し、他のゼミの仲間と仲よくでき、山口ゼミに楽しくかつアカデミックな現実を構築できる人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇コマーシャル、新聞、ニュースに常に関心を持ち疑問を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習Ⅲ	イナミ カズエ 伊波 和恵
Seminar Ⅲ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：心理学、ストレス・マネジメント、心理カウンセリング

本演習では、心理学、とくに心理社会的適応を基本テーマに知識習得を進めます。成人期～壮年期のビジネスパーソンが置かれている職場・家族を含む社会的対人的環境についての知識と理解を深め、ストレス・マネジメント、心理カウンセリングやコミュニケーションスキルについて学びます。

春学期はよりよい論文執筆ならびにチーム・プロジェクトのマネジメント方法、コーチングやスーパーヴィジョンについての学びを深めます。

秋学期は、グループワークやプレゼンテーションを通じて、各種調査法や企画立案を覚えるとともに、質疑応答やディスカッションのマナーと方法を身につけられるようにします。ゼミの最終学年として、多様なプレゼンテーションやディスカッション、資料作成が展開でき、時に指導・助言にあたるようなスキルを学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ゼミ論文① (推敲・企画と作成)	①昨年度執筆のゼミ論文の相互見直し(推敲)作業のスキルについて評価する。②テーマ設定から文献研究、調査、論文執筆といったプロセスならびに最終的なレポート報告まで、一定の水準で自律的に達成できていること。ゼミ合宿時の中間報告・中間提出(推敲含む)を評価する。	20%
ゼミ論文② (執筆・助言)	①体裁、テーマ、構成、論考等の複数の観点から、期日までに提出されたレポートの完成度をみる。 ②相互批評、助言ができているかを評価する。	20%
グループワーク (ディスカッション、プレゼンテーション)	①チーム・プロジェクトにおいて何らかの役割をどのように果たしているか、そのプロセスと成果を評価する。(たとえば、資料の収集、レジュメやプレゼンテーション資料の作成、自己表現や意見交換の方法など) ②チーム・マネジメントを評価する。 ②日頃のプロジェクトへの参加態度、完成したプレゼンテーションについて評価する。	40%
チームワークとゼミ運営・参加	日頃の演習授業ならびに運営への参加態度から、コミュニケーションスキルやボランティア・スピリッツという観点で、ゼミへの貢献度を評価する。	20%
評価の方法 ・ゼミ論文40% ・課題・グループワークへの取り組みとプレゼンテーション40% ・授業参加度・平常点(行事参加等含む)20%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ顔合わせ	16	グループワーク②－1
2	プレゼンテーション	17	グループワーク②－2
3	ゼミ論文①－1	18	グループワーク②－3
4	ゼミ論文①－2	19	グループワーク②－4
5	ゼミ論文①－3	20	グループワーク②－5
6	ゼミ論文①－4	21	ゼミ論文 中間提出
7	ゼミ論文①－5	22	グループワーク②－6
8	ゼミ論文①総括・グループワーク準備	23	グループワーク②－7
9	グループワーク①－1	24	グループワーク②－8
10	グループワーク①－2	25	グループワーク②－9 *ゼミ発表大会
11	グループワーク①－3	26	グループワーク②－10
12	グループワーク①－4	27	グループワーク②総括
13	グループワーク①－5	28	ゼミ論文②－1
14	グループワーク①総括	29	ゼミ論文②－2
15	ゼミ合宿準備 *夏期休暇中ゼミ合宿	30	ゼミ論文②提出

【使用教材】

- ◇参考書：伊波和恵・竹内倫和・高石光一『マネジメントの心理学』ミネルヴァ書房
 吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』
 ナカニシヤ出版
 松井豊『改訂新版 心理学論文の書き方』河出書房新社

【履修条件等】

- ◇演習科目ですので、受講に際しては、グループメンバーでの協調性や社会性も重要です。その前提として、遅刻・無断欠席は厳禁です。
 ◇学年合同で行う自主ゼミ（縦ゼミ）にも参加するように予定してください。
 ◇心理検査等の教材、ゼミ合宿（夏期休暇中に実施予定、全員参加行事）その他のゼミ関連行事にそれぞれ相応の費用がかかりますので、各自で備えてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇週の課題は必ず準備してから演習に臨むこと。
 ◇課題は遅延なく確実に提出すること。

【その他の注意事項】

- ◇一人ひとりの自由意思と全体的なチームワーク、どちらも尊重すること。折り合いがつかない場合は、各自、最善解を求めるよう努力すること。
 ◇最終学年次生としての自覚と責任を持ち、コミュニケーションを大事にすること。
 ◇ゼミ行事には積極的に参加し、他学年ゼミ生とも積極的に交流するよう努めること。
 ◇メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ～Ⅱ種程度の基礎知識を身につけること。
 ◇ボランティア活動など、課外での主体的かつ積極的な社会参加にチャレンジすること。

専門演習Ⅲ	サトウ エミ 佐藤 恵美
Seminar Ⅲ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：人事アセスメントからみた企業に必要な人材とその能力

企業で働く人間の能力やパーソナリティ、興味、動機づけを企業別に明らかにし、組織の中で働く人をどのように活かしていくのかを考える。ここから、組織の中での対人関係や組織での行動について演習の中で考えていく。前半はテキストの輪読を中心に、専門的な基礎知識や論理的な思考能力の習得を目指します。後半は文献や資料を講読し、各種調査を行い、データ処理の基礎的な方法とプレゼンテーション能力を身につけ、企業でのデータ処理能力を高めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テキストの輪読	産業・組織心理学、社会心理学、パーソナリティ心理学等の専門的な基礎知識の習得と同時に、レジュメの作成を通して、論理的な思考能力の習得を目指しく。各人が章を担当し、レジュメによる発表を行い、これに基づいた質疑応答と討論を行っていく。	20%
個人論文の作成	個人の興味ある経営心理学の研究テーマに沿って、文献や資料を講読し、資料収集を行う。データ結果のまとめ方と考察を行うことで、企業におけるデータを読み取る力を高めることを目的とする。	30%
共同研究	自分たちが考えた共同研究のテーマに沿って調査を行う。文献や資料を講読し、各種調査を行い、概念説明、データ収集、データ処理の基礎的な方法とプレゼンテーション能力を身につけ、主体的に共同研究テーマの課題について取り組む。	20%
個人論文の作成	個人の興味ある経営心理学の研究テーマに沿って、文献や資料を講読し、資料収集や調査を行ってもら。データ結果のまとめ方と、客観的データに基づいたデータの考察を行えるようにすることで、企業でのデータ処理能力を高めることを目的とする。	30%
評価の方法 発表と発言量50%、授業での課題と共同研究・個人論文50%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	共同調査研究
2	テキストの輪読（社会心理学、パーソナリティ心理学）	17	
3		18	
4		19	調査データ収集と分析
5	テキストの輪読（産業心理学）	20	
6		21	
7		22	調査論文の作成
8	個人論文の作成	23	
9		24	
10		25	調査論文の発表
11		26	
12		27	
13	個人論文の発表と討論	28	これまでの論文の振り返り
14		29	
15		30	

【使用教材】

◇教科書：初回演習時にテーマを決め、それに沿った教科書を指定する。

【履修条件等】

◇欠席や遅刻は認めない。やむを得ず欠席する場合には、必ず連絡をすること。

◇各自の分担に責任を持って、積極的に参加することを望みます。同学年のみならず、学年をこえてコミュニケーションをとり、グループでの共同作業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

◇指定された日に、自分で選んだ分担のレジュメやPPT資料を作成してくること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門演習Ⅲ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Seminar Ⅲ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：消費者の心理と行動の分析

消費者行動のさまざまな理論について学び、消費者の心理や行動について分析・考察を行ったうえで、効果的な企業のマーケティング戦略についての立案を行う。春学期は、現実の企業や商品に関するケーススタディを中心に行い、消費者の心理と行動を分析する。秋学期は、企業側の視点に立ち、消費者行動分析をもとにしたマーケティング戦略を立案することを中心的課題とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者の心理や行動について理解し説明することができる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。担当箇所の資料を作成し、商品を購入する際の消費者の心理と行動を具体的に理解し、説明することができる。	20%
消費者の心理や行動を分析し、マーケティング戦略を立案することができる	授業時の発表内容と課題提出によって評価する。他者の発表内容を聞いたうえで、消費者の心理や行動を分析し、マーケティング戦略の立案や改善案などを提案できる。	25%
消費者行動やマーケティングに関する意見交換や議論に積極的に参加できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。自分の意見をわかりやすく伝え、他者との意見交換や議論を通し、より効果的なマーケティング戦略を提案できる。	25%
研究発表のためのリサーチや資料作成、議論等に積極的に参加し貢献できる	授業時の発表内容と参加貢献度、課題提出によって評価する。研究テーマにもとづいたリサーチ、資料作成、調査活動、ディスカッション等に積極的に参加できる。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、個人発表の内容50%、授業や班別研究への参加度と貢献度50%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	授業ガイダンス	16	班別研究のテーマの経過報告
2	個人研究テーマの選定	17	ゼミ発表大会に向けての準備 ・発表内容についてのリサーチ ・資料作成 ・調査準備 ・戦略立案 etc.
3		18	
4		19	
5		20	
6	個人研究に関する調査と分析	21	
7		22	個人研究に関する分析と発表準備
8		23	
9		24	
10		25	
11		26	
12		27	
13	個人研究の経過報告	28	研究成果報告会
14		29	
15	班別研究テーマ選定	30	

【使用教材】

◇教科書：授業時に指定する。

【履修条件等】

◇消費者の購買行動や心理に興味を持ち、発表や班別研究に積極的に参加すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常の自身の購買行動に興味を持ち、ニュース等で企業や商品情報をチェックしておくこと。

【その他の注意事項】

◇演習には、極力休まず出席すること。

◇各自で創意工夫し、調査分析を自ら進めること。

専門演習Ⅲ	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Seminar Ⅲ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：社会構築主義から見た企業倫理

今年度は、現実を社会的に構築されたもの（絶対的存在ではなく、みんなが主観的に作り上げていくもの）として見る、社会構築主義を考える。そして、現実を社会的に構築されたものとして考えた場合に、企業の倫理はどう作られていくかを考える。

それぞれの企業で、現実はどうとらえられ、それに基づいてどのような倫理水準が設定されるのかを考える。できれば実験をしてその過程を明らかにしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会構築主義が説明できる	演習内での積極的な発言。	25%
社会構築主義と客観的な現実との違いを説明できる	演習内での積極的な発言。 客観的な現実の例を挙げられる。 社会構築された現実の例を挙げられる。	25%
シンボリックな見方を理解できる	演習内での積極的な発言。 シンボルの例を挙げられる。	25%
シンボルを応用できる	演習内での積極的な発言。 実際にシンボルをどのように利用できるかの例を挙げて説明できる。	25%
評価の方法 自分で考え、積極的に発言でき、他人の意見もよく聞け、自分の意見を修正できるか。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	はじめに	16	実験準備
2	客観的現実とは	17	
3		18	
4		19	
5	社会的に構築された現実とは	20	実験
6		21	
7		22	
8		23	
9	社会的に構築された現実を探してみる	24	シンボルを探す
10		25	
11		26	
12		27	
13	シンボリックな世界	28	シンボルの影響を探る
14		29	
15		30	

【使用教材】

◇教科書：1回目の授業で指示します。

【履修条件等】

◇まじめに出席し、他のゼミの仲間と仲よくでき、山口ゼミに楽しくかつアカデミックな現実を構築できる人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇コマーシャル、新聞、ニュースに常に関心を持ち疑問を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

卒業論文	
Graduation Thesis	基本科目／通年／2単位

【授業概要（内容、到達、教授法）】

連続演習の研究の総まとめとしての卒業論文作成の指導を行う。

演習の学習過程で得られたテーマを卒業論文として完成させるため、資料・文献の検索から仮説構築や論理構成、論文形式での執筆などを個別に指導する。

1、2週間に1回程度、オフィス・アワーの時間帯に指導する。

【使用教材】

◇教科書：必要に応じて指示する。

◇参考書：必要に応じて指示する。

【評価方法】

◇論文執筆過程の努力および完成した卒業論文により評価する。

論文は20,000字（400字詰原稿用紙50枚）以上。

【履修条件・提出締切日】

◇連続演習の担当者が履修を認め、2・3年次（3年次編入生は3年次のみ）

に「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の単位を修得したもの。

提出締切日：平成29年1月12日（木） 17:00まで

提出先：学務センター

【授業計画】

＜春学期＞

1. 卒業論文の作成概要指導
2. 各自のテーマ決定の確認・助言
3. 論文の形式、構成の指導
4. テーマに関する資料・情報の収集法指導
5. 論文作成（中間）の指導
6. 中間発表

＜秋学期＞

1. 夏期休暇中の研究成果の確認
2. 論文完成に向けての指導
3. 最新のデータとの照合
4. 論文要旨に対するディスカッション
5. 論文の完成・最終稿のチェック
6. 卒業論文発表会

経済学概論 I	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Introduction to Economics I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？ たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？ あなたならどう答えますか？ こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生活している社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
・経済学の基礎理論の習得 ・現代の経済問題に対する経済学的視点を養う	定期試験の結果と課題等によって成績を評価する。	定期試験90%、課題およびリアクションペーパー等の平常点10%
評価の方法 定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%により総合的に判断して成績を評価します。ただし、5回以上欠席した者の単位取得を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	経済主体と経済活動	経済とはなにか
3	消費	所得と消費の関係
4	投資	投資の理論
5	政府支出	財政の役割
6	政府の役割①	財源
7	政府の役割②	財政赤字の問題
8	決済	為替取引
9	貿易と決済	内国為替と外国為替
10	GDP	経済成長と経済の豊かさとは
11	戦後日本経済史（前編）	戦後からバブル崩壊まで
12	戦後日本経済史（後編）	バブル崩壊後の日本経済
13	景気指標	D I、C I、日銀短観
14	物価	インフレとデフレ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

経済学概論Ⅱ	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Introduction to Economics Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？あなたならどう答えますか？こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生活している社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
・経済学の基礎理論の習得 ・現代の経済問題に対する経済学的視点を養う	定期試験の結果と課題によって成績を評価する。	定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%
評価の方法 定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%により総合的に判断して成績を評価します。ただし、5回以上欠席した者の単位取得を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	需要と供給	需給関係の変化と価格への影響
3	価格の決定	価値と価格
4	弾力性	価格変化
5	費用と便益	大学進学のコストと便益を考える
6	生産性	生産性を上昇させる方法
7	雇用	大学生の就職状況
8	株式と債券	株式と債券のちがい
9	金融政策①	お金とは
10	金融政策②	中央銀行の役割
11	決済システム	日銀ネット
12	経済危機①	景気循環における恐慌
13	経済危機②	危機対応策
14	バブルの歴史	世界で起こったバブル現象
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

中小企業論	アオヤマ カズマサ 青山 和正
Theory of Small Business	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

中小企業は、大企業とともに一国の経済社会の発展の原動力の大きな柱のひとつであり、かつ地域経済や経営革新の担い手として大きな役割を果たしている。その歴史的な発展や中小企業の構造変化、日本経済におけるその存立条件と中小企業固有の問題点を解明する。さらに中国、韓国、タイなど、アジア諸国の中小企業についても、その構造や政策について日本との比較しながら解明していく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中小企業に関する基礎的な知識と位置づけを理解していること	小テストを行い、中小企業に関する基礎的な用語と経済・産業との関わりを習得しているかを評価する。	15%
中小企業に関する分野ごとの基礎的な知識と課題を理解していること	小テストを行い、中小企業に関する分野別の基礎的な用語と知識を習得しているかを評価する。	15%
中小企業に関する分野ごとの問題を深く理解し、自分で課題を理解していること	中小企業に関して、特定分野の内容と課題を把握しているかどうかを論述試験により評価を行う。論旨の体系化、内容、課題などが理解しているかを回答しているかを評価する。	30%
中小企業問題の全体像と各分野の関連を理解し、中小企業問題の基礎から応用まで理解していること	中小企業に関して、基礎から応用までの内容と課題を把握しているかどうかを論述試験により評価を行う。中小企業問題は経済社会問題として幅広いので、どの程度深く理解できたかを評価する。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として試験75%、演習15%、授業参加度10% 試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス なぜ中小企業が重要か	本授業のねらいと進め方、評価基準等について説明、中小企業の役割と重要性を見る
2	中小企業の定義	日本、米国などの中小企業の捉え方と実態
3	中小企業の存立形態（Ⅰ）	中小企業の構造変化と存立分野 戦後から現在までの構造変化
4	中小企業の存立形態（Ⅱ）	中小企業の業種別の構造変化と特徴 製造業、商業、サービス業の業種別の中小企業の動向と問題点を探る
5	中小企業政策	各国の中小企業政策の体系とその変遷 （演習1）中小企業政策
6	創業・開業（Ⅰ）	各国の創業・開業の実態と創業の重要性
7	創業・開業（Ⅱ）	創業促進政策、インキュベーション
8	中小企業と製造業（Ⅰ）	日本の下請構造の歴史的変遷と特徴
9	中小企業と製造業（Ⅱ）	日本の下請構造の変化と課題
10	中小企業と製造業（Ⅲ）	中小製造業の生き残り条件 （演習2）中小製造業
11	中小企業の国際化（Ⅰ）	中小企業の国際化の変遷
12	中小企業の国際化（Ⅱ）	中小企業の国際化とアジア分業体制
13	地域経済と中小企業（Ⅰ）	地域経済と中小企業の関わり方
14	地域経済と中小企業（Ⅱ）	地場産業における中小企業の役割
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：青山和正著『精解中小企業論』同友館
- ◇参考書：最新の中小企業白書、その他。
- ◇その他：先進的な中小企業を紹介。

【履修条件等】

- ◇日頃から中小企業にも絶えず関心や疑問をもつこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇使用教材、レジメをあらかじめ読んでおくこと。
- ◇中小企業のテーマごとに基礎的な知識を理解しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇日本経済新聞など、中小企業に関する記事を読むこと。

中小企業論	ムラカミ マサタケ 村上 正剛
Theory of Small Business	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

自動車に使われる部品点数は2万～3万ともいわれ、自動車産業に関わる企業は20万社にもものぼるが、この多くは中小企業である。また普段の生活のなかで何気なく利用しているラーメン店、美容院店の多くも中小企業である。本講座では、このように我が国経済において多様な役割を果たす中小企業について、産業構造・組織における位置づけや役割を学ぶとともに、その企業特質等を理解し、そこから立案・実行されている中小企業政策の分析・評価と成果について理解を深めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
わが国における中小企業の社会・経済的な役割や課題を理解していること	設問に対する解答によって評価する。 評価基準は以下のとおり（以下同じ）。 ・ 中小企業が産業や地域社会において果たす役割や位置づけについての基礎的知識・意見。 ・ 中小企業の産業組織的な分析と理解の程度。	40%
中小企業の企業主体としての特性や課題を理解していること	・ 中小企業の存立を可能とする、市場、製品分野や取引条件等についての知識・意見。 ・ 中小企業の存立を可能とする企業形態とその経営構造の特性や課題についての知識・意見。	40%
中小企業政策の考え方や政策の特徴・課題を理解していること	・ 日本の中小企業政策の理念、政策体系の概要についての知識・意見。 ・ 政策の立案、推進過程および政策効果の達成状況についての知識・意見。	20%
評価の方法 試験（定期試験）100%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	科目の目的・ねらい、授業の進め方、成績評価についての説明
2	中小企業の存立条件と歴史的変遷	中小企業の存立条件 日本における中小企業の歴史的変遷
3	中小企業の産業構造における役割(1)	産業構造・組織に見る中小企業の存立条件
4	中小企業の産業構造における役割(2)	中小企業の開廃業が産業や社会構造に与える影響 存立条件のまとめ
5	中小企業の存立形態(1)	存立形態の定義と区分・種類 下請制の定義と動向と今後の展開
6	中小企業の存立形態(2)	ベンチャービジネス（V B）の動向と課題
7	中小企業の存立形態(3)	V Bの資本政策やベンチャーキャピタル（V C）の投資行動
8	中小企業の存立形態(4)	ソーシャルビジネス（S B）の動向と課題
9	地域と中小企業(1)	産業集積の動向と課題
10	地域と中小企業(2)	商業集積の動向と課題
11	中小企業のグローバル化	中小企業のグローバル化の動向と課題
12	中小企業政策(1)	中小企業政策の意義・役割と体系
13	中小企業政策(2)	中小企業政策の運用実態と課題
14	まとめ	全体のまとめ、今後の中小企業のあり方の展望
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：青山和正著『精解中小企業論』同友館
中小企業白書、その他

【履修条件等】

◇経営学の基礎的知識を習得していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の授業において事前に指示した資料、データ等の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

職場の対人心理学	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一
Workplace Interpersonal Psychology	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

どんなに知的要素（学校の成績など）が優れていても社会で必ず成功するとは限らないということは知られています。社会で成功するためには、感情的要素が重要なカギを握っています。職場における「感情」の重要性を指摘しながら、職場ばかりではなく日常生活でみられるいろいろな状況も含めて解説していきます。授業は主に講義形式で進めていきますが、進行によっては関連する検査の実施なども考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
外界からの刺激受容の理解	刺激受容のメカニズムを理解しているかで評価する。	10%
職場における対人心理の理解	ジョハリの窓、バランス理論、コミュニケーション、コミュニケーションの実践を理解できているかで評価する。	30%
E Q（Emotional Quotient）の理解	E Qを理解しE Qをどのように応用したらよいかを理解できているかで評価する。	20%
モチベーションの理解	モチベーションを理解できているか、そのメカニズムを理解できているかで評価する。	20%
評価の方法 出席は3分の2以上が単位認定の条件 平常点(授業参加度、小レポートなど)20%、レポート30%、最終試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	(1) 対人関係について
2	感覚器官の理解	(1) 感覚器官の種類
3	感覚器官の理解	(2) 左脳右脳の理解
4	モチベーション	(1) モチベーションとは
5	モチベーション	(2) モチベーションの理論[1]
6	モチベーション	(3) モチベーションの理論[2]
7	コミュニケーション	(1) コミュニケーションとは (2) コミュニケーションの種類
8	コミュニケーション	(3) コミュニケーションの過程 (4) コミュニケーションの実践
9	E Q	(1) E Qとは (2) E Qと I Q
10	E Q	(3) E Qを高める (4) E Qテスト実習
11	職場の対人心理	(1) ジョハリの窓 (2) バランス理論
12	職場の対人心理	(3) 自己を知る
13	職場の対人心理	(3) リーダーシップ[1]
14	職場での感情	(4) リーダーシップ[2]
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇岡村一成・松浦健児編著『ビジネスの心理学』八千代出版

【履修条件等】

◇「心理学概論」履修後が望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇出席し前向きに自ら学ぶこと。

ビジネスコミュニケーション	ハヤシ ハルコ 林 治子
Business Communication	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において、他者と良好な関係を構築し、作業を効率よく進めるためには、コミュニケーションの善し悪しが鍵となる。現代社会で求められるコミュニケーション能力は、知識として理解したことをTPOに応じて柔軟に対処できる実践力・現場力にある。スキルの習得にとどまらず、「なぜ」その必要性があるか理由づけを行いながら、流動化する社会に適応できるコミュニケーションの本質を学ぶ。

本授業では、コミュニケーションの意義や役割、機能に関する基礎知識をさまざまな観点から学ぶ。同時に、ロールプレイやグループワークを通して、自ら発信する力、伝える力、情報を主体的に読み解く力などコミュニケーションの実践的スキルの習得もめざす。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「コミュニケーションとは何か」その意義や方法について基礎知識を理解していること	グループ討議への参加度と貢献度、授業毎のリアクションペーパー、試験による理解度を総合的に評価。コミュニケーションの基本が理解できていること。	25%
コミュニケーションを理解する上で前提となる環境や背景との関係を理解していること	設問に対する回答、リアクションペーパーによって評価。対人、異文化、メディアとコミュニケーションの関係を自らの体験をもとに考察することができること。新たな視点で深く掘り下げて考えられること。	25%
社会で通用する言語コミュニケーション・非言語コミュニケーションの基本的なスキルを理解し、活用できるようになること	ペア・グループワークへの参加度、受講者同士によるフィードバックの度合い、提出物による評価。話し方、聴き方、プレゼン力とその態度のポイントを把握、実践できること。Eメールなどビジネス文書の書き方の基本を理解し、作成できること。	25%
メディアが発信する情報、ネットで発信される情報を必要に応じて取捨選択できること	グループ討議への参加度と貢献度、リアクションペーパー、設問に対する回答に対して総合的に評価。テレビ、新聞、インターネットが発信する情報を比較し、発信側の意図と受け手側の情報入手と読み解きができること。自分の意見が言えること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として下記のように評価する。 授業参加態度30%、授業終了時のリアクションペーパー30%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方、成績評価等についての説明 授業前アンケートの実施（授業の参考資料とする）
2	コミュニケーションの基本(1)	コミュニケーションとは何か
3	コミュニケーションの基本(2)	コミュニケーション・ツールの特徴と活用法
4	コミュニケーションと記号	言語・非言語コミュニケーション
5	コミュニケーションと自己	対人コミュニケーション 自己呈示と自己開示
6	コミュニケーションと文化	コミュニケーション様式や情報処理様式の文化による違い
7	コミュニケーションとメディア	メディア・リテラシー ネット社会と情報
8	ビジネス・コミュニケーション実践(1)	ビジネス場面での話の聴き方・伝え方
9	ビジネス・コミュニケーション実践(2)	ビジネス場面でのコミュニケーションと態度
10	スピーチ体験学習	話し手と聴き手の相互理解とフィードバック
11	ビジネス・コミュニケーション実践(3)	ビジネスでの文書やメール・電話等の有効な活用法
12	リテラシー体験学習	メディア発信された情報の読み解きワーク
13	コミュニケーションとスタイル	コミュニケーションスタイル別の考え方と対処法
14	コミュニケーションに関するまとめ	各講義のポイントを再確認し、質疑応答
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇特定の教科書は使用せず、教員作成のプリントや資料を毎授業時に配布する。
- ◇参考資料も授業の都度、提示する。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前回の授業内容を復習し、疑問点をメモ、理解を深めておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇授業開始時間までに着席すること。授業中に飲食をしない。
- ◇授業中は私語を慎み、携帯電話およびメール、スマートフォンの使用を禁止する。
- ◇毎回、授業の最後にコメントペーパーを記入し提出する。
(教員側が授業の理解度を確認し、学生が授業のコメントや質問事項を伝え、双方向のより良いコミュニケーションを図ることが目的)。
- ◇受講者相互のコミュニケーション能力が高まることを目指し、グループワークには積極的に参加すること。

カウンセリング演習	イナミ カズエ 伊波 和恵
Counseling seminar	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この演習では、メンタルヘルスや心理カウンセリングの知識に基づき、セルフアウェアネス、ロールプレイ実習などを中心に、心理臨床の基礎的スキルに関する体験学習を進めます。グループでのやりとりを重視した学習・話し合いを通じて、グループプロセスへの視点を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心理カウンセリングの理念と理論	授業中の取り組み（ロールプレイ・小レポート等）によって評価。心理カウンセリングに関する概念の定義や用語について適切に態度で表現することができ、また必要に応じて言葉で説明できること。	30%
対象者の理解（アセスメント）とリソースの活用	授業中の取り組み（ロールプレイ・小レポート等）によって評価。面接対象者の状態を把握し（アセスメント）、心理社会的要因としてのストレスが個人のメンタルヘルスや職業・社会生活にどのように影響を及ぼすかについて見立てられること。また、治療に際し、さまざまなリソースを活用することへの理解が十分であること。	20%
心理カウンセリングの理解とその実践	レポート課題によって評価。事例読解と対応策について理解し、考察を適切に行えること。	30%
心理カウンセリングの方法論の理解とその実践	授業中の取り組み（ロールプレイ等）によって評価。心理カウンセリングならびに方法論に関する基本的な枠組みや方法（技法含む）、それらの意義について理解し、カウンセリングの方法について的確に表現できること。心理社会的ケアの手段としてのカウンセリングのあり方を理解していること。	20%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、平常点（ミニレポート・ワーク・授業参加度等）70%・レポート（中間試験に代わる課題）30%を勘案して、総合的に評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	カウンセリングとは？
2	セルフアウェアネス	セルフアウェアネス（自己覚知）を促すワーク
3	リラクセーション	リラクセーションの技法
4	カウンセリング	倫理観（守秘義務・境界管理）、役割、連携
5	体験学習①	非言語的態度＋傾聴①
6	体験学習②	傾聴②
7	体験学習③	傾聴③
8	体験学習④	質問①
9	体験学習⑤	質問②
10	ロールプレイ①	シナリオロールプレイ
11	ロールプレイ②	ロールプレイ①
12	ロールプレイ③	ロールプレイ②
13	グループセッション①	ワーク①
14	グループセッション②	ワーク②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：とくに指定しない（配付資料を使用する）。
- ◇参考書：適宜紹介する。

【履修条件等】

- ◇発展的内容であるため、「心理学」、「職場の健康心理学」、「産業カウンセリング」の単位を取得（見込）が望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇紹介した参考書の関連箇所を熟読しておくこと。
- ◇メンタルヘルスに関するニュース記事を日頃からチェックしておくこと。
- ◇“傾聴”などの技法については、知識にとどめず、日常生活の実践を心がけること。

【その他の注意事項】

- ◇授業中のスマートフォン、携帯電話等の電子機器類の使用は原則として認めない。
- ◇課題は期日どおりに提出すること。
- ◇授業は個人またはグループワーク課題が中心の演習科目である。①この授業の特徴をよく理解したうえで受講を決めること。②受講者は遅刻をしないこと。
- ◇民間資格である「メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種（大阪商工会議所）」の取得を念頭に置いて学習を進めるとよい。

ヒューマンエラーの心理学	フカザワ ノブユキ 深澤 伸幸
Psychology of Human Error	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

企業において日々行われる企業活動と安全性とのバランスが極めて重要である。いくら企業利益を上げて、その一方で多額の損失を出すのでは企業の組織体質は強くない。損失をもたらす代表的なものが事故・労働災害である。本講義では、①エラー行動に関する考えを学び、次に②エラー事例を取り上げその原因を考え、③エラー行動の再発防止対策が立てられるまでを到達目標とする。講義中心とするが、視聴覚教材を用いたり、討議形式も取り入れていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ヒューマンエラー行動に関する諸理論を理解する	ヒューマンエラーに関する考え方や理論を理解できることを評価基準とする。	25%
心理学の基礎である知覚・認知・記憶を再学習し、人間の仕組みを理解する	ヒューマンエラーは注意の状態、実行時の誤り、記憶間違い、さらには予測判断の誤りから生じるため、事前に心理学の基本的な知識を再学習し、人間行動の仕組みを理解しておくことが重要である。理解の程度を評価基準とする。	25%
ヒューマンエラー研究で用いられる研究方法を理解する	ヒューマンエラーの研究は事故報告書の分析から実験を用いた方法まであり、最近ではシミュレーション場面の中でエラー行動を実際に発生させ、エラーの発生過程が分かるようになっている。それらの研究方法への理解の程度を評価基準とする。	25%
事故防止対策を理解し、自ら対策を立てることができる	職場におけるヒューマンエラー事故を防止するには、人間が持つリスクへの感受性を高めると共に、職場集団が持つ職場の安全風土を醸成し、職場の安全文化を向上させることが重要である。重要度への理解の程度を評価基準とする。	25%
評価の方法 試験40%、エラー事例の分析と対策レポート40%、通常のレポート20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義概要と授業のすすめ方
2	エラー行動の定義	認知心理学の立場、人間工学の立場
3	エラー行動の要因①	感覚・知覚の仕組み、知覚とエラー行動
4	エラー行動の要因②	認知の仕組み、認知とエラー行動
5	エラー行動の要因③	記憶の仕組み、記憶とエラー行動
6	エラー行動の要因④	生理学特性とエラー誘発要因（サーカディアンリズム等）
7	エラー行動の要因⑤	注意と不注意、不注意とエラー行動
8	安全と危険	安全と危険の関係、ディノーマンゾーン
9	リスク知覚とエラー行動	リスク・パーセプションとエラー行動
10	事故再発防止対策①	職場安全風土醸成プログラム、職場の体質改善
11	事故再発防止対策②	安全教育法、危険感受性訓練、リスナー教育
12	組織過誤	組織体質、事例分析、コンプライアンス違反
13	エラー行動の研究手法①	事故報告書分析、実験手法、シミュレーション実験法
14	エラー行動の研究手法②	事例分析、再発防止策
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇深澤伸幸著『ヒューマンエラーの心理学入門』国際文献社

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回授業終了時に次の講義内容を紹介するので、次回までにHPで調べること。

【その他の注意事項】

◇毎回、学習内容の獲得レベルを把握するため、授業終了時に振り返りシートへの記述を求め、これをレポートとみなして評価する。

◇出席率を重視し、いかなる場合も欠席率が3分の1を超えた場合は履修放棄とみなす。

入門簿記 I	キタイ フジオ 北井 不二男
Elementary Bookkeeping I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

注) 6回目の中間試験の後、同時間帯の「入門簿記 I」とクラス替えを行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 複式簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を修得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	中間試験および解説	
7	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
8	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
9	決算(2)	6桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
11	簿記一巡の確認	演習
12	現金	現金の範囲、現金過不足
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習到達度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記 I	ドイツミツル 土井 充
Elementary Bookkeeping I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

注) 6回目の中間試験の後、同時間帯の「入門簿記 I」とクラス替えを行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 複式簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を修得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	中間試験および解説	
7	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
8	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
9	決算(2)	6桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
11	簿記一巡の確認	演習
12	現金	現金の範囲、現金過不足
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習到達度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記 I	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Elementary Bookkeeping I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

注) 6回目の中間試験の後、同時間帯の「入門簿記 I」とクラス替えを行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 複式簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を修得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	中間試験および解説	
7	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
8	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
9	決算(2)	6桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
11	簿記一巡の確認	演習
12	現金	現金の範囲、現金過不足
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習到達度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記 I	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Elementary Bookkeeping I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

注) 6回目の中間試験の後、同時間帯の「入門簿記 I」とクラス替えを行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 複式簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を修得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	中間試験および解説	
7	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
8	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
9	決算(2)	6桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
11	簿記一巡の確認	演習
12	現金	現金の範囲、現金過不足
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習到達度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記Ⅱ	キタイ フジオ 北井 不二男
Elementary Bookkeeping Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。「入門簿記Ⅰ」で修得した知識に基づき、商業を中心とする個人企業の活動に関する簿記処理が行えるよう、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳(1)	約束手形の記帳
8	手形取引の記帳(2)	為替手形の記帳
9	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
10	売買目的有価証券	売買目的有価証券の取得・売却・評価の記帳
11	収益・費用の見越・繰延	収益・費用の見越・繰延処理
12	引出金、税金の記帳	資本金・引出金、税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	復習	講義内容の復習課題ならびにその解説

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成される。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要がある。

また、講義の特性上、欠席が多いとついて行けなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇復習をしっかり、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記Ⅱ	ドイツミツル 土井 充
Elementary Bookkeeping Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。「入門簿記Ⅰ」で修得した知識に基づき、商業を中心とする個人企業の活動に関する簿記処理が行えるよう、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳(1)	約束手形の記帳
8	手形取引の記帳(2)	為替手形の記帳
9	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
10	売買目的有価証券	売買目的有価証券の取得・売却・評価の記帳
11	収益・費用の見越・繰延	収益・費用の見越・繰延処理
12	引出金、税金の記帳	資本金・引出金、税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	復習	講義内容の復習課題ならびにその解説

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成される。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要がある。

また、講義の特性上、欠席が多いとついて行けなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇復習をしっかり、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記Ⅱ	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Elementary Bookkeeping Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。「入門簿記Ⅰ」で修得した知識に基づき、商業を中心とする個人企業の活動に関する簿記処理が行えるよう、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の2/3以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳(1)	約束手形の記帳
8	手形取引の記帳(2)	為替手形の記帳
9	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
10	売買目的有価証券	売買目的有価証券の取得・売却・評価の記帳
11	収益・費用の見越・繰延	収益・費用の見越・繰延処理
12	引出金、税金の記帳	資本金・引出金、税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	復習	講義内容の復習課題ならびにその解説

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成される。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要がある。

また、講義の特性上、欠席が多いとついて行けなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇復習をしっかり、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記Ⅱ	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Elementary Bookkeeping Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。「入門簿記Ⅰ」で修得した知識に基づき、商業を中心とする個人企業の活動に関する簿記処理が行えるよう、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の2/3以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳(1)	約束手形の記帳
8	手形取引の記帳(2)	為替手形の記帳
9	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
10	売買目的有価証券	売買目的有価証券の取得・売却・評価の記帳
11	収益・費用の見越・繰延	収益・費用の見越・繰延処理
12	引出金、税金の記帳	資本金・引出金、税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	復習	講義内容の復習課題ならびにその解説

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成される。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要がある。

また、講義の特性上、欠席が多いとついて行けなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇復習をしっかり、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

広告論 I	ナカオ タカトシ 中尾 孝年
Principle of Advertising I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

クリエイティブなアイディアの発想方法から実際の広告の企画、表現、統合的なキャンペーン提案にいたるまでを実践形式で学んでいただきます。

学生の皆さんの新しくて柔軟な発想に出会えるのを楽しみにしています!!

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企画：斬新で独創性のあるアイディアか？	課題、商品、サービスに対してのアプローチの仕方 方で評価	40%
表現：そのアイディアをどんな方法で実現したか？	課題、商品、サービスに対してのアウトプット方法 方で評価	30%
挑戦：どれだけ積極的に考えたか？	課題、商品、サービスに対しての解答、回答、提案、 発言の数で評価	30%
評価の方法 毎回の授業で出題する課題への回答と解答、期末テストの結果を踏まえて総合的に評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	アイディア発想法 1	演習を通じてさまざまなアイディアの発想法を学習
2	アイディア発想法 2	演習を通じてさまざまなアイディアの発想法を学習
3	アイディア発想法 3	演習を通じてさまざまなアイディアの発想法を学習
4	アイディア発想法 4	演習を通じてさまざまなアイディアの発想法を学習
5	コピーの時間 1	実際のコピーライティングに挑戦
6	コピーの時間 2	実際のコピーライティングに挑戦
7	プランニング 1－1	課題解決に向けた広告キャンペーンの企画
8	プランニング 1－2	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
9	プランニング 2－1	課題解決に向けた広告キャンペーンの企画
10	プランニング 2－2	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
11	プランニング 3－1	課題解決に向けた広告キャンペーンの企画
12	プランニング 3－2	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
13	高度なプランニング 2	より高度なコミュニケーションデザインを企画
14	高度なプランニング 3	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇楽しみながら考えることができる人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日々の暮らしを自分らしく過ごしてください。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

広告論 I	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principle of Advertising I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

広告の基礎知識から広告管理の考え方までを理解する。現代社会において、広告はなくてはならない存在となっている。広告を行う広告主の立場だけでなく、広告ビジネスに関わる媒体社や広告会社の存在、広告の受け手である消費者の立場など、幅広い視点から広告を学ぶ。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告関連の専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告の定義、広告の種類、広告に関わる組織に関する用語を答えられること。	25%
広告と社会がどのように結びついているかを理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告主、広告会社、メディア、消費者が、どのように広告に関わっているかを答えられること。	25%
マーケティング活動と広告活動の関係性を広告主の立場から理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。マーケティングにおける広告の位置づけ、広告主の展開する広告活動がどのようなプロセスを経ているのかを答えられること。	25%
広告効果測定の方法と方法を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告効果の捉え方と測定方法について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	最近の広告事情	広告に関連する最新のトピックを取り上げ説明する。
3	広告の定義と種類(1)	広告の定義と種類について説明する
4	広告の定義と種類(2)	同上
5	マーケティング活動と活動広告	マーケティングにおける広告の位置づけについて説明する
6	広告に関わる組織(1)	広告会社の機能と存在意義、種類について説明する
7	広告に関わる組織(2)	媒体社の機能と存在意義、種類について説明する
8	事例研究(1)	優れた広告活動の事例を取り上げて説明する
9	広告計画(1)	広告計画における概要と基礎を説明する
10	広告計画(2)	ターゲティング、予算計画、目標設定について説明する
11	広告計画(3)	媒体計画と表現計画について説明する
12	広告効果測定(1)	広告効果測定の枠組みを説明する
13	広告効果測定(2)	広告効果測定の具体的な方法について説明する
14	事例研究(2)	広告に関連するビジネスの具体例を説明する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所に通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

広告論Ⅱ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principle of Advertising Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

広告活動の具体的な側面に焦点を当てて学ぶ。具体的には、メディアプランニング、アカウントプランニング、グローバルコミュニティにおける広告活動、広告と規制などを取り上げる。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
メディアプランニングの専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。メディアプランニングのプロセスとメディアごとの用語を答えられること。	25%
アカウントプランニングの背景と用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。アカウントプランニングの背景と意義、専門用語を答えられること。	25%
グローバル広告の背景を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。グローバルなマーケティングや広告活動の発達過程や専門用語を答えられること。	25%
広告の法規や規制の背景と専門用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告規制の背景と専門用語について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	メディアプランニング(1)	マスメディアを中心としたメディアプランニングについて説明する
3	メディアプランニング(2)	OOHやスポンサーシップについて説明する
4	事例研究(1)	インターネットと広告との関係について学習する
5	アカウントプランニング	アカウントプランニングの背景とプロセスを説明する
6	日本の広告表現	日本における広告表現について説明する
7	グローバルコミュニティと広告	グローバルな広告主の広告活動について説明する
8	海外の広告表現	海外における広告表現について説明する
9	広告規制(1)	広告規制の概要と意義について説明する
10	広告規制(2)	広告に関する法規制について説明する
11	広告規制(3)	広告に関する自主規制と景品表示について説明する
12	比較広告	比較広告について説明する
13	プロフェッショナルサービスと広告	プロフェッショナルサービスにおける広告について説明する
14	医薬品と広告	医薬品における広告について説明する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所に通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

商品論	タグチ フユキ 田口 冬樹
Product Management	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

市場には多くの新しい商品が提供されているが、ヒット商品として支持され、ロングセラーにまで発展できる商品は限られている。この講義では、新商品の開発と提供のプロセスを中心に理解を深めることをねらいとしている。一般の消費財だけでなく、飲食やエンターテインメントのようなサービス、アニメや小説などのようなコンテンツ、さらには観光地や水族館のような場所や施設といった商品も対象とし、また商品の安全性確保・資源保全・環境保護の視点からも広く検討を加え、現代に求められる商品論を提案したい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商品とサービスの役割を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。商品とサービスの関係、商品の構成要件と分類、商品化の仕組み、サービスの商品特性について答えられること。	20%
新製品開発と製品ライフサイクルの両プロセスを関連づけて説明できること	設問に対する解答によって評価。消費者サイドのニーズと企業サイドのシーズの役割、新製品の市場導入による普及のプロセス（キャズムの意味）、コモディティ化について理解し、説明ができること。	20%
現代の商品に求められる社会的条件として、環境・資源・安全性について課題を考察し、理解を深める	設問に対する解答によって評価。現代の商品に求められる品質、エコや安全性、下取りといった問題について、その背景になっている課題を整理し、製品開発や提供の問題点を指摘できること。	25%
商品に対する調査と課題発見および改善提案を行う	設問に対する解答によって評価。身近な商品を取り上げて、企業サイドからはSWOT分析、消費者サイドからは購入・利用・処分の問題点の発見を通してその商品の改善提案書が作成できること。	25%
評価の方法 定期試験70%、授業内実施の小テスト20%、授業への貢献10%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義のねらいと進め方
2	商品とは何か	商品の意味と商品化の仕組み、便益の束とは
3	現代の商品概念	商品をめぐるイノベーション
4	消費財とビジネス財	使用目的・顧客対象の違いとは：ミシュランガイドのねらい
5	サービス商品	サービスの商品特性とサービス・ドミナント・ロジック
6	製品計画	ニーズとシーズ、マーチャンダイジングとSPA
7	新製品開発の戦略	ケーススタディ：先発優位と後発優位
8	製品ライフサイクル	新製品の普及とコモディティ化
9	市場細分化	STPとは何か
10	フリーのねらい	商品と価格の関係
11	ブランドと商品	ブランドの役割と戦略のタイプ
12	ブランド戦略	ケーススタディ：NBとPB、OEM、地域ブランドの展開
13	日本市場とブランド	日本人のブランド観、新興国のケース
14	商品企画&改善提案	各自が考える商品企画および改善の提案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：未定。

◇参考書：授業開始時ならびに必要なに応じて紹介、とくに販売士受験講座の解説書なども授業時に紹介。

【履修条件等】

◇マーケティング関連科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「ブランドマーケティング論」、「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」、「販売管理論Ⅰ」、「販売管理論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「コンテンツビジネス論Ⅰ」（他学科科目）、「コンテンツビジネス論Ⅱ」（他学科科目）など）を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時に予告した課題を中心に事例を調査し、参考資料に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇身近な問題を取り上げるとはいつても、自分で課題を発見し、よく調べて授業に出席すること。

ブランドマーケティング論	ヤマカワ サトル 山川 悟
Brand Marketing	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

現代企業における大きなマーケティング課題のひとつである「ブランド戦略」の問題を扱います。ブランドとはロゴマーク等の表示体系に限らず、企業理念やビジョンとも深く関わりのあるテーマです。また、企業や商品だけでなく、地域や国家、学校、個人もブランドが求められる時代と言われています。前半はブランド戦略のフレームワークと諸要素（ブランドマネジメント）について、後半は具体的な事例からブランド構築（ブランディング）の方法論について検討していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
今日におけるブランドの役割や機能について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた理論やケースを理解したうえで、自分なりの言葉で記述できるか」を評価ポイントとする。	30%
ブランド管理の考え方や手法について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたブランド管理の方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	30%
ブランディング戦略の考え方や手法について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたブランディングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	40%
評価の方法 評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ブランドとは何か？	授業内容の説明、ブランドの定義と歴史
2	ブランドマネジメントについて	ブランド管理の基本的な考え方とその手法
3	ブランディングについて	ブランド力を強化する戦略についての方法論
4	ネーミングと商標	ネーミングによる差別化戦略の実例研究
5	ロゴタイプとシンボルマーク	シンボルマークによる差別化戦略の実例研究
6	ブランドステートメント	スローガンによる差別化戦略の実例研究
7	ブランドとデザイン	C I、商品やパッケージデザインとブランド
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	インターナルブランディング	社内活性化に向けたブランディング活動
10	地域ブランディング	地域活性化とブランディング
11	プライベートブランド	流通業が仕掛ける独自ブランド
12	五感ブランディング	聴覚、嗅覚、味覚、触覚で伝えるブランド戦略
13	ゲーム活用のブランディング	ゲーム内広告、A R G、ソーシャルゲーム活用
14	音楽活用のブランディング	店頭音楽、サウンドロゴ、M P V、社歌など
15	まとめ	総括と本試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

◇参考書：テーマに応じて、参考資料を紹介。

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。

◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があること。

◇講義中に議論や質問、ミニ試験を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに留学生は、日本の企業名や商品名についての知識を深めておくこと。

◇新聞を読むことや、テレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

アパレル経営	ナカジマ レイコ 中嶋 励子
Management of Apparel Business	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、アパレル関連企業やアパレル店舗の経営について、基本的な考え方を学んでいきます。

近年では、インターネット等を通じた無店舗販売の市場規模が増加し、アパレル業界においても無店舗販売の位置づけが大きく変化しています。授業では、このような最近の動向もおさえながら、アパレル経営のポイントを整理していき、事例を参考にして課題に取り組み、実践力を養っていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
アパレル業界の最近の動向について理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 アパレル業界のチャネル別動向や主要アパレル企業の最近の動向について答えられること。	25%
アパレル店舗経営に関する用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 店舗レイアウト、販売促進活動に関する用語や事項について、答えられること。	25%
顧客満足、クレーム対応について、事例を理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 クレーム対応の事例や顧客満足を高めるための事例について理解し、答えられること。	25%
アパレル企業のマーケティング事例について理解し、説明できるようにする	設問に対する解答／実習課題によって評価。 アパレル企業におけるマーケティング活動やデータ活用の事例について、目的や意図を理解し、顧客との関連を考え、答えられるようにすること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、平常点20%（授業時に提出を求めるペーパーの内容で評価）、課題20%、試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	科目履修の到達点および授業の進め方を説明
2	アパレル業界の動向(1)	商品カテゴリー別の動向
3	アパレル業界の動向(2)	店舗チャネル別の動向
4	店頭販売と無店舗販売	アパレル業界の無店舗販売の動向
5	インターネット販売	インターネット販売の特徴、問題点
6	売り場作り	顧客と販売のための店舗レイアウト・売り場づくり
7	ディスプレイ・棚割り	棚割り（フェイシング）・陳列
8	店舗に関するリサーチ	店舗におけるリサーチ体験(実習)POSデータ活用事例等
9	商品に関するリサーチ	商品開発や改善のためのリサーチの手法とリサーチ体験
10	流行について	流行の普及の過程、流行色の決定過程について
11	クレームと対応(1)	店舗でのクレーム対応事例と実習
12	クレームと対応(2)	メール・SNSのクレーム対応事例と実習
13	顧客満足と販売戦略	クレームの活用：新規・リピート顧客の獲得
14	最新の動向とまとめ	主要アパレル企業の最新動向事例
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず（授業時に配布する授業資料を使用）。

◇参考図書は：岩崎剛幸著『図解入門業界研究最新アパレル業界の動向とカラクリがよ
〜くわかる本』秀和システム、2012年
舟橋孝之著『クレーム対応の基本が面白いほど身につく本』
中経出版、2007年

【履修条件等】

◇経営学、マーケティング関連に興味をもって授業に臨むこと。

◇経営学、マーケティング関連の科目（「経営学概論」、「マーケティング概論Ⅰ」、「マ
ーケティング概論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「販売管理論Ⅰ」、「販
売管理論Ⅱ」、「ショップ経営」など）を受講していることが望ましい。

◇授業で行う課題、提出を求める課題は、必ず提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業内容に関して指定する資料に目を通し、関連する企業、店舗について調べること。

【その他の注意事項】

◇日頃から、アパレル店舗を訪問し、観察するなど情報収集を心がけておくこと。

ショップ経営	ナカジマ レイコ 中嶋 励子
Management of Retail Shops	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、ショップ経営に必要な基本的な知識、情報分析の手法、運営計画、マーケティング戦略等について学んでいきます。

授業で扱う店舗は、衣服、日用品などの小売業の実店舗です（店舗内での飲食のみの店舗は除きます）。これらの店舗事例を学んだ上で、受講生自身が考える実店舗のイメージを、雑誌・インターネット等の素材を用いてコンセプト、店舗レイアウト等に具体的に表現しながら、授業内容の応用理解力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
市場動向の把握と 出店に関する調査、 情報分析を行う	設問に対する解答によって評価。 環境分析、競合分析、顧客分析に関する基本的事項を理解し、答えられること。	20%
商品計画、品揃え、 ショップ・コンセプトを理解する	設問に対する解答と、学習課題内容によって評価。 コンセプトの意味を理解し、店舗事例にあてはめて考え、答えることができること。	30%
売り場づくり、販売計画を理解する	設問に対する解答と、実習課題内容によって評価。 店舗のビジュアル・マーチャンダイジングについて事例にあてはめて考え、答えることができること。	30%
ショップ経営案と 運営計画	設問に対する解答によって評価。 ショップ経営案の基本知識を理解し、それらに基づいた経営案と運営計画の作成ができること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、平常点20%（授業時に提出を求めるペーパー内容で評価）、課題20%、試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、ショップ経営の概要について
2	ショップ経営のプロセス	実際のショップ経営をイメージしながら、ショップ経営のプロセスを考える
3	業界分析と環境分析	アウトプットを得たいかを明確にした業界・環境分析
4	競合分析と顧客分析	競合とする店舗の分析、顧客ニーズ等の分析
5	分析結果の活用	分析結果の活用方法、活用事例
6	ショップ・コンセプト	ターゲット、ニーズ、差別化できる特徴について
7	ショップ・コンセプト作成	自店のショップ・コンセプトを作成する
8	商品計画・商品構成	商品計画と品揃え、商品構成と価格
9	売り場づくり(1)	店舗レイアウト、棚割、VMDについて
10	売り場づくり(2)	顧客の行動に応じた売り場づくり
11	P O P 広告	P O P 広告の種類、効果的なP O P 広告
12	販売促進計画	広告、チラシ、顧客維持のための販促活動
13	店舗の経営状況の確認	継続的なチェックと評価項目の決め方
14	ショップ運営計画	ショップ運営に関する計画作成と行動計画
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教材は、授業時にプリントを配布する。

◇参考図書：鈴木哲男著『売り場づくりの知識』日本経済新聞出版社
野田芳成著『競合店調査の上手な進め方』同文館出版

【履修条件等】

◇ショップ経営やショップのマーケティング活動に興味をもって授業に臨むこと。

◇経営学やマーケティング関連の科目（「アパレル経営」、「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」など）を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇自分が授業で取り上げるショップについて、日頃から競合店舗を観察するなど、授業内容のポイントにしたがって考えておくこと。

◇授業内で行う課題、提出を求める課題は、必ず提出すること。

【その他の注意事項】

◇授業の進行に合わせて、ショップ経営の実習課題が進められるので、欠席や遅刻は提出課題にも影響するため注意すること。

経営情報学	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Management Information	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

情報化社会と言われる今、情報の価値は益々高まってきており情報システムの果たす役割はきわめて大きいと言えます。本授業では経営情報システムの基本原理、しくみを理解し、ビジネスでの応用について具体的な事例に基づき学んでいきます。経営情報システムの活用方法、インターネットを用いたビジネス、データベースシステム等を理解することでビジネスにおいて役立つ知識の習得を目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータ、ハードウェア、補助記憶装置について理解する	設問に対する解答によって評価する。 コンピュータの5大装置を説明することができる。 さらにコンピュータ、ハードウェア、補助記憶装置の基本構造を理解する。	30%
データの取り扱い方法、データベースシステムについて理解する	設問に対する解答によって評価する。 データの圧縮、データ量について把握し、データの基本的な取り扱い方法を説明できる。さらにデータベースシステムについて学び、データの検索、抽出方法などを理解する。	20%
経営情報システム、通信ネットワークを理解する	設問に対する解答によって評価する。 経営情報システムの定義、役割、価値について説明できる。さらに通信ネットワーク、インターネットの特徴を理解する。	30%
セキュリティ管理方法、情報倫理、情報リテラシーを理解する	設問に対する解答によって評価する。 セキュリティの管理方法、情報倫理の重要性などについて説明できる。また、情報リテラシーについて理解し、その活用方法を説明できる。	20%
評価の方法 授業時間内の設問に対する解答30%、課題30%、定期試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義内容についての説明、経営情報学の概要
2	コンピュータの構造	コンピュータの基礎知識、種類、構成について学ぶ
3	パソコンの構造	パソコンの構造について学ぶ
4	5大装置	入力装置、出力装置、記憶装置、制御装置、演算装置について学ぶ
5	データの取り扱い	データの圧縮、データ量について学ぶ
6	データベースシステム	データベースシステムの役割、活用法について学ぶ
7	経営情報システム	経営情報システムの定義、役割について学ぶ
8	通信ネットワーク	通信ネットワーク、インターネットビジネス、クラウドコンピューティングについて学ぶ
9	情報とコミュニケーション	情報の分析とコミュニケーションの必要性について学ぶ
10	セキュリティ管理	セキュリティ管理、ファイルのバックアップについて学ぶ
11	企業の情報化と情報倫理	情報化社会における情報の扱い方と情報倫理について学ぶ
12	情報リテラシー	情報リテラシーとプレゼンテーション技術について学ぶ
13	次世代の経営情報学	経営情報学の今後について学ぶ
14	まとめ	全体像を総括し、ポイントを整理する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用しない。

経営情報学で取り扱う事例は最新のものが多いため、パワーポイントの資料にて講義を行う。

◇講義資料は電子データで配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の授業の資料を予めデータで配布しておくので事前に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎回授業の最後に課題を出すのでしっかり行っておくこと。

コンピュータ概論	ハギノ ヒロミチ 萩野 弘道
Introduction to Computer	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

今では生活の一部となった携帯電話やパソコンはインターネットを通して、世界中のさまざまな情報に瞬時に接することが可能になりました。このような社会の中では、必要な「情報」を収集し、その信憑性や信頼性を見極め、分析・処理をして、日常生活や仕事のシーンで問題を解決していく力、つまり「情報活用力」が必要不可欠となります。

この授業の目的はコンピュータの基本的な用語や知識を理解することです。さらに昨今、問題になっている情報リテラシーに代表される情報モラルと情報セキュリティについては、ビデオ教材も利用しながら具体的な例を示して説明します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータのハードウェアについて必要な基礎知識を理解していること	コンピュータ関連の一般用語を理解し、各パーツの役割と構造をふまえた上でのトラブルの対処方法を実践できること。 データの入出力装置および記憶装置の種類と特徴を説明できること。	20%
コンピュータのソフトウェアについて必要な基礎知識を理解していること	OSやアプリケーション等のソフトウェアに関する説明や操作およびトラブルの対処方法を理解していること。 ファイルやフォルダ等の操作と管理方法について理解し、実践できること。	20%
インターネットのしくみと正しい活用方法を理解していること	インターネットの関連用語を説明できること。 ブラウザや電子メールの機能を理解し利用できること。 ネットワーク資源の活用方法と注意点を説明できること。	20%
情報リテラシーについて理解していること	情報セキュリティに関連する用語を説明することができること。 情報端末利用時のマナーと注事事項を理解し、コンピュータウィルスやマルウェアに対しても予防措置がとれること。	20%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、試験80%、授業参加度20% (授業参加度は授業中におこなう提出課題の評価も含む)。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方
2	ハードウェア(1)	コンピュータを構成するパーツの解説
3	ハードウェア(2)	入力装置の種類と特徴
4	ハードウェア(3)	出力装置の種類と特徴
5	ソフトウェア(1)	OSの種類と特徴
6	ソフトウェア(2)	アプリケーションの種類と操作方法
7	ソフトウェア(3)	ファイルやフォルダの操作と管理方法
8	インターネット(1)	インターネット関連用語の解説
9	インターネット(2)	ブラウザと電子メールの機能と操作
10	インターネット(3)	ネットワークの仕組みと管理方法
11	情報リテラシー(1)	情報セキュリティ関連用語の解説
12	情報リテラシー(2)	インターネットにおけるマナーと注事事項
13	情報リテラシー(3)	コンピュータウィルスやマルウェアの解説
14	総合練習	練習問題を使った習熟度の確認
15	本試験および解説	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教材は毎回、授業時にファイルを配布するので購入不要。

【履修条件等】

◇コンピュータの初心者を対象としているので、履修条件はとくにない。

◇最近のICT動向に関心を持ち、積極的に取り入れようとする探究心を持っていることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をするので、新聞やインターネット等のメディアによって、その概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇この授業ではワープロ、表計算、プレゼンテーション等のソフトウェアの使い方は教えない。希望者はコンピュータリテラシーを履修すること。

◇出席および遅刻に対しては厳格に扱う。遅刻は2回で欠席1回とし、全授業の3分の1欠席した場合は、本試験を受験停止にする。

◇授業内容が連続せず、毎回テーマが異なるので、欠席した場合は授業で配布したファイルを手に入れて自習すること。

情報システム	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Information Systems	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

企業における業務の中で、コンピュータの重要性は益々高まっています。また、就職に目を向けてもコンピュータ技術を求める会社が増えてきており、今やコンピュータを用いた情報システムは業務を遂行するにあたり必要不可欠な存在となってきました。

本授業ではコンピュータ、情報システムの基本原理、しくみを理解し、ビジネスでの応用について具体的な事例に基づき学んでいきます。コンピュータの基本構造、ソフトウェアの種類、データ処理の方法等を理解することでビジネスにおいて役立つ知識の習得を目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報システムの定義とコンピュータの基礎知識を理解する	設問に対する解答によって評価する。 情報システムの定義を述べるができる。さらにコンピュータの基本構造を理解する。	20%
コンピュータのハードウェアを理解する	設問に対する解答によって評価する。 パソコンの構造について理解し、入力装置、出力装置、記憶装置、制御装置、演算装置について説明することができる。	30%
コンピュータのソフトウェアを理解する	設問に対する解答によって評価する。 ソフトウェアの種類を把握し、ファイルの階層構造、プログラミングの基本的な特徴を理解する。	20%
データの取り扱いと通信ネットワークについて理解する	設問に対する解答によって評価する。 データの圧縮、データ量について把握し、データの基本的な取り扱い方法を説明できる。 さらに通信ネットワークについて学び、インターネットビジネス、クラウドコンピューティングなどを理解する。	30%
評価の方法 授業時間内の設問に対する解答30%、課題30%、定期試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義内容についての説明
2	情報システムとは	情報システムの定義について学ぶ
3	コンピュータのしくみ	コンピュータの5大装置について学ぶ
4	コンピュータの基礎知識	コンピュータの種類、構成について学ぶ
5	コンピュータによる情報処理	情報とデータの違い、各進数について学ぶ
6	ハードウェア	パソコンの構造について学ぶ
7	補助記憶装置	補助記憶装置の種類と特徴について学ぶ
8	入力、出力装置	入力装置、出力装置の種類について学ぶ
9	ソフトウェア	ソフトウェアの種類と役割について学ぶ
10	データの取り扱い	データの圧縮、データ量について学ぶ
11	データベースシステム	データベースシステムの役割、活用法について学ぶ
12	通信ネットワーク	通信ネットワーク、インターネットビジネス、クラウドコンピューティングについて学ぶ
13	情報とコミュニケーション	情報の分析とコミュニケーションの必要性について学ぶ
14	学期のまとめ	学期の全体像を総括し、ポイントを整理する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用しない。

◇情報システムで取り扱う事例は最新のものが多いため、パワーポイントの資料にて講義を行う。

【履修条件等】

◇コンピュータや情報に関する科目を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の授業の資料を予めデータで配布しておくので事前に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎回授業の最後に課題を出すのでしっかり行っておくこと。

情報システム	ハギノ ヒロミチ 萩野 弘道
Information Systems	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

いまやITは、私たちの日々の暮らしを支える重要な社会基盤となりました。しかし、一方でITに依存すればするほど、ITに潜むリスクはただちに、私たちの経済活動や社会生活そのものへの脅威に転化します。そこで高度情報化社会の恩恵を享受するために、情報セキュリティへの取り組みが強く求められるようになってきました。

本講義では、情報セキュリティについての基本を分かりやすく解説し、授業内容に関連したビデオ教材も利用しながら具体的に理解を深めていきます。

また、情報化社会には欠かせなくなった電子メールですが、ビジネスメールにおける間違いやすい基本マナーについて、毎回、ワンポイントで紹介していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
情報セキュリティと、その対応策について理解していること	情報セキュリティに関連する仕組みを説明することができること。 ネット社会に欠かせないセキュリティ技術について理解していること。	30%
実生活における情報化の流れや変化に対応し、問題点も理解していること	インターネットの普及によるさまざまな変化を、社会生活および日常生活について対応できていること。また、それにより発生するトラブルなども理解していること。	20%
組織のセキュリティ対策について必要な基礎知識を理解していること	P D C Aサイクルを理解し、その必要性について説明することができること。 組織の一員としてセキュリティポリシーを遵守し、ヒューマンエラーの可能性を最小限に抑えることの意義についての説明ができること。	20%
メールのマナーやルールについて理解していること	電子メールの仕組みを理解し、メールに関するマナーを身につけていること。なかでもビジネスメールを使用する上で気をつけなければならない点を理解していること。	10%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提として、試験80%、授業参加度20% (授業参加度は授業中におこなう提出課題の評価も含む)。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方
2	今日のセキュリティリスク	セキュリティリスクの実例
3	情報セキュリティの基礎	基本概念、外部のリスク要因
4	情報セキュリティの基礎	内部のリスク要因と情報リテラシー
5	個人のセキュリティ対策	マルウェアとは
6	個人のセキュリティ対策	マルウェア対策
7	個人のセキュリティ対策	フィッシング詐欺とワンクリック請求
8	個人のセキュリティ対策	スマートフォンや無線 LAN に潜む脅威とその対策
9	組織の一員としての対策	組織のセキュリティ対策（P D C A）
10	組織の一員としての対策	従業員としての心得
11	情報セキュリティの技術	アカウント、I D、パスワードの重要性
12	情報セキュリティの技術	脆弱性とファイアウォール
13	情報セキュリティの技術	暗号技術とデジタル署名
14	理解度の確認	Web サイトを利用した理解度セルフチェック
15	本試験および解説	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇『情報セキュリティ読本ー I T時代の危機管理入門（四訂版）』実教出版

【履修条件等】

◇「コンピュータリテラシー」および「コンピュータ概論」を履修済であることが望ましい。

◇最近の I C T技術の動向やそれに伴うモラルやセキュリティリスクに関心を持ち、積極的に対応しようとする探究心を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をするので、新聞やインターネット等のメディアによって、その概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇この授業ではワープロ、表計算、プレゼンテーション等のソフトウェアの使い方等は教えない。希望者はコンピュータリテラシーを履修すること。

◇出席および遅刻に対しては厳格に扱う。遅刻は2回で欠席1回とし、全授業の3分の1欠席した場合は、本試験を受験停止にする。

◇授業内容が連続せず、毎回テーマが異なるので注意すること。

情報処理 I	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Information Processing I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

企業で業務を遂行するにあたり、Microsoft 社の『Excel』、『Word』、『PowerPoint』は必須アイテムともいえるソフトとなっています。本授業では『Excel』を用いてデータの整理、データ解析などを行いながら基本的な統計解析の手法を学び、パソコン操作を含む演習を通して実際のデータを処理する手順を習得します。授業内で Excel の業務での活用法などを交え、最終的にビジネスデータから意思決定に役立つ図表を作成することを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
統計に関する基本事項を理解し、グラフや代表値を得る	設問に対する解答と実技によって評価する。実際のデータから各種のグラフを作成することができる。実際のデータから各種の代表値を求めることができる。	30%
過去に蓄積されたデータからトレンドを読み取り、将来の予測を行う	設問に対する解答と実技によって評価する。相関係数と回帰直線を求めることができる。さらに予測値の求め方を理解する。	30%
サンプル調査によって得られた情報から母集団の特徴を求める	設問に対する解答と実技によって評価する。全数調査と標本調査の特徴を理解する。標本調査により母集団の特徴を知る方法を理解する。	20%
確率分布、推定の基本的な考え方を理解する	設問に対する解答と実技によって評価する。確率分布、二項分布の考え方を学ぶ。 推定の概念と母集団の平均、分散について理解する。	20%
評価の方法 授業時間内の演習30%、課題30%、定期試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義内容についての説明
2	Excel と統計学の基本	Excel と統計学の基本的な考え方について学ぶ
3	統計の基本(1)	平均値、最大値、最小値、中央値、最頻値について学ぶ
4	統計の基本(2)	統計の代表値とデータの散らばり、標準化について学ぶ
5	統計の基本(3)	度数分布とヒストグラムについて学ぶ
6	回帰分析(1)	相関係数・回帰直線と予測値を求める方法を学ぶ
7	回帰分析(2)	重回帰分析と回帰分析の精度について学ぶ
8	母集団と標本(1)	全数調査と標本調査について学ぶ
9	母集団と標本(2)	標本平均のデータ分布と母集団・標本分散について学ぶ
10	確率分布(1)	確率の基本について学ぶ
11	確率分布(2)	試行と確率変数、期待値について学ぶ
12	確率分布(3)	二項分布、正規分布、標準正規分布について学ぶ
13	推定	推定の概念と母集団の平均、分散について学ぶ
14	学期のまとめ	学期の全体像を総括し、ポイントを整理する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：日花弘子『仕事に役立つ Excel 統計解析（第4版）』

ソフトバンククリエイティブ

【履修条件等】

◇「経営数学」を履修済み程度の基本的な統計学の知識を有していることが望ましい。

さらに「コンピュータリテラシー」を履修済み程度のパソコンの基本操作を習得していることが必要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書の該当箇所に通しておくこと、課題によっては演習に必要なデータを事前に入力しておく等の準備が必要です。

【その他の注意事項】

◇USBメモリを毎授業時に持参すること。課題等の送受信のためにPCによるメール送受信が可能であること。

情報処理Ⅱ	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Information Processing Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

企業で業務を遂行するにあたり、Microsoft 社の『Excel』、『Word』、『PowerPoint』は必須アイテムともいえるソフトとなっています。さらに近年ではデータベース管理ソフトである『Access』の使用頻度が高まってきております。本授業では『Access』の基本的な操作方法からデータの加工、分析までを学び、実際に業務で用いている例を交えながら日常の企業活動で発生するさまざまな情報を収集・蓄積・処理・活用するために利用されるデータベースの構造や仕組みを理解することを目標にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
データベースの役割と構成、仕組みを理解する	設問に対する解答によって評価する。 データベースのもつ基本的な機能について説明できる。「リレーションシップ」、「クエリ」等のデータベースに関する基本的な用語について説明できる。	20%
情報を蓄積するためにテーブルの役割を理解し操作ができる	設問に対する解答と実技によって評価する。 新たなテーブルの作成、フィールドの定義、テーブルへのデータ入力の一連の作業を行うことができる。	30%
情報を加工するためのテーブルの操作を理解する	設問に対する解答と実技によって評価する。 クエリの基本的な考え方を理解し、クエリウィザード、クエリデザインを用いてさまざまなクエリを作成することができる。	30%
データベースの設計方法、リレーションシップを理解する	設問に対する解答と実技によって評価する。 データベースの設計方法を理解し、リレーションシップを用いて複数のテーブルを関連付けることができる。	20%
評価の方法 授業時間内の演習30%、課題30%、定期試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義内容についての説明
2	データベースとは	データベースとはどういうものか、何ができるのかを学ぶ
3	Access の基本操作(1)	Microsoft Access の基本操作を学ぶ
4	Access の基本操作(2)	検索と抽出の基本操作を学ぶ
5	Access の基本操作(3)	フォームフィルターの活用、データの並べ替えについて学ぶ
6	データの編集(1)	データを収集し蓄積する方法を学ぶ
7	データの編集(2)	画像データの入力とフォームの活用について学ぶ
8	テーブルの操作(1)	クエリの基本について学ぶ
9	テーブルの操作(2)	クエリの作成方法とさまざまなクエリについて学ぶ
10	テーブルの操作(3)	クエリを利用した単純計算とクロス集計を学ぶ
11	データベースの設計(1)	データベースの設計方法を学ぶ
12	データベースの設計(2)	リレーションシップされたクエリの作成方法を学ぶ
13	総合演習(1)	データの検索、並べ替えなどの基本操作方法を確認する
14	総合演習(2)	クエリの活用、データベースの設計の応用について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：実教出版編集部『30時間でマスター Access2013』実教出版

【履修条件等】

◇「コンピュータリテラシー」を履修済み程度のパソコンの基本操作を習得していることが必要です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書の該当箇所に目を通しておくこと、課題によっては演習に必要なデータを事前に入力しておく等の準備が必要です。

【その他の注意事項】

◇U S B メモリを毎授業時に持参すること。課題等の送受信のためにP Cによるメール送受信が可能であること。

環境経営学	フジモリ 藤森 ダイスケ 大祐
Environmental Management	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

環境問題は現代の企業において積極的に対応すべき必須の課題となっている。近年話題となっている環境問題としては、地球温暖化やエネルギー問題が挙げられるが、本講義ではそれらの現代的な環境問題よりも以前から起きていた問題にも焦点を当てて講義を展開していく。具体的には、初期の公害問題として知られている足尾銅山問題や四大公害問題などから考察していくことで、環境問題と企業の本質的問題を捉えていく。それらをベースにして、地球環境問題の代表的な問題を考察しながら、現代の企業の課題を考えていきたい。また、後半では廃棄物問題への対応、リサイクルの推進、エネルギー問題などに関する企業の取り組みを見ていく。最後に、環境マネジメントシステムなど、環境経営の代表的なツールについて論じる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
さまざまな環境問題の基礎知識を習得する	試験やレポートによって知識を問う。	30%
環境問題と企業との関係を理解する	試験やレポートによって企業と環境問題がどのような関係にあるかを問う。	30%
環境問題への企業のあり方を理解する	試験やレポートによって、企業が環境問題に対してどのような取り組みをしているか、またどのような取り組みをしていく必要があるかについての理解を問う。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提とし、試験60%、レポート30%、平常点10%で評価する。 試験は定期試験によって評価し、平常点は講義内での態度やコメントなどで評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	講義ガイダンス	講義の概要、進め方、評価方法など
2	足尾銅山問題	銅山による鉱毒と煙害、問題の構造
3	水俣病問題	水銀汚染と企業の対応、問題の構造
4	四大公害	四大公害の概略と企業の対応
5	公害対策の進展と後退	四大公害の反省としての対策とその後退
6	公害輸出問題	公害輸出の事例とその概要
7	地球環境問題の概要	地球環境問題の特質、現状の把握、企業の役割
8	オゾンホール問題	オゾンホールの原因と防止策
9	地球温暖化問題	温暖化のメカニズム、温暖化対策
10	エネルギー問題	自然エネルギーと化石燃料、原発
11	廃棄物問題	廃棄物の現状と問題点、適正処理の取り組み
12	リサイクル	リサイクル社会に向けてのさまざまな取り組み
13	環境マネジメントシステム	環境マネジメントシステムの概要、効果と問題点
14	環境コミュニケーション	環境コミュニケーションの概要、実践事例
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しない。随時必要な資料を配布する。

【履修条件等】

◇少なくとも「経営学概論」を取得していること。できれば他の経営学の主要科目を取得していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇シラバスに従い、次回の内容について簡単に調べ、予備知識を得ておいてもらいたい。

【その他の注意事項】

◇講義内容を参考にさまざまな問題に関心を持って自発的に学んでもらいたい。

経営倫理	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Managing Ethics	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

企業は、ゴーイング・コンサーンとよく言われますが、永遠に存続し続けるには社会から存在意義を認めてもらわなければなりません。それにもかかわらず、近年、企業不祥事が後を絶ちません。この授業では、さまざまな視点から企業の倫理的側面・反倫理的側面を議論し、誠実な企業行動を確保するためにはどうしたらよいのかを考えていきます。

具体的には、企業倫理とは何か、その歴史的変遷は、なぜ企業は反倫理的行動をとってしまうのか、反倫理的行動を予防するにはどうしたらよいのかとうを議論します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
道徳と倫理の違いを理解していること	設問に対する回答により評価。道徳と倫理の違いを明確に答えられること。	25%
企業の倫理的行動・反倫理的行動を認識することができる	設問に対する回答により評価。レポートに対する回答により評価。企業行動のどの部分が反倫理的かを明確に指摘することができること。	25%
組織の倫理水準確保のための制度を理解していること	設問に対する回答により評価。授業中の質問に対する回答により評価。倫理制度の名称およびその内容、注意点を明確に指摘できること。	25%
正義とは何かを多面的に考えることができること	設問に対する回答により評価。正義をさまざまな角度から考える能力がついていること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度5%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	企業倫理とは何か？	イントロダクション
2	道徳と倫理	道徳と倫理、社会の倫理水準
3	歴史的変遷	独占、公害、スキャンダル
4	事例	ビデオによる説明
5	対処法	企業理念の重要性
6	倫理的リーダーシップ	倫理的リーダーシップの必要条件
7	経営倫理の必要性	なぜ今、経営倫理の授業が必要なのか
8	企業理念	さまざまな企業の理念比較
9	理念の伝達	コミュニケーション、暗黙知
10	事例	理念の伝達方法、評価
11	センスメーカー	反倫理的行動の原因
12	動機づけ理論	動機づけ理論から見た反倫理的行動
13	倫理的制度	反倫理的行動を予防する制度
14	倫理的判断	倫理的判断基準：功利性、権利、正義
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくにありません。

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇新聞、テレビのニュースをよく読み聞いておくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

消費者法	スミダ コウジ 隅田 浩司
Consumers Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、消費者法を学びます。消費者法は、自分自身が、悪徳商法の被害に遭わないために知っておくべき重要な法律です。そして、同時に、経営を学ぶ学生にとって、企業が消費者法の規制に対応しながらビジネスをしていること、そして消費者法に反する行為を行った企業が批判と非難にさらされ、最悪の場合倒産に追い込まれるという事実を学ぶ必要があります。そこでこの授業では、消費者法を単に消費者が身を守るための武器として扱うのではなく、企業にとってこの法律は何を意味しているのかを多角的に分析します。この授業を履修すれば、だまされて変な商品が無理矢理、買わされたりしないようになるだけでなく、いろいろな生活のトラブルに対応できるようになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 経済や経営と法 の関係の基礎を 理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件・効果の 理解度を講義中の質疑および期末試験によって、 客観的に評価する。	評価の30%
2) 法的論点を正確 に理解し、議論 することができる	法的論点を理解し、判例・学説の議論状況を把握し ているか、講義中の質疑および期末試験によって、 客観的に評価する。	評価の30%
3) 法的論点を含む 事例に対して、 法知識を応用し、 問題解決を導く ことができる	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、当該知識を 利用し、法的問題を含む事例式問題に対して解決 策を導くことができるか、講義中の小テストおよ び期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4) 実践的な応用事 例に対して、講 義内容を活用し 解決策を導出す ることができる	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、 当該知識を利用し、法的問題を含む難易度の高い 事例式問題に対して解決策を導くことができるか、 講義中の小テストおよび期末試験によって、客観 的に評価する。	評価の15%
評価の方法 評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価 します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	消費者問題とは	消費者問題と消費者法の全体構造
2	消費者契約法(1)	消費者契約法における消費者保護の仕組みについて解説
3	消費者契約法(2)	消費者被害の救済の仕組みについて解説
4	表示と広告規制	広告規制と消費者保護について解説
5	景品表示法(1)	優良誤認表示の解説
6	景品表示法(2)	有利誤認表示の解説
7	景品表示法(3)	原産地表示について解説
8	景品表示法(4)	食材偽装問題と景品規制の概要の解説
9	景品表示法(5)	景品規制とソーシャル・ゲーム問題について解説
10	クーリングオフ	特定商取引法とクーリングオフ制度について解説
11	クレジット被害	クレジット被害の救済（割賦販売法）について解説
12	製品の安全	製造物責任法などについて解説
13	欠陥住宅問題	欠陥住宅に対する法律の救済について解説
14	インターネット被害	インターネット被害の救済について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業の総括、学習達成度の確認テスト実施

【使用教材】

◇教科書は使用しません。講義資料は、Google Classroom でオンライン配布します。なお、消費者庁のホームページの情報を活用します。

(<http://www.caa.go.jp/>)

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ Google Classroom に講義資料をアップロードする以外に、予習課題なども掲示します。

講義の中で、予習の仕方を指示しますので、その指示に従って予習するようにしてください。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁です。

これが守れない学生は、他の学生に迷惑となりますので、即時、履修停止にします。

労働法	ヒロセ マコト 廣瀬 誠人
Labor Law	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

「就職活動前・働き始める前に知っておくべき労働法の知識」

労働法はさまざまな法律の集合体です。

労働問題に関するたくさんの法律をまとめて「労働法」と呼んでいます。

まずは、「働き始めるときのルール」次に「働き始めてからのルール」そして「仕事を辞める時」「仕事を辞めさせられる時」を知っておく必要があります。

また、労働法の一つひとつを所管する労働行政組織とその権限などについて学びます。

学生の皆さんが、アルバイトをする際も、就職活動する際も、何より就職した後も、労働法の知識は必ず必要になってきます。

本講義では、経験に基づく実践的な労働法を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「働く」とはどのようなことか		20%
どんな働き方があるのか？		20%
働き始める前・働き始めてからのルールを学ぶ		30%
労働法の実例（事例を通して働くことのルールを考える）		30%
評価の方法 講義内において、就職活動を意識した姿勢と自分自身のこととした理解、グループ討議等における発言、試験等の結果等により総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業計画等の説明（アルバイト等の状況把握）
2	就職活動に向けて	取り巻く状況の整理
3	働くとはどういうことか？	労働契約の基本原則
4	どんな働き方があるのか？	雇用形態別整理
5	労働法とは？	労働契約等の効力関係
6	労働法の主要事項説明	
7	同上	
8	同上	
9	事例を通して「働くこと」のルールを知る	主に、グループ討議により事例研究を行う
10	同上	同上
11	同上	同上
12	同上	同上
13	労働者募集を注意する	求人票の見方（個人情報の収集制限等）
14	労働行政組織解説	困ったときの相談窓口等
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇とくになし（資料を配布する）。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇アルバイトをしている学生は給与明細を持参してください。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語、スマホ等は原則として禁止です。

ビジネス英語 I	シシド カール 実戸 カール
Business English Basics I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいるなか、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーションを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として下記のように評価。 授業参加度：60%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Introduction, Class Policy	General Introduction of class
2	Unit 1 “You and You Job”	Countries, nationalities, jobs
3	Unit 1 “You and You Job”	Saying hello
4	Unit 1 “You and You Job”	Jobs and computers
5	Unit 2 “Products and Services”	Company types and activities
6	Unit 2 “Products and Services”	Ordering products
7	Unit 2 “Products and Services”	Telemarketing
8	Unit 3 “Location”	Company building and region
9	Unit 3 “Location”	Meeting people
10	Unit 3 “Location”	Office location
11	Unit 4 “Help and Advice”	Equipment
12	Unit 4 “Help and Advice”	Suggestions
13	Unit 4 “Help and Advice”	Buying help
14	Review	Review for Final Examination
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ Business Result

Elementary

Oxford University Press

ISBN : 978-0-19-473937-5

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

ビジネス英語Ⅱ	シシド カール 宍戸 カール
Business English Basics II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいる中、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーションを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として下記のように評価。 授業参加度：60%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Summer Vacation	General Introduction of class
2	Unit 5 “Decision”	E-mail ordering
3	Unit 5 “Decision”	Quick decision
4	Unit 5 “Decision”	Difficult decision
5	Unit 6 “Socializing”	Eat in or take out
6	Unit 6 “Socializing”	Café conversation
7	Unit 6 “Socializing”	Business lunch
8	Unit 7 “Workplace”	Department and responsibilities
9	Unit 7 “Workplace”	Company visits
10	Unit 7 “Workplace”	Perfect workplace
11	Unit 8 “Colleague”	Describing people
12	Unit 8 “Colleague”	Voicemail
13	Unit 8 “Colleague”	Family business
14	Review	Review for Final Examination
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ Business Result

Elementary

Oxford University Press

ISBN : 978-0-19-473937-5

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営心理学特講 I	ミヨシ ヨウスケ 三好 陽介
Special Lecture on Management Psychology I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネスを進める際には、さまざまな場面で適切な意思決定が求められます。この授業は、企業経営の現場において適切な意思決定を行うための基礎知識の習得と理解を目的としています。

具体的には、意思決定の根幹である「判断」について、論理の側面から、1)情報の収集と選別、2)リスクと現在価値、3)推定を、また心理の側面から、1)合理的決定と感情、2)期待とバイアス、3)信頼、等のテーマを取り上げます。講義のほか実際のビジネスシーンをもとにしたゲーム形式の簡単な演習を行い、意思決定の実践方法を学ぶことができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) 合理的判断のための情報処理と推定についての理解	講義内容を理解し、合理的判断のための手法についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
2) 判断に対する感情の影響についての理解	講義内容を理解し、合理的判断のための手法についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
3) 評価についての実践的な理解	上記、学習・教育目標の1)および2)をふまえ、市場や社会の評価について、自らの状況と関連づけて考えることができたか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
4) 基本的な意思決定手法の取得	上記、学習・教育目標の1)、2)および3)をふまえ基本的な意思決定手法について、自らの状況と関連づけて考えることができたか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
評価の方法 ・ 授業への出席：最低でも75%（12回）以上出席すること。 ・ 評価配分は、期末試験およびレポートを50%、受講態度および授業への貢献を50%とします。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	
2	演習 (1)	実ビジネスで起きがちなコンフリクトのケースについて考え、自身の思考の傾向を把握する
3	情報の収集と選択 (1)	メリットとデメリットの考え方
4	情報の収集と選択 (2)	リスクとダメージの違い
5	情報の収集と選択 (3)	不確実な状況下での推定
6	リスクのもとでの判断 (1)	評価および現在価値についての基礎的事項
7	模擬交渉 (1)	役割シートをもとに受講生間で模擬交渉を行い、自らが交渉中にどのように判断したかを振り返る
8	合理的決定と感情 (1)	先入観による認知のバイアス
9	合理的決定と感情 (2)	アンカリングとフレーミング
10	演習 (2)	実ビジネスで起きがちなコンフリクトのケースについて考え、自身の思考の傾向を把握する
11	価値共有と信頼 (1)	価値共有とそれによる信頼の醸成
12	価値共有と信頼 (2)	信頼醸成のためのコミュニケーション
13	模擬交渉 (2)	役割シートをもとに受講生間で模擬交渉を行い、自らが交渉中にどのように判断したかを振り返る
14	まとめ	これまでの授業で学んだ内容を各自総括し、学習目標の達成度について自己評価し、クラスで共有する演習を行い、理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇とくに教科書は指定せず、随時参考資料を紹介します。また、オリエンテーションにて参考図書を紹介します。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業において、資料やウェブサイト等を指定し、予習課題を提示する場合があります。詳細は授業中の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

◇成績評価の前提である、最低出席率（75％）を満たすこと。

◇授業中の私語は厳禁。これを守れない者には退席を命じ、履修停止とします。

経営心理学特講Ⅱ	カミワタリ リョウヘイ 神 渡 良 平
Special Lecture on Management Psychology Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

私たちは事業を取り巻く外的環境を俯瞰し、的確に判断して、状況を切り拓いていかなければなりません。開拓者は環境を開拓することができる主体性を持っていてこそ、開拓者たり得ます。その意味で、自分の主体性を養う学問である「人間学」は、これから人生を開拓しようとする者にとって必要不可欠の学問と言えます。この授業では先人が書き残した人生の知恵を学び、自分の人生に活用できるようにしていくつもりです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
意見をまとめる	平常点により評価する。 授業に取り組む姿勢や質問の内容で判断します。	20%
論点を整理する	レポートにより評価する。 書くことで自分の思考は深められていきます。 従って、レポートは重大視します。提出は学期末。	60%
ディスカッション 能力	小試験により評価する 小試験を学期中に2回行います。	20%
評価の方法 授業中の態度、質問内容、小試験、レポートから勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	宇宙と人生	安岡正篤は宇宙と人生の仕組みをどう見たか
2	内観と世界観	内観の3要点①やっていたこと ②して返したこと ③迷惑を掛けたこと
3	安岡正篤と事業家たち	新井正明元住友生命会長 亀井正夫住友電工元会長など
4	安岡正篤人間学	人生のもろもろの出来事にどう対処するか
5	中村天風と事業家たち	山中鎖元東武百貨店会長 人生は導かれていることを知る
6	中村天風が説く宇宙の仕組み	自分の能力を100%引き出す法 大いなる存在と主体性
7	佐藤一斎と『言志四録』Ⅰ	佐藤一斎と昌平黌 幕末の志士たち 西郷隆盛と沖永良部島
8	佐藤一斎と『言志四録』Ⅱ	『言志四録』の思想 志が人間のレベルを決める
9	佐藤一斎と『言志四録』Ⅲ	『言志四録』の思想
10	マザー・テレサの世界観	カルカッタの修道院 聖フランシスコの影響 一対一の対応
11	「アメイジング・グレイス」に見る世界観	ジョン・ニュートンの人生 遭難と転機 奴隷貿易廃止法成立
12	巡礼の旅がもたらすもの	空海が擲んだ宇宙の仕組み 体感
13	フィンドホーンがもたらす世界観	ニューエイジとアセンション 新しい時代の到来
14	悲しみとの向き合い方	逆境は人を強くする 人生の知恵を得て軌道修正
15	総括	人生や事業を俯瞰する

【使用教材】

- ◇神渡良平著『安岡正篤「珠玉の言葉」』講談社＋α新書
- ◇神渡良平著『中村天風人間学』PHP研究所
- ◇神渡良平著『マザー・テレサへの旅路』サンマーク出版
- ◇神渡良平著『佐藤一斎「言志四録」を読む』致知出版
- ◇神渡良平著『悲しみとの向き合い方 言志四録の人間学』PHP研究所

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇課題図書を良く読んでおくこと。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

ビジネス実務法務	ヒラサワ アキラ 平澤 明
Business Law and Practice	応用科目／集中／2単位

【授業概要】

「ビジネス実務法務3級」（東京商工会議所）の資格取得を目的とする。

（メリット）

①日常のビジネスシーンで求められる基本的な法的ルールを身につけることができる

②就職に際して、基本的な法律知識を持った学生であることをPRできる。

取り扱う内容は法律の基礎となる概念から始め、商法、民法を中心にビジネスシーンで必要な経済法である独占禁止法や製造物責任法等の基本知識である。

なお、時間はコミュニケーションアワーの時間で実施する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネスに関連する民法の法律用語を正しく理解する	民法の原則、権利義務、意思能力行為能力などの法律用語の意味について答えられること。	30%
商法に関連する法律用語を正しく理解する	会社の組織、契約、債権債務など商法における基本的な意味について理解し、その意味について答えられること。	30%
経済に関連する法律の概要を理解する	独占禁止法、製造物責任など、経済に関する主要な法律の目的とその仕組みについて答えられること。	20%
労働法に関する規則を理解する	労働法特に、労働基準法の内容を理解し、重要な法律用語の意味について説明できること。	20%
評価の方法 理解度確認テストの結果50%、および講義中の学習姿勢50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ビジネスと法律のかかわり	ビジネスに関連する法律を知る
2	法律の基礎知識	法律の体系、分類
3	権利義務とは	権利義務の主体、意思能力・行為能力
4	会社のしくみ	会社の種類、会社の仕組み
5	ビジネスに関する法律①	契約とは、売買契約
6	ビジネスに関する法律②	手形と小切手、契約書
7	債権の管理と回収①	通常 of 債権の管理、債権の担保
8	債権の管理と回収②	緊急時の債権の回収
9	企業活動に関する法規制①	独占禁止法、大店立地法
10	企業活動に関する法規制②	消費者契約法、製造物責任法
11	従業員と雇用	労働基準法、男女雇用機会均等法
12	家族と相続	家族関係、相続
13	全体のまとめ①	民法および商法に関するまとめ
14	全体のまとめ②	経済法および労働関係法規に関するまとめ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する (「ビジネス実務法務3級試験」の受験)

【使用教材】

- ◇教科書：東京商工会議所編『2016年版ビジネス実務法務3級公式テキスト』
中央経済社発行（2,800円本体価格）
教科書は各自、書店等で購入のこと。

【履修条件等】

- ◇原則として、東京商工会議所の「ビジネス実務法務3級」の試験を受験すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇該当テキストを熟読すること。

【その他の注意事項】

- ◇コミュニケーションアワーに実施（16:30～18:00）。
（日程予定）
4月：11日(月)、12日(火)、13日(水)、18日(月)、19日(火)
27日(水)
5月：9日(月)、10日(火)、16日(月)、17(火)、23日(月)
24日(火)、30日(月)、31日(火)
＋ビジネス実務法務3級試験日（予定：7月の第1週の日曜日）

簿記技能Ⅰ（日商3級）	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Bookkeeping Ⅰ	応用科目／集中／2単位

【授業概要】

本講義は、2016年度日商簿記3級、6月試験合格を目指す方のための講義です。そのため、「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の履修が終わっている、もしくはご自身で日商簿記3級の自学を行っている方を対象とします。

本講義では、検定試験特有の問題の解き方、および素早く回答を行うためのテクニック、受講者の苦手とする設問に対する個別指導などを行います。次の点にご注意ください。それは、本講義を受けるだけで検定試験合格ができるわけではないという点です。試験に合格するためには、自分で問題演習をこなす自学の時間が必須です。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用してください。

講義は、解説を行う講義と、演習を行う講義、過去問・予想問題を行う講義の3部構成で構成されます。本講義が受講者の皆さんの検定試験合格の手助けになれば幸いです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解する	検定試験の問1から問5までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験を解く上で、範囲内の仕訳が解けないことにはどうにもなりません。しっかりと理解しましょう。	30%
試算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%
精算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、問題演習時のテスト試験90%で評価します。 ※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 課題および小テストは、テーマごとに行うので複数回の実施を予定しております。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	問 1 対策講座	仕訳問題全般で、特に注意が必要な仕訳に関して
2	問 2 対策講座	補助簿全般の解き方、T 字勘定を使った解答法
3	問 3 対策講座	試算表全般の解き方
4	問 4 対策講座	伝票などの解き方
5	問 5 対策講座	精算表および財務諸表問題の解き方
6	問 1 問題演習	問 1 問題の演習徹底的にやります
7	問 2 問題演習	問 2 問題の演習徹底的にやります
8	問 3 問題演習	問 3 問題の演習徹底的にやります
9	問 4 問題演習	問 4 問題の演習徹底的にやります
10	問 5 問題演習	問 5 問題の演習徹底的にやります
11	過去問演習 (1)	過去問は最低 3 年分はする必要があるので内 1 回を
12	過去問演習 (2)	過去問は最低 3 年分はする必要があるので内 1 回を
13	予想問題演習	今回の 6 月試験に出そうな予想問題を演習
14	検定試験前講座	試験前に各受講者の苦手項目を個別に対応
15	検定試験後解説	今回の検定試験の解説

* 授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記 3 級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇会計の講義全般に言えることですが、復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、P C や携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。また、日商簿記 3 級 6 月検定試験に合格された方に関しては、成績評価に反映させます。詳しくは、開講時にお知らせします。また、講義はオフィスアワー時間帯（16：30～）に行います。時間帯にご注意ください。

簿記技能Ⅱ（日商2級）	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Bookkeeping Ⅱ	応用科目／集中／2単位

【授業概要】

本講義は、2016・2017年度日商簿記2級、11月・2月試験合格を目指す方のための講義です。そのため、「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」および「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」の履修が終わっている、もしくはご自身で日商簿記2級の自学を行っている方を対象とします。

本講義では、検定試験特有の問題の解き方、および素早く回答を行うためのテクニック、受講者の苦手とする設問に対する個別指導などを行います。次の点にご注意ください。それは、本講義を受けるだけで検定試験合格ができるわけではないという点です。試験に合格するためには、自分で問題演習をこなす自学の時間が必須です。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用してください。

2016年度から日商簿記2級の出題範囲が変更され、例年より難化する可能性が考えられます。出題変異の変更点等含めしっかり学習していきましょう。

講義は、解説を行う講義と、演習を行う講義、過去問・予想問題を行う講義の3部構成で構成されます。本講義が受講者の皆さんの検定試験合格の手助けになれば幸いです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解する	検定試験の問1から問5までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験を解く上で、範囲内の仕訳が解けないことにはどうにもなりません。しっかりと理解しましょう。	30%
原価計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 日商簿記2級は原価計算が分かればほぼ合格は間違いないと言えます。しっかりと勉強しましょう。	30%
精算表等に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 特に本支店会計は慣れが必要です。よく理解しましょう。	30%
評価の方法 3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、問題演習時のテスト試験90%で評価します。 ※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 課題および小テストは、テーマごとに行うので複数回の実施を予定しております。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	問 1 対策講座	仕訳問題全般で、特に注意が必要な仕訳に関して
2	問 2 対策講座	特殊仕訳帳や伝票会計に関する解法
3	問 3 対策講座	精算表・本支店会計に関する解法
4	問 4 対策講座	費目別・部門別計算を中心とした解法
5	問 5 対策講座	総合原価計算・標準原価計算の解法
6	問 1 問題演習	問 1 問題の演習徹底的にやります
7	問 2 問題演習	問 2 問題の演習徹底的にやります
8	問 3 問題演習	問 3 問題の演習徹底的にやります
9	問 4 問題演習	問 4 問題の演習徹底的にやります
10	問 5 問題演習	問 5 問題の演習徹底的にやります
11	過去問演習 (1)	過去問は最低 3 年分はする必要があるので内1回を
12	過去問演習 (2)	過去問は最低 3 年分はする必要があるので内1回を
13	予想問題演習	今回の11月試験に出そうな予想問題を演習
14	検定試験前講座	試験前に各受講者の苦手項目を個別に対応
15	検定試験後解説	今回の検定試験の解説

*授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

【履修条件等】

◇「商業簿記Ⅰ」（他学科科目）、「商業簿記Ⅱ」（他学科科目）、「工業簿記Ⅰ」（他学科科目）、「工業簿記Ⅱ」（他学科科目）の講義、または日商簿記2級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。全く知識のないままの受講は控えてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇会計の講義全般に言えることですが、復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、P Cや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。また、日商簿記2級11月・2月検定試験に合格された方に関しては、成績評価に反映させます。詳しくは、開講時にお知らせします。

また、講義はオフィスアワー時間帯（16：30～）に行います。時間帯にご注意ください。

販売技術	ヒノ タカオ 日野 隆生
Sales Techniques	応用科目／集中／2単位

【授業概要】

社会ではスペシャリストが要求されており、当科目は公的資格「販売士3級（日本商工会議所主管、経産省後援）の全員資格取得を目標とし、併せて教養人として社会に通じる人格形成にも資していく科目です。今や、第3次産業就業者は、全就業者の3分の2を占めます。販売業務は究極の“人”を必要とする業種であり、2次・3次産業を問わず、販売スキルは社会人には欠くことのできない資質です。講義は、テキストプラス適宜資料を配付して、理論と実務のスキルが身につくように、資格取得を確実にするために、試験直前には模擬テストも繰り返すなど試験対策も実施。社会・企業で尊重される人材育成を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費動向と関連づけ 流通を理解し、その因果関係を説明できる	現在の流通の仕組みや経営とは何かを理解し、消費動向やその背景対応する流通業の存在価値や意義、施策、システムなどを関連づけて説明できるようになる。	40%
“販売”の基礎を体系的に理解し、業務を理論的に実践できるスキルを得る	テキストは5科目あり、それらを通じ、その意味するところを十分理解して、資格試験の免除条件となる1科目「販売管理」の予備試験に合格し、他4科目の概要の理解と実践に役立てるまでのスキルを涵養する。	40%
販売士資格を理解し、その有用性を語ることができる	公的資格「販売士」の趣旨と意義を理解し、3級の位置づけを説明でき、社会での有用性を第三者に説得できる。	20%
販売士3級資格を取得する	単位取得は勿論、講義の反復復習により、2月の日本商工会議所の資格試験に自信を持って望み、資格を取得する。	
評価の方法 80%以上の出席を前提として、出席態度で20%、試験80%の評価。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	「小売業の種類」小売業の基本的役割	10	仕入計画・在庫管理・販売管理の基本的役割
2	形態別小売業の基本的役割	11	価格設定・利益追求の基本知識
3	チェーンストアの基本的役割	12	「ストアオペレーション」の基本的役割
4	商業集積の基本的役割と仕組み	13	ディスプレイの基本的役割
5	「販売・経営管理」販売員の基本業務	14	作業割当・人的販売の基本的考え方
6	販売員の法令知識	15	「マーケティング」の基本的考え方
7	販売事務と計数管理の基本知識	16	顧客管理・販売促進の基本的役割
8	売場の人間関係・店舗管理の基本的役割	17	商圏の設定と出店の基本的考え方
9	「マーチャンダイジング」商品の基本知識	18	売場づくりの基本的考え方

【使用教材】

◇テキスト：テキスト『販売士3級テキスト』日本商工会議所編

【履修条件等】

◇販売士検定3級合格のために授業の予習・復習が必須。

◇出席率80%以上

【予習をすべき事前学習の内容】

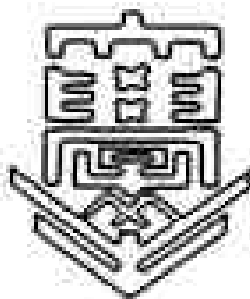
◇テキストを通読し、キーワードをチェックする。

◇各自「問題集」により、検定合格対策する。

【その他の注意事項】

◇6月1日（水）開講～12月7日（水）全18回

◇期間内に「予備試験（販売・経営管理）」、および「検定模擬試験」を実施する。



東京富士大学

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-1

アドミッションセンター TEL 03-3368-0351

キャリア・学生支援センター

キャリア支援担当 TEL 03-3362-8479

学生支援担当 TEL 03-3362-2252

留学生担当 TEL 03-3368-1761

学 務 セ ン タ ー

学務センター TEL 03-3368-2154

図書館 TEL 03-3368-8826